

## システム管理者ガイド ArcSuite 4.0

## はじめに

このたびは富士フィルムビジネスイノベーションのArcSuite<sup>®</sup>をご利用いただき、まことにありがとうございます。

一般に、企業活動では、各業務に関する情報はさまざまな形態のドキュメントとして存在しています。ここでいうドキュメントとは、紙に書かれた文書だけを示す狭義のものではありません。紙はもちろんのこと、ホワイトボードに書かれた文字や図表、プロジェクターやテレビに映し出された映像などを含む広義なものを指します。

ドキュメントは一般に、ひとりの手で作成されるものではなく、複数の人の意見交換や討議を経て作成されます。単純な作業や複雑な計算はコンピューターに委ねられ、あらゆる分野でさまざまなソリューションが展開されていますが、ドキュメントの作成では一般に人が中心なのです。

ArcSuiteは、「ドキュメント」に着目して「人」と「人」をつなぐ、「ドキュメント指向」のソリューション・パッケージです。ArcSuiteをご利用いただくことによって、さまざまなコンピューターシステムを統合したうえでのドキュメントの共有や管理が可能になります。

お使いの商品構成によって、次の機能が標準で提供されないことがあります。

コラボスペース、ドキュメントレビューオプション、ワークフロー、分類ビュー、関連文書検索サービス、原本性保証オプション、キャプチャリングサービス、統合検索サービス、オンラインバックアップオプション、ドキュメント一括操作ツール、連携フォルダ for DocuWorks、連携オプション for Working Folder

本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、およびWebブラウザの基本的な知識や操作方法を習得されているかたを対象として記述しています。

Active Directory、ActiveX、Excel、Internet Explorer、PowerPoint、Microsoft、Windows、およびWindows Serverは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。Oracle とJava は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。その他の社名または商品名などは、各社の登録商標または商標です。Microsoft Corporationの許可を得て画面写真を使用しています。

- ・ 本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。
- ・ 本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・ 本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フィルム株式会社の登録商標または商標です。

ArcSuite、DocuWorks、および Working Folderは、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

本書は富士ゼロックスブランドの商品を含みます。富士ゼロックスブランドの商品は、米国ゼロックス社からライセンスを受けている商品です。

商品提供者は富士フィルムビジネスイノベーション株式会社です。

## 著作権について

本ソフトウェア、およびバックアップのために複製されたソフトウェアに関する著作権等を含む一切の無体財産権は、弊社および弊社への供給者に帰属します。

(c) 2002-2021 FUJIFILM Business Innovation Corp.

## マニュアル体系

ArcSuiteには、次のマニュアルおよびヘルプがあります。

マニュアルは、PDFファイルまたはヘルプの形式で提供しています。

主なマニュアルは、『ポータル画面のヘルプ』から参照できます。『ポータル画面のヘルプ』は、Webブラウザの操作画面にある [ヘルプ] から表示できます。

**補足** お使いの商品構成によっては、提供されない機能の説明がマニュアルに含まれることがあります。

### ■ 管理者ユーザー向け

名称	概要
セットアップガイド	本製品全体のセットアップ方法について説明しています。
システム管理者ガイド (本書)	リソース管理サービスの概要、機能、管理操作を行うコマンドについて説明しています。また、本製品の運用に必要な管理作業について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理者ガイド	ドキュメント管理サービスの概要、機能、および管理操作を行うコマンドについて説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ	サーバーで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版のヘルプ	クライアントPCで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
オフラインバックアップ・リストア運用ガイド	オフラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
リソース管理アプリケーションのヘルプ	ユーザー、グループ、ユーザーロールの追加、およびライセンスの編集、検索について説明しています。
ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ	ログインサーバーでの認証モードの設定について説明しています。
メッセージ通知管理アプリケーションのヘルプ	メッセージ通知サーバーの設定、メッセージのプール管理、メッセージテンプレートの設定について説明しています。
ポータル管理アプリケーションのヘルプ	ユーザープロフィールに表示する項目の設定、お知らせの設定について説明しています。
ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ	属性テンプレートや表示する属性の設定、表示するボタンの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
表示アプリケーション管理ツールのヘルプ	表示アプリケーションのテンプレート、システム環境の設定について説明しています。
ログ管理アプリケーションのヘルプ	ログを表示する機能、ログを取得する機能、および保守情報を一括で取得する機能について説明しています。

名称	概要
監視ツールのヘルプ	ArcSuiteのコンポーネントにアクセスしているユーザー、データベースの状態、およびセッションの状態を監視する機能について説明しています。
ドキュメントスペースドキュメント操作URLリファレンスガイド	ドキュメントスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
オンラインバックアップ・リストア運用ガイド	オンラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
e-文書法対応 概要説明書	e-文書法対応の概要および原本性保証オプションの機能について説明しています。
コラボスペース管理アプリケーションのヘルプ	コラボスペースのメールの設定、ログの設定、およびタスクやメッセージの用語をカスタマイズする設定について説明しています。
ワークフロー管理アプリケーションのヘルプ	ワークフロー定義または起動テンプレートの作成者および公開者の設定、ログの設定、外部コマンドの設定について説明しています。
キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ	キャプチャリングサービスの監視キューに対する操作について説明しています。
統合検索サービス管理アプリケーションのヘルプ	統合検索サービスのリソースの設定、収集スケジュールの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド	コラボスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
ワークフロー操作URLリファレンスガイド	ワークフローの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
Webサービスインターフェイスリファレンスガイド	ArcSuiteの機能にSOAPを使用して接続するAPIについて説明しています。
ドキュメント管理サービスSDKリファレンスガイド	ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
コラボスペースInterface Toolkitリファレンスガイド	コラボスペースのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
ワークフロー Interface Toolkitリファレンスガイド	ワークフローのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。

## ■ クライアントユーザー向け

名称	概要
ポータル画面のヘルプ	ポータル画面で、お気に入りの編集、ユーザープロフィールを変更する操作について説明しています。 Webブラウザの操作画面にある【ヘルプ】から参照してください。
アドレス帳のヘルプ	アドレス帳で、ユーザー、グループ、ユーザーロール、およびタスクを検索する操作について説明しています。
ドキュメントスペースのヘルプ	ドキュメントスペースで、登録、属性の変更、検索などのドキュメントを管理する機能の操作について説明しています。
表示アプリケーションのヘルプ	表示アプリケーションで、ブラウザーイメージ変換された画像を編集する操作、およびユーザー設定について説明しています。
検索条件式のヘルプ	ドキュメントスペースの詳細検索で、全文検索または属性検索の条件式をXMLで指定するときの記述方法について説明しています。

名称	概要
簡易操作のヘルプ	簡易操作画面でドキュメントを管理する機能の操作、および操作画面の設定方法について説明しています。
コラボスペースのヘルプ	コラボスペースで、タスクの作成、メッセージの登録、および検索などの操作について説明しています。
ワークフローのヘルプ	ワークフローで、ワークフロー定義の作成、公開および起動する操作、作業を実行する操作について説明しています。
ドキュメント一括操作ツール説明書	Microsoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理する操作について説明しています。
デスクトップクライアント セットアップガイド	デスクトップクライアントのセットアップ方法について説明しています。
デスクトップクライアント 操作説明書	デスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォルダーやドキュメントにアクセスする操作方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorks セットアップガイド	連携フォルダ for DocuWorksのセットアップ方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorksの ヘルプ (*1)	DocuWorks Deskで、ArcSuiteに登録されているドキュメントを操作する方法について説明しています。

\* 1: 連携フォルダ for DocuWorks をインストールした DocuWorks Desk のヘルプから参照してください。

---

# 本書の使い方

本書は、システム管理者を対象にArcSuiteの管理作業の概要について説明しています。

ArcSuiteをインストールしたあとで必要な設定の流れ、リソース管理サービス（RMS）の管理コマンドの使用法、よく使う文書の管理の概要について説明しています。また、日常の運用で必要な管理作業について説明しています。ArcSuite全体を管理するときに、本書をお読みください。

## ■ 本書の構成

本書は、次の章、付録から構成されています。

### [1 概要](#)

ArcSuiteの概要、ユーザーの種類、および基本的な設定の流れについて説明しています。

### [2 ユーザーの管理](#)

リソース管理サービス（RMS）の機能、ユーザー認証、およびリソース管理サービス管理コマンドについて説明しています。

### [3 ライセンスの管理](#)

ライセンスの付与、およびクライアントアクセスライセンスの追加について説明しています。

### [4 属性の管理](#)

ユーザー属性、エディションキー、およびユニークキーについて説明しています。

### [5 表示に関連する設定の管理](#)

ドキュメントスペースの表示を設定する機能について説明しています。

### [6 検索に関連する設定の管理](#)

検索の種類、インデックスキー、および検索するために必要な設定について説明しています。

### [7 文書のアクセス権の管理](#)

アクセス権の種類およびアクセス権を設定する流れについて説明しています。

### [8 文書のライフサイクルの管理](#)

文書のライフサイクルを管理するための機能について説明しています。

### [9 電子で署名捺印するための管理](#)

スタンプまたはデジタル署名を設定する流れについて説明しています。

### [10 ログの管理](#)

ログの種類、ログの概要、およびログを記録するために必要な設定について説明しています。

### [11 文書の変換に関する設定の管理](#)

文書の変換に関する設定を管理するのに必要な機能について説明しています。

### [12 バックアップ](#)

バックアップの種類について説明しています。

### [13 各コンポーネントの管理](#)

サービスの起動と停止、およびコンポーネントの管理で定期的に行うことについて説明しています。

### [付録](#)

RMSのログ、ドキュメントスペースのログ、ArcSuiteで使用できるデータのフォーマットおよび用語について説明しています。

## ■ 本書の表記

- ・ 本書では、次の記号を使用しています。

< > キー	キーボードのキーを表します。 例：<Enter>キーを押します。
[ ]	画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例：[新規作成] をクリックします。
[ ]	同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例：「1 概要」 「名前が指定されていません。」と表示されます。
『 』	参照するマニュアルの名前を表します。 例：『システム管理者ガイド』
{ }	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：[{ユーザー名}] をクリックします。
>	メニューやWebページの階層を表します。 例：[システムとセキュリティ] > [管理ツール]
<b>注記</b>	一般的な注意事項を表します。
<b>補足</b>	機能や操作に関する補足説明を表します。
<b>参照</b>	参照する事項があることを表します。
<u>          </u>	参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例： <a href="#">「1 概要」 (P.6)</a>

- ・ コマンドラインを次のように表記しています。

abc	画面に表示される文字列、またはユーザーが入力する文字列を表します。 例：showDrawerInformation
{abc}	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：cabinetId {or RETURN} = {キャビネットID}

- ・ Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- ・ パーソナルコンピュータを「PC」と表記しています。
- ・ お使いの環境によって、マニュアルに記載の画面と実際の画面が異なることがあります。
- ・ 特に表記がない場合の製品のバージョン番号は「4.0」です

# 目次

## 1 概要

1.1 システム管理とは .....	17
運用を開始する前の管理.....	17
運用を開始したあとの管理 .....	17
1.2 コンポーネントの構成 .....	18
1.2.1 コンポーネントの構成 .....	18
1.2.2 管理ツール.....	20
1.3 ユーザーの種類.....	21
1.3.1 一般ユーザーとは.....	21
1.3.2 管理者とは.....	22
1.4 基本的な設定の流れ.....	24
1.4.1 設定の流れ.....	24
1.4.2 ドキュメントスペースの設定の流れ .....	25
1.4.3 コラボスペースの設定の流れ .....	27
1.4.4 ワークフローの設定の流れ .....	28

## 2 ユーザーの管理

2.1 概要.....	30
2.1.1 リソース管理サービスとは .....	30
エントリーとは .....	30
2.2 コンポーネント共通データ.....	31
2.2.1 コンポーネント共通の定義 .....	31
2.2.2 表示名.....	34
2.2.3 ユーザー .....	35
2.2.4 グループ .....	37
2.2.5 ユーザーロール .....	38
ユーザーロール名.....	38
2.2.6 コンポーネント .....	40
2.2.7 アトム.....	42
2.2.8 プリンター.....	43
2.3 ユーザー認証の管理 .....	44
2.3.1 認証方法 .....	44
2.3.2 ユーザー名、パスワードに使用できる文字 .....	44
2.3.3 パスワードの有効期間を設定する .....	45
パスワードの有効期間を設定する手順.....	45
パスワードの変更を強制しない設定をする手順 .....	46
2.3.4 パスワードの文字を制限する .....	47
2.3.5 アカウントを自動でロックする.....	48
2.3.6 パスワードを再利用できる回数を設定する .....	49
2.3.7 初期パスワードの変更を設定する .....	50
2.3.8 アカウントロックされた状態を解除する .....	50
2.4 アドレス帳の利用の制限 .....	51
2.4.1 アドレス帳の利用を制限する .....	51
2.4.2 設定を反映する .....	52
2.5 ユーザーの真正性の管理 .....	54
2.5.1 再認証とは.....	54
パスワードの有効期限を過ぎた場合の再認証.....	54



2.5.2	スタンプの実行で再認証するための設定 .....	55
2.5.3	状態変更で再認証するための設定 .....	56
2.5.4	ワークフローで再認証するための設定 .....	57
<b>2.6</b>	<b>リソース管理サービス管理コマンド .....</b>	<b>58</b>
	リソース管理サービス管理コマンドの一覧 .....	58
	バッチコマンドを実行する .....	59
	操作できる属性情報 .....	59
2.6.1	CSV ファイルを用意する .....	61
	CSV ファイルの例 .....	61
	更新する場合の指定方法 .....	62
	注意事項 .....	62
2.6.2	一括で登録する (rmscsvregister.bat) .....	64
2.6.3	ユーザーを一括で登録する (rmscsvregusers.bat) .....	66
2.6.4	一括で変更する (rmscsvmodify.bat) .....	66
2.6.5	情報を csv ファイルに出力する (rmscsvexport.bat) .....	68
2.6.6	RMS 管理者の権限を付与する (rmsadadminuser.bat) .....	70
2.6.7	エントリーを削除する (rmsdelete.bat) .....	71
2.6.8	システムプロパティの設定内容をファイルに出力する (rmsgetproperty.bat) .....	72
2.6.9	システムプロパティを設定する (rmssetproperty.bat) .....	73
2.6.10	LDAP サーバーと同期する (rmssync.bat) .....	74
<b>3</b>	<b>ライセンスの管理 .....</b>	<b>83</b>
3.1	ライセンスの付与 .....	83
3.1.1	ライセンスを付与する .....	83
3.1.2	クライアントアクセスライセンスを追加する .....	84
3.1.3	クライアントアクセスライセンスを削除する .....	85
<b>4</b>	<b>属性の管理 .....</b>	<b>89</b>
4.1	ユーザー属性の設定 .....	89
4.1.1	ユーザー属性とは .....	89
4.1.2	ユーザー属性を設定する流れ .....	89
4.2	版管理するための設定 .....	90
4.2.1	履歴管理と版管理とは .....	90
4.2.2	エディションキーとは .....	90
4.2.3	版管理の基本的な設定の流れ .....	91
4.3	属性の値を一意に管理するための設定 .....	92
4.3.1	ユニークキーとは .....	92
<b>5</b>	<b>表示に関連する設定の管理 .....</b>	<b>94</b>
5.1	ドキュメントスペース .....	94
5.1.1	ファイルの変換方法を設定する .....	94
5.1.2	ドキュメントスペースの表示方法を設定する .....	94
5.1.3	画像の表示方法を設定する .....	95
5.1.4	ほかのシステムと連携するボタンを設定する .....	95
5.2	ワークスペース .....	96
5.2.1	ワークスペースを使用するための流れ .....	96
	ワークスペース一覧の表示時間を改善する .....	97
5.3	分類ビュー .....	98
5.3.1	分類ビューを使用するための流れ .....	98
5.4	ユーザープロファイル .....	99

5.5	ActiveX コントロールおよびドラッグ & ドロップでの操作の無効化 .....	100
	ActiveX コントロールおよびドラッグ&ドロップの操作を無効にする .....	100
	ユーザープロファイルで ActiveX コントロールの有効 / 無効を設定する .....	102
<b>6</b>	<b>検索に関連する設定の管理</b>	
6.1	検索するための設定 .....	104
6.1.1	検索の種類 .....	104
6.1.2	インデックスキーとは .....	105
6.1.3	属性検索をするための設定の流れ .....	105
6.1.4	全文検索をするための設定の流れ .....	106
6.1.5	検索設定を使用するための流れ .....	107
<b>7</b>	<b>文書のアクセス権の管理</b>	
7.1	アクセス権の設定 .....	109
7.1.1	アクセス権とは .....	109
	デフォルトアクセス権 .....	109
	アクセス権マスク .....	109
7.1.2	アクセス権の種類 .....	109
7.1.3	アクセス権を設定する流れ .....	111
<b>8</b>	<b>文書のライフサイクルの管理</b>	
8.1	文書のライフサイクルの設定 .....	113
8.1.1	ライフサイクルとは .....	113
8.1.2	ライフサイクルを管理する機能 .....	113
8.1.3	状態を設定する流れ .....	114
8.1.4	クラスを設定する流れ .....	114
<b>9</b>	<b>電子で署名捺印するための管理</b>	
9.1	スタンプを使用するための設定 .....	116
9.1.1	スタンプとは .....	116
9.1.2	スタンプの設定に必要なもの .....	116
9.1.3	スタンプを設定する流れ .....	117
9.1.4	ワークフローでスタンプする .....	118
	ワークフローキャビネットにスタンプを設定する .....	118
	ワークフロー定義でスタンプアクティビティを設定する .....	118
9.2	デジタル署名をするための設定 .....	119
9.2.1	デジタル署名とは .....	119
9.2.2	デジタル署名を設定する流れ .....	119
<b>10</b>	<b>ログの管理</b>	
10.1	ログの種類 .....	121
10.1.1	アカウントログ .....	121
10.1.2	システムログ .....	122
10.1.3	セッションログ .....	123
10.1.4	操作ログ .....	123
10.1.5	認証ログ .....	124
10.2	ログの構成要素 .....	125
10.3	ログファイル .....	127
10.3.1	ログのフォルダー .....	127
10.3.2	ログのファイル名 .....	128

10.3.3	ローテイト.....	129
10.3.4	Windows イベントログの記録.....	129
10.3.5	コンポーネント識別子.....	130
	ログのコンポーネント識別子.....	130
10.4	操作ログの記録.....	132
10.4.1	操作ログを記録する設定の流れ.....	132
10.5	認証ログの記録.....	133
10.5.1	認証ログを記録する設定の流れ.....	133
	認証ログのデータベースを初期化する.....	133
10.6	ログ削除の抑止.....	134
10.6.1	操作ログの削除を抑止する.....	134
10.6.2	認証ログの削除を抑止する.....	135
10.7	保守情報を一括で取得する.....	136
<b>11</b>	<b>文書の変換に関する設定の管理</b>	
11.1	サーバーに Microsoft Office をインストールしないで文書を変換するための設定.....	138
11.2	ファイル変換ソフトウェアを使用するための設定.....	141
11.2.1	使用可能なコンバーター.....	142
11.2.2	外部 PDF コンバーターを使用するための設定.....	143
<b>12</b>	<b>バックアップ</b>	
12.1	バックアップの種類.....	146
	オフラインバックアップ.....	146
	オンラインバックアップ.....	147
	キャビネットのバックアップ.....	148
<b>13</b>	<b>各コンポーネントの管理</b>	
13.1	サービスの起動と停止.....	150
13.1.1	サービスを起動する.....	150
13.1.2	サービスを停止する.....	151
13.2	ドキュメント管理サービスの管理.....	152
13.2.1	日常の管理の概要.....	152
	ログの確認.....	152
	表領域の確認.....	152
	スケジューラーの設定.....	152
13.3	ドキュメントスペースの管理.....	153
13.3.1	日常の管理の概要.....	153
	ログの確認.....	153
	ログのレベルの設定.....	153
	設定の変更.....	153
13.3.2	ユーザー定義操作.....	154
	ユーザー定義操作の設定.....	154
	操作カテゴリー定義.....	156
	操作基本定義.....	157
	操作割り当て定義 (操作カスタマイズ設定).....	162
	操作割り当てへのキャビネット関連付け.....	168
	オブジェクト情報の出力.....	170
13.4	表示アプリケーションの管理.....	173
13.4.1	日常の管理の概要.....	173

ログの確認.....	173
ログのレベルの設定.....	173
設定の変更.....	173
<b>13.5 全文検索サービスの管理.....</b>	<b>174</b>
13.5.1 日常の管理の概要.....	174
検索インデックスの管理.....	174
ログの確認.....	174
シソーラス辞書の確認.....	174
13.5.2 検索に関する注意制限事項.....	174
検索する文字の注意制限事項.....	174
無効な文字を含むときの検索結果.....	175
シソーラスの単語.....	175
英単語変化形検索.....	175
13.5.3 全文検索に登録できる文書の注意制限事項.....	176
対応する文書フォーマット.....	176
OLE オブジェクトを含む文書.....	176
DocuWorks 文書の扱いについて.....	176
パスワードで保護、または暗号化された文書について.....	176
13.5.4 シソーラス展開.....	176
シソーラス展開とは.....	176
シソーラス辞書の管理.....	177
シソーラス展開した検索.....	180
<b>13.6 メッセージ通知サービスの管理.....</b>	<b>182</b>
13.6.1 日常の管理の概要.....	182
ログの確認.....	182
設定の変更.....	182
13.6.2 コマンドを使った管理操作.....	183
秘密鍵と証明書の登録.....	183
証明書を格納するキャビネットの作成.....	184
残存ファイル削除コマンド.....	185
13.6.3 ウイルス対策ソフトウェアの影響.....	186
<b>13.7 ポータルの管理.....</b>	<b>187</b>
<b>13.8 ログインサーバーの管理.....</b>	<b>188</b>
13.8.1 日常の管理の概要.....	188
データファイルの確認.....	188
認証ログの表領域の使用率の確認.....	188
記録状況の確認.....	188
ログインサーバーの設定.....	188
<b>13.9 コラボスペースの管理.....</b>	<b>189</b>
13.9.1 日常の管理の概要.....	189
ログの確認.....	189
検索インデックスの管理.....	189
管理コマンドの実行.....	189
エラーになった返信メールのデータの削除.....	190
13.9.2 アクセスログの出力.....	190
アクセスログを出力するためのコマンド.....	190
13.9.3 タスクに関する情報の出力.....	192
タスク情報を出力するためのコマンド.....	192
コンテンツ情報を出力するためのコマンド.....	194
13.9.4 全文検索インデックスの管理.....	195
全文検索インデックスの概要.....	195
全文検索インデックスの管理機能.....	195

	インデックス管理機能のコマンド .....	196
	検索キュー管理機能 .....	198
	検索キュー管理機能のコマンド .....	198
	インデックスを作成する .....	200
13.9.5	関連文書検索インデックスの管理 .....	201
	関連文書検索インデックスの概要 .....	201
	関連文書検索インデックス管理コマンドの概要 .....	201
	操作方法とコマンド形式 .....	201
13.9.6	サーバー情報の修正 .....	203
	サーバー情報を修正するためのコマンド .....	203
13.9.7	S/MIME 用証明書と秘密鍵の設定 .....	204
	S/MIME 用証明書と秘密鍵を設定するためのコマンド .....	204
	通常モード .....	205
	追加モード .....	206
	あらかじめ引数を指定して実行するモード .....	206
	証明書削除モード .....	207
	証明書削除モード（あらかじめ引数を指定して削除モードとして起動する場合） .....	207
	注意制限事項 .....	208
13.9.8	「POP3S 接続」または「STARTTLS 接続」で暗号化通信するために必要なキャビネットの 作成 .....	209
	証明書格納用キャビネットの作成方法 .....	209
<b>13.10</b>	<b>ワークフローの管理 .....</b>	<b>210</b>
13.10.1	日常の管理の概要 .....	210
	ログの確認 .....	210
	ログのレベルの設定 .....	210
	設定の変更 .....	210
<b>13.11</b>	<b>関連文書検索サービスの管理 .....</b>	<b>211</b>
13.11.1	日常の管理の概要 .....	211
	ログの確認 .....	211
	インデックスの管理 .....	211
	コマンドの実行 .....	211
13.11.2	ウイルススキャンの影響 .....	213
13.11.3	関連文書検索サーバーに関する注意制限事項 .....	213
	ディスクの空き容量 .....	213
	メモリの空き容量 .....	213
13.11.4	抽出テキストに関する注意制限事項 .....	214
<b>13.12</b>	<b>統合検索サービスの管理 .....</b>	<b>215</b>
13.12.1	日常の管理の概要 .....	215
	ログの確認 .....	215
	設定の変更 .....	215
<b>13.13</b>	<b>キャプチャリングサービスの管理 .....</b>	<b>216</b>
13.13.1	日常の管理の概要 .....	216
	ログの確認 .....	216
	設定の変更 .....	216
	監視キューに転送されるデータの確認 .....	216
	パラメーターの設定 .....	216
13.13.2	アカウントログ .....	216
13.13.3	監視キューに転送されるデータ .....	218
	処理対象ファイル .....	218
	マージ画像ファイル .....	219
	リストファイル .....	219
	設定ファイル .....	219

設定ファイルの表記方法.....	220
設定ファイルの作成例.....	221
ロックファイルとエンドファイル.....	222
監視キューに転送されるデータの制限事項.....	222
<b>13.14 監視サービス.....</b>	<b>223</b>
13.14.1 異常監視.....	223
監視設定.....	223
メール送信.....	225
ログ.....	226
13.14.2 運用監視.....	227
監視設定.....	227
ログ記録.....	228
13.14.3 設定方法.....	229
共通設定ファイル.....	229
メール設定ファイル.....	233
<b>13.15 監視ツール.....</b>	<b>235</b>
監視権限.....	235
監視対象.....	235
分散環境で使用するときの制限.....	236
セッションの強制切断.....	236
<b>13.16 原本性保証オプションの管理.....</b>	<b>237</b>
13.16.1 日常の管理の概要.....	237
ルート証明書および中間 CA 証明書の管理.....	237
利用者の秘密鍵管理.....	237
ログの確認.....	237
署名済み文書の検証結果の確認.....	237
設定ファイルの変更.....	237
システムプロパティでの設定.....	237
13.16.2 検証 NG の原因確認.....	238
13.16.3 設定ファイル.....	238
署名延長長期保存モジュールの設定.....	238
キャビネットごとの設定.....	244
ドキュメント管理サービスの設定.....	246
13.16.4 システムプロパティでの設定.....	247
アーカイブタイムスタンプのタイミングに関する設定.....	247
PAdES の文書タイムスタンプの印影に関する設定.....	248
RSA 署名用ハッシュアルゴリズムに関する設定.....	248

## 付録

<b>付録A 設定情報の出力コマンド.....</b>	<b>250</b>
付録 A.1 設定情報の出力コマンドの一覧.....	250
付録 A.2 設定情報の出力.....	251
付録 A.3 設定情報の出力コマンドで出力される項目.....	253
<b>付録B リソース管理サービスのログについて.....</b>	<b>286</b>
リソース管理サービスの識別子.....	286
リソース管理アプリケーションが出力するアカウントログの操作内容.....	287
リソース管理サービス管理コマンドが出力するアカウントログの操作内容.....	287
<b>付録C ドキュメントスペースのログについて.....</b>	<b>288</b>
アカウントログに記録するもの.....	288
システムログの記述内容.....	297

---

付録D	アカウントロック時のメール通知内容	299
付録E	ArcSuiteでサポートするデータフォーマット	300
付録F	用語集	306
付録 F.1	ドキュメント管理サービスに関する用語	306
付録 F.2	全文検索サービスに関する用語	308
付録 F.3	コラボスペースに関する用語	309
付録 F.4	ワークフローに関する用語	310
付録 F.5	関連文書検索サービスに関する用語	310
付録 F.6	キャプチャリングサービスに関する用語	311
付録 F.7	リソース管理サービスに関する用語	311
付録 F.8	各コンポーネント共通の用語	311

# 1 概要

ArcSuiteのシステム管理の概要を説明しています。



## 1.1 システム管理とは

ArcSuiteのインストールおよびセットアップをしたあとに必要なシステム管理の作業について説明します。

### 運用を開始する前の管理

ArcSuite全体について設定します。また、文書を管理するキャビネットおよび文書を管理する属性を、あらかじめ決めておきます。

**参照** [\[1.4 基本的な設定の流れ\] \(P.24\)](#)

#### ■ ユーザーの登録

ArcSuiteを使用するユーザーを登録します。また、ドキュメントスペース、コラボスペース、またはワークフローを使用するユーザーにライセンスを付与します。

**参照** ・ユーザーの登録については、[\[2 ユーザーの管理\] \(P.29\)](#)  
・ライセンスの付与については、[\[3 ライセンスの管理\] \(P.82\)](#)

#### ■ コンポーネントの管理者の設定

インストールしたときに作成した「RMSの管理者」は、すべてのコンポーネントの管理者の権限があります。コンポーネントごとに管理者が異なる場合は、コンポーネントの管理者を決めます。また、キャビネットごとに管理者が異なる場合は、キャビネットの管理者を設定します。

**参照** ・コンポーネントの構成については、[\[1.2 コンポーネントの構成\] \(P.18\)](#)  
・ユーザー、管理者については、[\[1.3 ユーザーの種類\] \(P.21\)](#)  
・インストールされているサーバーの構成については、『セットアップガイド』

#### ■ コンポーネントの各種設定

運用に応じて、コンポーネントの各種設定をします。コンポーネントの管理者に設定されているユーザーは、コンポーネントの管理アプリケーションを使用して、設定できます。本書では、よく使う文書の管理について、概要を説明しています。

**参照** 設定の手順については、それぞれの管理アプリケーションのヘルプを参照してください。

### 運用を開始したあとの管理

コンポーネントごとに必要な管理をします。本書では、障害が発生したときのログのチェック、およびコンポーネントごとの設定について説明しています。

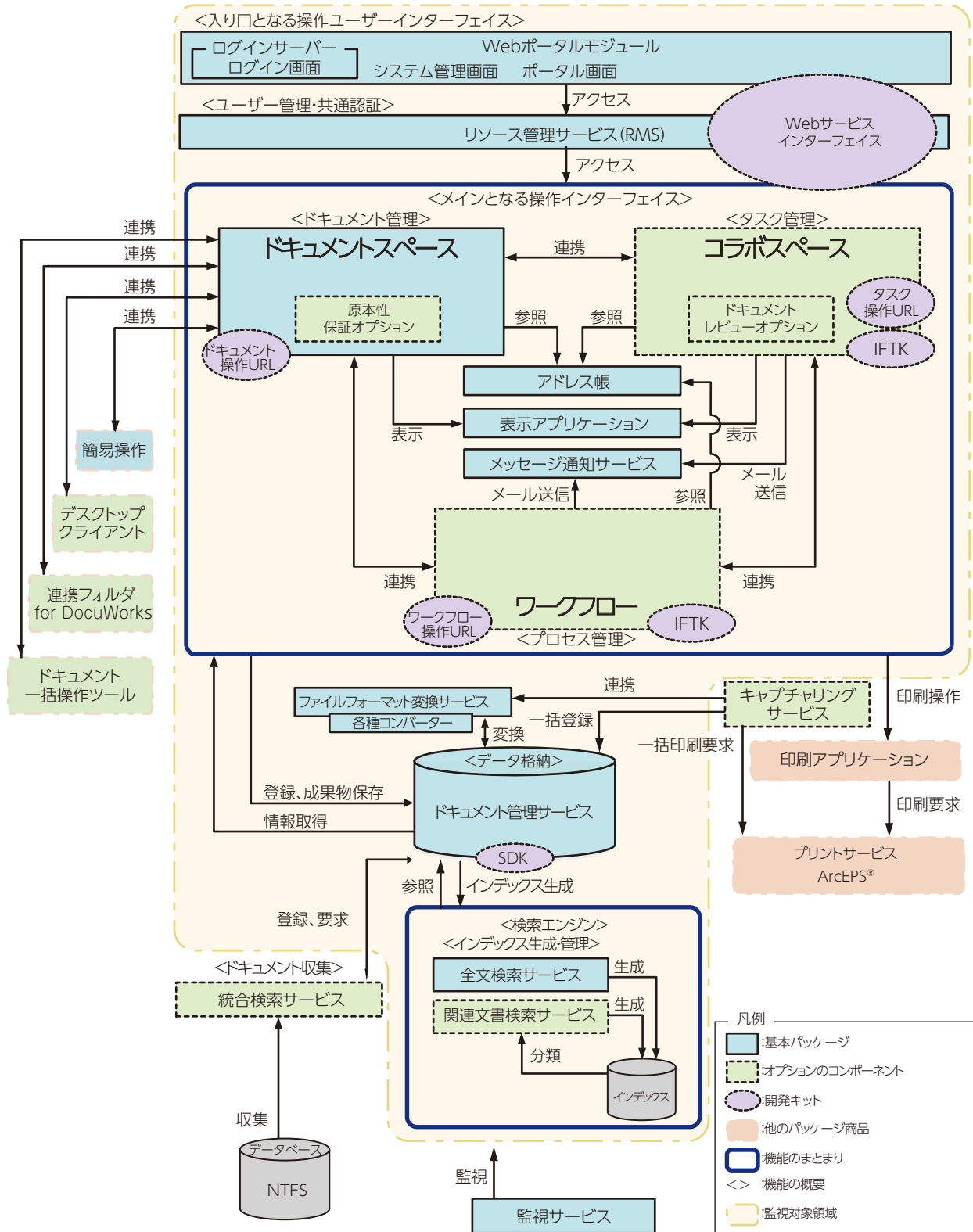
**参照** [\[13 各コンポーネントの管理\] \(P.149\)](#)

## 1.2 コンポーネントの構成

ArcSuiteのコンポーネントについて説明します。

### 1.2.1 コンポーネントの構成

ArcSuiteは、複数のコンポーネントで構成されています。なお、お使いの商品によっては、提供されないコンポーネントがあります。



図：コンポーネントの構成図

## ■ リソース管理サービス

コンポーネントやユーザーなど、ArcSuiteシステムで共通の情報を管理します。また、ArcSuiteのユーザーに付与するライセンスを管理します。

## ■ ドキュメント管理サービス

ドキュメントを蓄積し、ドキュメントとドキュメントの属性を管理します。

### ◆ ファイルフォーマット変換サービス

さまざまなフォーマットのデータを変換します。

### ◆ 全文検索サービス

インデックスを生成し、文字列を指定した検索（全文検索）のときに使用します。

### ◆ 関連文書検索サービス

インデックスを生成したり、生成したインデックスを分類したりして、自然文全文または種文書検索のときに使用します。

## ■ ドキュメントスペース

ドキュメント管理サービスのドキュメントを表示したり、検索したりするWebアプリケーションです。

## ■ アドレス帳

ArcSuiteのユーザー、グループ、ユーザーロールなどを検索するときに使用するWebアプリケーションです。

## ■ 表示アプリケーション

ドキュメントを表示するWebアプリケーションです。

## ■ メッセージ通知サービス

コラボスペース、ワークフロー、ドキュメント管理サービス、および原本性保証オプションで通知される電子メールを、SMTPサーバーに送信します。

## ■ 簡易操作

ドキュメントスペースよりも簡易な画面でドキュメントを表示したり検索したりするWebアプリケーションです。

## ■ 連携フォルダ for DocuWorks

クライアントPCのDocuWorks DeskからArcSuiteに文書を登録したり、属性を変更したりするためのコンポーネントです。

## ■ デスクトップクライアント

クライアントPCのデスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォルダーやドキュメントに対して、登録、表示、検索、印刷などの操作するためのコンポーネントです。

## ■ ドキュメント一括操作ツール

クライアントPCのMicrosoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスにオブジェクトを登録したり、検索したりするためのコンポーネントです。

## ■ コラボスペース

目的を共有するメンバーが集まり、コミュニケーションをする「タスク」で、メッセージや文書をやりとりして、成果を出すまでの過程を共有し、成果を管理するWebアプリケーションです。

## ■ ワークフロー

作業の流れを定義したワークフロー定義に基づいて、個人の作業や作業の流れを管理するWebアプリケーションです。

## ■ キャプチャリングサービス

スキャンした画像などを「監視キュー」と呼ばれるフォルダーで管理し、画像を変換してドキュメント管理サービスに登録します。

## ■ 統合検索サービス

ArcSuiteに登録されている文書や、ネットワーク上にあるWindowsサーバー内のファイルを検索できます。

## 1.2.2 管理ツール

ArcSuiteの管理で使用するツールは、次のとおりです。

表 : ArcSuite の管理で使用するツール

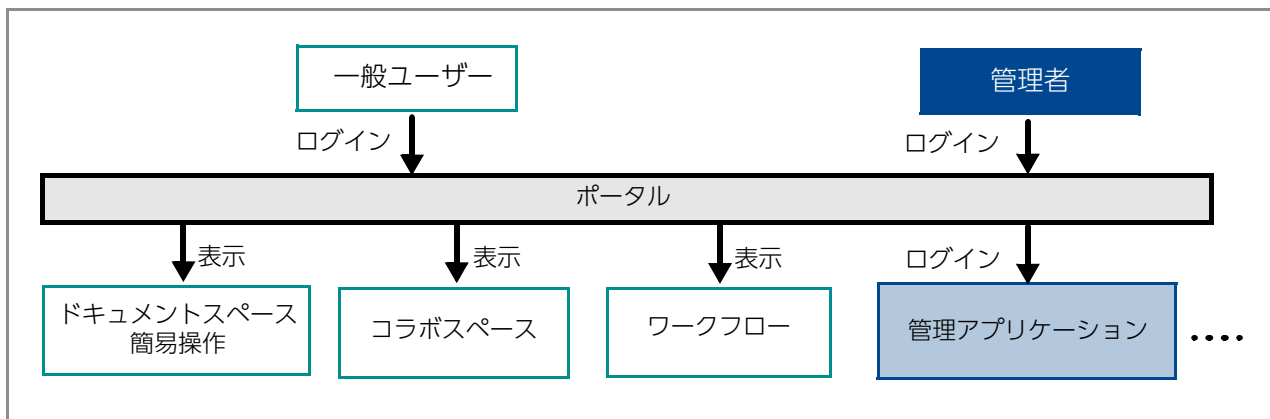
目的	使用するツール
ArcSuite全体の設定	ログインサーバー管理アプリケーション ポータル管理アプリケーション メッセージ通知管理アプリケーション
コンポーネントの状態の監視	監視ツール 監視サービス
ログの表示またはダウンロード 保守情報のダウンロード	ログ管理アプリケーション

表 : コンポーネントの管理で使用するツール

コンポーネント	使用するツール
リソース管理サービス	リソース管理アプリケーション リソース管理コマンド
ドキュメント管理サービス	次の「ドキュメント管理サービス管理ツール」を使用します。 ドキュメント管理サービス管理コマンド ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版 ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版
ドキュメントスペース	ドキュメントスペース管理アプリケーション
表示アプリケーション	表示アプリケーション管理ツール
コラボスペース	コラボスペース管理アプリケーション
ワークフロー	ワークフロー管理アプリケーション
キャプチャリングサービス	キャプチャリング管理アプリケーション
統合検索サービス	統合検索管理アプリケーション

## 1.3 ユーザーの種類

ArcSuiteを使用するユーザーには、一般ユーザーと管理者があります。



図：ユーザー

### 1.3.1 一般ユーザーとは

一般ユーザーとは、ArcSuiteに登録されているユーザーです。付与されているライセンスによって、次のユーザーがあります。

#### ■ ドキュメントスペースのユーザー

ArcSuiteに登録されているユーザーで、ドキュメントスペースのライセンスが付与されているユーザーです。ポータル、ドキュメントスペース、簡易操作、ワークスペース、および表示アプリケーションを使用できます。

#### ◆ ワークスペースの編集メンバーまたは参照メンバー

編集メンバーは、ワークスペースの設定を変更できます。参照メンバーは、ワークスペースのドキュメントの操作や、検索設定を使用した検索ができます。

#### ■ コラボスペースのユーザー

ArcSuiteに登録されているユーザーで、コラボスペースのライセンスが付与されているユーザーです。コラボスペースを使用できます。ドキュメントレビューオプションがインストールされている場合、ドキュメントレビュー機能を使用できます。

#### ■ ワークフローのユーザー

ArcSuiteに登録されているユーザーで、ワークフローのライセンスが付与されているユーザーです。

#### ◆ 定義作成者

ワークフロー定義を作成できます。ワークフロー管理アプリケーションで、ワークフロー定義を作成するユーザーを設定します。

**補足** ワークフロー定義とは、ある仕事のやり方（の取り決め）をシステム上に表現したものです。その仕事を構成している1つの論理的な単位である作業とその実行順序を表す遷移（作業の実行順序定義）で構成されます。

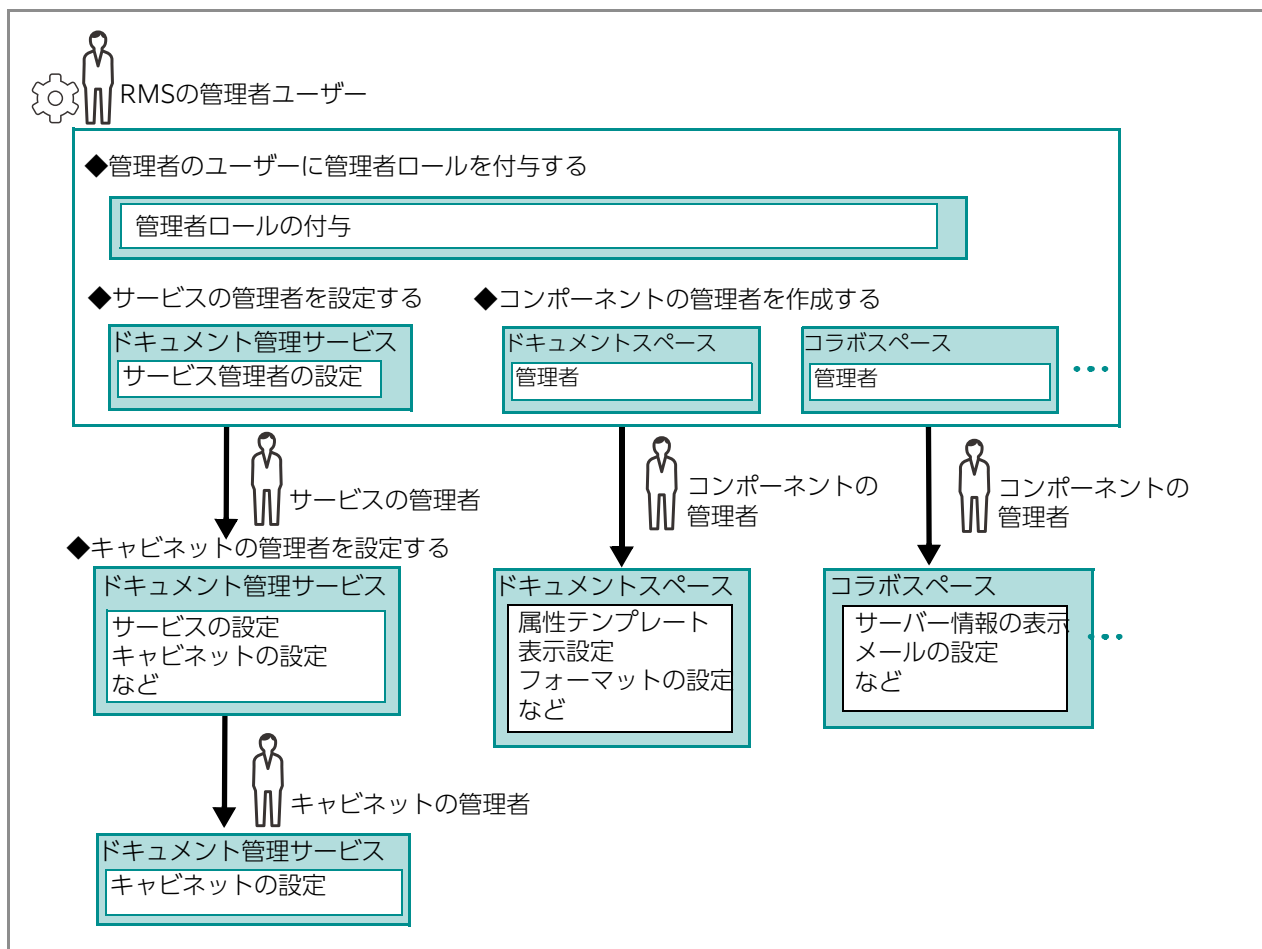
#### ◆ 定義公開者

定義作成者が作成したワークフロー定義は、個人で使う定義として管理されます。定義公開者は、作成したワークフロー定義を公開できます。ワークフロー管理アプリケーションで、ワークフロー定義を公開するユーザーを設定します。

## 1.3.2 管理者とは

ArcSuiteは、コンポーネントごとに管理者を設定でき、コンポーネントの管理者は、それぞれの管理アプリケーションにログインできます。

コンポーネントの管理者は、リソース管理アプリケーションで設定します。ただし、ドキュメント管理サービスだけは、ドキュメント管理サービス管理ツールで、サービスの管理者およびキャビネットの管理者を設定します。



図：管理者

### RMS の管理者

ArcSuiteのすべてのコンポーネントの設定を変更できます。ArcSuiteをインストールするときに、RMSの管理者ユーザーとして設定します。

### ドキュメント管理サービスの管理者

ドキュメント管理サービスには、サービス管理者とキャビネット管理者があります。次の管理ツールが使用できます。RMS管理者または管理者ロールが設定されたユーザーが、サービス管理者およびキャビネット管理者を設定できます。

- ・ドキュメント管理サービス管理コマンド
- ・ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版
- ・ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版

**補足** リソース管理アプリケーションで、ドキュメント管理サービスの [プロパティ編集] 画面の [管理者] を編集しても、サービス管理者として設定されません。

#### ◆ サービス管理者

サービスおよびすべてのキャビネットの設定を変更できます。

#### ◆ キャビネット管理者

キャビネットごとに設定します。キャビネットの設定を変更できます。

#### ■ ドキュメントスペースの管理者

ドキュメントスペースで表示する内容をまとめた、属性テンプレートの設定を変更できます。また、ドキュメントスペースの管理者が、ドキュメント管理サービスのサービス管理者およびキャビネット管理者の権限があるときは、管理者モードでアクセスするとすべてのオブジェクトを参照できます。

#### ◆ ワークスペースの管理者

ワークスペースを作成したユーザーで、ワークスペースごとに存在します。ワークスペースを参照したり編集したりするユーザーを設定できます。

#### ◆ 業務設定（簡易操作）の管理者

簡易操作で業務設定を作成したり編集したりするユーザーを設定できます。

#### ■ 表示アプリケーションの管理者

画像の表示方法について設定できます。

#### ■ コラボスペースの管理者

コラボスペースの設定を変更できます。

#### ◆ ドキュメントレビューオプション管理者

レビュー文書について、キャッシュ情報などを設定します。

#### ■ ワークフローの管理者

ワークフローの設定を変更できます。また、ワークフロー定義を作成できるユーザー、ワークフロー定義を公開できるユーザーなどを設定します。

#### ■ メッセージ通知サービスの管理者

メッセージ通知サーバーの設定を変更できます。また、サーバーに蓄積されたメールの状態を管理します。

#### ■ ポータルの管理者

[ポータル] 画面に表示されるお知らせの変更や、[ユーザープロフィール] 画面で表示される項目を設定できます。

#### ■ ログインサーバーの管理者

ログインサーバーでの認証モードを設定できます。

#### ■ 監視ツールの管理者

コンポーネントにアクセスしているユーザー、データベースの状態、およびセッションの状態を監視できます。

#### ■ ログ管理アプリケーションの管理者

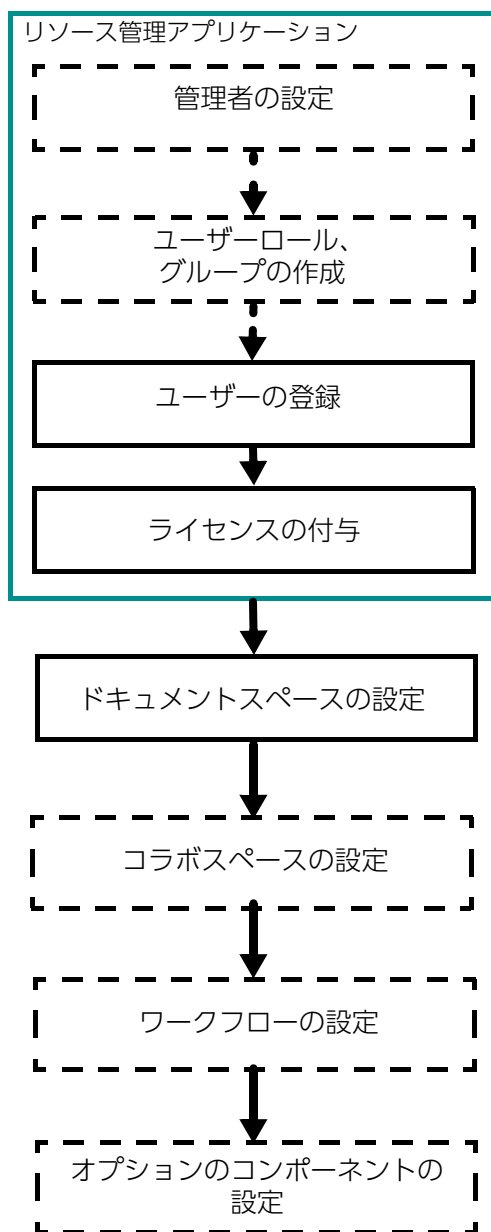
ログの表示またはダウンロードができます。また、保守情報を一括でダウンロードできます。

## 1.4 基本的な設定の流れ

ArcSuiteをインストールしたあとで、運用を開始するまでの基本的な流れを説明します。

### 1.4.1 設定の流れ

ArcSuiteをインストールしたあと、次の流れで設定します。



必要に応じて、コンポーネントの管理者を設定したり、ユーザーロールやグループを作成したりします。

ArcSuiteを使用するユーザーを登録します。  
ユーザーを登録したら、ドキュメントスペース、コラボスペース、またはワークフローを使用するユーザーに、それぞれライセンスを付与します。

**参照** ・『リソース管理アプリケーションのヘルプ』  
・ [\[2.6 リソース管理サービス管理コマンド\]](#) (P.58)

ドキュメントスペースを使用するために必要な設定をします。

**参照** [\[1.4.2 ドキュメントスペースの設定の流れ\]](#) (P.25)

コラボスペースを使用する場合は、必要な設定をします。

**参照** [\[1.4.3 コラボスペースの設定の流れ\]](#) (P.27)

ワークフローを使用する場合は、必要な設定をします。

**参照** [\[1.4.4 ワークフローの設定の流れ\]](#) (P.28)

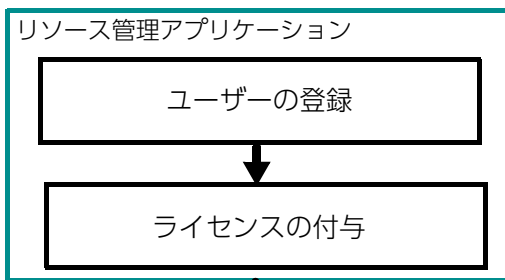
必要に応じて、オプションのコンポーネントの設定をします。

**参照** それぞれの管理アプリケーションのヘルプ



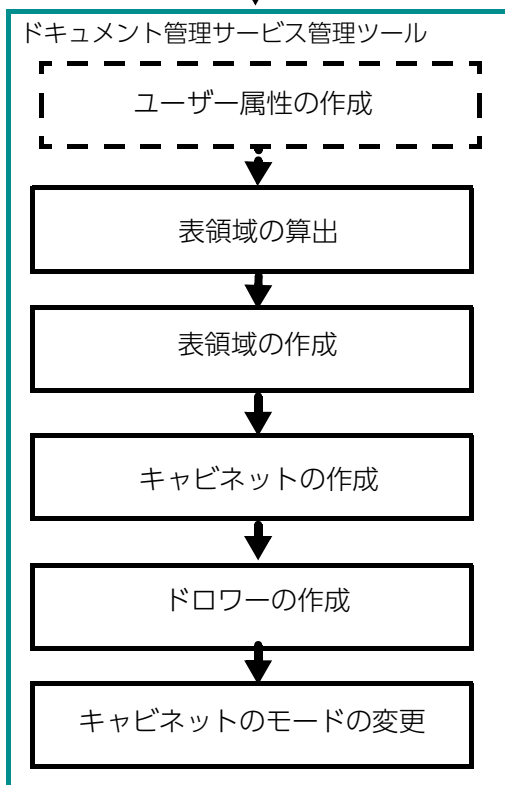
## 1.4.2 ドキュメントスペースの設定の流れ

ドキュメントスペースを使用するまえに、次の流れでドキュメントスペースを利用するための設定をします。



新しいユーザーを登録した場合は、ドキュメントスペースを使用するユーザーにライセンスを付与します。

**参照** 『リソース管理アプリケーションのヘルプ』

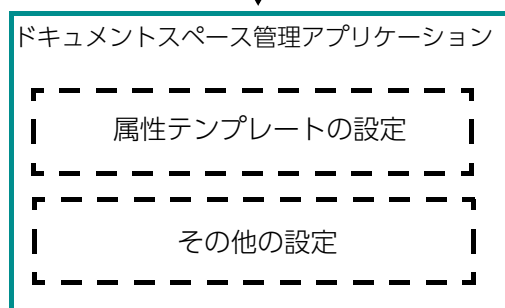


必要に応じて、ユーザー属性を登録します。

キャビネットを作成するために、あらかじめキャビネットに必要な表領域を算出し、キャビネットの表領域を作成します。

キャビネットおよびドロワーを作成し、キャビネットを通常モードに変更します。

**参照** 『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』  
『ドキュメント管理サービス管理アプリケーションデスクトップ版のヘルプ』  
『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版のヘルプ』

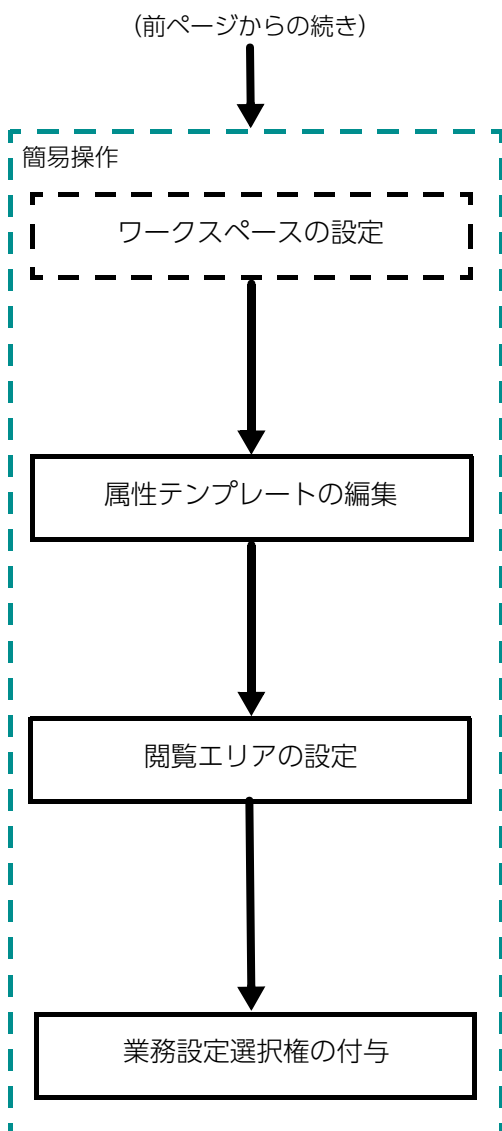


必要に応じて、ドキュメントスペースの属性テンプレートを作成します。

また、ドキュメントスペースの表示に関連する設定などをします。

**参照** 『ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ』

(次ページへ続く)



ワークスペースの検索設定を使用する場合は、ワークスペースの検索設定を設定します。  
すでに検索設定を設定しているときは、その設定を使用できます。

**参照** ワークスペースの検索設定の編集方法については、『ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ』を参照してください。

ドキュメントスペース管理アプリケーションで、表示する属性などを定義した属性テンプレートを設定します。  
すでに属性テンプレートを設定しているときは、その設定を使用できます。

**参照** 属性テンプレートの編集方法については、『ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ』を参照してください。

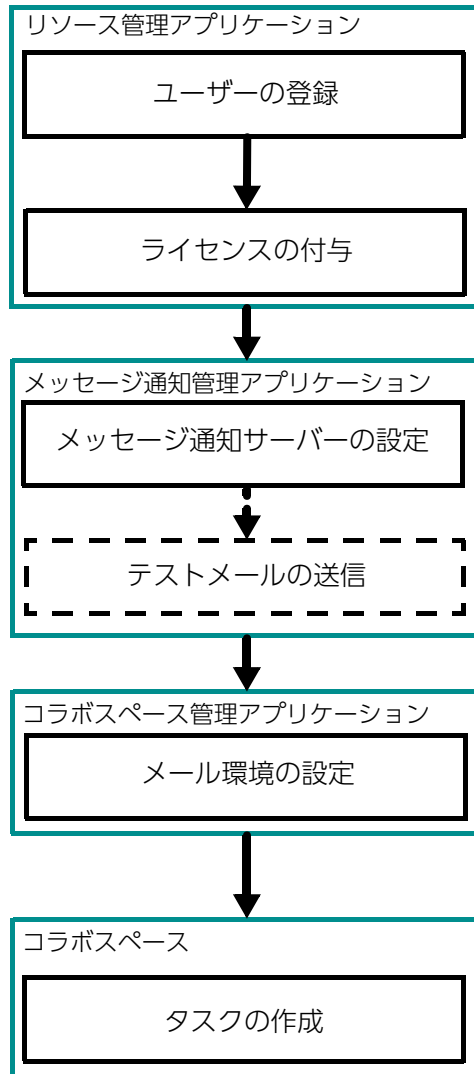
表示アプリケーション管理ツールで、画像の変換方法や表示設定を設定します。  
すでに表示設定を設定しているときは、その設定を使用できます。

**参照** テンプレートの編集方法については、『表示アプリケーション管理ツールのヘルプ』を参照してください。

簡易操作を使用する場合、作成した複数の業務設定のうち、ユーザーが使用する業務設定をユーザーが選択できる権限を付与します。

### 1.4.3 コラボスペースの設定の流れ

コラボスペースを使用するまえに、次の流れで設定します。



新しいユーザーを登録した場合は、コラボスペースを使用するユーザーにライセンスを付与します。

**参照** 『リソース管理アプリケーションのヘルプ』

メッセージ通知サーバーの設定を確認し、テストメールを送信して、正常に稼働しているか確認します。

**参照** 『メッセージ通知管理アプリケーションのヘルプ』

メッセージ通知サーバーのURL、メールマスターメールアドレスの設定を確認します。また、POPサーバーの設定を確認します。

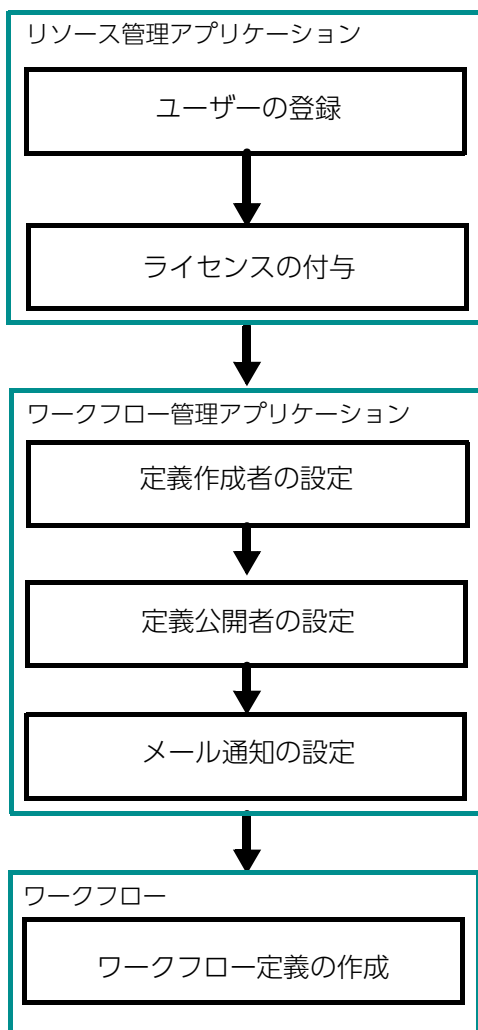
**参照** 『コラボスペース管理アプリケーションのヘルプ』

タスクを作成し、メンバーやリーダーなどの関係者を設定します。

**参照** 『コラボスペースのヘルプ』

## 1.4.4 ワークフローの設定の流れ

ワークフローを使用するまえに、次の流れで設定します。



新しいユーザーを登録した場合は、ワークフローを使用するユーザーにライセンスを付与します。

**参照** 『リソース管理アプリケーションのヘルプ』


ワークフロー定義を作成する権限を持つ定義作成者、およびワークフロー定義を公開する権限を持つ定義公開者を設定します。

また、メール通知アクティビティを使う場合は、メッセージ通知サーバーのURL、メールマスターメールアドレスを設定します。

**参照** 『ワークフロー管理アプリケーションのヘルプ』

ワークフロー定義を作成し、必要に応じて、公開します。

**参照** 『ワークフローのヘルプ』



## 2 ユーザーの管理

ArcSuiteのユーザーを管理する機能について説明しています。

## 2.1 概要

リソース管理サービスの概要について説明します。

### 2.1.1 リソース管理サービスとは

リソース管理サービス（以降、「RMS」と表記します）は、ArcSuiteの次の情報を管理します。

- ・コンポーネント
- ・ユーザー、ユーザーロール
- ・部署、グループ
- ・ライセンスの状態
- ・ArcSuite で共通の設定

リソース管理サービスは、次のツールを使用します。一括で登録したり、変更したりする場合は、「リソース管理サービス管理コマンド」を実行します。

- ・リソース管理アプリケーション
- ・リソース管理サービス管理コマンド

### エントリーとは

RMSに登録されているデータを「エントリー」といいます。

#### ◆ エントリーの種類

ユーザー、グループ、ユーザーロール、および部署は、運用に応じて、追加したり変更したりするエントリーです。

- ・ユーザー
- ・グループ
- ・ユーザーロール
- ・部署
- ・コンポーネント
- ・アトム
- ・プリンター

#### ◆ エントリーの状態

エントリーが有効か無効かは、リソース管理アプリケーションで「無効フラグ」の値を確認します。

**注記** エントリーを削除すると、二度と元に戻せません。間違って登録したエントリーだけ削除し、それ以外のエントリーは無効にして運用することを推奨します。

- ・ TRUE  
エントリーが無効な状態です。  
検索をしても、検索結果として表示されません。
- ・ FALSE  
エントリーが有効な状態です。検索結果として表示され、属性を変更できます。  
「rmsObsoleteFlag」属性が設定されていないエントリーは、有効と認識されます。

## 2.2 コンポーネント共通データ

RMSで使用する属性の定義およびRMSのオブジェクトについて説明します。

- ・ [コンポーネント共通の定義](#)
- ・ [表示名](#)
- ・ [ユーザー](#)
- ・ [グループ](#)
- ・ [ユーザーロール](#)
- ・ [コンポーネント](#)
- ・ [アトム](#)
- ・ [プリンター](#)

### 2.2.1 コンポーネント共通の定義

リソース管理サービスで使用する属性は、次のとおりです。

表 :RMS の属性

国際化○：ロケールごとに値があるもの、国際化 空白：ロケールで値が共通のもの

属性	型	単値／ 多値	国際化	長さ	説明
cn	文字列	単値	○	128	
description	文字列	単値	○	1024	
displayName	文字列	単値	○	128	
employeeNumber	文字列	単値	○	64	
employeeType	文字列	単値	○	128	
givenName	文字列	単値	○	128	
l	文字列	単値	○	128	
labeledURI	ASCII文 字列	単値		256	
mail	ASCII文 字列	単値		128	
mobile	ASCII文 字列	単値		32	
ou	文字列	単値	○	128	
preferredLanguage	文字列	単値		128	形式は、HTTPのヘッダー情報です。 Accept-Languageと同様です。
sn	文字列	単値	○	128	
telephoneNumber	ASCII文 字列	単値		32	
title	文字列	単値	○	128	
uid	文字列	単値		64	
uniqueMember	文字列	多値		256	グループのメンバーに対応するエント リーのIDを指定します。

表 :RMS の属性

国際化○：ロケールごとに値があるもの、国際化 空白：ロケールで値が共通のもの

属性	型	単値/ 多値	国際化	長さ	説明
printer-location	文字列	単値		127	
printer-make-and-model	文字列	単値		127	
printer-name	文字列	単値		127	
printer-service-person	文字列	単値		127	
printer-uri	文字列	単値		256	
printer-eco-load	Integer	単値			
rmsAvailableFunctions	文字列	多値		128	プリンターで利用できる機能です。
rmsAccessFromMultiClientFlag	ブーリアン	単値			コンポーネントに対して、同一ユーザーの複数クライアントからの同時アクセスを許すかどうかを指定します。デフォルトはTRUEです。
rmsAdministrators	文字列	多値		256	コンポーネントの管理ユーザーのエントリ ID です。
rmsAdminToolURI	ASCII文字列	単値		256	コンポーネントの管理アプリケーションへのURIです。
rmsAttributeColumnName	ASCII文字列	単値		32	アトムのデータベーススキーマ上のコラム名です。
rmsAttributeSearchable	ブーリアン	単値			アトムが検索条件に指定できるかどうかを指定します。デフォルトはTRUEです。
rmsAttributeSortable	ブーリアン	単値			アトムがソート条件に指定できるかどうかを指定します。デフォルトはTRUEです。
rmsAttributeType	ASCII文字列	単値		32	アトムの型です。 (例：String、Integer、Float)
rmsExtAuthConfig	ASCII文字列	単値		16	認証用構成情報を識別する構成名です。複数の認証サーバーを利用するときに指定します。パスワード変更をするための認証サーバーを指定します。また、同期コマンドでも使用します。
rmsCardID	文字列	多値		256	ICカードのIDです。
rmsCertDN	文字列	単値		256	SSLクライアント認証で使用するデジタル証明書に記載されているDNです。
rmsComponentInfo	文字列	単値	○	1024	管理ユーザー向けのコンポーネント情報です。
rmsComponentKey	ASCII文字列	単値		256	コンポーネントキーです。



表 :RMS の属性

国際化○：ロケールごとに値があるもの、国際化 空白：ロケールで値が共通のもの

属性	型	単値/ 多値	国際化	長さ	説明
rmsComponentType	ASCII文字列	単値		64	コンポーネントのタイプ名です。 (例：Portal、dRepository)
rmsDigestNotifyTime	ASCII文字列	単値		32	ダイジェスト通知時刻です。 値は、rmsTimeZoneで指定するタイムゾーンに基づいた時刻です。 hh:mmの形式で「:mm」の部分は省略できます。タイムゾーンの指定がない場合、サーバーのデフォルトタイムゾーンに基づいた時刻になります。
rmsExtGroup	文字列	単値		256	外部グループ名です。同期コマンドなどで使用します。
rmsExtUser	文字列	単値		256	外部ユーザー名です。認証に使用するLDAPサーバーのDNがRMS用データベースのDNと異なる場合のマップに使用します。また、同期コマンドでも使用します。
rmsHostEntryID	ASCII文字列	単値		128	
rmsLicenseCount	ASCII文字列	単値		128	ユーザーライセンス数の上限値です。ユーザーライセンスを持たないコンポーネントの場合は「0」です。ライセンス数が無制限の場合は「-1」です。
rmsLicenedUsers	文字列	多値		256	コンポーネントのライセンスが付与されているユーザーです。値は、ユーザーのエントリー IDです。
rmsLogoutservletURI	ASCII文字列	単値		256	コンポーネントのログアウトで呼び出されるサーブレットのURIです。
rmsMailable	ブーリアン	単値			メール通知をするかしないかを設定します。デフォルトはTRUEです。
rmsMaxSessionCount	Integer	単値			コンポーネントの最大同時セッション数です。
rmsMaxValueCount	Integer	単値			文字列型アトム最大の長（単位はバイト）です。
rmsMaxValueLength	Integer	単値			アトムが多値の場合の最大個数です。
rmsMobileMail	ASCII文字列	単値		128	携帯電話用のメールアドレスです。
rmsPronunciation	文字列	単値	○	256	ふりがなです。
rmsRmiRegistryHost	ASCII文字列	単値		256	RMIサーバーのホスト名です。
rmsRmiRegistryPort	Integer	単値			RMIサーバーのポート番号です。
rmsServerName	文字列	単値		128	サーバー名です。
rmsShortDisplayName	文字列	単値	○	128	

表 :RMS の属性

国際化○：ロケールごとに値があるもの、国際化 空白：ロケールで値が共通のもの

属性	型	単値/ 多値	国際化	長さ	説明
rmsShortOu	文字列	単値	○	128	
rmsShortTitle	文字列	単値	○	128	
rmsSingleValued	ブーリアン	単値			アトムが単値か多値かを表します。単値のときはTRUEです。デフォルトはTRUEです。
rmsSLBCookieValue	ASCII文字列	単値		256	分散環境で実サーバーを識別するクッキーの値です。
rmsTimeZone	ASCII文字列	単値		64	タイムゾーン。形式はJava™のクラスTimeZoneで使用できるタイムゾーンIDです。 (例：America/Los_Angeles)
rmsUserMaxSessionCount	Integer	単値			ユーザーの最大同時セッション数
rmsUserRoleIDs	文字列	多値		256	ユーザーロール。値はユーザーロール名のエントリー IDです。ユーザーロールが付加されたエントリーのエントリー IDは必ず含まれます。
rmsVersion	ASCII文字列	単値		32	バージョン文字列です。

## 2.2.2 表示名

ユーザーやグループの名前を表示するときに設定する属性です。リソース管理アプリケーションの [プロパティ編集] 画面で設定できます。

PCのWebブラウザで設定されている言語によって、次の属性が選択されます。

- ・ 表示名
- ・ 表示名 ;lang-ja:  
(displayName;lang-ja)
- ・ 表示名 ;lang-en:  
英語表記用 (displayName;lang-en)

言語が設定されていない場合、「表示名」属性の値で表示されます。「表示名」属性の値は必ず設定する必要があります。

## 2.2.3 ユーザー

「ユーザー」は、ArcSuiteを利用するユーザーを識別するためのオブジェクトです。「ユーザー」に設定できる共通属性は、次のとおりです。uidは必ず設定します。

また、ユーザーには、次の属性のほかに、証明書情報を格納できます。

**注記** userPassword は、ユーザーを作成するときに必ず必要な属性ではありません。ただし、この属性が設定されていない場合は、そのユーザーでログインができません。必ず設定してください。また、userPassword (パスワード) の値に設定できるのは、制御文字を除く ASCII 文字です。

**補足**

- ・「uid (ログイン名)」属性の値に設定できるのは、制御文字を除く ASCII 文字です。
- ・「uid (ログイン名)」属性の値には「,」、「+」、「"」、「¥」、「<」、「>」、「;」を、含むことができません。
- ・「uid (ログイン名)」属性の値には「#」、「.」を先頭の文字に使用できません。

表：ユーザーの属性一覧

属性ID	日本語表示名	単値／多値	長さ上限 (バイト) スキーマ	備考
cn	名前	単値	128	
description	説明	単値	1024	
displayName	表示名	単値	128	
employeeNumber	従業員番号	単値	64	
employeeType	従業員種別	単値	128	
givenName	名	単値	128	
l	ロケーション	単値	128	
labeledURI	ホームページアドレス	単値	256	ASCII文字だけです。
mail	メールアドレス	単値	128	ASCII文字だけです。
mobile	携帯電話番号	単値	32	半角の英数字、「"」、「(」、「)」、「+」、「,」、「-」、「.」、「/」、「:」、「?」です。
ou	部署名	単値	128	
preferredLanguage	言語	単値	128	HTTPのヘッダー情報 Accept-Languageと同様の形式です。
rmsCertDN	ユーザー証明書の DN	単値	256	デジタル証明書に記載されている DNです。
rmsDigestNotifyTime	ダイジェスト通知時刻	単値	32	ASCII文字だけです。
rmsCardID	カードID	多値	256	ASCII文字だけです。
rmsExtUser	外部ユーザー名	単値	256	外部の認証用のRMS用データベースのユーザー上での識別子です。

表：ユーザーの属性一覧

属性ID	日本語表示名	単値／多値	長さ上限 (バイト) スキーマ	備考
rmsExtAuthConfig	外部認証構成名	単値	なし	認証用構成情報を識別する構成名です。複数の認証サーバーを利用するときに指定します。パスワード変更をするための認証サーバーを指定します。また、同期コマンドでも使用します。
rmsMailable	メール通知	単値	なし	メール通知をするかしないかを設定します。 デフォルトはTRUEです。
rmsMobileMail	携帯電話メールアドレス	単値	128	ASCII文字だけです。
rmsPronunciation	ふりがな	単値	256	
rmsShortDisplayName	短縮表示名	単値	128	
rmsShortOun	短縮部署名	単値	128	
rmsShortTitle	短縮役職名	単値	128	
rmsTimeZone	タイムゾーン	単値	64	
rmsUserRoleIDs	ユーザーロール	多値	256	
sn	姓	単値	128	
title	役職	単値	128	
telephoneNumber	電話番号	単値	32	半角の英数字、「[ ]」、「( )」、「+」、「[ ]」、「[ ]」、「[ ]」、「[ ]」、「[ ]」です。
uid (必須)	ログイン名	単値	64	ASCII文字です。 ユーザーエントリーの名前属性として使用されます。

## 2.2.4 グループ

「グループ」は、ユーザーまたはグループの集まりを示すオブジェクトです。

「グループ」に設定できる共通属性は、次のとおりです。cnは必ず設定します。

- 注記**
- ・「cn (名前)」属性の値に設定できるのは、制御文字を除く ASCII 文字です。
  - ・「cn (名前)」属性の値には「,」、「+」、「"」、「¥」、「<」、「>」、「;」を、含むことができません。
  - ・「cn (名前)」属性の値には「#」、「.」を先頭の文字に使用できません。

表：グループの属性一覧

属性ID	日本語表示名	単値/ 多値	長さ上限 (バイト) スキーマ	備考
cn (必須)	名前	単値	128	
description	説明	単値	1024	
displayName	表示名	単値	128	
uniqueMember	メンバー	多値	256	グループのメンバーに対応するエントリーをDNで指定します。
ou	部署名	単値	128	
rmsExtGroup	外部グループ名	単値	256	外部の認証用のRMS用データベース上でのグループエントリーの識別子です。
rmsExtAuthConfig	外部認証構成名	単値	なし	認証用の構成情報を識別する構成名です。複数の認証サーバーを利用する場合、同期コマンドで使用します。
rmsUserRoleIDs	ユーザーロール	多値	256	

## 2.2.5 ユーザーロール

ユーザーロールとは、オブジェクトに対するユーザーの役割を定義したものです。操作するユーザーまたはグループに付与します。たとえば、作成者、承認者、管理者、入出力業務担当者、利用者などのユーザーをします。

ユーザーまたはグループに複数のユーザーロールを付与できます。

なお、グループはユーザーまたはグループの集まりを指します。グループに設定したユーザーロールは、所属するユーザー、グループに引き継がれます。

ユーザーロールは、リソース管理サービス（RMS）で管理します。

**参照** ユーザーロールの詳細については、『リソース管理アプリケーションのヘルプ』を参照してください。

### ユーザーロール名

「ユーザーロール名」は、ユーザーの役割を示すオブジェクトです。ユーザーロールに権限を付加することによって、ユーザーやグループのアクセス制御ができます。

「ユーザーロール名」に設定できる共通属性は、次のとおりです。cnは必ず設定します。

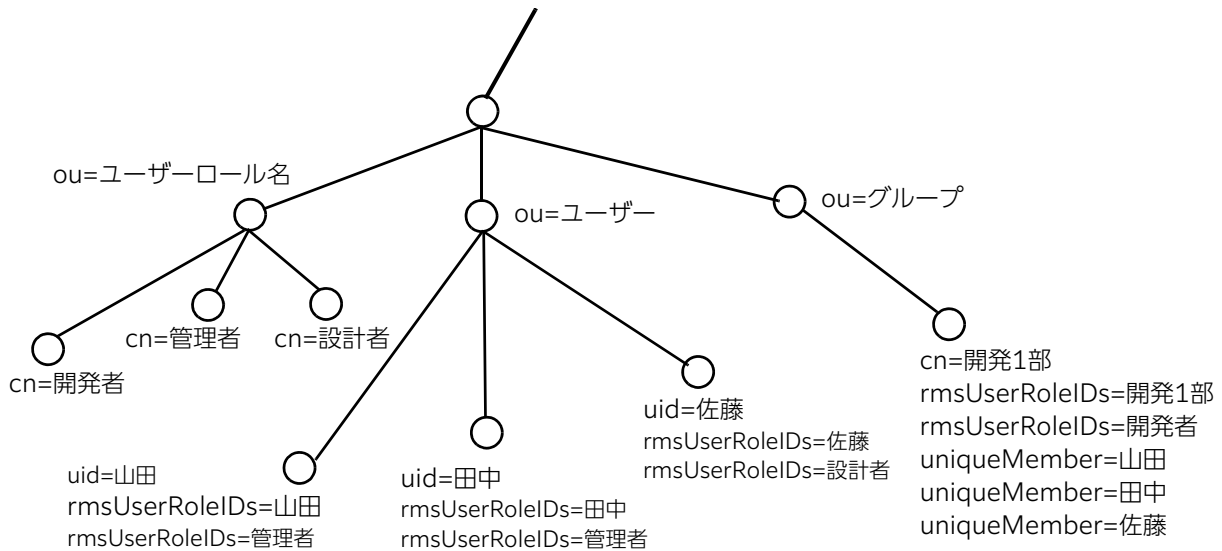
- 注記**
- ・「cn（名前）」属性の値に設定できるのは、制御文字を除く ASCII 文字です。
  - ・「cn（名前）」属性の値には「,」、「+」、「"」、「¥」、「<」、「>」、「;」を使用できません。
  - ・「cn（名前）」属性の値には「#」、「.」を先頭の文字に使用できません。

表：ユーザーロール名の属性一覧

属性ID	日本語表示名	単値／多値	長さ上限 (バイト) スキーマ	備考
cn (必須)	名前	単値	128	
description	説明	単値	1024	
displayName	表示名	単値	128	
ou	部署名	単値	128	

**補足** ユーザーロールは、ユーザーロール名エントリーと、そのエントリーを参照するユーザーエントリーまたはグループエントリーのユーザーロール属性で設定されます。ユーザーロール属性が設定されているユーザーエントリーまたはグループエントリーに対応するユーザーまたはグループが、そのユーザーロールを持っていることとなります。

次に、ユーザーロールの例は、次のとおりです。



図：ユーザーロールの例

この例では、次のエントリーが設定されています。

ユーザーロール：「開発者」、「管理者」、および「設計者」

ユーザー：「山田」、「田中」、および「佐藤」

グループ：「開発1部」

ユーザー「山田」には「山田」と「管理者」、ユーザー「田中」には「田中」と「管理者」、ユーザー「佐藤」には「佐藤」と「設計者」、グループ「開発1部」には「開発1部」と「開発者」というユーザーロールが与えられている状態を示しています。

グループに与えられたユーザーロールは、そのグループのメンバーにも与えられます。メンバーがグループの場合には、そのグループのメンバーにも上位のグループに与えられたユーザーロールが与えられます。

ユーザーロールは、クライアントからのアクセス制御の目的で使用するエントリーです。たとえば、上図のように設定されている環境で、下表のようなアクセス権が設定されていた場合、「山田」はAとBに対してread権とwrite権、Cに対してread権を、「田中」はAとBに対してread権とwrite権を、「佐藤」はBに対してread権を有していることとなります。

表：アクセス権の設定例

オブジェクト	ユーザーロール	アクセス権	
		read	write
ドキュメントA	管理者	○	○
	開発者	○	
ドキュメントB	管理者	○	○
	設計者	○	
ドキュメントC	山田	○	

## 2.2.6 コンポーネント

「コンポーネント」は、各コンポーネントを識別するためのオブジェクトです。コンポーネントの属性には、コンポーネントの利用者や管理者が設定されます。「コンポーネント」に設定できる共通属性は、次のとおりです。cnは必ず設定します。

- 注記**
- ・「cn (名前)」属性の値に設定できるのは、制御文字を除く ASCII 文字です。
  - ・「cn (名前)」属性の値には「,」、「+」、「"」、「¥」、「<」、「>」、「;」を、含むことができません。
  - ・「cn (名前)」属性の値には「#」、「.」を先頭の文字に使用できません。

表：コンポーネントの属性一覧

属性ID	日本語表示名	単値／多値	長さ上限 (バイト) スキーマ	備考
cn (必須)	名前	単値	128	
description	説明	単値	1024	
displayName	表示名	単値	128	
l	ロケーション	単値	128	
labeledURI	URI	単値	256	ASCII文字だけです。
ou	部署名	単値	128	
rmsAccessFromMultiClientFlag	同一ユーザー複数クライアント同時アクセス許可フラグ	単値	なし	「TRUE」または「FALSE」を指定します。
rmsAdministrators	管理者	多値	256	管理ユーザーのエントリー ID、または外部の認証用のRMS用データベース上での管理ユーザーのエントリーの識別子です。
rmsAdminToolURI	管理ツールURI	単値	256	ASCII文字だけです。
rmsComponentInfo	コンポーネント情報	単値	1024	
rmsComponentType	コンポーネントのタイプ	単値	64	ASCII文字だけです。
rmsHostEntryID	ホストエントリーのID	単値	128	
rmsLicenseCount	ライセンス数	単値	128	ASCII文字だけです。
rmsLicensedUsers	利用できるユーザー	多値	256	利用できるユーザーのエントリー ID、または外部の認証用のRMS用データベース上での利用できるユーザーのエントリーの識別子です。
rmsLogoutServletURL	ログアウトサーブレットURI	単値	256	ASCII文字だけです。
rmsMaxSessionCount	コンポーネントの最大同時セッション数	単値	なし	整数値です。
rmsRmiRegistryHost	RMIレジストリーのホスト名	単値	256	ASCII文字だけです。



表：コンポーネントの属性一覧

属性ID	日本語表示名	単値/ 多値	長さ上限 (バイト) スキーマ	備考
rmsRmiRegistryPort	RMIレジストリーの ポート番号	単値	なし	整数値です。
rmsSLBCookieValue	分散環境で使用する実 サーバー識別用クッ キーの値	単値	256	ASCII文字だけです。
rmsUserMaxSession Count	同一ユーザーの最大同 時セッション数	単値	なし	整数値です。
rmsVersion	バージョン	単値	32	ASCII文字だけです。

## 2.2.7 アトム

「アトム」は、RMS以外の各コンポーネント内で使用される属性やラベルの名前を示すデータです。アトムの登録は、ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版、または管理コマンドでします。

**参照** 管理操作の詳細については、『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』、または『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

「アトム」に設定できる共通属性は、次のとおりです。cnは必ず設定します。

- 注記**
- ・「cn (名前)」属性の値に設定できるのは、制御文字を除く ASCII 文字です。
  - ・「cn (名前)」属性の値には「,」、「+」、「"」、「¥」、「<」、「>」、「;」を含むことができません。
  - ・「cn (名前)」属性の値には「#」、「.」を先頭の文字に使用できません。

表：アトムの属性一覧

属性ID	日本語表示名	単値／多値	長さ上限 (バイト) スキーマ	備考
cn (必須)	名前	単値	128	
description	説明	単値	1024	
displayName	表示名	単値	128	言語コード指定の機能を使用してロケール対応をします。 (例：displayName;lang-ja=名前、displayName;lang-en=name)
rmsAttributeColumnName	データベーステーブルカラム	単値	32	ASCII文字だけです。
rmsAttributeSearchable	検索条件指定できるフラグ	単値	なし	「TRUE」または「FALSE」を指定します。
rmsAttributeSortable	ソート条件指定できるフラグ	単値	なし	「TRUE」または「FALSE」を指定します。
rmsAttributeType	型名	単値	32	ASCII文字だけです。
rmsMaxValueLength	最大長	単値	なし	ASCII文字の数字だけです。
rmsMaxValueCount	最大個数	単値	なし	ASCII文字の数字だけです。
rmsSingleValued	単値フラグ	単値	なし	「TRUE」または「FALSE」を指定します。

## 2.2.8 プリンター

「プリンター」は、プリンターを識別するためのオブジェクトです。

「プリンター」に設定できる共通属性は、次のとおりです。「備考」の項目に特に記述のない属性については、値の形式や使用できる文字の種類に制限はありません。

表：プリンターの属性一覧

属性ID	日本語表示名	単値/ 多値	長さ上限 (バイト) スキーマ	備考
description	説明	単値	1024	
displayName	表示名	単値	128	
printer-name	論理プリンター名	単値	127	
printer-uri	論理プリンター URI	単値	256	
printer-make-and-model	機種名	単値	127	
printer-location	設置場所	単値	127	
printer-service-person	プリンター管理者	単値	127	プリンターの管理者名、管理者の電話番号、メールアドレスなど、形式は自由です。
printer-eco-load	環境負荷値	単値	なし	リソース管理アプリケーションでは編集できません。
rmsAdminToolURI	物理プリンター管理ツール URI	単値	256	ASCII文字だけです。
rmsAvailableFunctions	利用できる機能	多値	128	
rmsServerName	サーバー名	単値	128	

## 2.3 ユーザー認証の管理

ログインサーバー管理アプリケーションで、ArcSuiteのログイン方法を設定します。また、リソース管理アプリケーションで、パスワードの有効期間、使用できる文字などを設定します。

### 2.3.1 認証方法

ArcSuiteの認証方法は、インストールするときに設定します。インストールしたあとは、「ログインサーバー管理アプリケーション」で設定を変更します。

**参照** 『ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ』

#### ■ 自動ログイン

ログインIDとパスワードを入力して、ユーザー認証に成功すると、2回目以降は、ユーザー認証をせずにログインできます。

#### ■ フォーム認証

ログインするごとに、ログインIDとパスワードを入力してユーザー認証をします。パスワードは、公開鍵暗号方式を使用して暗号化され、ログインサーバーに送られます。

#### ■ クライアント証明書による認証

デジタル証明書を使用して、ユーザー認証をします。

次の2種類の構成があります。

- ・ Microsoft Internet Information Services (IIS) を使用した Secure Socket Layer (以降、「SSL」と表記します)
- ・ SSL アクセラレーターを使用した環境

#### ■ クライアント証明書による認証とフォーム認証の併用

「フォーム認証」と「クライアント証明書による認証」とを併用して認証します。

#### ■ 統合 Windows 認証

PCにサインインしたユーザーが、ArcSuiteを使用するときに、ログインIDとパスワードを入力せずにログインできます。

### 2.3.2 ユーザー名、パスワードに使用できる文字

ログインするときにログインIDに入力するユーザー名、またはパスワードに、次の文字が使用できます。

#### ■ ユーザー名

制御文字を除くASCII文字です。ただし、次の文字は使用できません。

- ・ [, (コンマ)], [+ (プラス)], [" (ダブルクォーテーション)], [¥ (円)], [<, >], または [; (セミコロン)] を含む文字
- ・ [# (ナンバー)] または [. (ピリオド)] から始まる文字

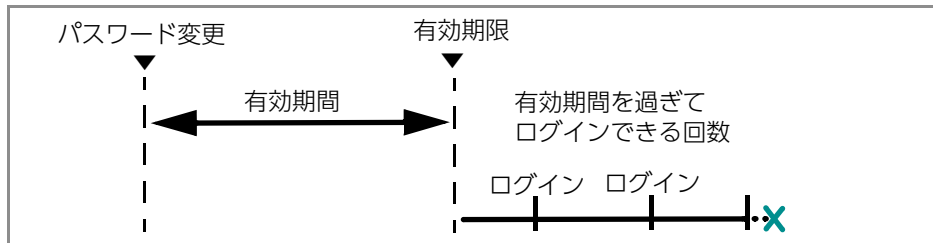
#### ■ パスワード

制御文字を除くASCII文字です。

### 2.3.3 パスワードの有効期間を設定する

ユーザーがパスワードを変更してから、変更後のパスワードが使用できる有効期間を設定できます。デフォルトでは、有効期間は設定されていません。

有効期間を設定すると、パスワードの有効期限が設定されます。有効期限は、パスワードを最後に変更した日時に、有効期間を足したものです。有効期限が過ぎると、ユーザーはパスワードを変更する必要があります。また、有効期限を過ぎてログインできる回数も設定できます。ユーザーがログインすると、パスワードを変更する画面が表示されます。パスワードを変更せずにログインしていて、設定された回数になったとき、次回からはログインできなくなります。



図：パスワードの有効期間と有効期限

- 補足**
- ・リソース管理アプリケーションで、ユーザーごとにパスワードの有効期限を設定できます。
  - ・ログインしたときにパスワードの有効期限が過ぎていた場合、[ログイン] 画面が表示されます。自動ログインを除き、[ユーザープロファイル] 画面でパスワードを変更する必要があります。自動ログインの場合は、ログインしたあとで、パスワードを変更します。一度、変更したパスワードでログインすると、有効期限を過ぎるまでログイン画面が表示されません。
  - ・コマンドを実行してアクセスするユーザーは、パスワードの変更を強制しない設定にする必要があります。

### パスワードの有効期間を設定する手順

すべてのユーザーのパスワードに、有効期間が設定されます。

1. Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。  
URL は、「<http:// {ArcSuite サーバー名} /ArcSuite/portal/>」です。  
[ログイン] 画面が表示されます。
2. ログインするユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。  
[ポータル] 画面が表示されます。
3. [システム管理] リンクをクリックします。  
[システム管理] 画面が表示されます。
4. [このシステム] に表示されている RMS のリンクをクリックします。  
[管理ログイン] 画面が表示されます。
5. リソース管理アプリケーションの管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
6. [ログイン] をクリックします。  
[リソース管理アプリケーション] 画面が表示されます。
7. [システムプロパティ編集] メニューをクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。

**8.** 次のキー名および値を入力します。FALSE を入力した場合は、手順 9 に進みます。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.forceChangePassword
値	パスワードを変更してからの有効期間を設定する場合は、TRUEを入力します。デフォルトは、FALSEです。

**9.** パスワードの有効期間を設定します。次のキー名および値を入力します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.forceChangePassword.period
値	分に換算した有効期間を、数字で入力します。デフォルトは、57600（40日）です。

**10.** 有効期限を過ぎてログインできる回数を設定します。次のキー名および値を入力します。


表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.forceChangePassword.graceAmount
値	回数を数字で入力します。デフォルトは、6です。7回めのログインでログインできなくなります。

**11.** [保存] をクリックして、設定を反映させます。**パスワードの変更を強制しない設定をする手順**

パスワードの変更を強制したくないユーザーがいる場合や、コマンドを実行してアクセスするユーザーは、次の手順で設定します。

**注記** コマンドを実行してアクセスするユーザーの場合、パスワードを変更する画面が表示されないため、有効期限に気がつかないことがあります。この場合、有効期限を過ぎてログインできる回数を超えてしまい、ログインできなくなります。

1. リソース管理アプリケーションで、ユーザーを検索します。
2. 検索結果で、 ([プロパティ編集] アイコン) をクリックします。  
[プロパティ編集] 画面が表示されます。
3. [パスワードの強制変更] で [FALSE] を選択します。
4. [設定] をクリックします。

## 2.3.4 パスワードの文字を制限する

パスワードに必ず使用する文字、またはパスワードの長さを設定できます。

1. リソース管理アプリケーションで、メニューから [システムプロパティ編集] をクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。

2. 次のキー名および値を入力します。

### ◆ パスワードの長さを設定する場合

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.passwordLength
値	入力する文字列の最小の長さを入力します。 デフォルトは、8です。8以上の数字を設定できます。

### ◆ パスワードに必ず使用する文字を設定する場合

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.passwordChars	
値	含める文字を入力します。組み合わせることもできます。 デフォルトは、a0です。	
	英字の小文字を含めるとき	a
	英字の大文字を含めるとき	A
	数字を含めるとき	0
	記号を含めるとき	- (マイナス)
	文字の制限をしないとき	none

- ・ 2 つ以上の文字を必ず含むとき  
文字を順不同で入力します。たとえば、「aA」のように入力します。このとき、パスワードには、必ず英字の大文字および小文字を含む文字列を設定する必要があります。数字または記号は、任意で含めることができます。
- ・ 2 つ以上の文字をどれか含むとき  
文字を「+ (プラス)」でつなぎます。  
たとえば、「A+a」のように入力します。このとき、パスワードには英字の大文字および小文字の文字列を設定する必要があります。数字または記号は、任意で含めることができます。  
また、「A-+a-」と入力した場合は、英字の大文字および記号を含む文字列、または英字の小文字および記号を含む文字列になります。

3. [保存] をクリックして、設定を反映させます。

## 2.3.5 アカウントを自動でロックする

パスワードを連続して間違えたときに、ユーザーのアカウントを自動でロックできます。ロックされたユーザーは、ログインできなくなります。通常は、自動でロックする設定がされています。ユーザーのアカウントがロックされた場合、ロックされたことを管理者などにメールで通知できます。

**参照** アカウントが自動でロックされたときにメールで通知する設定になっている場合の通知内容については、[\[付録 D アカウントロック時のメール通知内容\] \(P.299\)](#) を参照してください。

1. リソース管理アプリケーションで、メニューから [システムプロパティ編集] をクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。

2. 自動でロックするか、しないかを設定します。次のキー名および値を入力します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.lock
値	自動でロックする場合は、TRUEを入力します。 デフォルトは、TRUEです。

3. パスワードを入力できる回数を設定します。次のキー名および値を入力します。

◆ **連続してパスワードを間違えて入力できる回数を設定する場合**

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.lock.invalidTries
値	回数を数字で入力します。 デフォルトは、6です。7回めはログインできなくなります。

◆ **連続して間違ったパスワードを入力した回数が 0 になる時間を設定する場合**

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.lock.resetInvalidTries
値	分に換算した有効期間を、数字で入力します。 デフォルトは1440（24時間）です。

たとえば、間違ったパスワードを連続して 5 回入力した場合、1440 分経過すると、パスワードは再度 5 回間違えて入力できます。ただし、6 回間違えると、7 回めはログインできなくなります。



4. アカウントがロックされたことを通知するメールの送信先または送信元を設定します。次のキー名および値を入力します。

◆ **アカウントがロックされたことを通知するメールの送信先を設定する場合**

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.lock.notifyingParty
値	アカウントが自動でロックされた場合に、アカウントがロックされたことを通知するメールの送信先を設定します。値には、送信先にするユーザー、グループ、ユーザーロール名を指定できます。値を省略した場合、通知メールは送信されません。

◆ **アカウントがロックされたことを通知するメールの送信元を設定する場合**

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.lock.informant
値	アカウントが自動でロックされた場合に、アカウントがロックされたことを通知するメールの送信元ユーザーを設定します。値には、送信元にするユーザー、グループ、ユーザーロール名を指定できます。値を省略した場合、RMSの管理者ユーザーのメールアドレスが送信元になります。

5. [保存] をクリックして、設定を反映させます。

## 2.3.6 パスワードを再利用できる回数を設定する

過去に使用したパスワードを再利用しないように設定できます。使用されているパスワードを1回として、過去に変更したパスワードの回数を設定します。

1. リソース管理アプリケーションで、メニューから [システムプロパティ編集] をクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。

2. 次のキー名および値を入力します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.passwordReuseCycle
値	0~10までの数字を入力します。 デフォルトは、5です。 0を入力すると、すべてのパスワードが再利用できます。

たとえば、5を入力すると、今のパスワードを含んだ5つ前のパスワードを設定できません。パスワードを6回変更すると、1回めのパスワードが設定できます。

3. [保存] をクリックして、設定を反映させます。

## 2.3.7 初期パスワードの変更を設定する

ユーザーを作成したときのパスワードを変更していない場合、ユーザーがログインしたときに、パスワードを変更する画面を表示できます。すでにパスワードを変更したユーザーがログインしたときは、パスワードを変更する画面は表示されません。

1. リソース管理アプリケーションで、メニューから [システムプロパティ編集] をクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。
2. 次のキー名および値を入力します。


表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.login.forwardChangelnitialPasswordPage
値	初期パスワードを変更させる場合は、TRUEを入力します。 デフォルトは、FALSEです。

3. [保存] をクリックして、設定を反映させます。

## 2.3.8 アカウトロックされた状態を解除する

アカウントがロックされているユーザーは、そのままではログインできません。アカウントがロックされた状態を解除します。

1. リソース管理アプリケーションで、ユーザーを検索します。
2. 検索結果で、 ([プロパティ編集] アイコン) をクリックします。  
[プロパティ編集] 画面が表示されます。
3. [アカウントロック状態] で [FALSE] を選択します。
4. [設定] をクリックします。

## 2.4 アドレス帳の利用の制限

ユーザーに対して、アドレス帳の利用を制限する場合に設定します。また、アドレス帳の利用を制限したユーザーに対して [ユーザー情報] ダイアログボックスを表示させるかどうかも設定します。

### 2.4.1 アドレス帳の利用を制限する

次の手順で、アドレス帳の利用を制限します。

1. リソース管理アプリケーションで、メニューから [システムプロパティ編集] をクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。
2. 次のキー名および値を入力します。

#### ◆ 特定のユーザーに対してアドレス帳の利用を禁止する場合

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.arcsuite.ui.address.prohibitedEntryID
値	アドレス帳の利用を禁止するユーザー、グループ、またはユーザーロールのエントリー IDを入力します。

- ・ 値に指定できるエントリー ID は 1 つだけです。複数のユーザーを設定したい場合は、グループまたはユーザーロールのエントリー ID を指定します。
- ・ グループを指定した場合は、指定したグループと、その下位のグループに所属するユーザーに対してアドレス帳の利用が許可または禁止されます。
- ・ ユーザーロールを指定した場合は、指定したユーザーロールを持っているユーザーだけでなく、そのユーザーロールを持っているグループに所属するユーザーに対しても、アドレス帳の利用が許可または禁止されます。
- ・ 同じユーザーに対して、アドレス帳の利用の許可と禁止の両方を設定した場合は、禁止が優先されません。

3. ユーザー名のリンクをクリックしたときに [ユーザー情報] ダイアログボックスの表示を許可するかどうかを設定します。次のキー名および値を入力します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.arcsuite.ui.userinfo.applyAddressPermission
値	アドレス帳を利用できないユーザーに対して [ユーザー情報] ダイアログボックスの表示を許可する場合は、FALSEを入力します。 アドレス帳を利用できないユーザーに対して [ユーザー情報] ダイアログボックスの表示を禁止する場合は、TRUEを入力します。 値を省略した場合、TRUEを入力したとみなされます。

4. サービスを再起動して、設定を反映させます。

**参照** サービスを再起動する手順については、[\[2.4.2 設定を反映する\] \(P.52\)](#) を参照してください。

## 2.4.2 設定を反映する

リソース管理アプリケーションの [システムプロパティ編集] 画面で設定を変更したあとは、次の手順で、設定を反映させます。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。  
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。

**補足** 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを停止します。

- (1) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy
- (2) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
- (3) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
- (4) ArcSuite Capturing Service Admin
- (5) ArcSuite Capturing Service
- (6) ArcSuite Monitoring Service
- (7) ArcSuite Web Application Service
- (8) ArcSuite Collabo Service
- (9) ArcSuite Repository Service
- (10) ArcSuite Repository Master Admin Service
- (11) ArcSuite kSearchDuo Service
- (12) ArcSuite Full Text Search Service
- (13) ArcSuite Basic Service

4. サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で開始します。

**補足** 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを開始します。

- (1) ArcSuite Basic Service
- (2) ArcSuite Full Text Search Service
- (3) ArcSuite kSearchDuo Service
- (4) ArcSuite Repository Master Admin Service
- (5) ArcSuite Repository Service
- (6) ArcSuite Collabo Service
- (7) ArcSuite Web Application Service
- (8) ArcSuite Monitoring Service
- (9) ArcSuite Capturing Service
- (10) ArcSuite Capturing Service Admin
- (11) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register

(12) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin

(13) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy

## 2.5 ユーザーの真正性の管理

ログインしているユーザーが本人であることを証明できます。

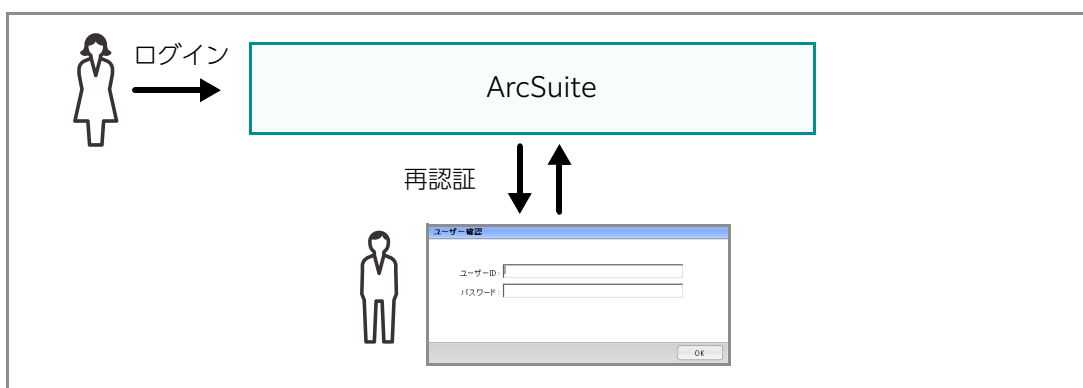
### 2.5.1 再認証とは

再認証とは、ArcSuiteにログインしたユーザーが、[ユーザー確認] ダイアログボックスで、ユーザー ID とパスワードを入力して認証することです。ログインしているユーザーが本人であることを証明します。認証方法に関係なく、必ず [ユーザー確認] ダイアログボックスが表示されます。

**補足** 認証方法が次の場合、ユーザーは ArcSuite のユーザー ID およびパスワードを、知っておく必要があります。

- クライアント証明書認証
- 統合 Windows 認証

**参照** 認証方法については、[\[2.3.1 認証方法\] \(P.44\)](#) を参照してください。

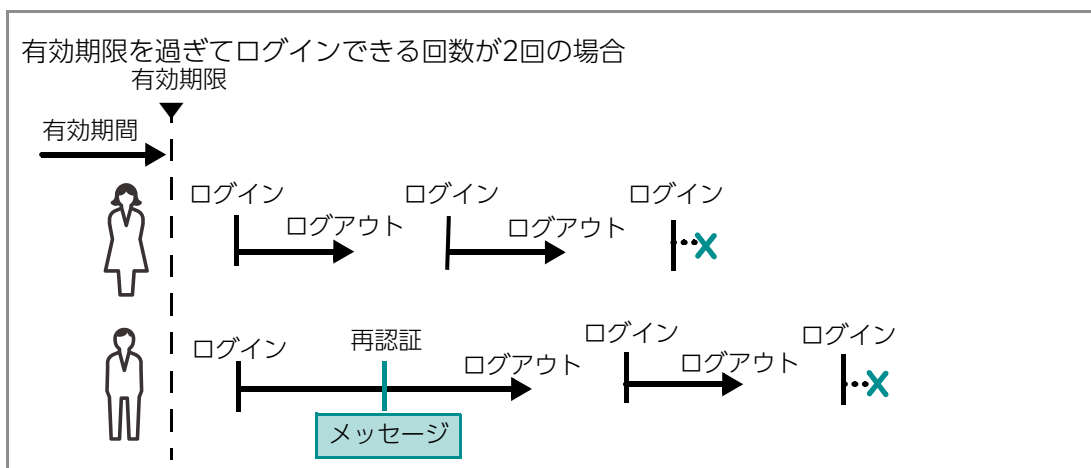


図：再認証

### パスワードの有効期限を過ぎた場合の再認証

有効期限を過ぎてログインできる回数にかかわらず、パスワードの有効期限が切れている内容のメッセージが表示され、再認証が必要な操作はできません。その場合は、パスワードを変更する必要があります。

また、メッセージが表示されても、有効期限を過ぎてログインできる回数はそのままです。



図：パスワードの有効期限と再認証

**参照** パスワードの有効期間の設定については、[\[2.3.3 パスワードの有効期間を設定する\] \(P.45\)](#) を参照してください。

## 2.5.2 スタンプの実行で再認証するための設定

ドキュメントスペースのスタンプの実行で再認証する場合に、設定します。

### ■ 再認証するための設定

1. リソース管理アプリケーションで、メニューから [システムプロパティ編集] をクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。
2. 次のキー名および値を入力します。

#### ◆ サービスに設定する場合

ArcSuite のサービスに設定します。キャビネットの数が多く、すべてのキャビネットで再認証するときに、設定します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.eappli.webapp.ds.reconfirmation.stamp. {サービスID}
値	TRUE

#### ◆ キャビネットに設定する場合

特定のキャビネットでだけ再認証するときに、設定します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.eappli.webapp.ds.reconfirmation.stamp. {サービスID} . {キャビネットID}
値	TRUE 再認証しないキャビネットには、「FALSE」を入力します。

**補足** ・ 値には、大文字、小文字どちらでも指定できます。  
・ 「{サービスID}」または「{キャビネットID}」は、ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版などで確認できます。

3. [保存] をクリックします。  
確認のためのダイアログボックスが表示されます。
4. [OK] をクリックします。  
[システムプロパティ編集結果] 画面が表示されます。
5. [OK] をクリックします。
6. サービスを再起動して、設定を反映させます。

**参照** サービスを再起動する手順については、[\[2.4.2 設定を反映する\] \(P.52\)](#) を参照してください。

## 2.5.3 状態変更で再認証するための設定

ドキュメントスペースのオブジェクトの状態変更で再認証する場合に、設定します。変更された状態を設定します。たとえば、「承認待ち」の状態から「承認済み」の状態に変更するときに再認証する場合は、「承認済み」の状態を表すアトム名を設定します。

### ■ 再認証するための設定

1. リソース管理アプリケーションで、メニューから [システムプロパティ編集] をクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。
2. 次のキー名および値を入力します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.eappli.webapp.ds.reconfirmation.changestatus. {サービスID} . {キャビネットID}
値	{ネームスペース名} : {アトム名} 再認証に成功してから変更される状態を入力します。 2つ以上のアトムを入力するときは、「  (縦線)」で区切ります。

- 補足**
- ・「{サービスID}」または「{キャビネットID}」は、ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版などで確認できます。
  - ・{ネームスペース名} : {アトム名} は、たとえばシステム属性の場合は system:fixed、ユーザー属性の場合は、user:applicationClass のような値を入力します。この場合、状態が「system:fixed」または「user:applicationClass」に変更するときに、再認証の画面が表示されます。
  - ・アトム名は、リソース管理アプリケーションで検索できます。アトムを検索したときに、プロパティ表示で確認できます。  
たとえば、[cn=applicationClass,ou=user] と表示された場合、「{ネームスペース}」は user、「{アトム名}」は applicationClass になります。

3. [保存] をクリックします。  
確認のためのダイアログボックスが表示されます。
4. [OK] をクリックします。  
[システムプロパティ編集結果] 画面が表示されます。
5. [OK] をクリックします。
6. サービスを再起動して、設定を反映させます。

**参照** サービスを再起動する手順については、[\[2.4.2 設定を反映する\] \(P.52\)](#) を参照してください。



## 2.5.4 ワークフローで再認証するための設定

ワークフローの次の操作で再認証する場合に、設定します。

- ・ワークフローの起動
- ・作業の完了
- ・コラボスペースのアクティビティの完了

### ■ 再認証する設定

1. ワークフローで、[ワークフロー定義編集] を開きます。

#### ◆ ワークフローを起動するときに再認証する場合

- (1) [開始] アクティビティをダブルクリックします。
- (2) [基本属性] タブをクリックし、[ユーザー確認] で [はい] を選択します。
- (3) [設定] をクリックします。

#### ◆ 作業を完了するときに再認証する場合

- (1) [作業] アクティビティをダブルクリックします。  
コラボスペースのタスクを使用する場合は、[コラボレーション] アクティビティをダブルクリックします。
- (2) [基本属性] タブをクリックし、[ユーザー確認] で [はい] を選択します。
- (3) [設定] をクリックします。

**参照** ワークフローの操作については、『ワークフローのヘルプ』を参照してください。

## 2.6 リソース管理サービス管理コマンド

ユーザーやグループなどのエントリーを一括で登録したり、変更したりする場合は、リソース管理サービス管理コマンドを実行します。

**注記** Windows の機能であるユーザーアカウント制御 (UAC) によって、リソース管理サービス管理コマンドにアクセスできなかったり、起動に失敗したりすることがあります。  
 この場合、運用上のセキュリティポリシーに沿って、管理者特権でリソース管理サービス管理コマンドにアクセスして実行するための措置を行う必要があります。ユーザーアカウント制御 (UAC) に関する設定については『セットアップガイド』を参照してください。

### リソース管理サービス管理コマンドの一覧

リソース管理サービス管理コマンドで使用するバッチファイルは、次のとおりです。

表：リソース管理サービス管理コマンドのファイル名一覧

ファイル名	説明
rmsdelete.bat	エントリー削除用のバッチコマンド
rmsadadminuser.bat	アクセス権設定用のバッチコマンド
rmscsvregusers.bat	ユーザーエントリー登録用のバッチコマンド
rmscsvregister.bat	CSVファイルからのエントリー登録用のバッチコマンド
rmscsvmodify.bat	CSVファイルからのエントリー更新用のバッチコマンド
rmscsvexport.bat	エントリー情報をCSVファイルとして出力するためのバッチコマンド
rmsgetproperty.bat	RMSプロパティの情報をproperties形式で出力するためのバッチコマンド
rmssetproperty.bat	properties形式のファイルをRMSプロパティに登録するためのバッチコマンド
rmssync.bat	LDAPサーバー上のユーザーグループ情報をArcSuiteと同期するためのバッチコマンド

コマンドのフォルダーおよびLDAP連携をするときに必要な設定ファイルは、次のとおりです。

表：リソース管理サービス管理コマンドのバッチファイルと設定ファイル

フォルダー	ファイル名	説明
{ArcSuiteをインストールしたフォルダー} ¥ Service¥Components¥RMS¥bin	rmsdelete.bat rmsadadminuser.bat rmscsvregusers.bat rmscsvregister.bat rmscsvmodify.bat rmscsvexport.bat rmsgetproperty.bat rmssetproperty.bat rmssync.bat	リソース管理サービス管理コマンドのバッチファイル
{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥ Service¥conf¥RMS	rms_sync.csv syncattrs.csv syncdomains.csv	LDAP同期コマンド用設定ファイル

- 補足**
- ・「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。
  - ・「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%ArcSuite」です。

## バッチコマンドを実行する

次の手順で、コマンドを実行します。

1. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。  
[管理者 : コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

2. 次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
cd {ArcSuite をインストールしたフォルダー} %Service%Components%RMS%bin
```

- 補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

3. リソース管理サービス管理コマンドを入力して <Enter> キーを押します。

- 参照** コマンドの入力については、[\[2.6.2 一括で登録する \(rmscsvregister.bat\) | \(P.64\) \]](#)以降を参照してください。

## 操作できる属性情報

コマンドで設定できる属性情報は、次のとおりです。

### ■ リソース管理サービスで定義されている属性

- 参照** [\[2.2 コンポーネント共通データ | \(P.31\) \]](#)を参照してください。

表 : リソース管理サービスの属性ではないが、エントリーに付随した情報

ID	日本語表示名	型	備考
rmsUniqueID	識別子	ASCII文字列	エクスポートするときだけ指定できます。
rmsObsoleteFlag	無効フラグ	ブーリアン	

## ■ ログイン制限に関する情報（ユーザーのみ）

ID	日本語表示名	型	備考
userPassword	パスワード	ASCII文字列	ログインするユーザーには必ず設定します。 制御文字を除くASCII文字が設定できません。
locked	アカウントロック状態	ブーリアン	
lockOnAttack	自動アカウントロック	ブーリアン	
forceChangePassword	パスワードの強制変更	ブーリアン	
passwordExpireDate	パスワードの有効期限	ASCII文字列	「yyyy/MM/dd HH:mm:ss」形式です。
graceAmount	猶予ログイン回数残り	Integer	

## ■ 証明書情報

ID	日本語表示名	型	備考
userSMIMECertificate	X.509証明書	文字列	証明書ファイルのパスです。リソース管理サービスには、ファイルのパスではなく、証明書の内容が格納されます。

## 2.6.1 CSV ファイルを用意する

次のコマンドを実行するときにはCSVファイルを使用します。

- ・一括で登録する ([rmscsvregister.bat](#))
- ・ユーザーを一括で登録する ([rmscsvregusers.bat](#))
- ・一括で変更する ([rmscsvmodify.bat](#))
- ・情報を csv ファイルに出力する ([rmscsvexport.bat](#))

### CSV ファイルの例

表：ユーザーの場合

uid	cn	sn	mail	displayName;lang-ja	description
TSuzuki	Suzuki Taro	Suzuki	tsuzuki@example.com	鈴木太郎	ユーザー 1
JSato	Sato Jiro	Sato		佐藤次郎	ユーザー 2
STanaka	Tanaka Saburo	Tanaka	stanaka@example.com	田中三郎	
STakahashi	Takahashi Shiro	Takahashi	stakahashi@example.com	高橋四郎	ユーザー 4
GNakamura	Nakamura Goro	Nakamura	gnakamura@example.com	中村五郎	ユーザー 5
RYamada	Yamada Rokuro	Yamada	ryamada@example.com	山田六郎	ユーザー 6
NAoki	Aoki Nanaro	Aoki	naoki@example.com	青木七郎	ユーザー 7
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...

表：グループの場合

cn	displayName;lang-ja	uniqueMember
dev1g	開発1G	uid=TSuzuki,ou=users,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp
dev1g		uid=JSato,ou=users,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp
dev1g		uid=STanaka,ou=users,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp
dev2g	開発2G	uid=STakahashi,ou=users,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp
dev2g		uid=GNakamura,ou=users,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp
dev1	開発1部	cn=dev1g,ou=groups,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp
dev1		cn=dev2g,ou=groups,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp
...	...	...
...	...	...

## 更新する場合の指定方法

属性を更新するときは、次の方法のどれかで指定します。

- ・置換（上書き）  
値を指定した属性に対して、すでに設定されている値がすべて削除されて、指定した値が設定されます。値に「¥-（円、ハイフン）」を指定した属性は、値がすべて削除されます。多値属性の値に「¥-（円、ハイフン）」を指定するときは、同じエントリーの最初の行で指定する必要があります。たとえば、グループの場合、dev1g の属性 uniqueMember で、すでに設定されている uniqueMember は、例で指定されている 3 つの uniqueMember で上書きされます。
- ・追加  
値を指定した属性に対して、指定した値が追加されます。多値属性ではない属性で、すでに値が設定されている属性に値を追加しようとしたとき、または 2 つ以上の値を追加しようとしたときは、エラーになります。たとえば、値に「¥-（円、ハイフン）」を指定した場合などです。たとえば、グループの場合、dev1g の属性 uniqueMember に、例で指定されている 3 つの uniqueMember が追加されます。
- ・削除  
値を指定した属性に対して、指定した値が削除されます。「¥-（円、ハイフン）」が指定された場合は、その値を含む行全体の処理がエラーになります。指定した値がエントリーに設定されていない場合、単値属性ではエラー、多値属性の場合は無視されます。たとえば、グループの場合、dev1g の属性 uniqueMember に、すでに設定されている uniqueMember から、例で指定されている 3 つの uniqueMember を削除します。指定された uniqueMember の値が存在しない場合は削除されません。

## 注意事項

CSVファイルを作成するときには、次の注意事項があります。

- ・1行めに、登録の対象とする属性の属性名を記述します。このとき、1列めに指定する属性は、「ネーミング属性」にする必要があります。ネーミング属性とは、エントリーのタイプごとに決められた、RDN に使用する属性です。デフォルトの設定では、ユーザーの場合は uid、その他のエントリーの場合は cn がこれに該当します。
- ・2行め以降は、登録するエントリーの属性情報を記述します。このとき、各行は、1列めの値で特定されるエントリーに対応するものとします。各行で属性情報を記述するときに、属性値を記述していない場合は、その属性に対して何も処理されません。
- ・ほかのエントリーを参照する属性（uniqueMember、rmsUserRoleIDs、rmsLicensedUsers、および rmsAdministrators）は、値にエントリー ID が格納されます。ただし、コマンドを実行するときは、これらの属性の値には、エントリーの DN を指定します。
- ・新規登録で必ず指定する属性を指定していなかった場合、または設定できない属性を指定していた場合は、エラーになります。また、属性ごとに使用できる文字種に制限があるものがあります。  
**参照** エントリータイプで必ず指定する属性、および設定できる属性については、[\[2.2 コンポーネント共通データ\] \(P.31\)](#) を参照してください。
- ・多値属性に対して値を複数個指定する場合は、値の個数分だけ値の設定先となるエントリーを記述します。このとき、それぞれの行にネーミング属性の値を必ず指定してください。また、単値属性に対しては、該当するエントリーの最初の行に指定された値だけを有効とします。2行め以降に指定された値は無視されます。
- ・「¥-（円、ハイフン）」を指定した場合は、対応する属性の値がすべて削除されます。
- ・ネーミング属性については、使用できる文字に制約があります。

**参照** ネーミング属性に使用できる文字については、[\[2.3.2 ユーザー名、パスワードに使用できる文字\]](#) (P.44) を参照してください。

- ・ 言語コード指定をするときは、「; (セミコロン)」で区切って記述します。displayName などの国際化対応された属性に言語コードを付加した属性名を記述するときには、「属性名;言語コード」のように指定します。言語コードは、日本語の場合は lang-ja、英語の場合は lang-en を指定します。
- ・ 論理型属性は、true または false を指定します。
- ・ ユーザーのパスワードは、インポートするときだけに、userPassword 属性の値を指定できます。エクスポートはできません。
- ・ S/MIME の証明書を登録するときは、属性名に「userSMIMECertificate」を指定して、値に証明書のファイル名を指定します。次のファイルが指定できます。
  - X.509 DER 形式：証明書の DER (バイナリ) エンコード (ファイル拡張子は「cer」)
  - X.509 Base64Encoded 形式：証明書の DER (バイナリ) エンコードの Base64 エンコード (ファイル拡張子が「pem」または「cer」)
- ・ 証明書のファイルが次の場合はエラーになります。
  - 指定したファイルの拡張子が「cer」、「pem」以外の場合
  - ファイルの内容が証明書のデータとして正しくなかった場合
- ・ CSV ファイルの作成は、Microsoft Excel を使用できます。ただし、区切り文字は「, (コンマ)」にします。区切り文字を除く内容に「, (コンマ)」が含まれている場合は、「" (ダブルクォーテーション、コンマ、ダブルクォーテーション)」に書き換え、「" (ダブルクォーテーション)」が含まれている場合は、「"" (ダブルクォーテーション、ダブルクォーテーション)」に書き変えます。
- ・ CSV ファイルでは、「" (ダブルクォーテーション)」で挟まれた文字列の間に改行を含めることはできません。
- ・ CSV ファイル中の空白行は無視されます。その場合は、コマンドによって次の行が読み込まれます。

## 2.6.2 一括で登録する (rmscsvregister.bat)

CSVファイルに記載したエントリーの情報を一括で登録します。

### 形式

```
rmscsvregister.bat -o {entry_type} {base_dn} -l {component_dn} -u
{user_name} -p {password} {file_name}
```

- 補足**
- ・ rmscsvregister.bat -usage を入力して、<Enter> キーを押すとコマンドに必要なパラメーターが表示されます。
  - ・ rmscsvregister.bat -help を入力して、<Enter> キーを押すと、コマンドのパラメーターについての説明が表示されます。

### パラメーター

**-o**

オプションのパラメーターです。

通常、DNを指定する場合は、このオプションは指定しません。

#### {entry\_type}

登録するエントリーの種類です。必ず指定します。

エントリーの種類と値は、次のとおりです。

エントリー	値
ユーザー	user
グループ	group
ユーザーロール名	userRoleName
コンポーネント	component
アトム	atom

#### {base\_dn}

登録先の基点となるエントリーのDN名です。必ず指定します。

指定したエントリーに対してコマンドが実行されます。

#### -l {component\_dn}

オプションのパラメーターです。

ユーザーを登録するときに利用できるユーザーとして登録するコンポーネントのDNです。コンポーネントは複数指定できます。

{entry\_Type} にuserを指定した場合にだけ使用できます。user以外のエントリータイプを指定した場合は無視されます。

#### -u {user\_name}

オプションのパラメーターです。

コマンドを実行するユーザーのユーザー名（ログイン名で指定）を指定します。省略した場合、ユーザー名の入力を求める内容のメッセージが、コマンドを実行したコマンドプロンプトに表示されます。ユーザー名を入力すると、パスワードの入力を求める内容のメッセージが表示されます。

#### -p {password}

オプションのパラメーターです。

-uで指定したユーザーのパスワードを指定します。省略した場合、パスワードの入力を求める内容のメッセージが、コマンドを実行したコマンドプロンプトに表示されます。



{file\_name}

登録または更新するエントリー情報が記述されているCSVファイルの名前です。必ず指定します。

## ■ 説明

- ・ コマンドを実行すると、コマンドを実行するユーザー名（ログイン名）の入力を求めるメッセージが、コマンドを実行したコマンドプロンプトに表示され、そのあとにパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。ここでログインに成功すると、指定したエントリー情報の登録または更新が行われます。
- ・ 1列めで指定した名前属性の値からエントリー名が決定されて、その名前でエントリーが作成されます。名前属性以外の属性も同時に設定されます。
- ・ 指定した名前を持つエントリーがすでに存在した場合、そのエントリーの作成は失敗します。その場合、エラーメッセージが表示されて、次のエントリーの作成処理に移ります。
- ・ CSVファイルに記述されたユーザー情報の総数が、-lで指定するコンポーネントの登録できるライセンス数（ライセンス数からすでに使用されているライセンス数を引いたもの）を越えた場合、エラーが表示され、ユーザーを作成できません。
- ・ CSVファイルに記述されたユーザー情報を登録するときに ArcSuite のベーシックライセンスを消費するため、登録できるライセンス数を越えたユーザーについては、登録できません。
- ・ コマンドによる一括登録中にエントリーの登録が失敗した場合は、登録に失敗した内容の警告メッセージが表示され、そのエントリーの登録はスキップされます。
- ・ -usage または -help を指定した場合、または使用法に誤りがあった場合は、使用法が標準エラーに出力されます。

## ■ エラー

次の場合はエラーになります。

- ・ 指定された CSV ファイルが存在しない
- ・ CSV ファイルに記述されている属性名が正しくない
- ・ 指定されたエントリータイプ名が正しくない
- ・ 指定されたコンポーネント名が正しくない
- ・ 登録しようとした利用できるユーザーの合計数がコンポーネントのライセンス数を超過してしまった
- ・ 指定されたコンポーネントがライセンス登録を必要としない
- ・ コマンドを実行するユーザーのログインに失敗した

## ■ 入力例

ユーザー名 [rmsadmin]、パスワード [rmsadmin001] でログインし、エントリー [ou=users,dc=FUJIFILM] の下に、users.csvで記述されたユーザー情報を登録する例は、次のとおりです。

```
rmscsvregister.bat user "ou=users,dc=FUJIFILM" -u rmsadmin -p rmsadmin001
users.csv
```

## ■ 注意事項

ArcSuiteシステムの共通ログインでは、パスワードが設定されていないユーザーではログインできません。ログインするユーザーのエントリーを作成するときは、必ずパスワードを設定してください。

## 2.6.3 ユーザーを一括で登録する (rmscsvregusers.bat)

登録するユーザーの情報をCSVファイルに記載して、一括で登録します。

**補足** 旧バージョンの ArcSuite で使用していた場合を除き、新しく使用することを推奨していません。

### 形式

```
rmscsvregusers.bat -o {base_dn} -l {component_dn} -u {user_name} -p
{password} {file_name}
```

**補足**

- ・ rmscsvregusers.bat -usage を入力して、<Enter> キーを押すとコマンドに必要なパラメーターが表示されます。
- ・ rmscsvregusers.bat -help を入力して、<Enter> キーを押すと、コマンドのパラメーターについての説明が表示されます。

**参照** パラメーター、説明、エラー、入力例、および注意事項については、[\[2.6.2 一括で登録する \(rmscsvregister.bat\)\] \(P.64\)](#) を参照してください。

## 2.6.4 一括で変更する (rmscsvmodify.bat)

CSVファイルに記載したエントリーの情報を一括で変更します。

更新するときに、1列めで指定した名前属性の値をもとにエントリーが検索されて、そのエントリーが見つかった場合、そのエントリーに対して指定した属性値で属性が更新されます。

指定した名前を持つエントリーが見つからなかった場合、そのエントリーに対する属性更新は失敗します。その場合、エラーメッセージが表示され、次のエントリーの更新処理に移ります。

### 形式

```
rmscsvmodify.bat -o {-rp|-ad|-rm} {entry_type} {base_dn} -u {user_name} -p
{password} {file_name}
```

**補足**

- ・ rmscsvmodify.bat -usage を入力して、<Enter> キーを押すとコマンドに必要なパラメーターが表示されます。
- ・ rmscsvmodify.bat -help を入力して、<Enter> キーを押すと、コマンドのパラメーターについての説明が表示されます。

### パラメーター

-o

オプションのパラメーターです。

通常、DNを指定する場合は、このオプションは指定しません。

{-rp/-ad/-rm}

変更の種類です。必ず指定します。

- ・ -rp  
属性情報を置換する場合に指定します。
- ・ -ad  
属性情報を追加する場合に指定します。

- ・ -rm  
属性情報を削除する場合に指定します。

### {entry\_type}

登録するエントリーの種類です。必ず指定します。  
エントリーの種類と値は、次のとおりです。

エントリー	値
ユーザー	user
グループ	group
ユーザーロール名	userRoleName
コンポーネント	component
アトム	atom

### {base\_dn}

登録先の基点となるエントリーのDN名です。必ず指定します。  
指定したエントリーに対してコマンドが実行されます。

### -u {user\_name}

オプションのパラメーターです。

コマンドを実行するユーザーのユーザー名（ログイン名で指定）を指定します。省略した場合、ユーザー名の入力を求める内容のメッセージが、コマンドを実行したコマンドプロンプトに表示されます。ユーザー名を入力すると、パスワードの入力を求める内容のメッセージが表示されます。

### -p {password}

オプションのパラメーターです。

-uで指定したユーザーのパスワードを指定します。省略した場合、パスワードの入力を求める内容のメッセージが、コマンドを実行したコマンドプロンプトに表示されます。

### {file\_name}

登録または更新するエントリー情報が記述されているCSVファイルの名前です。必ず指定します。

## ■ 注意事項

- ・ コマンドで -rm オプションを指定した場合、パスワードを削除できません。CSV ファイルでパスワード属性の値を指定できません。
- ・ ArcSuite システムの共通ログインでは、パスワードが設定されていないユーザーではログインできません。ログインするユーザーのエントリーを作成するときは、必ずパスワードを設定してください。

**参照** 説明およびエラーについては、[\[2.6.2 一括で登録する \(rmcsvregister.bat\)\] \(P.64\)](#) を参照してください。

## 2.6.5 情報を csv ファイルに出力する (rmscsvexport.bat)

登録されているエントリーの情報を csv ファイルに出力します。

**参照** コマンドが出力する CSV ファイル、およびテンプレートとして使用する CSV ファイルのフォーマットについては、[\[2.6.1 CSV ファイルを用意する\] \(P.61\)](#) を参照してください。

### 形式

```
rmscsvexport.bat -o {base_dn} -t {target_name} -f {format_file_name} -u  
{user_name} -p {password} {output_file_name}
```

**補足**

- ・ rmscsvexport.bat -usage を入力して、<Enter> キーを押すとコマンドに必要なパラメーターが表示されます。
- ・ rmscsvexport.bat -help を入力して、<Enter> キーを押すと、コマンドのパラメーターについての説明が表示されます。

### パラメーター

**-o**

オプションのパラメーターです。

通常、このオプションは指定しません。

**{base\_dn}**

出力の基点となるエントリーの DN 名です。指定されたエントリー配下のエントリーを出力対象とします。

**-t {target\_name}**

オプションのパラメーターです。

ターゲットとなるエントリー名 (RDN) です。指定されたエントリー自身を含むエントリーツリーが出力対象になります。ターゲットは複数指定できます。

例：uid=TSuzuki, uid=Jsato

**-f {format\_file\_name}**

オプションのパラメーターです。

出力する CSV ファイルのフォーマットファイルです。

**-u {user\_name}**

オプションのパラメーターです。

コマンドを実行するユーザーのユーザー名 (ログイン名で指定) です。

**-p {password}**

オプションのパラメーターです。

ユーザー名に対するパスワードです。

**{output\_file\_name}**

出力先の CSV ファイルの名前です。

## ■ 説明

- ・ コマンドを実行すると、コマンドを実行するユーザー名（ログイン名）の入力を求めるメッセージが、コマンドを実行したコマンドプロンプトに表示され、そのあとにパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。ここでログインに成功すると、指定したエントリー情報が出力されます。
- ・ コマンドでは、パラメーター `base_dn` で指定したエントリー配下のエントリーの情報が、パラメーター `file_name` で指定した CSV ファイルに出力されます。コマンドは、同時に複数のタイプのエントリーを出力できないため、`base_dn` で指定したエントリー配下にタイプの異なるエントリーが混在していた場合は正しく出力されません。
- ・ 出力する属性の指定は、`-f` オプションを使用します。指定しなかった場合は、定義されているすべての属性が出力されます。
- ・ パラメーター `format_file_name` で指定する CSV ファイルの形式は、`rmscsvregister` で使用する CSV ファイルと同様であり、1 行めで指定されている属性を出力対象とします。このとき、2 行め以降のデータは無視されます。
- ・ `-usage` または `-help` を指定した場合、または使用法に誤りがあった場合は、使用法が標準エラーに出力されます。

## ■ エラー

次の場合はエラーになります。

- ・ `format_file_name` で指定されたファイルが存在しない
- ・ `output_file_name` で指定されたファイルの作成に失敗した
- ・ コマンドを実行するユーザのログインに失敗した

## ■ 入力例

ユーザー名「rmsadmin」、パスワード「rmsadmin001」でログインし、「ou=users,dc=FUJIFILM」の下に、「uid=suzuki」と「uid=sato」のエントリーを追加した結果をusers.csvに出力する例は、次のとおりです。

```
rmscsvexport.bat "ou=users,dc=FUJIFILM" -t "uid=suzuki" "uid=sato" -u rmsadmin -p rmsadmin001 users.csv
```

## ■ 注意事項

`rmscsvregister`や`rmscsvmodify`で使用するCSVファイルは、次のような制約があります。

- ・ 1 列めに、必ずネーミング属性を指定します。
- ・ エントリーを新規に登録するときには、必ず指定する属性を指定します。
- ・ パスワード (`userPassword`)、および証明書情報 (`userSMIMECertificate`) は、セキュリティ上問題があるため、エクスポートできません。
- ・ コマンドの出力先に指定するファイル名は、次の文字を含めることはできません。  
「¥ (円)」、 「/ (スラッシュ)」、 「: (コロン)」、 「, (コンマ)」、 「; (セミコロン)」、 「\* (アスタリスク)」、 「?」、 「" (ダブルクォーテーション)」、 「<」、 「>」、 「| (縦線)」

## 2.6.6 RMS 管理者の権限を付与する (rmsadadminuser.bat)

指定したユーザーに、RMS管理者の権限を付与します。

RMS管理者またはRMS管理者の権限を持つユーザーの設定を変更してしまった場合に、RMS管理者の権限を付与します。

### 形式

```
rmsadadminuser.bat {target_user_name} -p {password}
```

- 補足**
- ・ rmsadadminuser.bat -usage を入力して、<Enter> キーを押すとコマンドに必要なパラメーターが表示されます。
  - ・ rmsadadminuser.bat -help を入力して、<Enter> キーを押すと、コマンドのパラメーターについての説明が表示されます。

### パラメーター

{target\_user\_name}

管理者権限を設定するユーザーのDN名です。必ず指定します。

-p {password}

オプションのパラメーターです。

RMSのデータベースへの読み書きできるアクセスユーザーのパスワードです。

### 説明

- ・ コマンドを実行すると、パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。ここでログインに成功すると、指定したユーザーに対して RMS の管理権限が付加されます。  
なお、ここで指定するパスワードは、通常はインストールするときに指定した RMS のデータベースのユーザーのパスワードであり、RMS 管理ユーザーのパスワードではありません。
- ・ target\_user\_name で指定するユーザーには、既存の RMS のユーザーの DN を指定します。
- ・ -usage または -help を指定した場合、または使用法に誤りがあった場合は、使用法が標準エラーに出力されます。

### エラー

次の場合はエラーになります。

- ・ 指定されたユーザーに相当するエントリが存在しない
- ・ コマンドを実行するユーザーのログインに失敗した

### 入力例

[uid=suzuki,ou=users,dc=FUJIFILM] にRMSの管理者権限を付与する例は、次のとおりです。

```
rmsadadminuser.bat "uid=suzuki,ou=users,dc=FUJIFILM" -p rms
```

## 2.6.7 エントリーを削除する (rmsdelete.bat)

エントリーを削除します。間違ったエントリーを登録した場合や、登録でエラーになり不要なエントリーが登録された場合だけ、エントリーを削除します。

**注記** 削除されたエントリーは元に戻りません。コマンドを実行するときには十分に注意してください。

### 形式

```
rmsdelete.bat -b {base_dn} -t {target_rdn} -u {user_name} -p {password}
```

- 補足**
- ・ rmsdelete.bat -usage を入力して、<Enter> キーを押すとコマンドに必要なパラメーターが表示されません。
  - ・ rmsdelete.bat -help を入力して、<Enter> キーを押すと、コマンドのパラメーターについての説明が表示されます。

### パラメーター

#### -b {base\_dn}

エントリー削除の基点となるエントリーのDN名です。指定しなかった場合、すべてのエントリーが対象になります。

#### -t {target\_user\_name}

オプションのパラメーターです。

基点となるエントリーの直下にある、削除の対象となるエントリーのRDN名です。

#### -u {user\_name}

オプションのパラメーターです。

コマンドを実行するユーザーのユーザー名（ログイン名で指定）です。

#### -p {password}

オプションのパラメーターです。

ユーザー名に対するパスワードです。

### 説明

- ・ ほかのエントリーから参照されているエントリーは削除できません。指定したエントリーを削除できない場合、エントリーを削除できない内容の警告メッセージが表示され、削除処理はスキップされます。ほかのエントリーから参照されているエントリーとは、たとえば次のエントリーです。
  - グループのメンバーに登録されているユーザー
  - コンポーネントの管理者として登録されているユーザー
  - コンポーネントのライセンスが付与されているユーザー
- ・ -b を指定しなかった場合、すべてのエントリーを対象にコマンドが実行されます。
- ・ -t を指定した場合、基点となるエントリーの直下にあるエントリー相対名（RDN）を指定して、任意のエントリーを削除できます。
- ・ -t を指定しなかった場合、基点となるエントリーの直下にあるすべてのエントリーが削除されます。
- ・ -u を指定しなかった場合、コマンドを実行するユーザー名の入力を求めるメッセージが、コマンドを実行したコマンドプロンプトに表示され、その後にパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。
- ・ -p を指定しなかった場合、パスワードの入力を求めるメッセージが、コマンドを実行したコマンドプロンプトに表示されます。
- ・ -usage または -help を指定した場合、または使用法に誤りがあった場合は、使用法が標準エラーに出力されます。

### ■ エラー

次の場合はエラーになります。

- ・ほかのエントリーから参照されているエントリーを削除しようとした
- ・コマンドを実行するユーザーのログインに失敗した

### ■ 入力例

ユーザー名「rmsadmin」、パスワード「rmsadmin001」でログインし、「ou=users,dc=FUJIFILM」の下の「uid=suzuki」と「uid=sato」のエントリーを削除する例は、次のとおりです。

```
rmsdelete.bat -b "ou=users,dc=FUJIFILM" -t "uid=suzuki" "uid=sato" -u rmsadmin -p rmsadmin00
```

## 2.6.8 システムプロパティの設定内容をファイルに出力する (rmsgetproperty.bat)

---

システムプロパティの設定内容をファイルに出力します。

### ■ 形式

```
rmsgetproperty.bat {output_file_name} -p {password}
```

- 補足**
- ・ rmsgetproperty.bat -usage を入力して、<Enter> キーを押すとコマンドに必要なパラメーターが表示されます。
  - ・ rmsgetproperty.bat -help を入力して、<Enter> キーを押すと、コマンドのパラメーターについての説明が表示されます。

### ■ パラメーター

{output\_file\_name}

出力先のプロパティファイルの名前です。必ず指定します。

-p {password}

オプションのパラメーターです。

RMSのデータベースへの読み書きできるアクセスユーザーのパスワードです。

### ■ 入力例

プロパティの設定内容をrms.propsに出力する例は、次のとおりです。

```
rmsgetproperty.bat rms.props -p rms
```



## 2.6.9 システムプロパティを設定する (rmssetProperty.bat)

指定したファイルの内容を、システムプロパティとして設定します。

**注記** rmssetProperty.bat を有効にするには、すべてのサービスを再起動して、設定を反映させます。

**参照** サービスを再起動する手順については、[\[2.4.2 設定を反映する\] \(P.52\)](#) を参照してください。

### 形式

```
rmssetProperty.bat [-o] {property_file_name} -p {password}
```

- 補足**
- ・ rmssetProperty.bat -usage を入力して、<Enter> キーを押すとコマンドに必要なパラメーターが表示されます。
  - ・ rmssetProperty.bat -help を入力して、<Enter> キーを押すと、コマンドのパラメーターについての説明が表示されます。

### パラメーター

{property\_file\_name}

設定内容を記載したプロパティファイルの名前です。必ず指定します。

-p {password}

オプションのパラメーターです。

RMSのデータベースへの読み書きできるアクセスユーザーのパスワードです。

### 入力例

rms.propsの内容をRMSプロパティに設定する例は、次のとおりです。

```
rmssetProperty.bat rms.props -p rms
```

## 2.6.10 LDAP サーバーと同期する (rmssync.bat)

LDAPサーバーにあるユーザー情報およびグループ情報をArcSuiteと同期します。

### ■ 形式

```
rmssync.bat -d -e -i -x -u {user_name} -p {password} {file_name}
```

### ■ パラメーター

**-d**

オプションのパラメーターです。

指定すると、実行した処理内容が画面に表示されます。

**-e**

オプションのパラメーターです。

指定すると、file\_nameで指定されたファイルに同期対象データのエクスポートだけをします。

**-i**

オプションのパラメーターです。

指定すると、file\_nameで指定されたファイルの同期先へのインポートだけをします。

**-x**

オプションのパラメーターです。

[, (コンマ)] と [" (ダブルクォーテーション)] を含まない項目をダブルクォーテーションで囲まずに出力します。

**-u {user\_name}**

オプションのパラメーターです。

同期先のRMS管理ユーザーのユーザー名です。省略すると、実行中にユーザー名の入力が必要です。また、-pオプションを指定した場合でも無視され、再度パスワードの入力も求められます。

**-p {password}**

オプションのパラメーターです。

同期先のRMS管理ユーザーのパスワードです。省略すると、実行中に入力を求められます。

**{file\_name}**

同期元からのエクスポートまたは同期先へのインポートに使用されるファイル名です。必ず指定します。

エクスポートするとき、ファイル名には自動的に認証用構成情報の構成名とエン트리タイプが付加されません。インポートするとき、構成名とエン트리タイプを除いたファイル名を指定する必要があります。

rmssync.csv

```
→ rmssync_user_default.csv
   rmssync_group_default.csv
   rmssync_member_default.csv
```

ファイルはCSV形式であり、1行めに同期対象の属性名、2行め以降に同期させる属性の値を記述します。

### ◆ ユーザー、グループの形式

1列めは、同期コマンド内部で使用する特殊なカラムで、同期先コンテナのDNを設定します。カラム名は、「rms.todomain」で固定です。「rms.todomain」列の値は省略できます。省略すると、同期処理されません。この列の値が省略されるのは、フィルターを指定して同期対象のエントリーを絞り込んだ結果、同期対象にならなかった場合です。なお、削除対象のエントリーは、CSV出力されません。

削除するときにエントリーを削除するか、無効化するかは、設定ファイル「rms\_sync.csv」の「deleteEntry」および「undelete」の設定によって異なります。

**補足** 同期コマンドは、インポートするときに同期設定を持つ（外部ユーザー名グループ名、認証構成名を持つ）システム上のエントリーがエクスポートファイル中に存在するか検索します。検索の結果、エントリーが見つからなかった場合に削除対象のエントリーとします。そのため、削除対象のエントリーは、データ出力されません。

多値属性が同期対象になっている場合、1エントリの情報を連続した複数行に設定します。単値属性については先頭行に設定し、2行め以降には空文字を設定します。

ただし、rms.todomain、外部ユーザー属性（「rmsExtUser」）、または外部グループ属性（「rmsExtGroup」）には、すべての行に同じ値を設定します。

CSVファイルをインポートするときは、上記1列に加えて同期先の名前属性（ユーザーの場合は「uid」、グループの場合は「cn」）および外部ユーザー属性（「rmsExtUser」）または外部グループ属性（「rmsExtGroup」）を指定する必要があります。

次にMicrosoft Excelを使用したCSVファイルの例は、次のとおりです。

表 :CSV ファイルの作成例

rms.todomain	uid	cn	rmsCardID	rmsExtUser	rmsUniqueID
ou=users,dc=FUJIFILM	suzuki	Taro Suzuki	1111	TSuzuki	suzuki
ou=users,dc=FUJIFILM			1112	TSuzuki	
ou=users,dc=FUJIFILM			1113	TSuzuki	
	sato	Jiro Sato	2222	JSato	sato
ou=users,dc=FUJIFILM	tanaka	Saburo Tanaka	3333	STanaka	tanaka

### ◆ グループメンバーの形式

3列固定で、1列めはメンバーに設定するグループの外部グループ属性、2列めは同期コマンド内部で使用する特殊なカラムで、メンバーのエントリータイプ、3列めはメンバー自身の外部ユーザー属性、または外部グループ属性を指定します。2列め、3列めのカラム名は、それぞれrms.entrytype、rms.extmemberで固定です。

2列めに指定できる値は、userまたはgroupのどちらかであり、それ以外が指定された場合は何もされません。

3列めに指定する値は2列めの値によって異なり、2列めがuserの場合は外部ユーザー属性、groupの場合は外部グループ属性になります。

表 :CSV ファイルの例

rmsExtGroup	rms.entrytype	rms.extmember
groupA	user	suzuki
groupA	user	sato
groupB	group	groupA

## ■ 説明

各種ファイルの設定内容に従って、同期処理します。

## ■ エラー

次の場合はエラーになります。

- ・同期元のサーバーに設定されている「検索結果の上限値」に、同期元に登録されているすべてのユーザー数を越えた値が設定されていない

## ■ 入力例

ユーザー名「rmsadmin」、パスワード「rmsadmin001」でログインし、rmssync.csvに記載された内容で同期処理を実行し、処理内容を画面する例は、次のとおりです。

```
rmssync.bat -d -u rmsadmin -p rmsadmin001 rmssync.csv
```

## ■ LDAP 同期コマンド

同期コマンドは、事前に設定した設定情報を元に、同期元の指定されたコンテナ配下のエントリー群の情報と、同期先の指定されたコンテナ配下のエントリー群の情報との同期をとるための機能があります。ここで、同期できるエントリータイプは、「ユーザー」および「グループ」です。それぞれのタイプについて、同期対象となるエントリーをフィルタリングできます。

処理対象となるのは、あらかじめ指定された属性群です。同期元の何という属性を、同期先の何という属性に同期させるかというように設定できます。

同期元と同期先で、エントリーの有無に相違がある場合は、次のように振舞います。

表：同期元のエントリーと同期先のエントリーの有無による動作の違い

同期元のエントリー	同期先のエントリー	動作
存在する	存在する	設定された属性の対応関係に従って、同期元のエントリーの属性値で同期先のエントリーの属性値を上書きします。
存在する	存在しない	同期元のエントリーを同期先にコピーします。ただし、このときコピーする属性は、対応関係が設定されているものだけです。このとき、新しく登録するユーザーにはベーシックライセンスが割り当てられます。新しく登録するユーザー数がベーシックライセンスの数を超えた場合は、ライセンス数を超えた分のユーザーは登録されません。また、ドキュメントスペース、コラボスペース、およびワークフローのライセンスを付与する設定の場合には、新しく登録するユーザーに対してさらにコンポーネントのライセンスを割り当てます。
存在しない	存在する	同期先のエントリーに対して、「無効化する」、「削除する」、または「何もしない」のどれかの処理をします。

このように、最初の同期で同期先にエントリーが生成され、2回目以降はある決まった属性値がコピーされます。したがって、2回目以降の同期処理のために、同期元と同期先のエントリーについて何らかの対応付けが必要です。

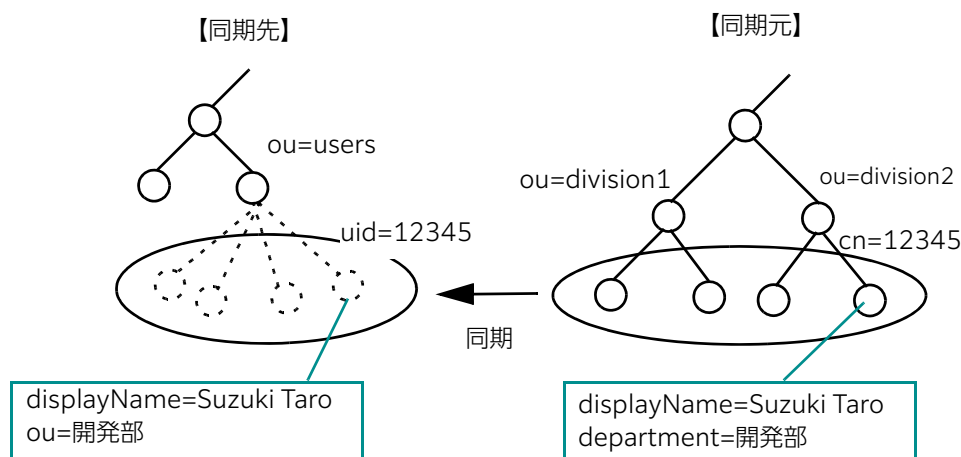
コマンドでは、この対応付けのために同期元のエントリーを一意に特定できる属性の値を使用します。

この対応付けのための属性には、次のRMSプロパティの中で、ユーザーエントリーはcom.fujifilm.fb.rms.auth.ldap.rmsExtUserMap(.ConfigName)、グループエントリーはcom.fujifilm.fb.rms.auth.ldap.rmsExtGroupMap(.ConfigName)プロパティに設定されている属性が割り当てられます。

コマンドは、最初の同期処理で同期先にエントリーを生成するときに、ユーザーエントリーは「外部ユーザー名 (rmsExtUser)」属性、グループエントリーは「外部グループ名 (rmsExtGroup)」属性に値が設定されます。

また、それぞれの外部認証構成名 (rmsExtAuthConfig) という属性に認証用構成情報の構成名を設定します。この対応関係に基づいて、2回目以降の同期処理のときには、同期元のすべての同期対象のエントリーについて、同期先の対応するエントリーを検索し、必要な属性の同期をします。これらの属性に値が設定されていないエントリーについては、同期処理の対象外とし、コマンドでは何もしません。

コマンドの基本的な振る舞いは、次のとおりです。



図：同期コマンドの振る舞い

上図の場合、同期のための設定は、次のとおりです。

- ・ 同期元の ou=division1 および ou=division2 の各コンテナを、同期先の ou=users というコンテナに対応付ける
- ・ 同期元の displayName、department という属性を、それぞれ同期先の displayName、ou という属性に対応付ける

名前属性は、エントリータイプごとに自動的に決定します。上記の例では、同期元の cn=12345 が、同期先では uid=12345 になっています。ただし、同期先の名前属性の値として、同期元のどの属性の値を採用するかは設定できます。

#### ◆ 前提条件

コマンドの利用にあたっては、連携対象のLDAPサーバーがLDAP v3に準拠していることが前提条件です。ただし、LDAPサーバーの種類やバージョンによって違いがあるため、LDAP v3準拠といえども必ずしも動作するとは限りません。

次のLDAPサーバーで動作します。

- ・ Novell® eDirectory™ 8.8
- ・ Windows Server 2016 Active Directory
- ・ Windows Server 2019 Active Directory

これ以降、連携するLDAPサーバーのことを「同期元」、RMSのデータベースのことを「同期先」と表記します。

#### ◆ 設定

コマンドでの同期のさせ方を指定するために、各種設定ファイルの作成およびRMSプロパティを設定する必要があります。設定ファイルは、次のとおりです。

- ・ 同期コマンド設定ファイル (rms\_sync.csv)  
同期処理の基本的な設定を記述します。

- ・同期ドメイン情報ファイル (syncdomains.csv)  
同期元と同期先のドメインの対応関係を記述します。
- ・同期属性情報ファイル (syncattars.csv)  
同期対象となる属性の対応関係を記述します。
- ・同期コマンド設定ファイル (rms\_sync.csv)  
コマンドの基本情報を設定するファイルです。  
ファイルの形式は、3列固定のCSV形式であり、1列めに同期元の構成名、2列めにパラメーター名、3列めにパラメーター値を記述します。  
1行めは、serviceName,paramName,paramValue で固定とし、2行め以降に設定情報を記述します。  
なお、最後の行には改行コードを含める必要があります。

次のパラメーターが指定できます。

表 :同期コマンド設定ファイルのパラメーター

パラメーター名	説明	省略可 (デフォルトの値)
deleteEntry	同期元で削除されたエントリーを同期先で削除するか、無効エントリーとするかの設定。削除する場合true、無効エントリーとする場合falseを指定します。	○ (false)
undelete	trueが指定された場合、同期元で削除されたエントリーをdeleteEntryの設定値にかかわらず、同期先で削除も無効化もしません。	○ (false)
subtree	trueが指定された場合、同期対象として指定されたドメイン配下のすべてのドメインを同期対象とします。	○ (false)
namingAttrUser	同期先にユーザーエントリーを登録するときに、同期先の名前属性 (uid) の値として使用する、同期元の属性名。このプロパティを省略した場合は、同期元のエントリーの名前属性に設定されている値が使用されます。 <b>注記</b> 同期元のユーザーエントリーの名前属性の値として日本語が使用されている場合は、このプロパティで日本語を使用していない属性を割り当てる必要があります。	○ (同期元のユーザーエントリーの名前属性)
namingAttrGroup	同期先にグループエントリーを登録するときに、同期先の名前属性 (cn) の値として使用する、同期元の属性名。このプロパティを省略した場合は、同期元のエントリーの名前属性に設定されている値が使用されます。 注意：同期元のユーザーエントリーの名前属性の値として日本語が使用されている場合は、このプロパティで日本語を使用していない属性を割り当てる必要があります。	○ (同期元のグループエントリーの名前属性)
uniqueMemberAttribute	同期元のグループエントリーのメンバーを表現する属性の属性名	○ (uniqueMember)
licenseComponent	同期するときに新しく登録するユーザーに付与するコンポーネント (ドキュメントスペース、コラボスペース、またはワークフロー) のライセンスを指定するためのパラメーターです。 ただし、ライセンスの付与は、新しく登録するユーザーもできます。また、ライセンス数以上のユーザーにライセンスを割り当てることはできません。	○ (省略時はライセンスを付与しない)

表 :同期コマンド設定ファイルのパラメーター

パラメーター名	説明	省略可 (デフォルトの値)
pageSize	Active Directoryと連携するときだけ有効な設定。同期元のコンテナにActive DirectoryのMaxPageSize値以上のエントリーが存在する場合に指定します。同期するときには、pageSizeで指定された値ずつのエントリー数の情報をLDAP (Active Directory) から取得し、ArcSuiteに取り込みます。	○ (省略時は同期対象のエントリー数)
uniqueMemberMaxRetrieved	Active Directoryと連携するときだけ有効な設定。1回の問い合わせで取得できるグループのメンバーの最大数です。固定値で1500を設定します。同期対象のグループに最大数以上のメンバーが設定されている場合に指定します。	○ (省略時はすべてのメンバーを一度に取得しようとしませんが、最大数を超えるメンバーが設定されたグループは同期できません)

rms\_sync.csv の作成例は、次のとおりです。

```
serviceName,paramName,paramValue
default,deleteEntry,false
default,subtree,true
default,uniqueMemberAttribute,member
default,licenseComponent,"cn=documentspace@example,ou=components,dc=SYSTEM"
```

serviceName 列に設定されている default は、「デフォルトの認証用構成情報」を意味します。デフォルトの認証用構成情報とは、一般ユーザーが認証用に主に使用するサーバーに関する情報です。

#### ・同期ドメイン情報ファイル (syncdomains.csv)

同期ドメイン情報ファイルは、同期させるドメインの対応関係を設定するためのファイルです。具体的には、ou エントリーなどのコンテナの DN によって、同期元と同期先のエントリーの場所を指定します。

ファイルの形式は、4 列または 5 列の CSV 形式です。1 列めに認証用構成情報の構成名、2 列めにエントリータイプ、3 列めに同期元のドメイン情報、4 列めに同期先のドメイン情報、5 列めは任意で同期元のフィルター (LDAP の検索フィルター) を記述します。

同期元と同期先の対応関係は複数設定できます。対応させたいコンテナの組ごとに 1 行のデータとして記述します。

1 行めは、serviceName,entryType,from,to,(filter) で固定とし、2 行め以降に対応関係を DN 形式で記述します。DN には「, (コンマ)」が含まれるため、DN 文字列は必ず「" (ダブルクォーテーション)」で囲みます。なお、最後の行には改行コードを含める必要があります。

同期ドメイン情報ファイルの作成例は、次のとおりです。

```
serviceName,entryType,from,to,filter
default,user,"ou=users,dc=division1,dc=FUJIFILM,dc=net","ou=users,dc=FUJIFILM", (uid=*)
default,user,"ou=users,dc=division2,dc=FUJIFILM,dc=net","ou=users,dc=FUJIFILM",
default,group,"ou=groups,dc=division1,dc=FUJIFILM,dc=net","ou=groups,dc=FUJIFILM", (cn=*)
default,group,"ou=groups,dc=division2,dc=FUJIFILM,dc=net","ou=groups,dc=FUJIFILM",
```

上記の例では、同期元の ou=users,dc=division1,dc=FUJIFILM,dc=net という部署エントリー配下のエントリーのうち uid 属性に値が設定されているエントリーと、

ou=users,dc=division2,dc=FUJIFILM,dc=net という部署エン트리配下にあるすべてのエン트리が、同期先の ou=users,dc=FUJIFILM という部署エン트리直下のエン트리として同期されます。

また、同期元の ou=groups,dc=division1,dc=FUJIFILM,dc=net という部署エン트리配下のエントリのうち cn 属性に値が設定されているエントリと、ou=groups,dc=division2,dc=FUJIFILM,dc=net という部署エン트리配下にあるすべてのエントリが、同期先の ou=groups,dc=FUJIFILM という部署エン트리直下のエントリとして同期されることになります。

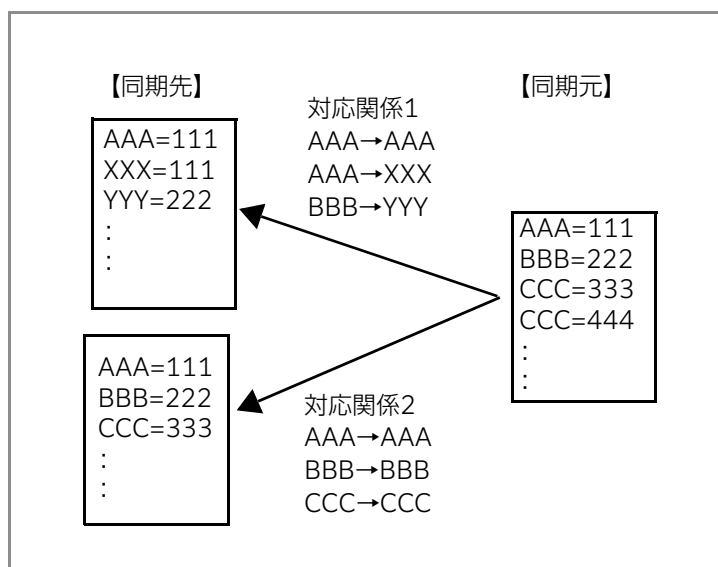
・同期属性情報ファイル (synattrs.csv)

同期属性情報ファイルは、同期対象となる属性の対応関係を設定するためのファイルです。このファイルに対応関係が記述された属性だけが同期対象になります。

ファイルの形式は、4 列固定の CSV 形式です。1 列めに認証用構成情報の構成名、2 列めにエントリタイプ、3 列めに同期元の属性情報、4 列めに同期先の属性情報を記述します。

同期元と同期先の対応関係は、対応させたい属性ごとに 1 行のデータとして記述します。同期元のある 1 つの属性を、同期先の複数の異なる属性に対応付けることができます。ただし、同期元の複数の異なる属性を、同期先の 1 つの属性に対応付けできません。

なお、同期先の多値属性については、同期対象にできません。また、同期元の多値属性は同期対象とできますが、最初の取得された値だけが同期対象になります。



図：同期属性情報関係図

「対応関係 1」では、同期元の AAA という属性を、同期先の AAA と XXX という 2 つの属性に対応付けているため、同期後には AAA と XXX の値は共に 111 になります。

また、「対応関係 2」では、同期元の CCC という属性を、同期先の CCC という属性に対応付けていますが、同期元の CCC は多値属性であるため、最初の取得された 333 が同期先の CCC の値になります。

1 行めは、serviceName,entryType,from,to で固定とし、2 行め以降に属性の対応関係を記述します。言語コードを指定する場合は、lang-ja、lang-en などの言語コードを表現する文字列を、「; (セミコロン)」で区切って属性名に連結します。なお、最後の行には改行コードを含める必要があります。



同期属性情報ファイルの作成例は、次のとおりです。

```
serviceName,entryType,from,to
default,user,cn,cn
default,user,displayName,displayName;lang-ja
default,user,department,ou
```

この例では、同期元の cn、displayName、department をそれぞれ同期先の cn、displayName;lang-ja、ou に対応付けています。

次に、例外的な処理について記載します。同期属性情報ファイルの作成にあたっては十分注意してください。

- ・ 同期属性情報ファイルで設定できない属性  
同期元でエントリー ID に割当てられている属性の値は、自動的にユーザーエントリーの属性 rmsExtUser およびグループエントリーの属性 rmsExtGroup に設定されます。エントリー ID に割当てられている属性は対応付けしないでください。  
また、同期先の名前属性（ユーザーは uid、グループは cn）は、同期属性情報ファイルの設定に関わらず同期の対象になります。名前属性の同期元の属性は、設定ファイル rms\_sync.csv のパラメーター namingAttrUser、および namingAttrGroup で設定します。また、rmsAdministrators、rmsUserRoleIDs、uniqueMember についても対応付けしないでください。
- ・ グループのメンバー属性に関する処理  
グループのメンバー属性は、同期属性情報ファイルでの設定に関わらず同期の対象になります。同期元のグループのメンバー属性は、設定ファイル rms\_sync.csv のパラメーター uniqueMemberAttribute で設定します。

#### ◆ RMS プロパティ

同期コマンドで使用するののは、認証用構成情報を設定するためのプロパティです。各RMSプロパティの末尾に構成名（「.ConfigName」の部分）を付加したものを使用します。

次のキーを同期コマンドで使用します。

- ・ com.fujifilm.fb.rms.auth.ldap.serverURI(.ConfigName)
- ・ com.fujifilm.fb.rms.auth.ldap.principal(.ConfigName)
- ・ com.fujifilm.fb.rms.auth.ldap.credentials(.ConfigName)
- ・ com.fujifilm.fb.rms.auth.ldap.rmsExtUserMap(.ConfigName)
- ・ com.fujifilm.fb.rms.auth.ldap.rmsExtGroupMap(.ConfigName)
- ・ com.fujifilm.fb.rms.auth.ldap.userObjectClass(.ConfigName)
- ・ com.fujifilm.fb.rms.auth.ldap.groupObjectClass(.ConfigName)



# 3 ライセンスの管理

ArcSuiteのライセンスを付与する機能について説明しています。

## 3.1 ライセンスの付与

ドキュメントスペース、コラボスペース、またはワークフローを使用するユーザーには、ライセンスを付与します。

- ・ [ライセンスを付与する](#)
- ・ [クライアントアクセスライセンスを追加する](#)
- ・ [クライアントアクセスライセンスを削除する](#)

### 3.1.1 ライセンスを付与する

リソース管理アプリケーションで、ドキュメントスペース、コラボスペース、またはワークフローを使用するユーザーを検索して、ライセンスを付与します。

1. Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。  
URL は、[http:// {ArcSuite サーバー名} /ArcSuite/portal/] です。  
[ログイン] 画面が表示されます。
2. ログインするユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。  
[ポータル] 画面が表示されます。
3. [システム管理] リンクをクリックします。  
[システム管理] 画面が表示されます。
4. [このシステム] に表示されている RMS のリンクをクリックします。  
[管理ログイン] 画面が表示されます。
5. リソース管理アプリケーションの管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
6. [ログイン] をクリックします。  
[リソース管理アプリケーション] 画面が表示されます。
7. [ライセンス編集] メニューをクリックします。  
[ライセンス編集] 画面が表示されます。
8. ドキュメントスペース、コラボスペース、またはワークフローのリンクをクリックします。  
[ライセンス編集用ユーザー検索] 画面が表示されます。
9. 検索する条件を選択します。指定しないこともできます。
10. [ライセンス非保持者のみ] を選択して、[検索] をクリックします。  
[ライセンス編集用検索結果] 画面が表示されます。
11. ライセンスを付与するユーザーにチェックマークを付け、[ライセンス付与] をクリックします。[すべて選択] アイコンをクリックすると、表示されているページのユーザーにライセンスを付与します。
12. 確認画面が表示されます。
13. [付与] をクリックします。  
[ライセンス付与結果] 画面が表示されます。
14. [OK] をクリックします。
15. [戻る] をクリックします。  
[ライセンス編集用ユーザー検索] 画面が表示されます。

16. [戻る] をクリックします。

[ライセンス編集] 画面が表示されます。

17. 手順 8 ~ 16 を繰り返して、コラボスペースまたはワークフローも同様に、ユーザーにライセンスを付与します。

## 3.1.2 クライアントアクセスライセンスを追加する

運用を開始したあとで、ドキュメントスペース、コラボスペース、またはワークフローを使用するユーザーが増えたときに、クライアントアクセスライセンスを追加します。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーで、Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [ライセンスアクティベーター] を選択します。

ライセンスアクティベーターが表示されます。

**補足** ArcSuite のサーバーが 2 台以上の構成の場合、構成によって、次のサーバーで操作します。

- ・ 2 台構成またはクラスター構成の場合  
コンポーネントサーバーで操作します。
- ・ 負荷分散構成の場合  
コンポーネントサーバーのどれかでライセンスアクティベーターを起動して、[登録済みのライセンス] の一覧に、クライアントアクセスライセンスが表示されるかどうかを確認します。

例：

ArcSuite ドキュメントスペース 5000 クライアントアクセスライセンス

表示された場合は、そのコンポーネントサーバーで手順 2 に進みます。表示されない場合は、ほかのコンポーネントサーバーで手順 1 から操作します。

**参照** 構成については、『セットアップガイド』を参照してください。

2. [ライセンス登録] をクリックします。

シリアル番号を入力する画面が表示されます。

3. [シリアル番号 (テキスト入力)] を選択し、シリアル番号を入力して [追加] をクリックして、[次へ] をクリックします。

ライセンス認証の方法を選択する画面が表示されます。

4. [インターネットを使ってライセンス認証を行う (推奨)] を選択し、[次へ] をクリックします。

[富士フイルム BI ダイレクト] のアカウント情報を入力する画面が表示されます。

5. 富士フイルム BI ダイレクトで登録した [メールアドレス] と [パスワード] を入力し、[次へ] をクリックします。

ライセンス認証が開始されます。処理が終了すると、完了画面が表示されます。

6. [完了] をクリックします。

7. [終了] をクリックします。

確認画面が表示されます。

8. [はい] をクリックします。

ライセンスアクティベーターが終了します。

9. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。

[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

**10.**次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
{ArcSuite をインストールしたフォルダー} %Service%bin%calset.bat
```

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

現在設定されているクライアントアクセスライセンスの情報と設定するクライアントアクセスライセンスの情報が表示されます。

```
[ 現在設定されている CAL ]
ベーシック CAL: 無制限
ドキュメントスペース CAL: 1000
コラボスペース CAL: 1003
ワークフローCAL: 1000

[ 設定後の CAL ]
ベーシック CAL: 無制限
ドキュメントスペース CAL: 1500
コラボスペース CAL: 1003
ワークフローCAL: 1000

設定を行いますか?(y/n)
```

**11.**[y] を入力して、<Enter> キーを押します。

クライアントアクセスライセンスが反映され、「設定が完了しました。」のメッセージが表示されます。

**12.**ArcSuite にユーザーを登録します。

**参照** 『リソース管理アプリケーションのヘルプ』または [\[2.6 リソース管理サービス管理コマンド\] \(P.58\)](#)

**13.**登録されたユーザーに、ライセンスを付与します。

**参照** [\[3.1.1 ライセンスを付与する\] \(P.83\)](#)

### 3.1.3 クライアントアクセスライセンスを削除する

運用を開始したあとで、ドキュメントスペース、コラボスペース、またはワークフローを使用するユーザーが減ったときに、クライアントアクセスライセンスを削除します。

- 1.** Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。  
URL は、「http:// {ArcSuite サーバー名} /ArcSuite/portal/」です。  
[ログイン] 画面が表示されます。
- 2.** ログインするユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。  
[ポータル] 画面が表示されます。
- 3.** [システム管理] リンクをクリックします。  
[システム管理] 画面が表示されます。
- 4.** [このシステム] に表示されている RMS のリンクをクリックします。  
[管理ログイン] 画面が表示されます。
- 5.** リソース管理アプリケーションの管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
- 6.** [ログイン] をクリックします。  
[リソース管理アプリケーション] 画面が表示されます。

7. [ライセンス編集] メニューをクリックします。  
[ライセンス編集] 画面が表示されます。
8. コンポーネントのリンクをクリックします。  
[ライセンス編集用ユーザー検索] 画面が表示されます。
9. 割り当て済みのライセンスの数を確認します。  
例：

このコンポーネントは 5,000 ライセンス中 18 割り当て済みです。

10. 次の操作をします。

◆ 割り当て済みのライセンスが、ライセンスの数よりも少ない場合

(1) 手順 [11](#) に進みます。

◆ 割り当て済みのライセンスが、ライセンスの数よりも多い場合

(1) ライセンスの数よりも少なくなるように、ライセンスを使用しないユーザーからライセンスを解除します。

11. ArcSuite がインストールされているサーバーで、Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [ライセンスアクティベーター] を選択します。  
ライセンスアクティベーターが表示されます。

**補足** ArcSuite のサーバーが 2 台以上の構成の場合、構成によって、次のサーバーで操作します。

- ・ 2 台構成またはクラスター構成の場合  
コンポーネントサーバーで操作します。
- ・ 負荷分散構成の場合  
コンポーネントサーバーのどれかでライセンスアクティベーターを起動して、[登録済みのライセンス] の一覧に、クライアントアクセスライセンスが表示されるかどうかを確認します。

例：

ArcSuite ドキュメントスペース 5000 クライアントアクセスライセンス

製品名を表示するところにクライアントアクセスライセンスが表示された場合は、そのコンポーネントサーバーで手順 [12](#) に進みます。表示されない場合は、ほかのコンポーネントサーバーで手順 [11](#) から操作します。

**参照** 構成については、『セットアップガイド』を参照してください。

12. [ライセンス削除] をクリックします。  
製品を選択する画面が表示されます。
13. ライセンスを削除する製品にチェックマークを付けて、[次へ] をクリックします。  
ライセンス認証の解除方法を選択する画面が表示されます。
14. [インターネットを使ってライセンス認証の解除を行う (推奨)] を選択し、[次へ] をクリックします。  
ライセンス認証の解除とシリアル番号の削除が開始されます。処理が終了すると、完了画面が表示されます。
15. [完了] をクリックします。
16. [終了] をクリックします。  
確認画面が表示されます。
17. [はい] をクリックします。  
ライセンスアクティベーターが終了します。
18. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。  
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

**19.**次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
{ArcSuite をインストールしたフォルダー} %Service%bin%calset.bat
```

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

現在設定されているクライアントアクセスライセンスの情報と設定するクライアントアクセスライセンスの情報が表示されます。

**20.**「y」を入力して、<Enter> キーを押します。

クライアントアクセスライセンスが反映され、「設定が完了しました。」のメッセージが表示されます。

# 4 属性の管理

属性の管理に必要な設定について説明しています。



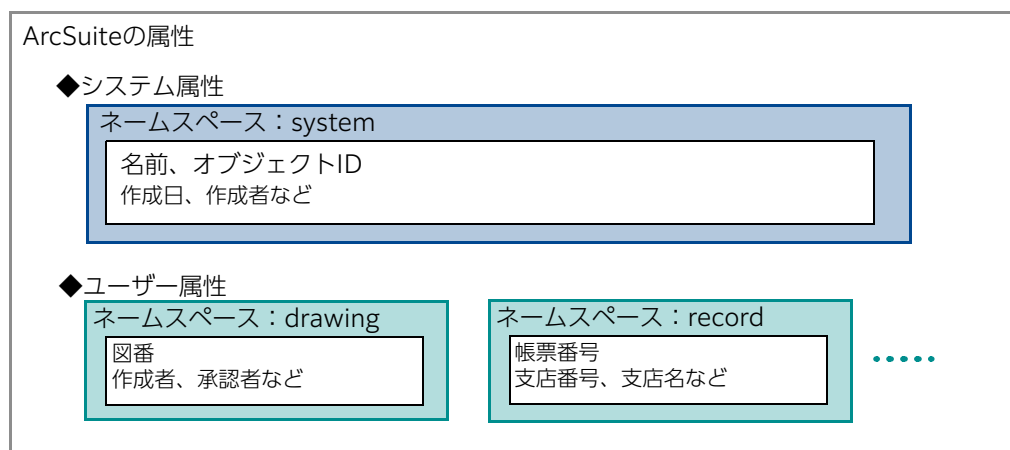
## 4.1 ユーザー属性の設定

ユーザー属性を管理する設定について説明します。

### 4.1.1 ユーザー属性とは

ユーザー属性とは、システムで既定されている属性とは別に、運用に応じて用意する属性です。検索したり、版管理したりする属性を決めておきます。

ユーザー属性は、属性が一意になるために定義する空間（ネームスペース）に作成します。

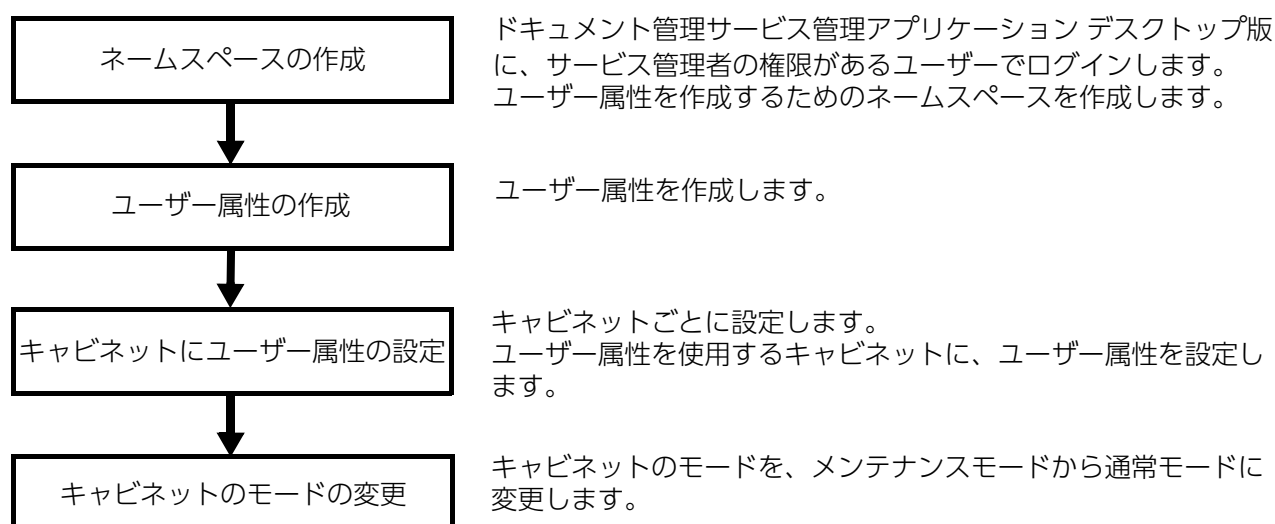


図：システム属性とユーザー属性

### 4.1.2 ユーザー属性を設定する流れ

ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版でユーザー属性を設定する流れは、次のとおりです。

**参照** 『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』



## 4.2 版管理するための設定

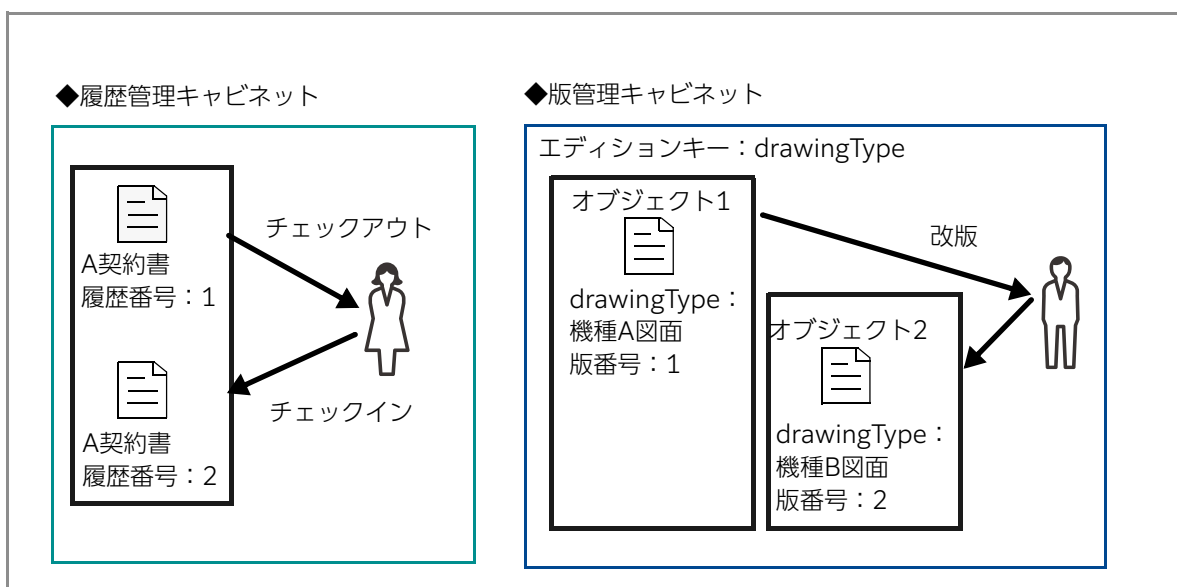
版管理するために必要な設定について説明します。

### 4.2.1 履歴管理と版管理とは

履歴は、ドキュメントの変更履歴を保存する機能です。チェックアウトとチェックインによって変更中のドキュメントをほかのユーザーが更新できないようにします。版は、特定の属性の値が異なるオブジェクトを別のオブジェクトとして管理する機能です。フォルダー、ドキュメント、またはリファレンスが版管理できます。

通常、キャビネットは履歴を使用できます。版管理されたキャビネットを作成した場合だけ、版が利用できます。また、版管理されたキャビネットでも履歴は使用できます。

ただし、版管理についての設定は、キャビネットを作成したあとは変更できません。



図：履歴管理キャビネットと版管理キャビネット

**補足** ドキュメント管理サービスでは、「版」を「エディション」、「履歴」を「リビジョン」と呼ぶこともあります。

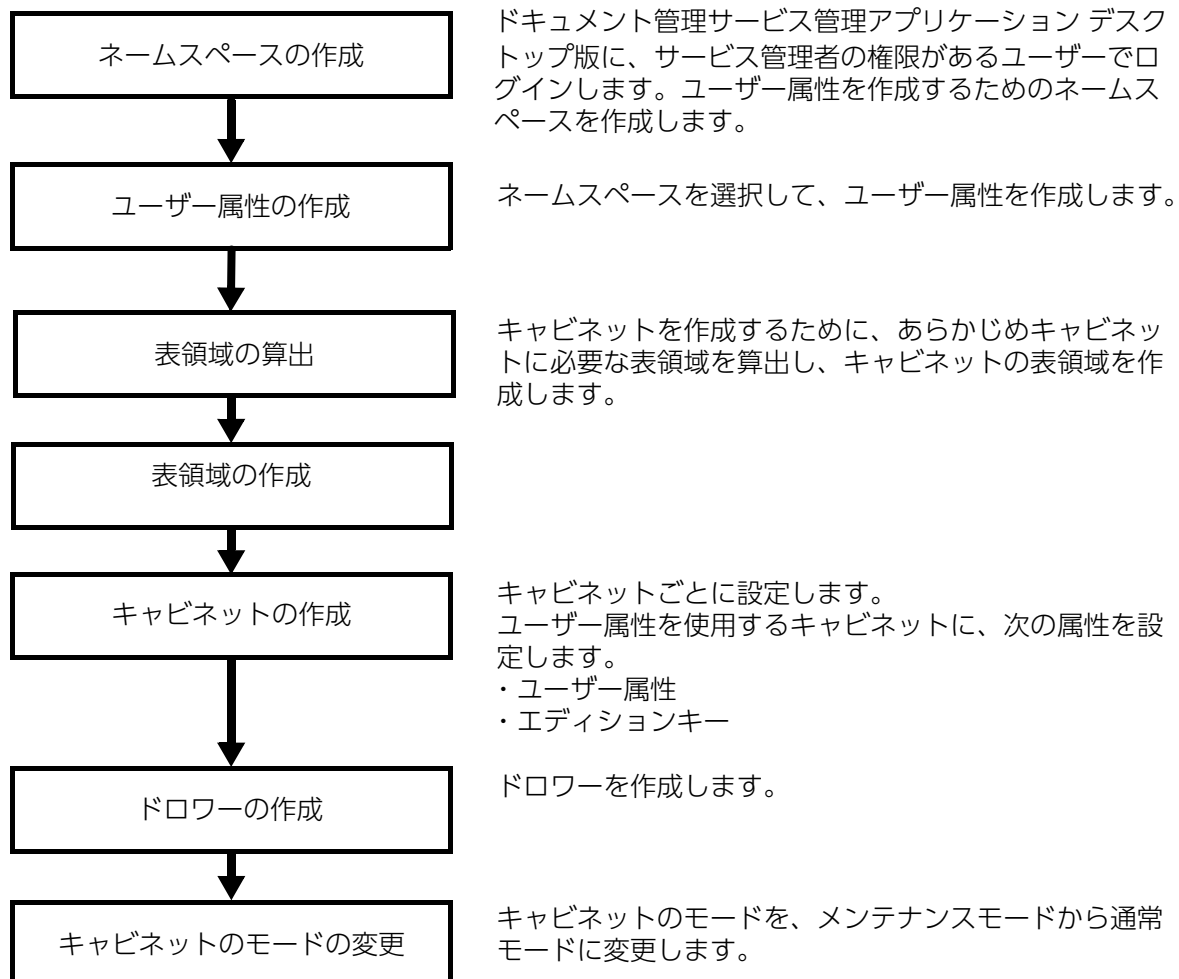
### 4.2.2 エディションキーとは

エディションキーとは、版管理するためのユーザー属性です。2つ以上のユーザー属性を組み合わせることで指定できます。

### 4.2.3 版管理の基本的な設定の流れ

版管理するための基本的な設定は、次のとおりです。ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版を使用します。

**注記** エディションキーは、キャビネットを作成するときだけに設定できます。あとから変更できません。事前に、エディションキーに使用するユーザー属性を設定し、キャビネットを作成するときに指定してください。



## 4.3 属性の値を一意に管理するための設定

---

属性の値を一意に決めるための属性について説明します。

### 4.3.1 ユニークキーとは

---

ユニークキーとは、属性の値が必ず一意になるように設定する属性です。

キャビネットに設定されているユーザー属性のなかから、インデックスキーとなるものを設定し、インデックスキーのなかからユニークキーを設定します。名前属性とユーザー属性を組み合わせることもできます。

ユニークキーに設定された属性は、すでに存在する値と同じ値は指定できません。

**参照** インデックスキーについては、[\[6.1.2 インデックスキーとは\] \(P.105\)](#) を参照してください。

# 5 表示に関連する設定の管理

ドキュメントスペース、ワークスペース、またはユーザープロファイルの表示メニューの設定について説明しています。

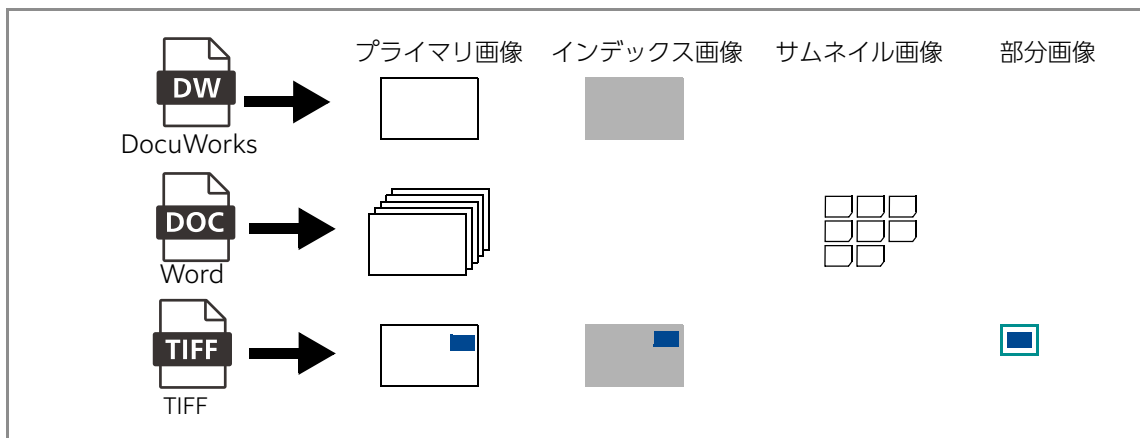
## 5.1 ドキュメントスペース

ドキュメントスペースの表示で、運用に応じた設定について説明します。

### 5.1.1 ファイルの変換方法を設定する

ArcSuiteに登録する文書は、文書の種類によって、登録する文書とは別に、表示または印刷するための画像を作成できます。

ドキュメントスペース管理アプリケーションでは、文書の種類によって、インデックス画像、部分画像、プリント画像、トップネイル画像、またはサムネイル画像を作成するかどうかを設定できます。

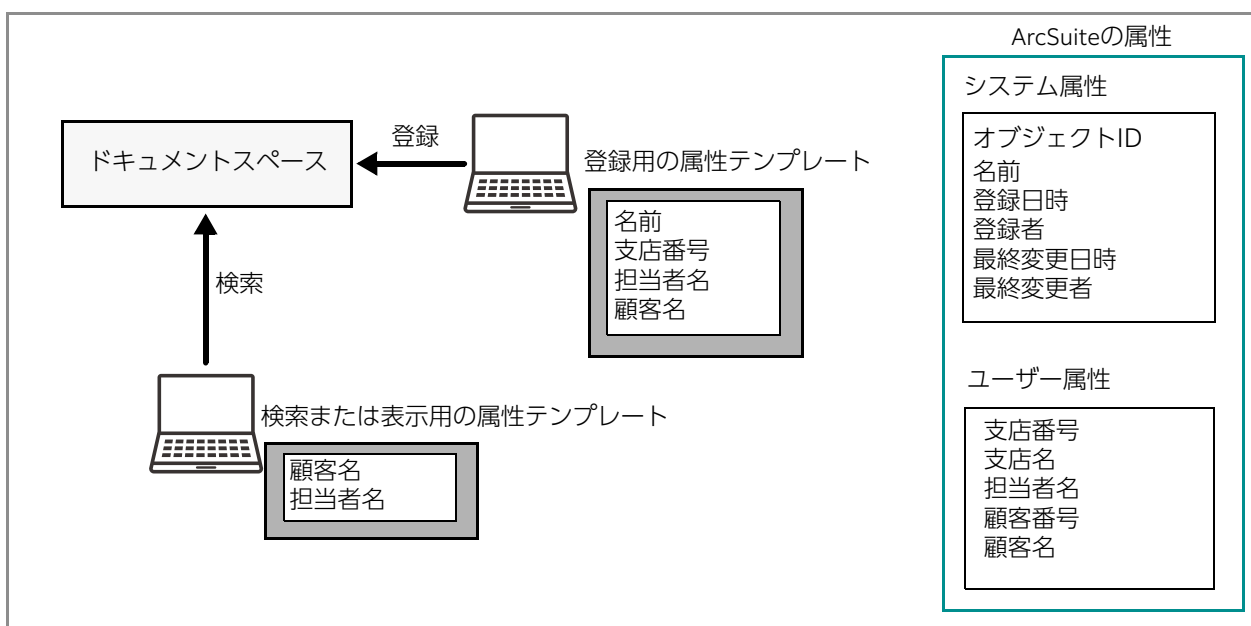


図：ファイルの変換方法

参照 『ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ』

### 5.1.2 ドキュメントスペースの表示方法を設定する

ドキュメントスペースに文書を登録したり、属性を変更したり、または検索したりするときに必要な属性だけを表示できます。ドキュメントスペース管理アプリケーションで、属性テンプレートとして、表示する属性を設定できます。属性テンプレートが設定されていない場合、すべてのユーザー属性が表示されます。また、ユーザー設定を作成すると、ユーザーごとに表示する属性テンプレートも指定できます。

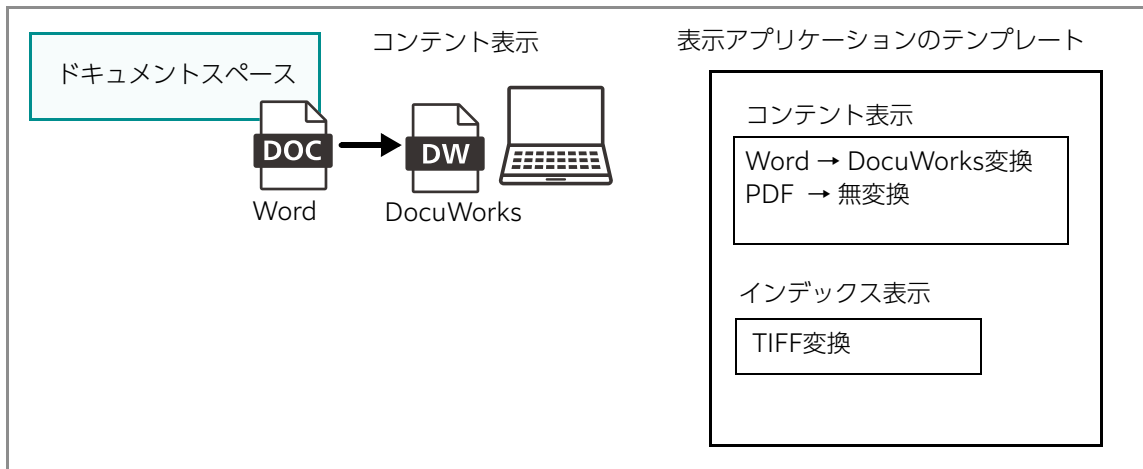


図：属性テンプレート

参照 『ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ』

### 5.1.3 画像の表示方法を設定する

ArcSuiteに登録する文書は、文書の種類によって、表示される画像の変換方法や表示方法を、表示する操作の種類ごとに設定できます。



図：表示のテンプレート

参照 『表示アプリケーション管理ツールのヘルプ』

### 5.1.4 ほかのシステムと連携するボタンを設定する

ドキュメントスペースのオブジェクトの情報をパラメーターにして、ほかのシステムに連携するボタンを設定できます。

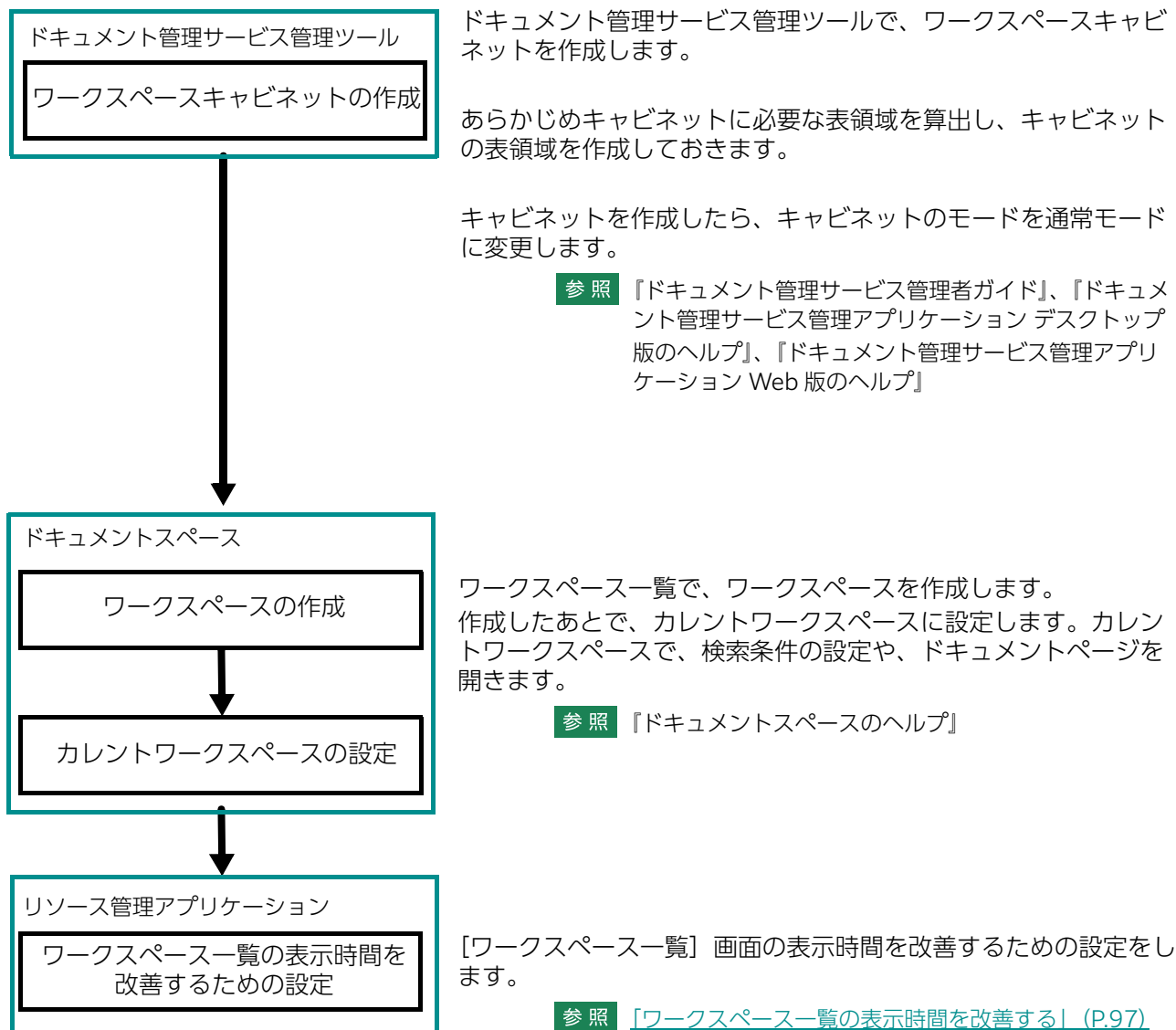
参照 [\[13.3.2 ユーザー定義操作\] \(P.154\)](#)

## 5.2 ワークスペース

ワークスペースは、ドキュメントスペースの文書を共有したり、ドキュメントスペースの検索条件を共有したりできます。

### 5.2.1 ワークスペースを使用するための流れ

ワークスペースを使用するには、次の設定をします。





## ワークスペース一覧の表示時間を改善する

[ワークスペース一覧] 画面の表示に時間がかかる場合、表示時間を改善するための設定をします。

この設定をした場合、[ワークスペース一覧] 画面で表示されるボタンは、[削除] などアクセス権のある操作のボタンからすべての操作のボタンへと変更されます。

1. Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。  
URL は、「http:// {ArcSuite サーバー名} /ArcSuite/portal/」です。  
[ログイン] 画面が表示されます。
2. ログインするユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。  
[ポータル] 画面が表示されます。
3. [システム管理] リンクをクリックします。  
[システム管理] 画面が表示されます。
4. [このシステム] に表示されている RMS のリンクをクリックします。  
[管理ログイン] 画面が表示されます。
5. リソース管理アプリケーションの管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
6. [ログイン] をクリックします。  
[リソース管理アプリケーション] 画面が表示されます。
7. [システムプロパティ編集] メニューをクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。
8. 次のキー名および値を入力して、表示時間を改善するための設定を有効にします。  
このキー名および値を省略するか、値に FALSE を入力すると、設定は無視されます。

表: 入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.arcsuite.eappli.workspace.listview.skipButtonPermissionCheck
値	TRUE

**補足** 値には、大文字、小文字どちらでも指定できます。

9. [保存] をクリックします。  
確認のためのダイアログボックスが表示されます。
10. [OK] をクリックします。  
[システムプロパティ編集結果] 画面が表示されます。
11. [OK] をクリックします。
12. サービスを再起動します。

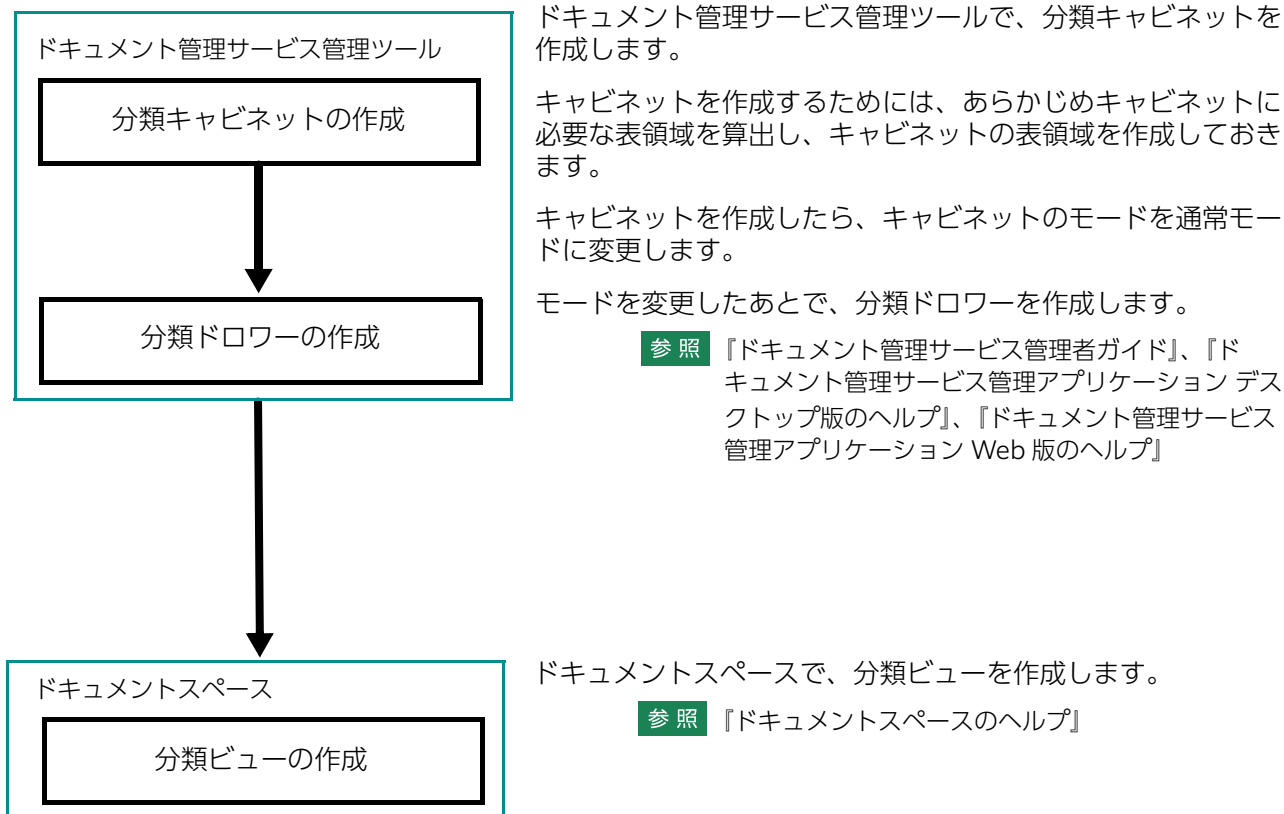
**参照** [\[2.4.2 設定を反映する\] \(P.52\)](#) を参照してください。

## 5.3 分類ビュー

分類ビューは、ドキュメントスペース内の文書を、属性の値に応じて分類して表示します。

### 5.3.1 分類ビューを使用するための流れ

分類ビューを使用するには、次の設定をします。



## 5.4 ユーザープロフィール

---

ポータル画面、ドキュメントスペース、コラボスペース、またはワークフローで、右上のユーザー名をクリックしたときに表示される [ユーザープロフィール] 画面で表示する項目を設定できます。

**参照** 『ポータル管理アプリケーションのヘルプ』

## 5.5 ActiveX コントロールおよびドラッグ & ドロップでの操作の無効化

ActiveX<sup>®</sup> コントロールおよびドラッグ & ドロップの操作を無効にすると、Internet ExplorerでActiveXコントロールをインストールできなくなったり、インストールされていても次の機能が使用できなくなったりします。

- ・ドキュメントスペース
  - ドラッグ & ドロップでの登録
  - ドラッグ & ドロップでのコピー
  - ドラッグ & ドロップでの移動
  - ドラッグ & ドロップでのダウンロード
  - ドラッグ & ドロップでのチェックイン
  - ドラッグ & ドロップでのコンテンツ差し替え
  - リモート編集
- ・コラボスペース
  - タスク構造表示

**補足** リソース管理アプリケーションのシステムプロパティで ActiveX コントロールを無効にした場合、Web ブラウザーのセキュリティ設定で [ActiveX コントロールとプラグインの実行] を有効に設定しても、これらの機能は使用できません。

次の方法で設定できます。

- ・ ActiveX コントロールおよびドラッグ & ドロップの操作を無効にする
- ・ ユーザープロファイルで ActiveX コントロールの有効 / 無効を設定する

### ActiveX コントロールおよびドラッグ & ドロップの操作を無効にする

ActiveXコントロールおよびドラッグ & ドロップの操作を無効にすると、Internet Explorerでドラッグ & ドロップによる登録などの操作ができなくなります。

ActiveXコントロールは無効のまま、ドラッグ & ドロップの操作だけを有効にすることもできます。

- 1.** Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。  
URL は、[http:// {ArcSuite サーバー名} /ArcSuite/portal/] です。  
[ログイン] 画面が表示されます。
- 2.** ログインするユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。  
[ポータル] 画面が表示されます。
- 3.** [システム管理] リンクをクリックします。  
[システム管理] 画面が表示されます。
- 4.** [このシステム] に表示されている RMS のリンクをクリックします。  
[管理ログイン] 画面が表示されます。
- 5.** リソース管理アプリケーションの管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
- 6.** [ログイン] をクリックします。  
[リソース管理アプリケーション] 画面が表示されます。
- 7.** [システムプロパティ編集] メニューをクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。

**8.** 次のキー名および値を入力して、ActiveX コントロールを無効にします。◆ **ドキュメントスペースの場合**

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.arcsuite.ArcDdUpload.enabled
値	FALSE

◆ **コラボスペースの場合**

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.arcsuite.ArcTaskTreeCtrl.enabled
値	FALSE

- 補足**
- ・ 値には、大文字、小文字どちらでも指定できます。
  - ・ FALSE を設定したあとで、ActiveX コントロールを有効にするときは、キー名および値を削除して空欄にするか、値に TRUE を入力します。

**9.** 次のキー名および値を入力して、ドラッグ & ドロップの操作を無効にします。

ActiveX コントロールは無効のままドラッグ & ドロップの操作を使用したいときは、このキー名および値を省略するか、値に TRUE を入力します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.arcsuite.DdUploadScript.enabled
値	FALSE

- 補足**
- ・ 値には、大文字、小文字どちらでも指定できます。
  - ・ FALSE を設定したあとで、ドラッグ & ドロップの操作を有効にするときは、キー名および値を削除して空欄にするか、値に TRUE を入力します。

**10.** [保存] をクリックします。

確認のためのダイアログボックスが表示されます。

**11.** [OK] をクリックします。

[システムプロパティ編集結果] 画面が表示されます。

**12.** [OK] をクリックします。**13.** サービスを再起動します。

- 参照** [\[2.4.2 設定を反映する\] \(P.52\)](#) を参照してください。

## ユーザープロファイルで ActiveX コントロールの有効 / 無効を設定する

ログインしているユーザーのユーザープロファイルで、ActiveXコントロールを有効または無効に設定できます。

無効に設定すると、Internet Explorerでドラッグ&ドロップでの登録や、署名、リモート編集などの操作ができなくなります。

**補足** 「com.fujifilm.fb.arcsuite.ArcDdUpload.enabled」または「com.fujifilm.fb.arcsuite.ArcTaskTreeCtrl.enabled」キーが設定されていないか、TRUE が設定されているときに、ユーザープロファイルで設定できます。

**ユーザープロファイル**

変更 キャンセル

**ユーザー情報**

ユーザー名: RMS管理者

メールアドレス:

言語:

タイムゾーン:

メール通知:  する  しない

X.509証明書の登録: なし

ダイジェスト通知時刻:

新パスワード:

新パスワード(確認):

注記: パスワードを変更しない場合は、パスワード欄は空白のままにしておいてください。

**画面のカスタマイズ**

ActiveXコントロール:  利用する  利用しない

注記: 「利用しない」を選択して更新した場合も、機能を限定して利用することができます。

変更 キャンセル

**参照** 『ポータル画面のヘルプ』

# 6 検索に関連する設定の管理

文書を検索するのに必要な設定について説明しています。

## 6.1 検索するための設定

検索するために必要な設定について説明します。

### 6.1.1 検索の種類

ArcSuiteでは、次の検索ができます。

#### ◆ 属性検索

システム属性またはユーザー属性を指定して検索します。

属性検索では、「\* (アスタリスク)」または「? (疑問符)」を使用して、前方一致、部分一致、または後方一致で検索できます。

#### ◆ 全文検索

キーワードを入力して、ドキュメントを検索します。ドキュメントスペースでの検索結果で、キーワードをハイライトして表示することもできます。

英単語で検索する場合、名詞の単数または複数形を検索したり、動詞の活用変化形を検索したりできます。

また、シソーラス検索では、入力されたキーワードに同義語、上位語、または下位語を自動的に加えて広い範囲の文書を検索できます。

#### ◆ 簡易検索

ドキュメントスペースの「簡易検索操作」エリアに、キーワードを入力して検索します。ドキュメントスペースで幅広く検索したいときに使用します。ドキュメントスペースでの検索結果で、キーワードをハイライトして表示することもできます。

キーワードは「 (スペース)」で区切って入力します。すべて含んだものが検索されます。

簡易検索では、次の検索を選択できます。ドキュメントスペース管理アプリケーションで設定します。

- ・ 属性検索
- ・ 全文検索
- ・ 属性検索および全文検索を組み合わせた検索

また、属性検索を選択したときは、次の項目を追加で設定します。

- ・ 入力された文字を、前方一致、部分一致、または後方一致で検索するか
- ・ 英字の大文字小文字を区別するか
- ・ ワークスペースの文書を検索するか
- ・ 検索しない属性があるか

ドキュメントスペースで、詳細検索または簡易検索で指定できる条件については、次のとおりです。

表 : 詳細検索と簡易検索で指定できる条件

検索の種類	詳細検索	簡易検索
属性検索	前方一致、部分一致、後方一致が使用できます。	前方一致、部分一致、後方一致が使用できます。
全文検索	英単語を変化させた検索、シソーラス検索が選択できます。	英単語を変化させた検索およびシソーラス検索は、選択できません。
属性検索と全文検索の組み合わせ	検索条件を入力するときに、指定できます。その場合は、それぞれの検索条件を満たすものが検索されます。	検索条件を入力するときは指定できません。簡易検索の設定で指定できます。その場合は、それぞれの検索条件を満たすものが検索されます。



### ◆ ワークスペースの検索設定

ワークスペースとは、ドキュメントスペースを使用するユーザーで、ドキュメントスペースのフォルダー階層を意識することなくドキュメントを操作したり、検索したりするものです。

ワークスペースの検索設定で検索条件を指定できます。ワークスペースを使用するユーザーが、検索設定を共有でき、簡単に検索できます。

### ◆ 関連文書検索

キーワードまたは種文書となるドキュメントを指定して、類似した内容のドキュメントを検索します。ドキュメントスペースでは、自然文検索または種文書検索で使用できます。

## 6.1.2 インデックスキーとは

インデックスキーとは、属性検索を高速にするためのユーザー属性です。キャビネットごとにインデックスキーを設定します。検索で頻繁に使用するユーザー属性は、インデックスキーに設定し、インデックスを作成します。

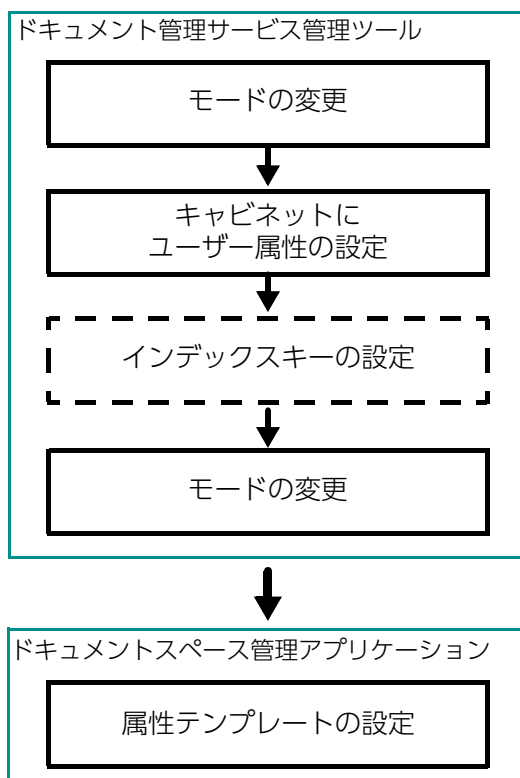
**注記** インデックスキーは、次のような検索には使用されない場合があります。

- ・ 部分一致の検索
- ・ 後方一致の検索
- ・ 演算子に「値なし」を指定した検索
- ・ 演算子に「値あり」を指定した検索
- ・ 演算子に「含まない」を指定した検索

## 6.1.3 属性検索をするための設定の流れ

属性検索をするためには、次の設定をします。

システム属性だけを検索する運用の場合は、ドキュメントスペース管理アプリケーションの設定だけを行います。ユーザー属性を作成して検索する運用の場合は、ドキュメント管理サービス管理ツールでユーザー属性について設定し、ドキュメントスペース管理アプリケーションで属性テンプレートについて設定します。



キャビネットを作成した場合は、メンテナンスモードに変更します。

キャビネットにユーザー属性を設定します。

**参照** [\[4.1.2 ユーザー属性を設定する流れ\] \(P.89\)](#)

必要に応じて、インデックスキーを設定します。ユーザー属性またはインデックスキーを設定したら、通常モードに変更します。

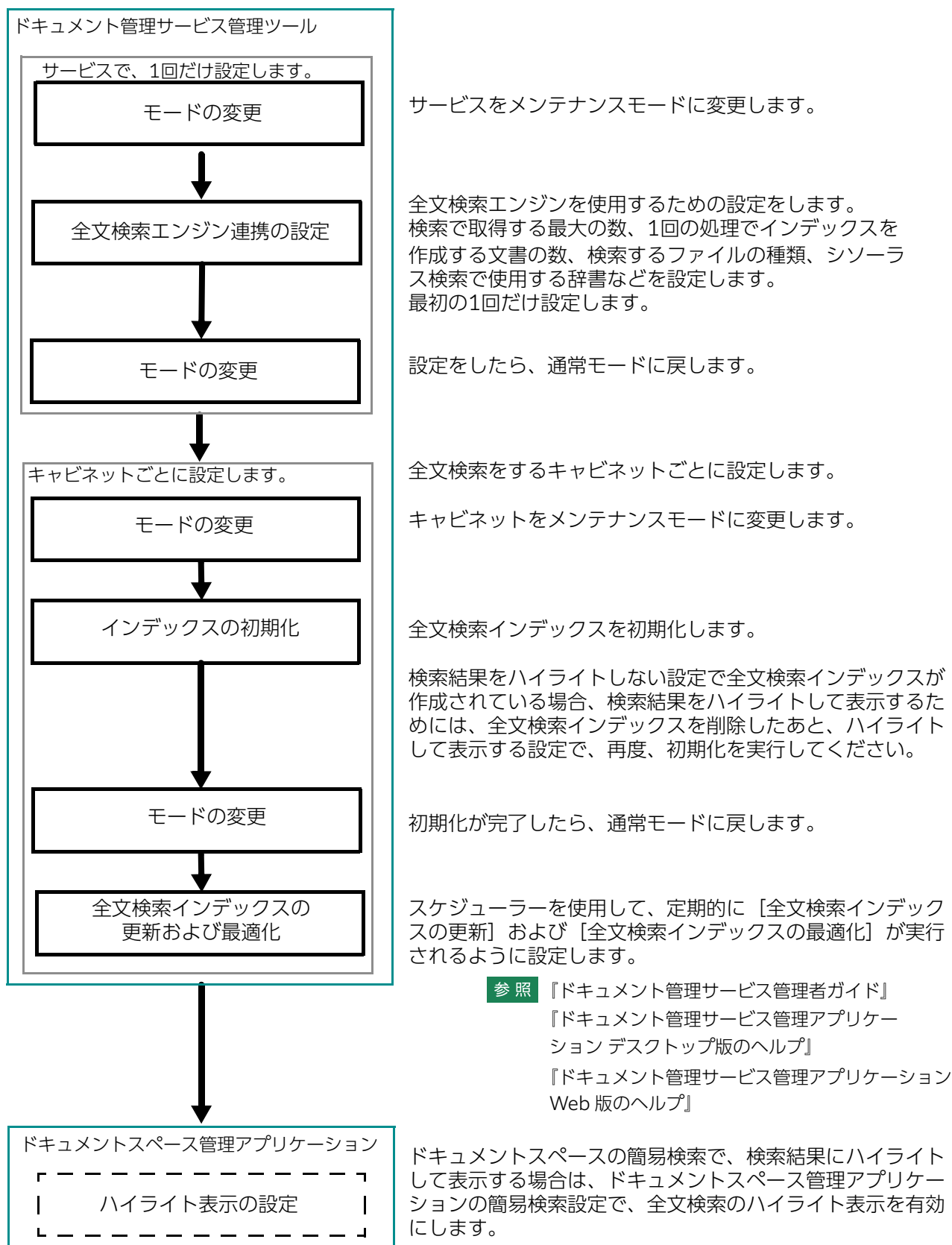
**参照** 『ドキュメント管理サービス管理アプリケーションデスクトップ版のヘルプ』、『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版のヘルプ』

ドキュメントスペース管理アプリケーションで、属性テンプレートを設定します。

**参照** 『ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ』

## 6.1.4 全文検索をするための設定の流れ

全文検索を使用するには、次の設定をします。



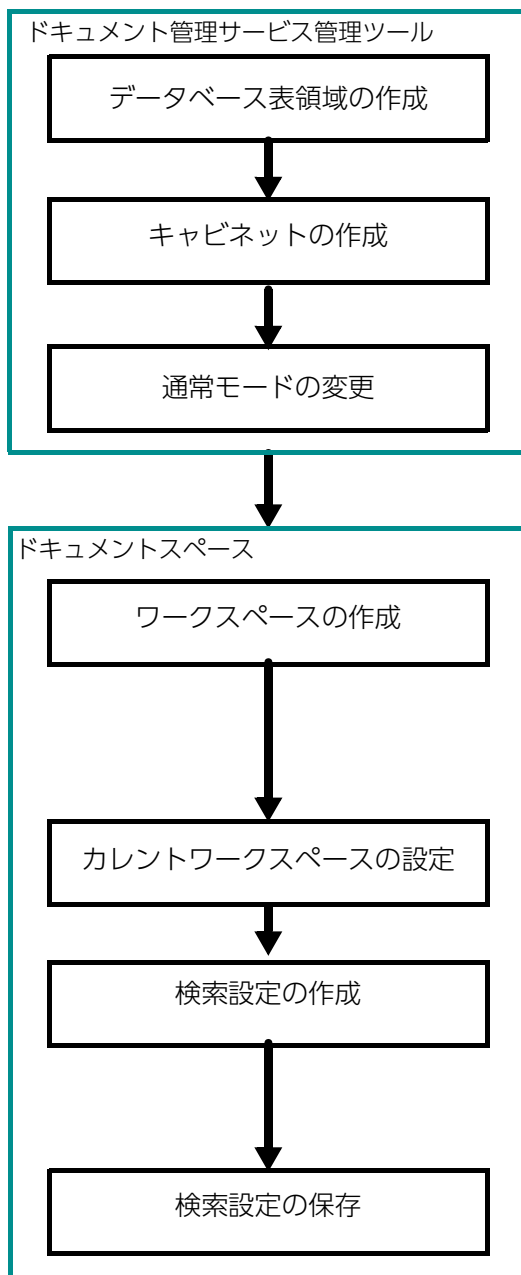
**参照** 『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』  
『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』  
『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版のヘルプ』

**補足** 詳細検索の場合は、ハイライト機能を設定しなくても、検索するとハイライトされます。

**参照** 『ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ』

## 6.1.5 検索設定を使用するための流れ

ワークスペースで検索設定を使用するには、次の操作をします。



データベース表領域を作成します。

ワークスペースキャビネットを作成します。[キャビネット作成] 画面で、[ワークスペースキャビネット] を選択します。必要に応じて、ユーザー属性などを設定します。

キャビネットを作成したら、通常モードに戻します。

ドキュメントスペースで、[ワークスペース] > [ワークスペース一覧] を選択して、[ワークスペース] 画面を表示させます。[作成] をクリックして、次の項目を入力して、ワークスペースを作成します。

- ・管理者
- ・編集メンバー
- ・参照メンバー

[ワークスペース一覧] で、ワークスペースの名前のリンクをクリックして、カレントワークスペースに設定します。

カレントワークスペースの、[検索設定] アイコンをクリックして、[検索設定一覧] 画面を表示します。

検索設定で、ドキュメントスペースの詳細検索と同じように検索条件を指定します。

[検索設定保存] 画面で、検索設定の名前などを入力します。属性検索するとき、属性値を毎回入力する場合は、[実行時入力] に [あり] を選択します。全文検索するとき、キーワードを毎回入力する場合は、[全文検索実行時入力] に [あり] を選択します。



# 7 文書のアクセス権の管理

文書のアクセス権を管理するのに必要な設定について説明しています。

## 7.1 アクセス権の設定

アクセス権の設定について説明します。

### 7.1.1 アクセス権とは

アクセス権を設定して、ArcSuiteのキャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメントなどを操作できる権限を制限します。

#### デフォルトアクセス権

フォルダーやドキュメントなどを登録するときに、既定で設定されるアクセス権です。キャビネット、ドロワー、およびフォルダーに設定できます。アクセス権が決められている運用では、あらかじめ設定しておきます。

#### アクセス権マスク

キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメントなどに設定されているアクセス権の一部を許可するアクセス権です。キャビネットまたは状態に設定できます。

### 7.1.2 アクセス権の種類

ArcSuiteでは、次のアクセス権があります。

表：ドキュメント管理サービスとドキュメントスペースのアクセス権

ドキュメント管理サービス	ドキュメントスペース		内容
getAttribute	属性	取得	オブジェクトの属性を取得します。オブジェクトを操作するために必ず必要です。キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント、リファレンス、分類ビュー、および分類フォルダーに設定できます。
setAttribute		設定	オブジェクトの属性の設定および削除をします。オブジェクトの属性を変更するときに必要です。フォルダー、ドキュメント、リファレンス、分類ビュー、および分類フォルダーに設定できます。
getContent	コンテンツ	取得	ドキュメントのコンテンツを取り出します。ドキュメントに設定できます。
setContent		設定	ドキュメントのコンテンツを差し替えます。ドキュメントに設定できます。
viewContent		表示	ドキュメントを表示します。ドキュメントに設定できます。
printContent		印刷	ドキュメントを印刷します。ドキュメントに設定できます。

表：ドキュメント管理サービスとドキュメントスペースのアクセス権

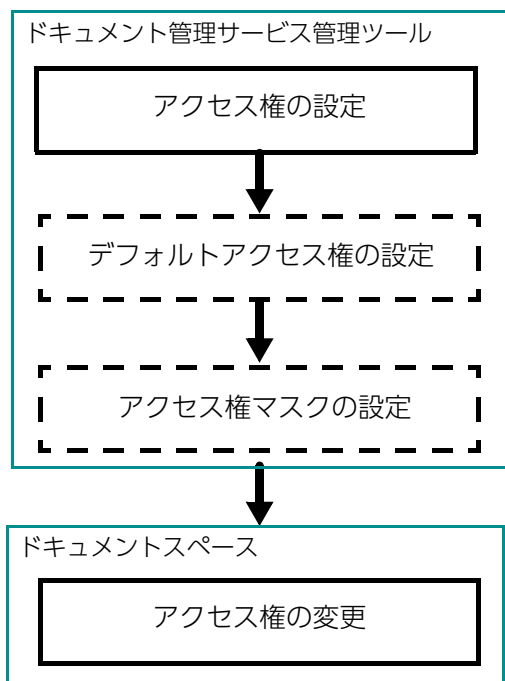
ドキュメント管理サービス	ドキュメントスペース		内容
deleteObject	オブジェクト	削除	オブジェクトを削除します。 フォルダー、ドキュメント、リファレンス、分類ビュー、および分類フォルダーに設定できます。
changeAcl		アクセス権変更	アクセス権およびデフォルトアクセス権を変更します。 フォルダー、ドキュメント、リファレンス、分類ビュー、および分類フォルダーに設定できます。
changeStatus		状態変更	オブジェクトの状態を変更します。 フォルダー、ドキュメント、リファレンス、分類ビュー、および分類フォルダーに設定できます。
changeLock		ロック	ロックまたはアンロックを指定します。 フォルダー、ドキュメント、リファレンス、分類ビュー、および分類フォルダーに設定できます。
addRevision	履歴	改訂	履歴を追加します。 ドキュメントに設定できます。
removeRevision		削除	履歴を削除します。 ドキュメントに設定できます。
addChild	エントリー	追加	フォルダーにオブジェクトを追加します。 フォルダー、分類ビュー、および分類フォルダーに設定できます。
removeChild		削除	フォルダーのオブジェクトを削除します。 フォルダー、分類ビュー、および分類フォルダーに設定できます。

**参照** ドキュメント管理サービスのアクセス権については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

### 7.1.3 アクセス権を設定する流れ

キャビネットにアクセス権を設定し、必要に応じてドロワー、フォルダー、ドキュメントなどにアクセス権を設定します。

ドロワーまたはキャビネットの操作は、ドキュメント管理サービス管理コマンド、ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版、またはドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版を使用します。



キャビネットのアクセス権を設定します。  
必要に応じて、キャビネットのデフォルトアクセス権、またはアクセス権マスクを設定します。

**参照** 『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』  
『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』  
『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版のヘルプ』

ドキュメントスペースで、登録されたフォルダー、ドキュメントなどのアクセス権を変更します。

**参照** 『ドキュメントスペースのヘルプ』



# 8 文書のライフサイクルの管理

文書のライフサイクルを管理するのに必要な設定について説明しています。

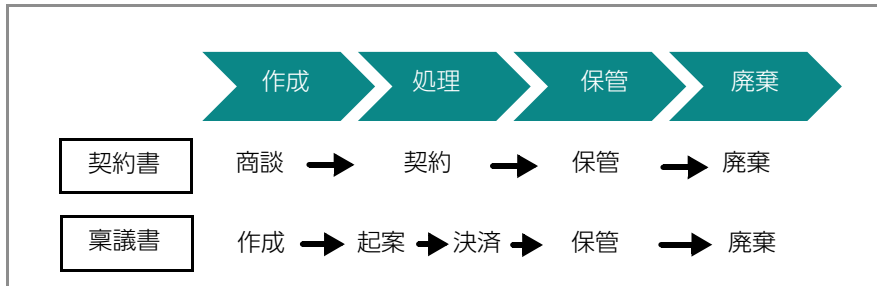


## 8.1 文書のライフサイクルの設定

文書のライフサイクルを管理するために必要な設定について説明します。

### 8.1.1 ライフサイクルとは

文書のライフサイクルとは、作成から廃棄までの一連のプロセスのことです。文書の種類に応じたプロセスがあります。



図：ライフサイクル

### 8.1.2 ライフサイクルを管理する機能

次の機能を使用して、文書のライフサイクルを管理できます。

#### ■ 状態

ドキュメントやフォルダーなどのシステム属性で、オブジェクトの状態を表します。状態の種類は、デフォルトの設定では「編集可能」、「固定」、および「廃棄」があります。

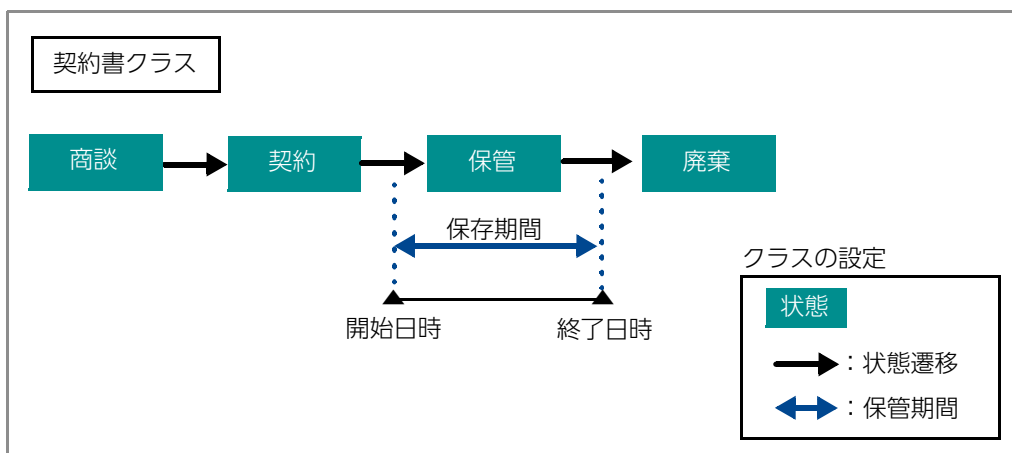
状態を作成したら、どの状態からどの状態に遷移できるかを定義した状態遷移を設定します。

#### ■ 保存期間

保存期間はクラスの属性です。保存を開始する日時および終了する日時を指定して、指定された期間は、ドキュメントやフォルダーを削除できなくなります。

#### ■ クラス

文書の種類に応じて、ユーザー属性、状態、保存期間、およびスタンプを定義したものです。たとえば、「契約書」や「見積書」など文書の種類によって、ユーザー属性や保存期間などを設定できます。

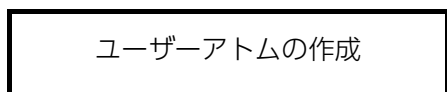


図：ライフサイクルの管理機能

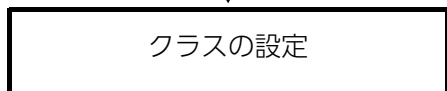
### 8.1.3 状態を設定する流れ

ドキュメント管理サービス管理ツールを使用して、状態を作成します。

キャビネットごとに、状態のATOMを設定します。変更前の状態と変更後の状態を定義した状態遷移定義を設定します。



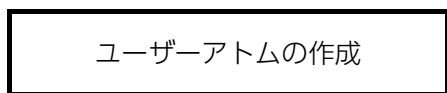
状態の名前を表すユーザーATOMを作成します。  
ネームスペースがない場合は、あらかじめ作成しておきます。



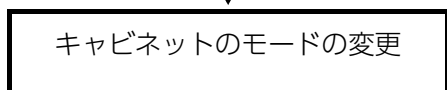
キャビネットごとにクラスを設定します。  
クラスの設定で、状態および状態遷移を設定します。

**参照** [\[8.1.4 クラスを設定する流れ\] \(P.114\)](#)

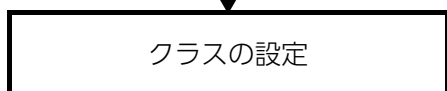
### 8.1.4 クラスを設定する流れ



クラスの名前を表すユーザーATOMを作成します。  
ネームスペースがない場合は、あらかじめ作成しておきます。

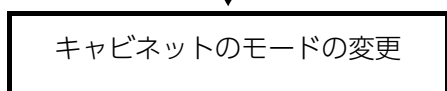


キャビネットをメンテナンスモードに変更します。



キャビネットに、クラスを設定します。次の属性を設定します。

- ・ユーザー属性
- ・属性制約
- ・状態の定義
- ・状態遷移の定義
- ・保存期間
- ・スタンプルール



キャビネットを通常モードに変更します。

# 9 電子で署名捺印するための管理

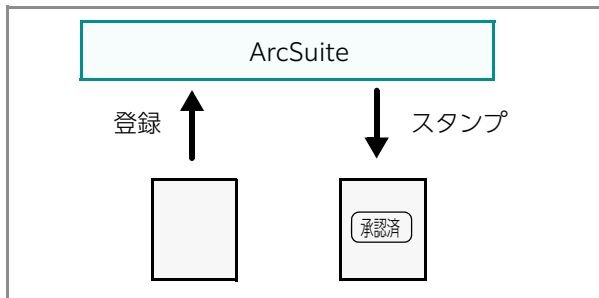
電子で署名捺印するために必要な設定について説明しています。

## 9.1 スタンプを使用するための設定

スタンプを使用するために必要な設定について説明します。

### 9.1.1 スタンプとは

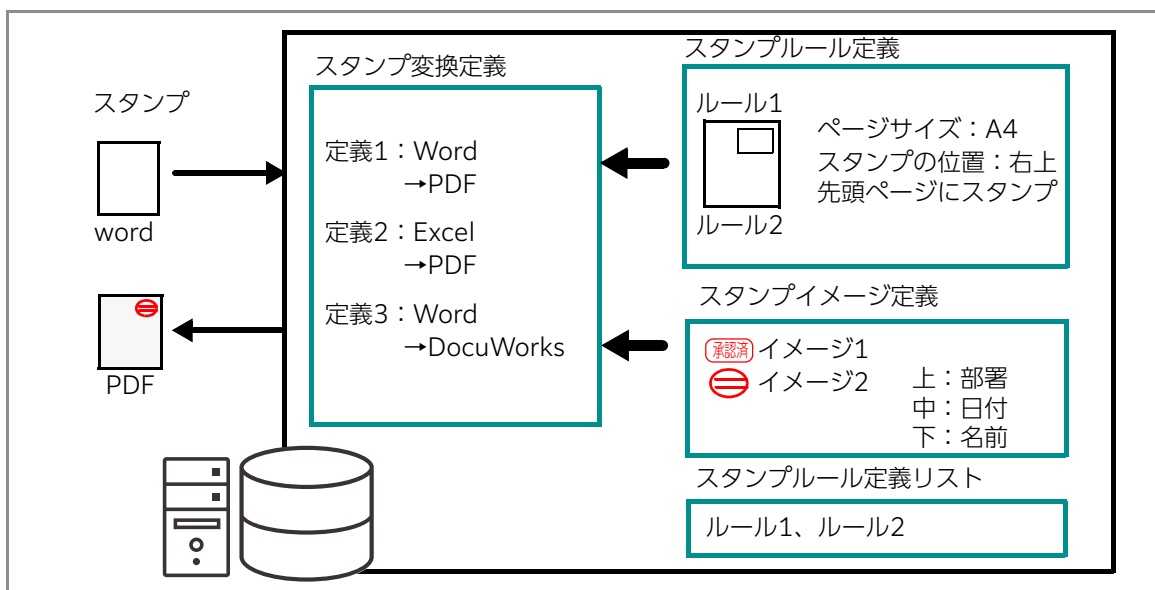
スタンプとは、電子文書に署名または捺印をして、証拠として文書を残すためのものです。ArcSuiteでは、スタンプするイメージに使用するファイルを用意して、文書にスタンプするための設定ができます。



図：スタンプ

### 9.1.2 スタンプの設定に必要なもの

スタンプの機能を使うまえに、スタンプ機能を使用した運用に応じて、定義ファイルの内容を編集します。



図：スタンプで使用する定義

#### ◆ スタンプ変換定義

スタンプする文書およびスタンプした文書のファイル形式を指定したファイルです。キャビネットごとに用意します。

#### ◆ スタンプイメージ定義

スタンプするイメージの格納先を指定したファイルです。スタンプイメージ定義とは別に、スタンプするイメージを用意しておきます。

#### ◆ スタンプルール定義

スタンプする位置やスタンプするページなどを指定したファイルです。

#### ◆ スタンプルール定義リスト

スタンプルール定義のなかから使用するスタンプルールを指定したファイルです。キャビネットごとに用意します。

### 9.1.3 スタンプを設定する流れ

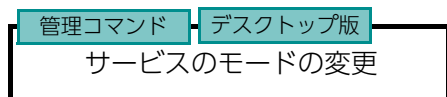
スタンプを使用するには、ドキュメント管理サービス管理ツールを使用して、次の流れで設定します。

**管理コマンド** : ドキュメント管理サービス管理コマンドで設定する項目

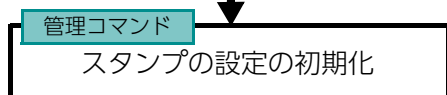
**デスクトップ版** : ドキュメント管理サービス管理アプリケーション  
デスクトップ版で設定する項目

**Web版** : ドキュメント管理サービス管理アプリケーション  
Web版で設定する項目

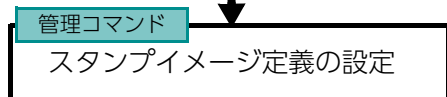
サービス



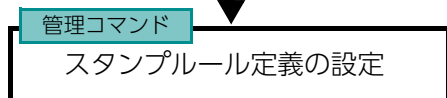
サービスをメンテナンスモードに変更します。



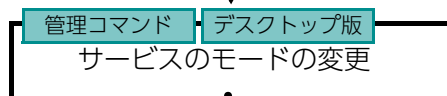
スタンプの設定を格納する表領域を作成して初期化します。



スタンプのイメージ定義を設定します。イメージ定義はサービスで共通です。イメージの名前、合成の処理方法、合成するファイルまたは文字列などを設定します。

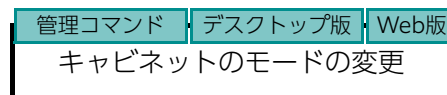


スタンプのルール定義を設定します。ルール定義はサービスで共通です。ルールの名前、スタンプの位置、スタンプイメージ設定などを設定します。

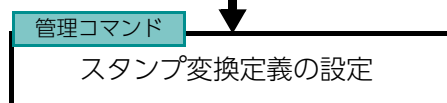


サービスを通常モードに変更します。

キャビネット



スタンプを使用するキャビネットごとに設定します。  
キャビネットをメンテナンスモードに変更します。

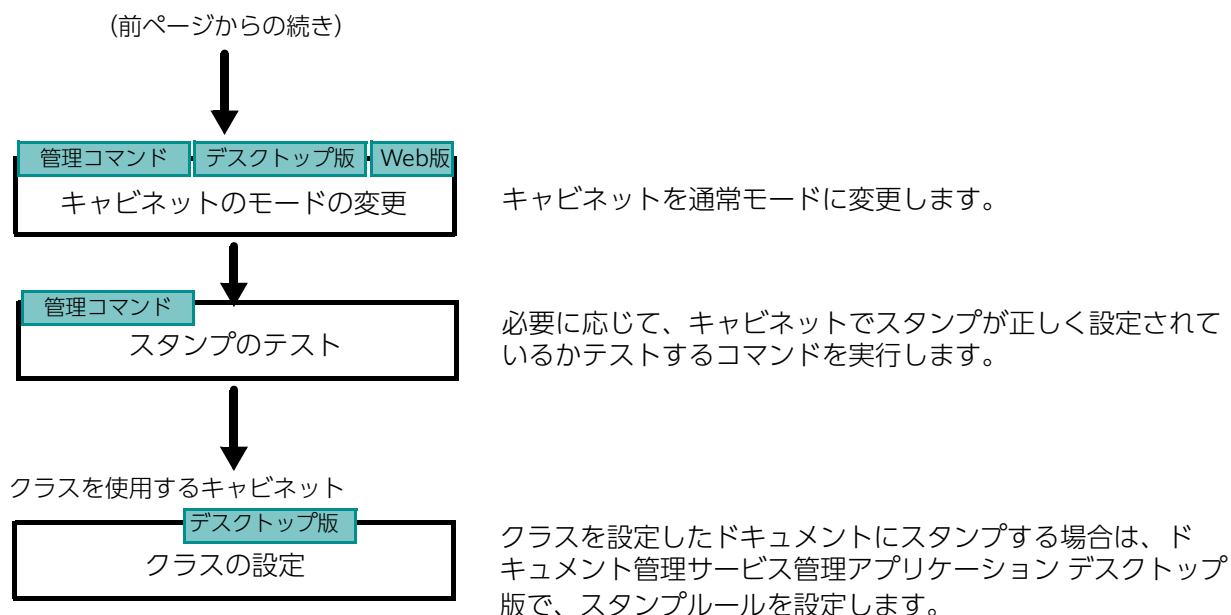


スタンプ変換定義を設定します。変換前と変換後の文書の形式などを設定します。



ルール定義を設定します。ルール定義は、サービスに設定したルール定義のなかから使用するものを設定します。

(次ページへ続く)



- 参照** ドキュメント管理サービス管理コマンドでの操作については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。
- ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版での操作については、『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』を参照してください。
- ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版での操作については、『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版のヘルプ』を参照してください。

## 9.1.4 ワークフローでスタンプする

ワークフローでスタンプができます。

ワークフローでスタンプをするために必要な設定について説明します。ワークフローでは、スタンプアクティビティを使用してスタンプします。

- ・ [ワークフローキャビネットにスタンプを設定する](#)
- ・ [ワークフロー定義でスタンプアクティビティを設定する](#)

### ワークフローキャビネットにスタンプを設定する

ワークフローキャビネットに、スタンプ変換定義およびルール定義を設定します。

- 参照** スタンプを設定する流れは、[\[9.1.3 スタンプを設定する流れ\] \(P.117\)](#) を参照してください。

### ワークフロー定義でスタンプアクティビティを設定する

[ワークフロー定義] 画面で、スタンプアクティビティを使用します。

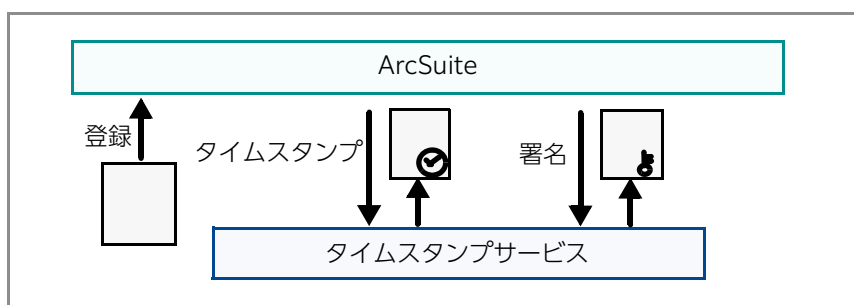
- 参照** ワークフロー定義の作成については、『ワークフローのヘルプ』を参照してください。

## 9.2 デジタル署名をするための設定

デジタル署名をするために必要な設定について説明します。

### 9.2.1 デジタル署名とは

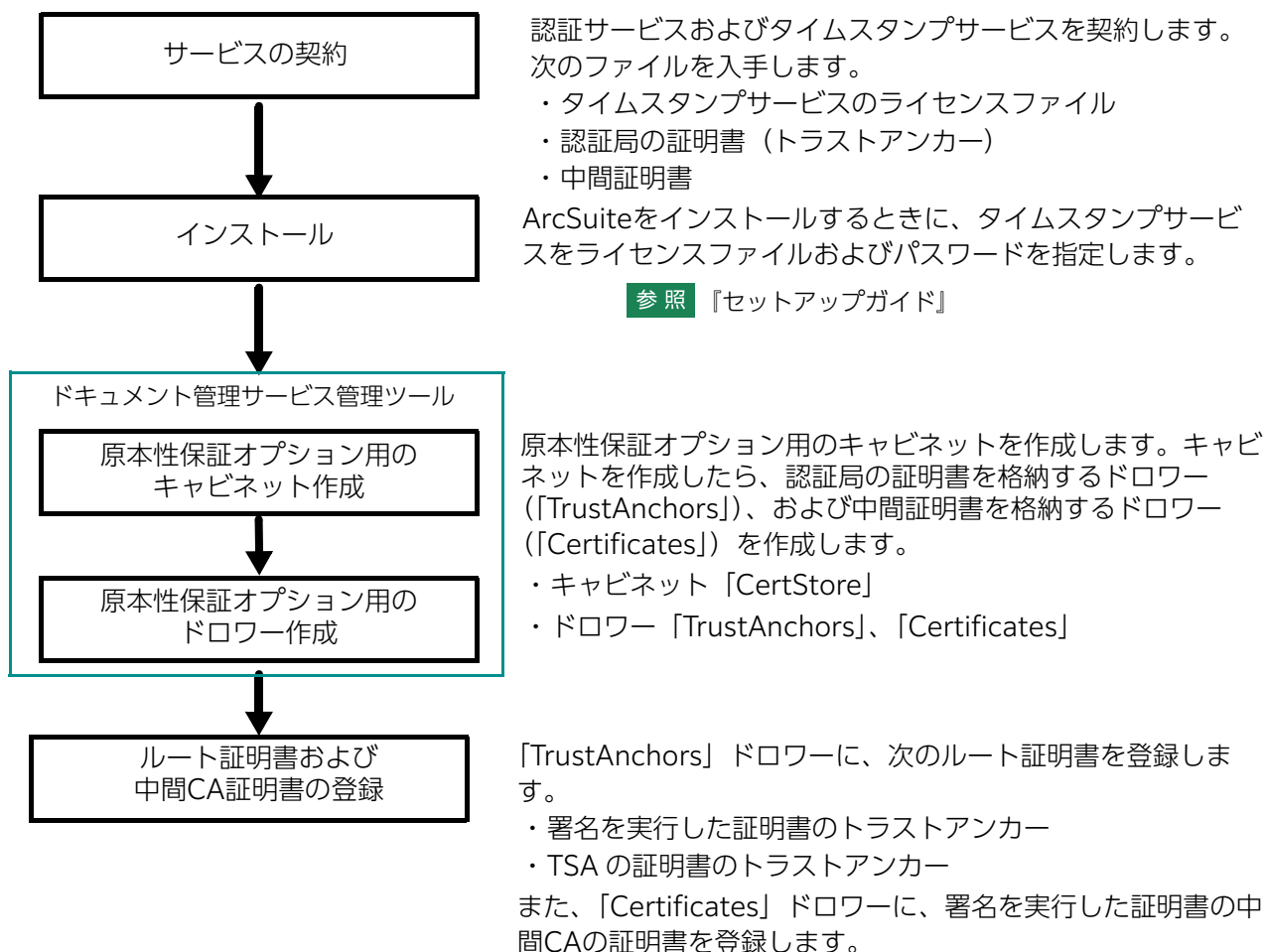
デジタル署名とは、電子文書の正当性を保証するために、暗号化された署名情報を付与することです。タイムスタンプは、ある時刻にその電子文書が存在していたことと、その電子文書が改ざんされていないことを証明するものです。



図：署名とタイムスタンプ

### 9.2.2 デジタル署名を設定する流れ

デジタル署名を使用するには、次の流れで設定します。





# 10 ログの管理

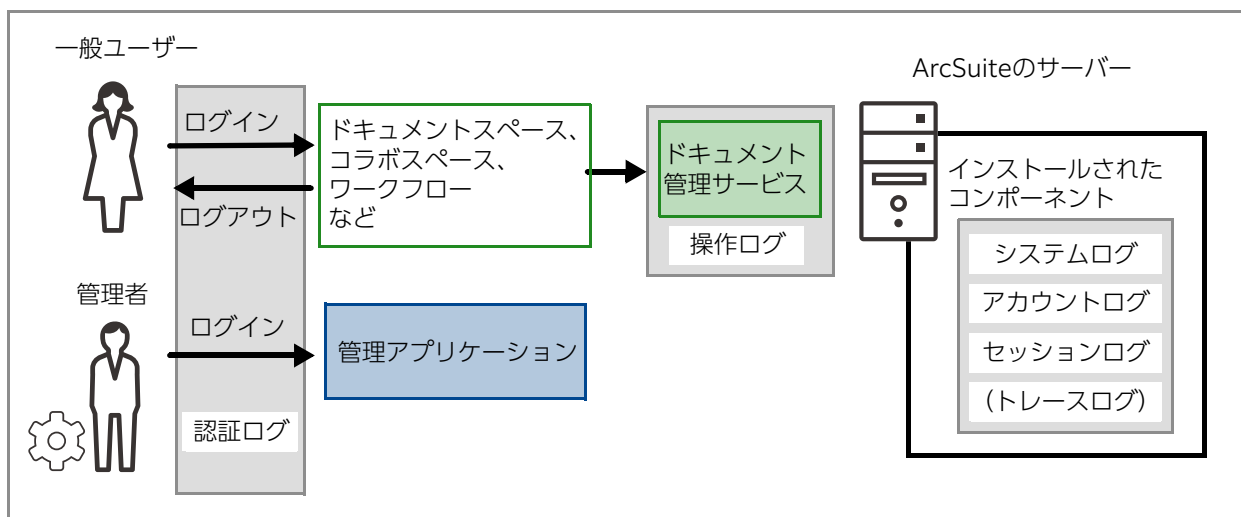
ログを管理するのに必要な機能について説明しています。



## 10.1 ログの種類

ログの種類について説明します。

- ・ [アカウントログ](#)
- ・ [システムログ](#)
- ・ [セッションログ](#)
- ・ [操作ログ](#)
- ・ [認証ログ](#)



図：ログの種類

ArcSuiteのサービスが起動できない場合には、コマンドを実行してログを収集する「ログ収集ツール」を使用してログを取得できます。

**参照** ログ収集ツールについては、『ログ管理アプリケーションのヘルプ』を参照してください。

### 10.1.1 アカウントログ

コンポーネントが管理するドキュメントに対する操作の内容を記録します。オブジェクトに対する不正アクセスをチェックしたり、システムの稼働状況を分析したり、課金したりするときに利用できます。

取得できない情報は空文字列で、記録されます。項目の間の場合は、「,, (コンマ、コンマ)」で記録されません。

#### ■ コンポーネント共通部分

コンポーネントで共通の構成要素は、次のとおりです。次の順序で記録されます。

表：アカウントログの構成要素（コンポーネント共通部分）

構成要素	要否	説明
日時	必須	ログを記録した日時
重要度	必須	ログ対象のイベントに対する重要度
コンポーネント識別子	必須 (取得できる場合)	コンポーネント識別子（サブコンポーネント識別子も含む）
自ホストID	必須	コンポーネントがインストールされているサーバーのIPアドレス
要求元コンポーネントID	存在する場合	要求元のコンポーネントを表すID

表：アカウントログの構成要素（コンポーネント共通部分）

構成要素	要否	説明
自コンポーネントID	存在する場合	コンポーネントのID
ユーザー ID	存在する場合	操作を依頼したユーザーのID
クライアントホストID	存在する場合	PCのIPアドレス
操作識別子	取得できる限り	クライアントからの操作指示
操作成否	取得できる限り	操作の成否
操作処理時間	取得できる限り	操作にかかった時間

**補足** ログインサーバーでは、コンポーネント識別子に、独自の識別子が記録されます。また、要求元コンポーネントID、自コンポーネントID、および操作処理時間は記録されません。

## 10.1.2 システムログ

エラー情報、管理操作、運用上の情報を記録します。

取得できない情報は空文字列で、記録されます。項目の間の場合は、「,, (コンマ、コンマ)」で記録されません。

### ■ コンポーネント共通部分

コンポーネントで共通の構成要素は、次のとおりです。次の順序で記録されます。

表：システムログの構成要素（コンポーネント共通部分）

構成要素	要否	説明
日時	必須	ログを記録した日時
重要度	必須	ログ対象のイベントに対する重要度
コンポーネント識別子	必須 (取得できる場合)	コンポーネント識別子（サブコンポーネント識別子も含む）
自ホストID	必須	コンポーネントのホストのIPアドレス
要求元コンポーネントID	存在する場合	要求元のコンポーネントを表すID
自コンポーネントID	存在する場合	自コンポーネントを識別するID
ユーザー ID	存在する場合	操作を依頼したユーザーのID
クライアントホストID	存在する場合	クライアントのホストのIPアドレス
操作識別子	必要に応じて	クライアントからの操作指示が分かるもの
操作成否	必要に応じて	操作の成否
操作処理時間	必要に応じて	操作にかかった時間
メッセージ	必要に応じて	自コンポーネントのエラーメッセージなど
下位コンポーネントのメッセージ	必要に応じて	下位コンポーネントのエラーメッセージなど

**補足** ログインサーバーでは、コンポーネント識別子に、独自の識別子が記録されます。また、要求元コンポーネントID、自コンポーネントID、および操作処理時間は記録されません。

## 10.1.3 セッションログ

セッションの確立と終了を記録します。ポータル、ドキュメントスペース、表示アプリケーション、コラボスペース、ワークフロー、またはWebサービスインターフェイスで記録されます。

同一ユーザーが複数クライアントから同時アクセスを行った場合、セッションログとして記録します。アカウントログで記録される内容に加えて、次の情報が記録されます。

### ■ セッション確立が許可／拒否された情報

- ・ 操作識別子  
ESTABLISH が記録されます。
- ・ 操作成否  
セッションが確立できたら OK、確立できなかったら NG が記録されます。
- ・ 現在のすべてのセッション数（拡張情報）  
「,total=」のあとに記録されます。
- ・ セッション確立拒否時は、エラーメッセージ（拡張情報）

### ■ セッションを終了したときの情報

- ・ 操作識別子  
RELEASE が記録されます。
- ・ 操作成否（処理の成否）  
必ず OK が記録されます。
- ・ 現在のすべてのセッション数（拡張情報）  
「,total=」のあとに記録されます。
- ・ セッション確立破棄種別（ユーザーのログアウト指示、タイムアウト、強制破棄など）

### ■ セッション確立を強制的に破棄したときの情報

- ・ 操作識別子  
DISCARD が記録されます。
- ・ 操作成否（処理の成否）  
必ず OK が記録されます。
- ・ 現在のすべてのセッション数（拡張情報）  
「,total=」のあとに記録されます。

- 補足**
- ・ 同一ユーザー複数クライアントからの同時アクセスフラグの設定によって、ログの重要度が変更されます。同時アクセスが禁止の場合は、「WARN」になります。許可の場合は、「INFO」になります。
  - ・ 同時アクセス制限の対象にならないユーザーであっても、セッションログの記録対象です。
  - ・ 同時セッション数の制限などによって、セッションを確立できなかった場合のエラーメッセージは、システムログには記録せず、セッションログに記録されます。ただし、コンポーネントによっては、システムログにも記録することもあります。

## 10.1.4 操作ログ

ArcSuiteのドキュメントスペースの文書に対する操作内容の記録です。監査のときや利用状況を分析するときに使用します。

アカウントログまたは操作ログを確認することで、だれが、いつ、何をしたかを確認できます。

ドキュメント管理サービスでは、キャビネットごとに、操作ログまたはアカウントログを記録します。

- 補足**
- ・ アカウントログおよび操作ログはログファイルを出力します。操作ログは、データベースに書き込むためログ管理アプリケーションを使用して確認できます。

- 参照**
- ・ 操作ログの概要については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

- ・ 操作ログの収集方法や、内容の詳細については、『ログ管理アプリケーションのヘルプ』を参照してください。

### 10.1.5 認証ログ

---

ユーザーがArcSuiteにログイン、ログアウト、または管理アプリケーションにログインしたときのログです。管理アプリケーションからログアウトしたときは記録されません。監査のときや利用状況を分析するときに使用します。

## 10.2 ログの構成要素

ArcSuiteが記録するログの構成要素について説明します。

### ■ 日時

サーバーのローカルタイムが、ISO8601のYYYY-MM-dd HH:mm:ss,SSSの形式で記録されます。SSSはミリ秒を表します。

例：2021-03-01 15:25:35,369

### ■ 重要度

FATAL、ERROR、WARN、INFO、DEBUGのどれかが記録されます。

### ■ 自ホスト ID

コンポーネントがインストールされているサーバーのIPアドレスが、記録されます。

例：192.0.2.1

- 補足**
- ・複数枚のNIC 構成をしたサーバーの場合、通信に利用する IP アドレスを記録します。
  - ・ログインサーバーのログでは、「<<< >>>」で囲んで記録されます。

### ■ コンポーネント ID

RMSに登録されているコンポーネントIDが、DN形式で記録されます。

例：cn=drep\_repository@example,ou=components,dc=SYSTEM

ドキュメント管理サービスIFTK、コラボスペースIFTK、ワークフロー IFTKは、次の形式です。

- ・実行時のホストの IP アドレス + 既定のコンポーネント名
- ・既定のコンポーネント名 + @ + IP アドレス

例：dRep-IFTK@192.0.2.1

### ■ ユーザー ID

RMSに登録されているユーザーのIDがuidで記録されます。サーバーで定期的に起動される処理など、ユーザーが存在しない場合は、空 (,) になります。

例：uid=userA,ou=users,dc=com

- 補足** ログインサーバーのログでは、「<<< >>>」で囲んで記録されます。

### ■ メッセージ

メッセージが記録されます。「{分類名} - {メッセージ番号} : {メッセージ内容}」で構成されます。

例：DREP-41000001:ユーザー名が指定されていません。

### ■ 下位コンポーネントのメッセージ

下位コンポーネントのメッセージが記録されます。メッセージが複数の場合は、「; (セミコロンおよびスペース)」で区切って記録されます。

例：DREP-41000001:ユーザー名が指定されていません。; RMS\_LOGIN-01010001:認証に失敗しました。:illegal password.

### ■ クライアントホスト ID

操作したPCのIPアドレスが記録されます。

例：192.168.1.100

**補足** ログを出力するコンポーネントに直接アクセスした PC の IP アドレスが、記録されます。そのため、ほかのコンポーネント、サーバーまたは Proxy サーバーの IP アドレスが記録される場合があります。

### ■ 操作成否

操作が成功したときはOK、失敗したときはNGが記録されます。

例：OK

### ■ 操作処理時間

操作の処理にかかった時間が、ミリ秒で記録されます。

例：1000

## 10.3 ログファイル

ログが記録されるファイルが格納されるフォルダー、ファイル名の規則、ローテイト、Windowsイベントログの記録、およびコンポーネント識別子について説明します。

### 10.3.1 ログのフォルダー

ArcSuiteのログのファイルが出力されるフォルダーは、次のとおりです。

**補足** 「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuiteの設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ}:¥ArcSuite」です。

**参照** 「{コンポーネント識別子}」および「{サブコンポーネント識別子}」については、[\[10.3.5 コンポーネント識別子\] \(P.130\)](#) を参照してください。

#### ■ Tomcat のログ

「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥logs¥Tomcat」フォルダー

キャプチャリングサービスの場合は、  
「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Client¥Capture¥logs¥Tomcat」フォルダー

統合検索サービスの場合は、  
「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Client¥DocumentGatheringAgent¥logs¥Tomcat」フォルダー

#### ■ ArcSuite のコンポーネントのログ

##### ◆ ArcSuite のサーバーにインストールされるコンポーネント

ArcSuiteのサーバーにインストールされるコンポーネントのログのファイルは、次のフォルダーに出力されます。

- ・アカウントログ  
「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥logs¥ {コンポーネント識別子} ¥account」フォルダー
- ・システムログ  
「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥logs¥ {コンポーネント識別子} ¥system」フォルダー
- ・セッションログ  
「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥logs¥ {コンポーネント識別子} ¥session」フォルダー

##### ◆ キャプチャリングサービス

- ・アカウントログ  
「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Client¥Capture¥logs¥Capture¥account」フォルダー
- ・セッションログ  
「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Client¥Capture¥logs¥Capture¥session」フォルダー
- ・システムログ  
「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Client¥Capture¥logs¥Capture¥system」フォルダー

##### ◆ 統合検索サービス

- ・アカウントログ  
「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Client¥DocumentGatheringAgent¥logs¥ {コンポーネント識別子} ¥account」フォルダー

- ・セッションログ  
「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー} ¥Client¥DocumentGatheringAgent¥logs¥  
{コンポーネント識別子} ¥session」 フォルダ
- ・システムログ  
「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー} ¥Client¥DocumentGatheringAgent¥logs¥  
{コンポーネント識別子} ¥system」 フォルダ

#### ◆ 表領域管理ツール

- ・アカウントログ  
「{データベースのインストール先} ¥tools\_4.0¥tbstool¥log¥account」 フォルダ
- ・システムログ  
「{データベースのインストール先} ¥tools\_4.0¥tbstool¥log¥system」 フォルダ

## 10.3.2 ログのファイル名

ArcSuiteの各コンポーネントが記録するログファイル名は、次のとおりです。

- 補足** ・ログインサーバーのログのファイル名だけは、account\_Login\_WebAppYYYY-MM-DD.log です。  
「YYYY-MM-DD」は、ログが記録された日付です。ログインサーバー管理アプリケーションのログは、  
account\_Login\_WebAdmin.log です。
- ・「{サブコンポーネント識別子}」のあとに、「-」からはじまる固有の識別子が含まれるときがあります。

- 参照** 「{コンポーネント識別子}」および「{サブコンポーネント識別子}」については、[\[10.3.5 コンポーネント識別子\] \(P.130\)](#) を参照してください。

### ■ アカウントログ

account\_ {コンポーネント識別子} \_ {サブコンポーネント識別子} .log  
例：account\_DocumentSpace\_WebApp.log

### ■ システムログ

system\_ {コンポーネント識別子} \_ {サブコンポーネント識別子} .log  
例：system\_Repository.log

### ■ セッションログ

session\_ {コンポーネント識別子} \_ {サブコンポーネント識別子} .log  
例：session\_DocumentSpace\_WebApp.log



### 10.3.3 ローテイト

出力するログファイルを、期間（日単位、月単位等）やファイルサイズを指定して、別のファイルとして作成できます。ArcSuiteのログは、日単位でファイルが切り替わります。ログのファイル名は、「.log」のあとに、「YYYY-MM-DD」の形式で日付がついたファイル名が出力されます。

- 補足**
- ・ローテイトに関わらず、ログインサーバーのログはファイル名に日付が含まれます。ただし、ログインサーバー管理アプリケーションのログは、ローテイトすると、ファイル名に日付が含まれます。ログインサーバーのログのファイル名は「\_Login\_WebAppYYYY-MM-DD.log」、ログイン管理アプリケーションのログのファイル名は「\_Login\_WebAdmin.log」の形式です。
  - ・ドキュメント管理サービスのアカウントログは、ファイルサイズまたは月単位でローテイトする設定ができます。ファイルサイズを設定した場合は、「.log. {1 から始まる数字}」の形式で、ファイルが出力されます。月単位の記録を設定した場合は、「.log.YYYY-MM」の形式で、ファイルが出力されます。

**参照** 「{コンポーネント識別子}」および「{サブコンポーネント識別子}」については、[\[10.3.5 コンポーネント識別子\] \(P.130\)](#) を参照してください。

#### ■ アカウントログ

account\_ {コンポーネント識別子} \_ {サブコンポーネント識別子} - {リソース識別子} .log.YYYY-MM-DD

例：account\_DocumentSpace\_WebApp.log.2019-03-01

#### ■ システムログ

system\_ {コンポーネント識別子} \_ {サブコンポーネント識別子} .log.YYYY-MM-DD

#### ■ セッションログ

session\_ {コンポーネント識別子} \_ {サブコンポーネント識別子} .log.YYYY-MM-DD

#### ■ トレースログ

trace\_ {コンポーネント識別子} \_ {サブコンポーネント識別子} .log.YYYY-MM-DD

### 10.3.4 Windows イベントログの記録

Windows イベントログのEventソースは、次のように記録されます。

ArcSuite {コンポーネント識別子} {サブコンポーネント識別子}

**補足** 「ArcSuite」、 「{コンポーネント識別子}」、 および 「{サブコンポーネント識別子}」の間は、「 (半角スペース)」で区切られます。

**参照** 「{コンポーネント識別子}」 および 「{サブコンポーネント識別子}」については、[\[10.3.5 コンポーネント識別子\] \(P.130\)](#) を参照してください。

## 10.3.5 コンポーネント識別子

コンポーネント識別子とは、ArcSuiteを構成するコンポーネントを表記するための識別名（文字列）で、ファイルのパス、ログ、設定ファイルなどに使用されています。コンポーネントによっては、サブコンポーネント識別子があります。

コンポーネントのコンポーネント識別子およびサブコンポーネント識別子は、次のとおりです。

### ログのコンポーネント識別子

表：コンポーネント識別子の詳細

コンポーネント	種別	コンポーネント識別子	サブコンポーネント識別子
ポータル	Webアプリケーション	Portal	WebApp
	Web管理	Portal	WebAdmin
ログインサーバー	Webアプリケーション	Login	WebApp
	Web管理	Login	WebAdmin
	外部ログイン連携	Login	ExternalLogin
リソース管理サービス (RMS)	Web管理	RMS	WebAdmin
	管理コマンド	RMS	Admin
ファイルフォーマット変換サービス	サービス	Transformer	なし
ドキュメント管理サービス	リポジトリサーバー	Repository	なし
	管理サーバー	Repository	Admin
	管理サーバーモニタープロセス	Repository	AdminMonitor
ドキュメントスペース	Webアプリケーション	DocumentSpace	WebApp
	Web管理	DocumentSpace	WebAdmin
表示アプリケーション	Webアプリケーション	View	WebApp
	Web管理	View	WebAdmin
印刷アプリケーション	Webアプリケーション	Print	WebApp
コラボスペース	Webアプリケーション	Collabo	WebApp
	Web管理	Collabo	WebAdmin
	Webサービス	Collabo	WebSvc
	サービス	Collabo	Service
	ツール	Collabo	Maintenance
ドキュメントレビューオプション	Webアプリケーション	DBCollabo	WebApp
	Web管理	DBCollabo	WebAdmin
メッセージ通知サービス	Web管理	cMessage	WebAdmin
	サービス	cMessage	Service

表：コンポーネント識別子の詳細

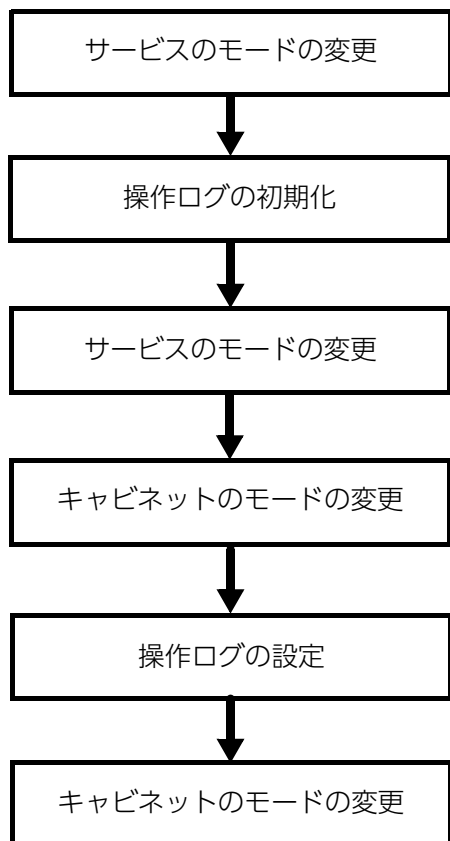
コンポーネント	種別	コンポーネント識別子	サブコンポーネント識別子
全文検索サービス	サービス	FTS2	なし
関連文書検索サービス	サービス	kSearchDuo	PHS
	サービス	kSearchDuo	ADV
	サービス	kSearchDuo	TAC
ワークフロー	Webアプリケーション	Workflow	WebApp
	Web管理	Workflow	WebAdmin
	Webサービス	Workflow	WebSvc
監視サービス	サービス	Monitoring	Service
監視ツール	Web管理	Monitoring	WebAdmin
キャプチャリングサービス	サービス	Capture	なし
統合検索サービス	収集サービス	DocumentGatheringAgent	Collector
	登録サービス	DocumentGatheringAgent	Register
	Web管理	DocumentGatheringAgent	WebAdmin
	ストレージプロキシサービス	DocumentGatheringAgent	StorageProxy
ドキュメント管理サービスクライアント	IFTK	RepositoryClient	IFTK
	管理コマンドまたは管理アプリケーション	RepositoryClient	Admin
コラボスペースIFTK	IFTK	CollaboClient	IFTK
原本性保証オプション	電子署名延長	Certifier	ValidityExtender
Webサービスインターフェイス	SOAPインターフェイス	WebService	WebSvc
ライセンス	ライセンス管理モジュール	License	なし
ログ管理	Web管理	LogAdmin	WebAdmin
	サービス	LogAdmin	Service
表領域管理ツール	管理アプリケーション	DBAdminTool	なし

## 10.4 操作ログの記録

操作ログを取得するために必要な設定について説明します。

### 10.4.1 操作ログを記録する設定の流れ

操作ログを取得するには、次の設定をします。



ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版で、サービスのモードをメンテナンスモードにしてから、[サービス設定の初期化] で操作ログを初期化します。

初期化したら、メンテナンスモードを通常モードに変更します。

操作ログを記録するキャビネットごとに設定します。

キャビネットのモードをメンテナンスモードにしてから、操作ログを記録する設定をします。

メンテナンスモードを通常モードに変更します。

**参照** 『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』

## 10.5 認証ログの記録

---

認証ログを記録するために必要な設定について説明します。

### 10.5.1 認証ログを記録する設定の流れ

---

認証ログを記録するには、ログインサーバー管理アプリケーションで、データベースを初期化します。

**参照** [「認証ログのデータベースを初期化する」\(P.133\)](#)

#### 認証ログのデータベースを初期化する

コマンドの実行が成功すると、ログインサーバー管理アプリケーションで、認証ログのデータベースを管理するメニューが表示されます。

はじめに、認証ログを記録するデータベースを初期化します。初期化した時点から、認証ログが記録されます。

**参照** 『ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ』

## 10.6 ログ削除の抑止

操作ログまたは認証ログを削除させないように設定できます。

- ・ [操作ログの削除を抑止する](#)
- ・ [認証ログの削除を抑止する](#)

### 10.6.1 操作ログの削除を抑止する

操作ログの削除を抑止する設定をした場合、ドキュメント管理サービス管理ツールで、操作ログを削除するメニューが表示されなかったり、管理コマンドを実行するとエラーになったりします。

#### ■ 削除を抑止する設定

1. リソース管理アプリケーションで、メニューから [システムプロパティ] をクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。

2. 次のキー名および値を入力します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.drep.admin.share.operationLog.canDelete
値	削除を抑止する場合は、FALSEを入力します。 デフォルトは、TRUEです。

**補足** 値には、大文字、小文字どちらでも指定できます。

3. [保存] をクリックします。  
確認のためのダイアログボックスが表示されます。
4. [OK] をクリックします。  
[システムプロパティ編集結果] 画面が表示されます。
5. [OK] をクリックします。
6. サービスを再起動して、設定を反映させます。

**参照** サービスを再起動する手順については、[\[2.4.2 設定を反映する\] \(P.52\)](#) を参照してください。

## 10.6.2 認証ログの削除を抑止する

ログインサーバー管理アプリケーションで、ログを削除するメニュー、および認証ログの記録を解除するメニューを表示しないようにできます。

### ■ 削除を抑止する設定

#### 1. 次のキー名および値を入力します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.login.authLog.canDelete
値	削除を抑止する場合は、FALSEを入力します。 デフォルトは、TRUEです。

**補足** 値には、大文字、小文字どちらでも指定できます。

#### 2. [保存] をクリックします。

#### 3. サービスを再起動して、設定を反映させます。

**参照** サービスを再起動する手順については、[\[2.4.2 設定を反映する\] \(P.52\)](#) を参照してください。

### ■ 削除する期間のデフォルトの設定

日付を指定して認証ログを削除するときに、デフォルトで表示される日付の期間を設定できます。

#### 1. リソース管理アプリケーションのメニューから [システムプロパティ] をクリックします。

[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。

#### 2. 次のどちらかで、認証ログが削除できる設定になっていることを確認します。

- ・ [com.fujifilm.fb.rms.login.authLog.canDelete] キーが設定されていない
- ・ [com.fujifilm.fb.rms.login.authLog.canDelete] キーの値が、「TRUE」

#### 3. 次のキー名および値を入力します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.rms.login.authLog.defaultRetentionPeriod
値	ログインサーバー管理アプリケーションで、認証ログを削除するときに表示される期間のデフォルトの値を、数字で入力します。 デフォルトは、1です。

**補足** たとえば、値に「3」を入力した場合、日付を入力して認証ログを削除するときに、3年前の日付から、操作した日付までが表示されます。

#### 4. [保存] をクリックします。

#### 5. サービスを再起動して、設定を反映させます。

**参照** サービスを再起動する手順については、[\[2.4.2 設定を反映する\] \(P.52\)](#) を参照してください。

## 10.7 保守情報を一括で取得する


---

ArcSuiteがインストールされているサーバーの情報、インストールされているコンポーネントのログ、および設定についての情報を一括で取得できます。

ArcSuiteのサービスが起動していない場合、ログを収集するコマンド（ログ収集ツール）を実行してログを取得できます。ただし、ArcSuiteがインストールされているサーバーごとに実行する必要があります。

**参照** 『ログ管理アプリケーションのヘルプ』





# 11 文書の変換に関する設定の管理

文書の変換に関する設定を管理するのに必要な機能について説明しています。

## 11.1 サーバーに Microsoft Office をインストールしないで文書を変換するための設定

Microsoft Office文書を変換する運用ではサーバーにMicrosoft Officeをインストールする必要がありますが、Microsoft Officeをインストールできない環境でも、次の操作だけが可能になる設定について説明します。

- ・ Microsoft Office 文書からインデックス画像や先頭ページサムネイル画像の生成  
たとえば、ドキュメントスペースで「ドキュメント情報の更新」をしたときなど
- ・ Microsoft Office 文書を DocuWorks または PDF に変換した表示  
たとえば、コントロールビューが設定されているときに Microsoft Office 文書を表示したときなど

変換できるのは次のバージョンの文書です。

- ・ Microsoft Office Word 97-2003
- ・ Microsoft Office Word 2007
- ・ Microsoft Word 2010
- ・ Microsoft Word 2013
- ・ Microsoft Word 2016
- ・ Microsoft Word 2019
- ・ Microsoft Word for Office 365
- ・ Microsoft Office Excel 97-2003
- ・ Microsoft Office Excel 2007
- ・ Microsoft Excel 2010
- ・ Microsoft Excel 2013
- ・ Microsoft Excel 2016
- ・ Microsoft Excel 2019
- ・ Microsoft Excel for Office 365
- ・ Microsoft Office PowerPoint 97-2003
- ・ Microsoft Office PowerPoint 2007
- ・ Microsoft PowerPoint 2010
- ・ Microsoft PowerPoint 2013
- ・ Microsoft PowerPoint 2016
- ・ Microsoft PowerPoint 2019
- ・ Microsoft PowerPoint for Office 365
- ・ PDF のバージョン 1.3/1.4/1.5/1.6/1.7

- 注記**
- ・ サーバー（2台以上の構成の場合は、コンポーネントサーバー、およびファイルフォーマット変換サービスがインストールされたりポジトリサーバー）に、DocuWorks 9.1 がインストールされている必要があります。
  - ・ この設定をすると、変換した文書の表示内容が、元の Microsoft Office 文書と大きく異なる場合があります。表示内容の違いについては、『リリースガイド』を参照してください。
  - ・ この設定をした場合、コンテンツ表示ではすべてのページを DocuWorks に変換してから表示するため、表示に時間がかかることがあります。その場合は、ドキュメントスペース管理アプリケーションでイン

デックス画像に DocuWorks を生成する設定をしてから、インデックス表示をしてください。インデックス画像に DocuWorks を生成する設定にすることで、表示までの時間を短縮できます。

## ■ Microsoft Office をインストールしないで文書を変換するための設定

1. リソース管理アプリケーションで、メニューから [システムプロパティ] をクリックします。  
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。

2. 次のキー名および値を入力します。

表：入力するキー名および値

キー名	com.fujifilm.fb.transformer.extCnvConfig.fcConverter
値	サーバーにMicrosoft Officeをインストールせずに文書を変換する場合は、TRUEを入力します。

3. [保存] をクリックします。  
確認のためのダイアログボックスが表示されます。
4. [OK] をクリックします。  
[システムプロパティ編集結果] 画面が表示されます。
5. [OK] をクリックします。
6. サービスを再起動して、設定を反映させます。

**参照** サービスを再起動する手順については、[「2.4.2 設定を反映する」\(P.52\)](#) を参照してください。

7. キャビネットに画像変換のキーワードを設定します。

**参照** キャビネットに画像変換のキーワードを設定する手順については、『ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』または『ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション Web 版のヘルプ』を参照してください。

## 11.2 ファイル変換ソフトウェアを使用するための設定

ArcSuiteが提供している文書の変換機能（この機能を持つコンポーネントをコンバーターと呼びます）では、文書をPDFに変換するときに、次の2つの制約があります。

- ・ PDF のバージョンが 1.7 の文書を生成できないこと
- ・ テキストや線（ライン）などのベクターデータが、ラスターデータ（画像）として変換されてしまうこと

ArcSuite以外のコンバーターを使用して、文書を変換するための設定について説明します。

事前に、上記の制約がない外部のコンバーターを用意することで、次のコンテンツタイプの文書から、PDF 1.7に対応した文書や、テキストなどをそのままテキストとして持つPDF文書を生成できるようになります。

**補足** PDF 1.7 は、電子文書フォーマットの国際規格として、ISO 32000-1 で標準化された文書の形式です。

### ■ Microsoft Office

- ・ application/msword (doc)
- ・ application/vnd.ms-excel (xls)
- ・ application/vnd.ms-powerpoint (ppt)
- ・ application/vnd.openxmlformats-officedocument.wordprocessingml.document (docx)
- ・ application/vnd.openxmlformats-officedocument.spreadsheetml.sheet (xlsx)
- ・ application/vnd.openxmlformats-officedocument.presentationml.presentation (pptx)
- ・ application/vnd.ms-word.document.macroEnabled.12 (docm)
- ・ application/vnd.ms-excel.sheet.macroEnabled.12 (xlsm)
- ・ application/vnd.ms-powerpoint.presentation.macroEnabled.12 (pptm)

### ■ DocuWorks

- ・ application/vnd.fujifilm.fb.docuworks (xdw)
- ・ application/vnd.fujifilm.fb.docuworks.binder (xbd)

**補足** ArcSuite Engineering 3.0 からバージョンアップした環境の場合、次のメディアタイプもサポートされます。

- ・ application/vnd.fujixerox.docuworks
- ・ application/vnd.fujixerox.docuworks.binder

### ■ 画像

- ・ image/tiff (tif)
- ・ image/bmp (bmp)
- ・ image/jpeg (jpg)
- ・ image/png (png)

### ■ 3次元 CAD データ (3D CAD)

- ・ application/STEP (stp、step)
- ・ application/x-jt (jt)
- ・ model/vnd.parasolid.transmit-binary (x\_b)
- ・ model/vnd.parasolid.transmit-text (x\_t)

**補足** 上記の（ ）内は、代表的な拡張子を示します。

## 11.2.1 使用可能なコンバーター

次のすべての条件を満たすコンバーターが使用できます。

### ■ コマンドを実行する Windows のユーザー

次の条件のすべてを満たす必要があります。

- ・ ArcSuite をインストールするときに指定した、「サービス起動ユーザー」で実行できること
- ・ Windows サービスから実行できること

### ■ コマンドで指定する引数

次の条件をすべて満たすコマンドインターフェイスで、呼び出しが可能なexe、およびbatコマンドの必要があります。

- ・ 入力ファイルのパスを、引数で指定できること
- ・ 出力ファイルのパスを、引数で指定できること
- ・ 入力ファイルのパス、出力ファイルのパス以外の引数は、固定文字列であること

### ◆ 使用可能なコマンド呼び出し形式の例

次の例は、「pdfconverter.exe」というコマンドを実行したときの記述例です。

例1、例3は、入力ファイルおよび出力ファイルのパスが、引数で指定されている例です。

また、例2は固定文字列が指定されているコマンドの例です。

例1：オプション文字列に続いて入出力ファイル名を指定する形式

```
pdfconverter.exe -i input.doc -o output.pdf
```

例2：入出力ファイル名以外のオプションを固定文字列で指定する形式

```
pdfconverter.exe -i input.doc -o output.pdf -dpi 300
```

例3：固定の順番の引数で入出力ファイル名を指定する形式

```
pdfconverter.exe input.doc output.pdf
```

### ■ エラー発生時のコマンドの処理

次の条件のどちらかを満たす必要があります。

- ・ 正常終了時の戻り値が 0 で、エラー発生時の終了コードが 0 以外である
- ・ エラーが発生したデータをそのまま使用されないために、エラー発生時には出力ファイルにデータが出力されない

- 補足**
- ・ 使用する外部のコンバーターは、次の条件をすべて満たしていることを推奨します。
  - ・ エラー発生時のエラーメッセージが、ファイルフォーマット変換サービスのシステムログに出力されること
  - ・ 「外部コンバーターにおいてエラーが発生しました。」のあとに続いて、エラーメッセージが出力されること
  - ・ 使用しているコンバーターが、標準エラーにエラーメッセージを出力しない仕様の場合、エラーの内容がファイルフォーマット変換サービスのログは記録されず、エラーの原因が分からないこともあります。
  - ・ ファイルフォーマット変換サービスのシステムログのファイルは、次のフォルダーに作成されます。  
例：C:\%ArcSuite%\Service%\logs%\Transformer%\system  
「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ}」：%ArcSuite」です。

## 11.2.2 外部 PDF コンバーターを使用するための設定

PDF文書に変換できる、外部のコンバーターを使用する場合、次のファイルに設定を記述します。

{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー}¥Service¥conf¥Transformer¥extConvConfig.csv

**補足** 「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} : ¥ArcSuite」です。

### ■ extConvConfig.csv の記述例

CSVファイルの1行めに、パラメーターの文字列を記述し、1行ごとに変換設定を記述します。

次の例の2行めは、

- ・変換を識別する ID (convConfigID) に「1」
- ・変換する文書のフォーマット (inputContentType) に「application/msword」
- ・変換を識別する文字列 (keyword) を指定しない
- ・使用する外部のコンバーターにあわせたコマンド形式 (Command) に、外部のコンバーターの格納先として「c:¥conv¥yacexcmd.exe」、コンバーターのコマンド形式にあわせた引数として「-i \${in} -o \${out} -dpi 300」

3行めは、

- ・変換を識別する ID (convConfigID) に「2」
- ・変換する文書のフォーマット (inputContentType) に「application/vnd.ms-excel」
- ・変換を識別する文字列 (keyword) に「stamp」
- ・使用する外部のコンバーターにあわせたコマンド形式 (Command) に、外部のコンバーターの格納先として「c:¥conv¥yacexcmd.exe」を、コンバーターのコマンド形式にあわせた引数として「c:¥conv¥yacexcmd.exe -i \${in} -o \${out}」を指定した例です。

convConfigID	inputContentType	keyword	command
1	application/msword		c:¥conv¥yacexcmd.exe -i \${in} -o \${out} -dpi 300
2	application/vnd.ms-excel	stamp	c:¥conv¥yacexcmd.exe -i \${in} -o \${out}

図：extConvConfig.csv の記述例

### ■ パラメーター

#### convConfigID

この変換設定を識別するIDを指定する項目です。1~65535の任意の整数を指定します。複数の変換設定で同じIDを指定できません。

#### inputContentType

外部コンバーターを使用して、変換を行う入力文書のコンテンツタイプを指定する項目です。

[\[11.2 ファイル変換ソフトウェアを使用するための設定 | \(P.141\)\]](#) のコンテンツタイプのどれかを指定します。

#### keyword

変換設定の用途を表すキーワードを付与する場合に指定する項目です。64バイト以内の任意の文字列を指定します。本変換設定の用途を限定しない場合は空を指定します。

この項目を指定することで、1つのコンテンツタイプに対し、用途に応じた複数の変換設定を定義できます。

指定したキーワードは、ドキュメント管理サービスのスタンプおよびコンテンツラベル設定で設定できます。スタンプおよびコンテンツラベル設定で、キーワードを指定すると、変換設定を使い分けることができます。

**参照** スタンプおよびコンテンツラベル設定については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

なお、次表のデフォルトで定義されているキーワードは指定できません。

表：デフォルトで定義されているキーワード

キーワード	説明
view	ビュー画像作成時に使用する変換定義のためのキーワード
scrap	部分画像作成時に使用する変換定義のためのキーワード
print	プリント画像作成時に使用する変換定義のためのキーワード
nail	すべてのページサムネイル画像作成時に使用する変換定義のためのキーワード
topNail	先頭ページサムネイル画像作成時に使用する変換定義のためのキーワード
TempTIFF	ファイルフォーマット変換サービスが内部で使用する一時ファイル作成用のキーワード

## command

使用する外部のコンバーターのコマンド形式にあわせて、パラメーターを指定します。

ただし、使用するコマンドに関係なく、次の指定をする必要があります。

- ・ 入力するファイルのファイル名（記述例では「-i  $\{in\}$ 」）
- ・ 変換されたファイルのファイル名（記述例では「-o  $\{out\}$ 」）

**注記** ・ ファイル名を指定するとき、ファイルのフルパスを「」（ダブルクォーテーション）で囲まないでください。

例：c:\%conv%pdfconvertercmd.bat

- ・ 「 $\{in\}$ 」、「 $\{out\}$ 」を、そのまま固定文字列として記述しないでください。

## ■ サービスの再起動

サービス起動時に設定の読み込みを行うため、設定を変更した場合はサービスの再起動が必要です。

**参照** [\[2.4.2 設定を反映する\] \(P.52\)](#) を参照してください。

## ■ エラー

次の場合、ファイルフォーマット変換サービスのシステムログにエラーを記録したときに、エラー終了します。

- ・ inputContentType と keyword の組み合わせが同じ変換設定が複数存在している場合
- ・ convConfigID が同じ変換設定が複数存在している場合
- ・ keyword に 64 バイト以上の文字列を指定している場合
- ・ keyword にデフォルトで定義されているキーワードを指定している場合
- ・ inputContentType に [\[11.2 ファイル変換ソフトウェアを使用するための設定\] \(P.141\)](#) に記載のコンテンツタイプ以外を指定している場合
- ・ コマンド文字列に  $\{in\}$ 、 $\{out\}$  が含まれていない、または複数存在している場合

**補足** ・ ファイルフォーマット変換サービスのシステムログのファイルは、次のフォルダーにあります。  
「 $\{ArcSuite\}$  のユーザーホームのフォルダー」  $\{Service\}logs\{Transformer\}system$ 」

例：C:\%ArcSuite%\Service%logs%Transformer%system

- ・ 「 $\{ArcSuite\}$  のユーザーホームのフォルダー」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「 $\{ドライブ\}$ 」： $\{ArcSuite\}$ 」です。



# 12 バックアップ

バックアップについて説明しています。

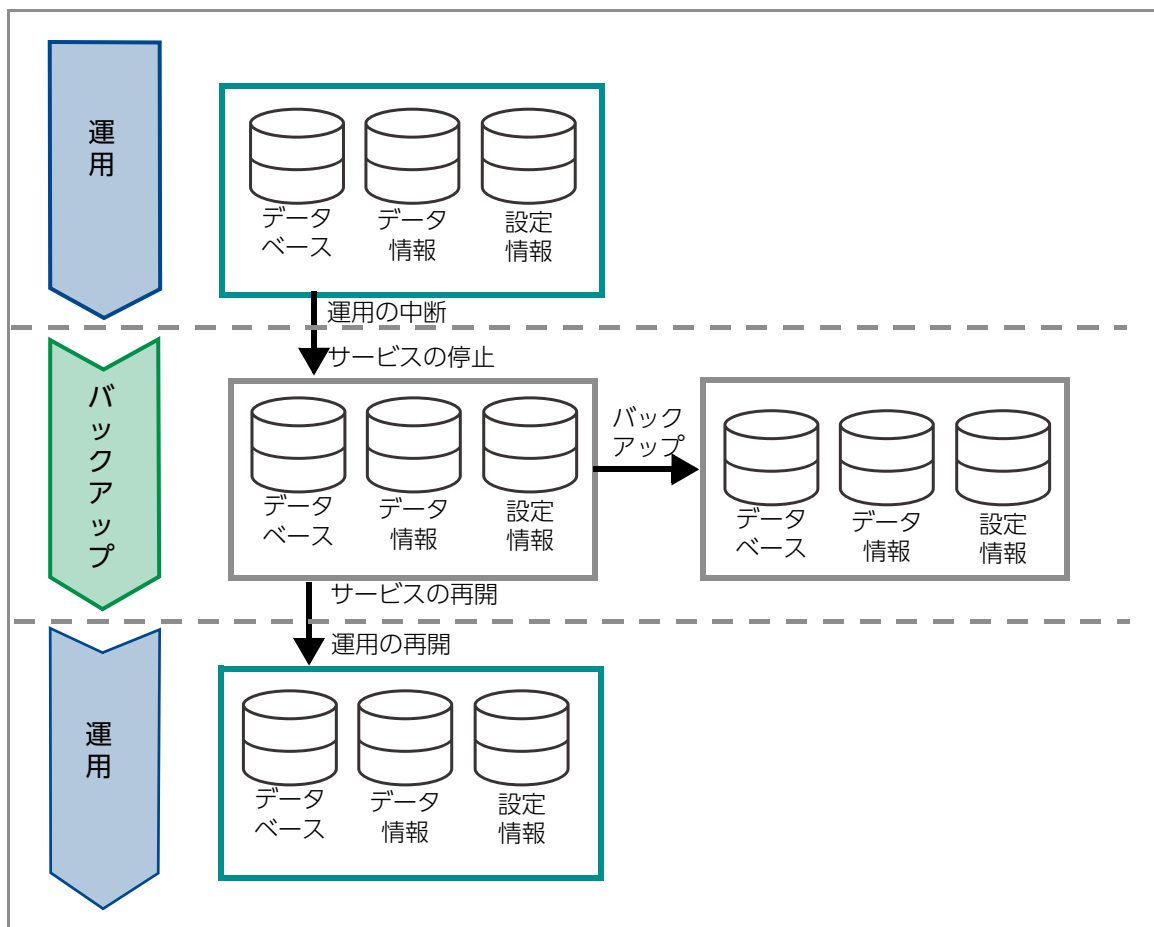
## 12.1 バックアップの種類

ArcSuiteの運用を開始してから、定期的にデータをバックアップします。

- ・ [オフラインバックアップ](#)
- ・ [オンラインバックアップ](#)
- ・ [キャビネットのバックアップ](#)

### オフラインバックアップ

サーバーにインストールされているArcSuiteのサービスを、すべて停止したあと、バックアップを実行します。

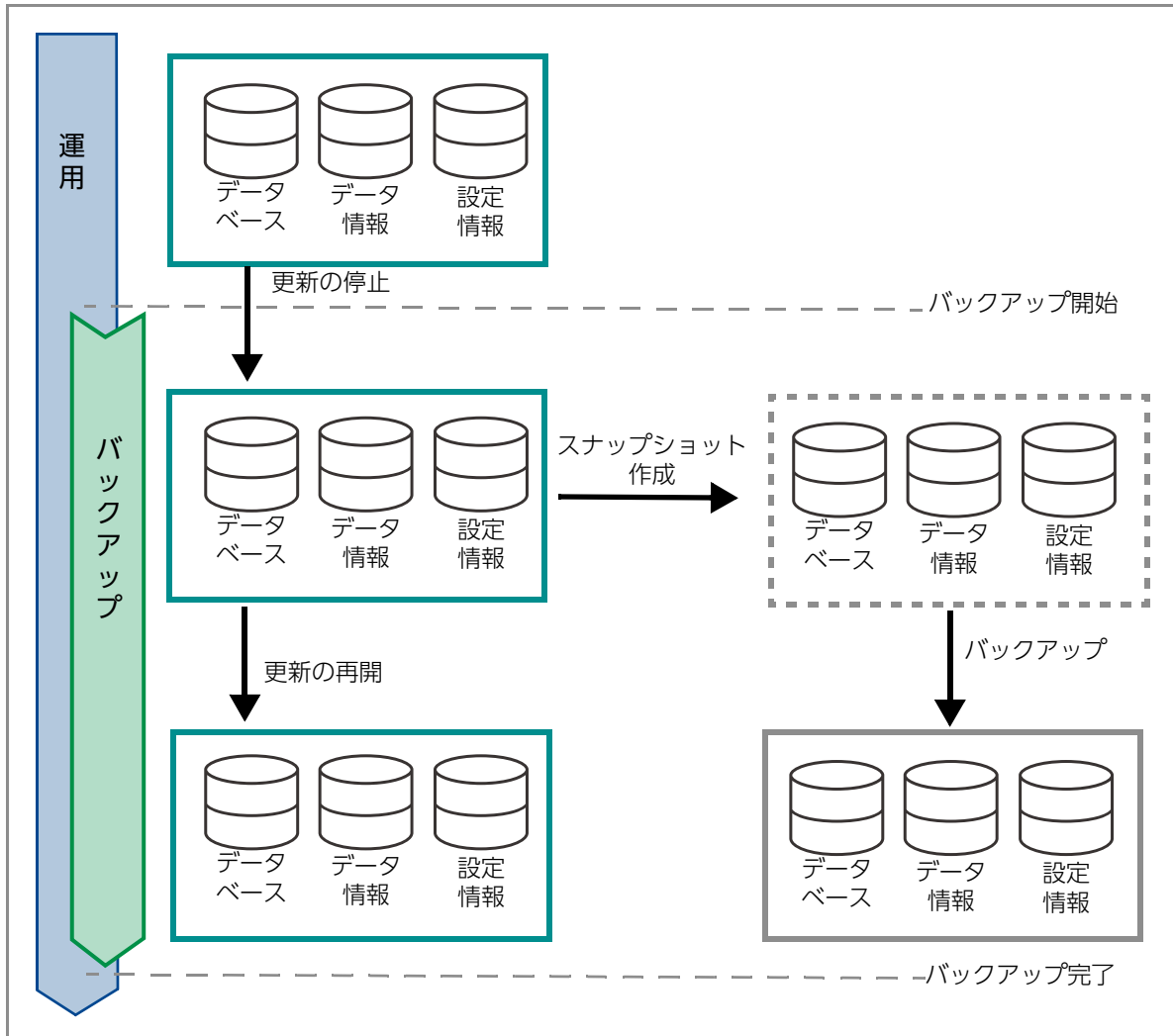


図：オフラインバックアップ

参照 『オフラインバックアップ・リストア運用ガイド』

## オンラインバックアップ

オンラインバックアップでは、ArcSuiteの運用を、参照だけが可能な状態（更新の停止）にして、その間に「スナップショット」を作成します。ArcSuiteの運用を再開（更新の再開）したあと、スナップショットからバックアップデータを作成します。

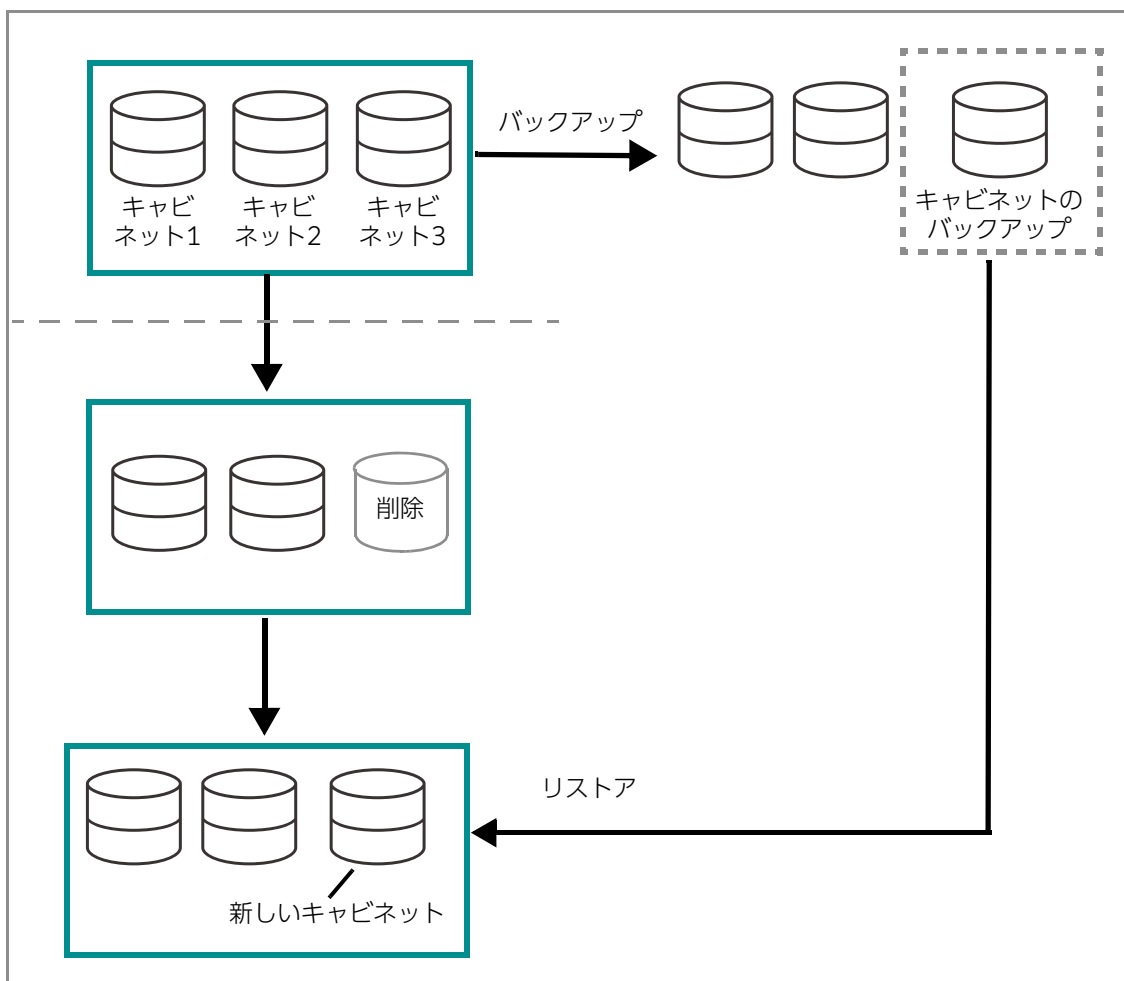


図：オンラインバックアップ

参照 『オンラインバックアップ・リストア運用ガイド』


## キャビネットのバックアップ

特定のキャビネットで障害が発生したときに、キャビネットを新しく作成して、データをそのまま使うときに使用します。キャビネットのバックアップは、ドキュメント管理サービス管理コマンドを実行します。ドローワーの情報、検索のインデックス、およびログはバックアップされません。ドローワーに指定したWindowsのフォルダーをバックアップする必要があります。



図：キャビネットのバックアップ

参照 『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』



# 13 各コンポーネントの管理

各コンポーネントの管理について説明しています。

## 13.1 サービスの起動と停止

ArcSuiteのサービスを起動する順序、および停止する順序について説明します。

### 13.1.1 サービスを起動する

ArcSuiteのサーバーでサービスを起動します。

使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを起動します。

- 注記**
- ・各サービスは、決められた順序で起動してください。
  - ・次のサービスは、手動で起動しないでください。
    - OracleVssWriter {SID}
    - OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
    - OracleRemExecServiceV2
    - OracleJobScheduler {SID}

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。  
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。
  - (1) OracleOraDB19Home1TNSListener
  - (2) OracleService {SID}
  - (3) DocuWorks Print Service
  - (4) Fx Doc Cnv Helper
  - (5) ArcSuite Basic Service
  - (6) ArcSuite Full Text Search Service
  - (7) ArcSuite kSearchDuo Service
  - (8) ArcSuite Repository Master Admin Service
  - (9) ArcSuite Repository Service
  - (10) ArcSuite Collabo Service
  - (11) ArcSuite Web Application Service
  - (12) ArcSuite Monitoring Service
  - (13) World Wide Web Publishing Service
  - (14) ArcSuite Capturing Service
  - (15) ArcSuite Capturing Service Admin
  - (16) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
  - (17) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
  - (18) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy

**補足** {SID} は、データベースをインストールしたときに、[データベースのサーバー情報] 画面で「グローバルデータベース名」に入力した値から、最初の「.」（ピリオド）までの値です。「.」（ピリオド）が

ない場合は、入力したグローバルデータベース名そのまま表示されます。  
たとえば、「server1.example.com」と入力すると、{SID} には「SERVER1」と表示されます。

## 13.1.2 サービスを停止する

ArcSuiteのサーバーでサービスを停止します。

使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを停止します。

**注記** 各サービスは決められた順序で停止する必要があります。

- 1.** ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
- 2.** Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。  
[サービス] 画面が表示されます。
- 3.** サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。
  - (1) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy
  - (2) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
  - (3) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
  - (4) ArcSuite Capturing Service Admin
  - (5) ArcSuite Capturing Service
  - (6) World Wide Web Publishing Service
  - (7) ArcSuite Monitoring Service
  - (8) ArcSuite Web Application Service
  - (9) ArcSuite Collabo Service
  - (10) ArcSuite Repository Service
  - (11) ArcSuite Repository Master Admin Service
  - (12) ArcSuite kSearchDuo Service
  - (13) ArcSuite Full Text Search Service
  - (14) ArcSuite Basic Service
  - (15) Fx Doc Cnv Helper
  - (16) DocuWorks Print Service
  - (17) OracleService {SID}
  - (18) OracleOraDB19Home1TNSListener

**補足** {SID} は、データベースをインストールしたときに、[データベースのサーバー情報] 画面で「グローバルデータベース名」に入力した値から、最初の「.」（ピリオド）までの値です。「.」（ピリオド）がない場合は、入力したグローバルデータベース名そのまま表示されます。  
たとえば、「server1.example.com」と入力すると、{SID} には「SERVER1」と表示されます。

## 13.2 ドキュメント管理サービスの管理

ドキュメント管理サービスの日常の管理について説明します。

### 13.2.1 日常の管理の概要

ドキュメント管理サービスの日常の管理について、説明します。サーバーまたはサービスは、サービス管理者が管理します。キャビネットおよびドロワーは、サービス管理者またはキャビネット管理者が管理します。

#### ログの確認

ドキュメント管理サービスで障害が発生したときは、ログを確認します。

**参照** [\[10 ログの管理\] \(P.120\)](#)

#### 表領域の確認

##### ◆ 表領域の使用率の確認

キャビネット、操作ログ、またはスタンプの情報を格納する表領域の使用率を、定期的に確認します。また、ログイン管理サーバーアプリケーションで認証ログを使用する場合、認証ログの表領域を定期的に確認します。

操作ログを記録する表領域の使用率が100%になるとArcSuiteのサービスが停止してしまうことがあります。不要になった操作ログはエクスポートし、ほかのドライブに移動したり削除したりします。

**注記** 操作ログを削除することで、実際に使用している表領域は減りますが、使用量、使用率として表示される値は減りません。

これらの値は、これまでの最大使用量、使用率に相当し、現時点で実際に使用しているサイズを表していないので注意してください。

##### ◆ データファイルを格納するドライブの空き容量の確認

表領域のデータファイルを追加したり拡張したりして使用率を下げる場合、データファイルを格納するドライブに十分な空き容量があるかを、事前に確認しておきます。

#### スケジューラーの設定

##### ◆ 検索インデックスの更新および最適化

全文検索を使用している場合、登録されたオブジェクトについて全文検索インデックスを作成するために、検索インデックスの更新および最適化を実行するスケジュールを設定します。コマンドなどを使用してオブジェクトを一括で登録したり、更新したりする処理と重複しないように、スケジューラーを設定してください。処理が遅くなることがあります。

関連文書検索を使用している場合は、関連文書検索について、検索インデックスの更新および最適化を実行するスケジュールを設定します。オブジェクトを削除したり移動したりしたときに残る内部データを削除します。また、ArcSuiteのサービスを強制的に停止させたときに残る内部データを削除します。

##### ◆ 不要なコンテンツ関連データまたはトランザクションデータの削除

**参照** 操作については、次のマニュアルまたはヘルプを参照してください。

- ・『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』
- ・『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』
- ・『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版のヘルプ』



## 13.3 ドキュメントスペースの管理

ドキュメントスペースの日常の管理について説明します。

### 13.3.1 日常の管理の概要

ドキュメントスペースの日常の管理について、説明します。

#### ログの確認

ドキュメントスペースで障害が発生したときは、ログを確認します。

**参照** [\[10 ログの管理\] \(P.120\)](#)

#### ログのレベルの設定

障害の調査などで必要なときに、ログのレベルを変更します。[DEBUG] または [ALL] レベルに設定すると、ログを記録する処理のために日常の操作に影響することがあります。必要なとき以外は設定を変更しません。

#### 設定の変更

##### ◆ 属性テンプレートの追加または変更

運用に合わせて、属性テンプレートを追加したり、変更したりします。また、ヒント情報を設定したりします。

##### ◆ 表示の設定

ドキュメント一覧に表示する属性またはソート条件を設定できます。

##### ◆ 簡易検索の設定

簡易検索メニューで属性検索または全文検索を実行するか、どちらかの検索だけを実行するかなど、検索について設定できます。

##### ◆ セッションのタイムアウト時間の変更

セッションのタイムアウトが表示されてしまう運用の場合は、時間を延長します。

##### ◆ フォーマットの設定の変更

インデックス画像、部分画像、プリント画像、トップネイル画像、またはサムネイル画像が必要なフォーマットが増えた場合は、フォーマットの設定をします。

##### ◆ ダウンロードの設定

ダウンロードするときの圧縮形式およびファイル名を設定できます。

##### ◆ ファイルのサイズの変更

ドキュメントスペースに登録するときに、登録できるデータのサイズを超えている場合は、変更します。

##### ◆ 存在しないユーザーの設定情報の削除

削除されたユーザーの設定情報を削除します。ユーザーが削除される運用の場合は、定期的に行います。

**参照** 『ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ』

##### ◆ ユーザー定義操作の作成

ドキュメントスペースのオブジェクトの情報を、連携するアプリケーションで利用できます。運用に合わせて、設定します。

**参照** [\[13.3.2 ユーザー定義操作\] \(P.154\)](#)

## 13.3.2 ユーザー定義操作

ドキュメントスペースのオブジェクトの情報を、外部URLのパラメーターとして呼び出すことで、ドキュメントスペース以外のアプリケーションと連携できます。

ユーザー定義操作で定義できる内容および定義方法について説明します。

### ユーザー定義操作の設定

ユーザー定義操作を設定するには、次のXMLファイルを編集する必要があります。

新規にユーザー定義操作を設定する場合、次のファイルパスになるように、XMLファイルを作成します。

```
{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} %Service%conf%DocumentSpace%operationConfig.xml
```

ファイルを編集したあと、[\[2.4.2 設定を反映する\] \(P.52\)](#) の手順に従って、サービスを再起動することで設定が反映されます。ただし、再起動しない場合、ドキュメントスペース管理アプリケーションから「設定の反映」の通知を受けたときにユーザー定義操作設定のキャッシュを更新し、最新の設定が反映されます。

設定ファイル中に適切でない記述がありキャッシュを更新したときエラーが発生した場合、識別子 [UPDATE\_SETTINGS] としてそのエラー内容をシステムログに記録します。

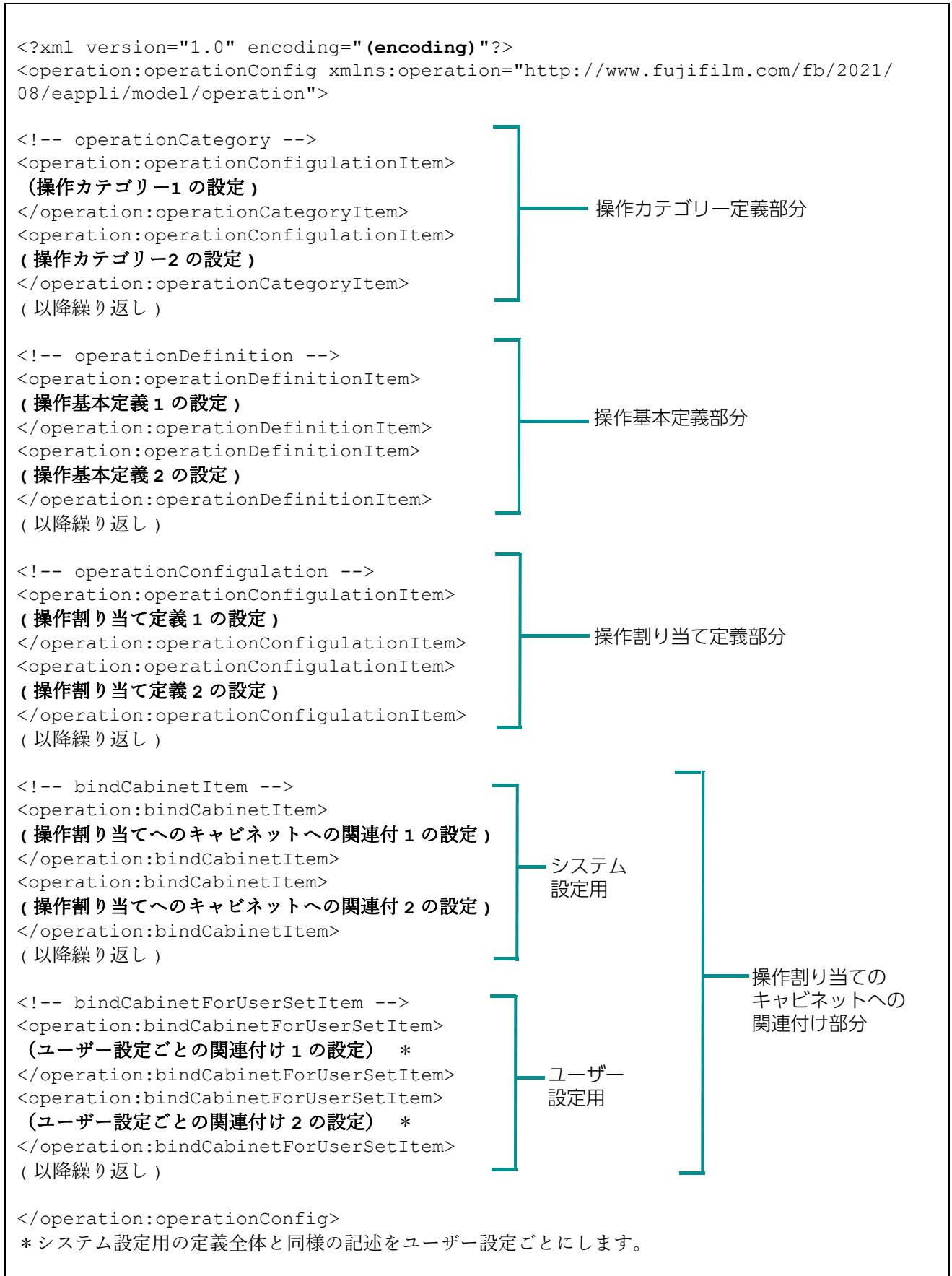
キャッシュ更新でエラーが発生した場合は、ユーザー定義操作を設定していない場合と同様の状態になります。

- 補足**
- ・「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} : %ArcSuite」です。
  - ・ユーザー定義操作の設定に誤りがあったときに記録されるシステムログのファイルは、次のフォルダーにあります。  
「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー} %Service%logs%DocumentSpace%WebApp%system」フォルダー  
例 : C:%ArcSuite%Service%logs%DocumentSpace%WebApp%system

設定項目には、大きく分けて次の4項目があります。

- ・ [操作カテゴリー定義](#)  
ユーザー定義操作が所属する操作カテゴリーを定義する項目です。操作一覧表示時はこのカテゴリーごとに分類されてユーザー定義操作が表示されます。
- ・ [操作基本定義](#)  
操作名、所属する操作カテゴリー、実行する機能、実行できるオブジェクトタイプなど、ユーザー定義操作の基本的な設定を定義する項目です。
- ・ [操作割り当て定義 \(操作カスタマイズ設定\)](#)  
アイコンやメニューへの割り当て、禁止操作への追加などユーザー定義操作のカスタマイズ設定を定義する項目です。ドキュメントスペース管理アプリケーションでの操作カスタマイズ設定のようなものです。操作割り当て定義を多数定義しておき、ユーザー設定やキャビネットごとに操作割り当て定義を使い分けるといように定義できます。
- ・ [操作割り当てへのキャビネット関連付け](#)  
どの操作割り当て定義をどのキャビネットが使用するかの設定を定義する項目です。システム設定用の定義、およびユーザー設定ごとに定義できます。

設定ファイルの概要は、次のとおりです。



また、設定ファイルのxmlヘッダーの「(encoding)」に使用するエンコードを表す値を指定します。エンコードの種類はUTF-8を推奨します。

それぞれ設定項目の詳細は、次のとおりです。

## 操作カテゴリー定義

ユーザー定義操作が属する操作カテゴリーを定義する項目です。

<!-- operationCategory -->と<!-- operationDefinition -->の間に次のような記述を追加します。

```
<operation:operationCategoryItem>
  <operation:categoryName {操作カテゴリー識別名} </operation:categoryName>
  <operation:localizedCategoryName locale=" {ロケール名} "> {表示名} </operation:
localizedCategoryName>
</operation:operationCategoryItem>
```

タグの詳細は、次のとおりです。

タグ	説明
<operation:operationCategoryItem>	ユーザー定義操作の操作カテゴリー定義を記述するための項目です。カテゴリー 1 つにつき 1 つのタグを記述します。
<operation:categoryName> {操作カテゴリー識別名}	この操作カテゴリーを識別するための名前を記述する項目です。「 {操作カテゴリー識別名} 」にこの操作カテゴリーを識別するための名前を指定します。 タグは 1 つだけ記述できます。必ず記述します。 半角英数字 (a~z、A~Z、0~9) だけ使用できます。
<operation:localizedCategoryName locale=" {ロケール名} "> {表示名}	このカテゴリーを画面上に表示するときの文字列を記述する項目です。「 {表示名} 」に、「 {ロケール名} 」に対応する表示用の文字列 (任意) を記述します。

「 {ロケール名} 」には、定義対象のロケールを記述します。指定できる値は、次のとおりです。

- ・ 日本語の場合、ja
- ・ 英語の場合、en

**注記** ライセンスのない言語は指定できません。

属性 locale は省略できます。ユーザーのロケールに対応する表示文字列を取得できない場合、およびロケールを判定できない場合に使用されます。

「 {ロケール名} 」が ja または en の場合、言語ごとに 1 つのタグを記述します。ただし、ja または en の場合は、省略できます。

例は、次のとおりです。

- ・ 操作カテゴリー識別名 : categoryUserOperation
- ・ 表示名 (標準) : userOperation
- ・ 表示名 (日本語) : ユーザー操作
- ・ 表示名 (英語) : userOperation

この場合は、次のように記述します。

```
<operation:operationCategoryItem>
  <operation:categoryName>categoryUserOperation</operation:categoryName>
  <operation:localizedCategoryName>userOperation</
operation:localizedCategoryName>
  <operation:localizedCategoryName locale="ja">ユーザー操作 </
operation:localized
  CategoryName>
  <operation:localizedCategoryName locale="en">userOperation</
operation:localized
  CategoryName>
</operation:operationCategoryItem>
```

## 操作基本定義

ユーザー定義操作の基本的な設定項目を定義する項目です。

<!-- operationDefinition -->と<!-- operationConfiguration -->の間に次のような記述を追加します。

```
<operation:operationDefinitionItem>
<operation:operationName> {操作識別名} </operation:operationName>
  <operation:categoryName> {操作カテゴリー識別名} </operation:categoryName>
  <operation:localizedName locale=" {ロケール名} "> {通常表示名} </
operation:localizedName>
  <operation:localizedShortName locale=" {ロケール名} "> {短い表示名}
</operation:localizedShortName>
  <operation:isDocumentTarget> {ドキュメント操作可否} </
operation:isDocumentTarget>
  <operation:isFolderTarget> {フォルダー操作可否} </operation:isFolderTarget>
  <operation:isDocumentReferenceTarget> {ドキュメントリファレンス操作可否}
</operation:isDocumentReferenceTarget>
  <operation:isFolderReferenceTarget> {フォルダーリファレンス操作可否}
</operation:isFolderReferenceTarget>
  <operation:isClassificationFolderTarget> {分類フォルダー操作可否}
</operation:isClassificationFolderTarget>
  <operation:isClassificationViewTarget> {分類ビュー操作可否} </
operation:isClassificationViewTarget>
  <operation:isClassificationFolderReferenceTarget> {分類フォルダーリファレンス操作
可否}
</operation:isClassificationFolderReferenceTarget>
  <operation:isClassificationViewReferenceTarget> {分類ビューリファレンス操作可否}
</operation:isClassificationViewReferenceTarget>
  <operation:optionalConfig>
    <operation:icon> {操作アイコン識別名} </operation:icon>
    <operation:uriRequest uri=" {リクエスト URL} " method=" {リクエストタイプ} "
charset=" {文字セット} ">
      <operation:param key=" {リクエストパラメーターのキー} " value=" {リクエスト
パラメーターの値} "/>
    </operation:uriRequest>
  </operation:optionalConfig>
</operation:operationDefinitionItem>
```

タグの詳細は、次のとおりです。

タグ	説明
<operation:operationDefinitionItem>	ユーザー定義操作の基本定義を記述するための項目です。操作1つにつき、1つのタグを記述します。
<operation:operationName> {操作識別名}	この操作を識別するための名前を記述するための項目です。「{操作識別名}」にこの操作を識別するための名前を指定します。 タグは1つだけ記述できます。必ず記述します。 半角英数字 (a~z、A~Z、0~9) だけ使用できます。
<operation:categoryName> {操作カテゴリ識別名}	この操作が所属する操作カテゴリの識別名を記述します。「{操作カテゴリ識別名}」に、操作カテゴリ定義で定義済みの操作カテゴリ識別名を記述します。 タグは1つだけ記述できます。必ず記述します。
<operation:localizedName locale="{ロケール名}"> {通常表示名}	この操作を画面上に表示するときの標準の文字列を記述します。「{通常表示名}」に、「{ロケール名}」に対応する表示用の文字列 (任意) を記述します。 <b>参照</b> 「{ロケール名}」の記述方法は、<operation:localizedCategoryName>と同様です。 <a href="#">[操作カテゴリ定義] (P.156)</a> を参照してください。
<operation:localizedShortName locale="{ロケール名}"> {短い表示名}	この操作を画面上に表示するときの標準の短い文字列を記述します。{短い表示名} に、{ロケール名} に対応する表示用の文字列 (任意) を記述します。 <b>参照</b> 「{ロケール名}」の記述方法は、<operation:localizedCategoryName>と同様です。 <a href="#">[操作カテゴリ定義] (P.156)</a> を参照してください。
<operation:isDocumentTarget> {ドキュメント操作可否}	この操作がドキュメントに対して実行できる操作かどうかを記述します。「{ドキュメント操作可否}」に値を記述します。実行できる場合はtrue、実行できない場合はfalseを記述します。実行できる場合、操作割り当て定義の設定にかかわらず、ドキュメントの操作一覧に表示されます (ただし禁止操作を別途設定した場合は除く)。
<operation:isFolderTarget> {フォルダー操作可否}	この操作がフォルダーに対して実行できる操作かどうかを記述します。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:isDocumentTarget>と同様です。 <operation:isDocumentTarget>を参照してください。
<operation:isDocumentReferenceTarget> {ドキュメントリファレンス操作可否}	この操作がドキュメントリファレンスに対して実行できる操作かどうかを記述します。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:isDocumentTarget>と同様です。 <operation:isDocumentTarget>を参照してください。
<operation:isFolderReferenceTarget> {フォルダーリファレンス操作可否}	この操作がフォルダーリファレンスに対して実行できる操作かどうかを記述します。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:isDocumentTarget>と同様です。 <operation:isDocumentTarget>を参照してください。

タグ	説明	
<operation:isClassificationFolderTarget> {分類フォルダー操作可否}	<p>この操作が分類フォルダーに対して実行できる操作かどうかを記述します。</p> <p><b>参照</b> 記述できる値については、&lt;operation:isDocumentTarget&gt;と同様です。&lt;operation:isDocumentTarget&gt;を参照してください。</p>	
<operation:isClassificationViewTarget> {分類ビュー操作可否}	<p>この操作が分類ビューに対して実行できる操作かどうかを記述します。</p> <p><b>参照</b> 記述できる値については、&lt;operation:isDocumentTarget&gt;と同様です。&lt;operation:isDocumentTarget&gt;を参照してください。</p>	
<operation:isClassificationFolderReferenceTarget> {分類フォルダーリファレンス操作可否}	<p>この操作が分類フォルダーリファレンスに対して実行できる操作かどうかを記述します。</p>	
<operation:isClassificationViewReferenceTarget> {分類ビューリファレンス操作可否}	<p>この操作が分類ビューリファレンスに対して実行できる操作かどうかを記述します。</p>	
<operation:optionalConfig>	<p>この操作のその他の設定を定義するための項目です。タグは1つだけ記述できます。省略できません。</p>	
<operation:icon> {操作アイコン識別名}	<p>画面上に表示される操作アイコンを指定するキーワードを指定するための項目です。</p> <p>「{操作アイコン識別名}」には、ユーザー操作用のアイコン識別名を1つ、指定します。</p> <p>指定できる操作アイコン識別名は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ user_operation_1</li> <li>・ user_operation_2</li> <li>・ user_operation_3</li> <li>・ user_operation_4</li> <li>・ user_operation_5</li> <li>・ user_operation_6</li> <li>・ user_operation_7</li> <li>・ user_operation_8</li> <li>・ user_operation_9</li> <li>・ user_operation_10</li> </ul> <p>1つだけ記述できます。省略できます。指定した場合は、対応するアイコンが使用されます。省略した場合は、短い表示名が内部に表示されたアイコンが使用されます。</p>	
<operation:uriRequest uri= {リクエストURL} method= {POST or GET} charset= {文字セット} localize= {表示文字列への変更有無} >	<p>URLを呼び出す操作で、呼び出す方法を定義するための項目です。</p> <p>タグは1つだけ記述できます。省略できません。</p>	
	属性「uri」	http://またはhttps://で始まるリクエストURLです。(必須)
	属性「method」	サーバーにデータを送る形式をGETまたはPOSTで指定します。(省略可。省略時はGET)

タグ		説明
	属性 [charset]	<p>呼び出すURLの文字エンコーディングを指定するための項目です。使用できるエンコーディングについてはJavaの仕様 (<a href="https://docs.oracle.com/javase/jp/7/api/java/nio/charset/Charset.html">https://docs.oracle.com/javase/jp/7/api/java/nio/charset/Charset.html</a>) に従うものとします (省略可。省略時は「Windows-31J」文字セットを使用)。</p> <p><b>注記</b> 文字セットを指定する場合、そのエンコードの違いによって文字化けなどの現象 (機種依存文字や、「文字セット &lt;-&gt; Unicode &lt;-&gt; 文字セット」によるマッピングミス) が発生することがあります。 機種依存文字や特殊記号を使用する場合は注意が必要です。</p>
	属性 [localize]	<p>表示文字列を持つ属性の値を出力するときに、その表示文字列を返すか否かを指定するための項目です。trueまたはfalseを指定します。</p> <p>属性localizeが省略された場合、trueが指定されたものとみなします。ここで表示文字列を持つ属性とは「プリンシパル型」、「ユーザーロール型」、または「アトム型」は、次のとおりです。</p> <p><b>注記</b> 属性 [localize] の値をfalseに設定して出力された「プリンシパル型」、「ユーザーロール型」、または「アトム型」の属性値は、多値属性の区切り文字である「, (コンマ)」を「¥, (エスケープ、コンマ)」に置き換えます。</p>
<operation:param key= {リクエストパラメーターのキー} value= {リクエストパラメーターの値}		URLリクエストのパラメーター群を指定するための項目です。複数のタグが記述できます。省略できます。
	属性 [key]	リクエストパラメーターのキー文字列です (必須)。
	属性 [value]	<p>リクエストパラメーターの値となる文字列です (必須)。</p> <p>値を「\${}」中に記述した場合は属性名を指定したものとし、リクエストパラメーターの値には、該当オブジェクトの属性値が入ります。</p> <p>URI属性はラベルだけが表示されます。不明な属性または値が設定されていない属性が指定された場合、値に空文字列が表示されます。値を文字列の中に指定することもできます。たとえば、value="name:\${system:name}"と指定した場合、name:&lt;システム属性「名前属性」の値&gt;が取得できます。</p> <p>「\${user}」または「\${locale}」を指定した場合、それぞれアクセスしているユーザーのDNおよびロケール文字列が入ります。</p> <p><b>注記</b> 「\${user}」を指定した場合、ユーザーのDNは「¥ (円)」を使用してエスケープする必要はありません。</p>

指定したパラメーターは、リクエストURLの最後に付加されてURL呼び出しが実行されます。

例は、次のとおりです。

- ・ 操作識別名：documentOperation1
- ・ 操作カテゴリ：categoryUserOperation
- ・ 通常表示名 (標準)：userDefineDocumentOperation1
- ・ 通常表示名 (日本語)：ユーザー定義文書操作 1
- ・ 短い表示名 (標準)：documentOperation1



- ・短い表示名（日本語）：文書操作 1
- ・ドキュメント操作可否：できる
- ・ドキュメント以外の操作可否：できない
- ・アイコン：userIcon1
- ・呼び出し先 URL：http://example.com/
- ・呼び出しタイプ：get
- ・呼び出しパラメーター：
  - 名前：key, 値：文字列 value
  - 名前：name, 値：属性：名前属性の値
  - 名前：id, 値：オブジェクト ID

この場合、次のように記述します。

```
<operation:operationDefinitionItem>
  <operation:operationName>documentOperation1</operation:operationName>
  <operation:categoryName>categoryUserOperation</operation:categoryName>
  <operation:localizedName>userDefineDocumentOperation1</
operation:localizedName>
  <operation:localizedName locale="ja"> ユーザー定義文書操作 1</
operation:localizedName>
  <operation:localizedShortName>documentOperation1</
operation:localizedShortName>
  <operation:localizedShortName locale="ja"> 文書操作 1</
operation:localizedShortName>
  <operation:isDocumentTarget>true</operation:isDocumentTarget>
  <operation:isFolderTarget>false</operation:isFolderTarget>
  <operation:isDocumentReferenceTarget>true</
operation:isDocumentReferenceTarget>
  <operation:isFolderReferenceTarget>false</operation:isFolderReferenceTarget>
  <operation:isClassificationFolderTarget>false</
operation:isClassificationFolderTarget>
  <operation:isClassificationViewTarget>false</
operation:isClassificationViewTarget>
  <operation:isClassificationFolderReferenceTarget>false</
operation:isClassification
FolderReferenceTarget>
  <operation:isClassificationViewReferenceTarget>false</
operation:isClassification
ViewReferenceTarget>
  <operation:optionalConfig>
    <operation:icon>userIcon1</ operation:icon>
    <operation:uriRequest uri="http://example.com/" method="get">
      <operation:param key="key" value="value" />
      <operation:param key="name" value="{system:name}" />
      <operation:param key="id" value="{id}" />
    </operation:uriRequest>
  </operation:optionalConfig>
</operation:operationDefinitionItem>
```

名前属性：datafile、オブジェクトID：drep\_service:public01:110835808241561

であるドキュメントに対して、ユーザー定義操作を実行した場合、最終的に呼び出されるURLは、次のとおりです。

http://example.com/?key=value&name=datafile&id=drep\_service%3Apublic01%3A110835808241561

## 操作割り当て定義（操作カスタマイズ設定）

各種メニューやアイコン、第一属性へのユーザー定義操作の割り当てを定義する項目です。システム操作での操作カスタマイズ設定に対応する項目です。

<!-- operationConfiguration -->と<!-- bindCabinet -->の間に次のような記述を追加します。

```
<operation:operationConfigurationItem>
  <operation:configurationName> {操作割り当て識別名} </operation:configurationName>
  <operation:attachedOperation>
    <operation:documentIconOperation> {操作識別名} </operation:documentIcon
Operation>
    <operation:documentAttributeOperation> {操作識別名} </operation:document
AttributeOperation>
    <operation:folderIconOperation> {操作識別名} </operation:folderIconOperation>
    <operation:folderAttributeOperation> {操作識別名} </operation:folderAttribute
Operation>
    <operation:documentReferenceIconOperation> {操作識別名} </operation:document
ReferenceIconOperation>
    <operation:documentReferenceAttributeOperation> {操作識別名} </operation:
documentReferenceAttributeOperation>
    <operation:folderReferenceIconOperation> {操作識別名} </operation:folder
ReferenceIconOperation>
    <operation:folderReferenceAttributeOperation> {操作識別名} </operation:folder
ReferenceAttributeOperation>
    <operation:classificationViewIconOperation> {操作識別名} </operation:
classificationViewIconOperation>
    <operation:classificationViewAttributeOperation> {操作識別名} </operation:
classificationViewAttributeOperation>
    <operation:classificationFolderIconOperation> {操作識別名} </operation:
classificationFolderIconOperation>
    <operation:classificationFolderAttributeOperation> {操作識別名} </operation:
classificationFolderAttributeOperation>
    <operation:classificationViewReferenceIconOperation> {操作識別名} </operation:
classificationViewReferenceIconOperation>
    <operation:classificationViewReferenceAttributeOperation> {操作識別名} </
operation:classificationViewReferenceAttributeOperation>
    <operation:classificationFolderReferenceIconOperation> {操作識別名} </
operation:classificationFolderReferenceIconOperation>
    <operation:classificationFolderReferenceAttributeOperation> {操作識別名} </
operation:classificationFolderReferenceAttributeOperation>
  </operation:attachedOperation>
  <operation:singlePreviousAttributeOperationList>
    <operation:singlePreviousOperationName> {操作識別名} </operation:
singlePreviousOperationName>
  </operation:singlePreviousAttributeOperationList>
  <operation:singlePostAttributeOperationList>
    <operation:singlePostOperationName> {操作識別名} </operation:
singlePostOperationName>
  </operation:singlePostAttributeOperationList>
  <operation:customOperationList>
    <operation:customOperationName> {操作識別名} </operation:customOperationName>
  </operation:customOperationList>
  <operation:userInhibitOperationList>
    <operation:userInhibitOperationName> {操作識別名} </operation:userInhibit
OperationName>
  </operation:userInhibitOperationList>
</operation:operationConfigurationItem>
```

タグの詳細は、次のとおりです。

タグ	説明
<operation:operationConfigurationItem>	各種メニューやアイコンなどへのユーザー定義操作の割り当て定義を記述するための項目です。 割り当て1つにつき、1つのタグを記述します。省略できます。
<operation:configurationName> {操作割り当て識別名}	この割り当てを識別する名前を記述するための項目です。「{操作割り当て識別名}」に、この割り当てを識別するための名前を指定します。 タグは1つだけ記述できます。必ず記述します。
<operation:attachedOperation>	アイコンおよび第一属性に対する操作割り当てを記述するための項目です。 タグは1つだけ記述できます。必ず記述します。
<operation:documentIconOperation> {操作識別名}	ドキュメントのアイコンに割り当てる操作を記述するための項目です。「{操作識別名}」には、操作基本定義で定義した操作の操作識別名を指定します。 タグは1つだけ記述できます。省略できます。 記述した場合は、この設定が設定データベースの設定よりも優先されます。 省略した場合は、設定データベースの設定がそのまま使用されます。
<operation:documentAttributeOperation> {操作識別名}	ドキュメントの第一属性に割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentIconOperation>と同様です。<operation:documentIconOperation>を参照してください。
<operation:folderIconOperation> {操作識別名}	フォルダーのアイコンに割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentIconOperation>と同様です。<operation:documentIconOperation>を参照してください。
<operation:folderAttributeOperation> {操作識別名}	フォルダーの第一属性に割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentIconOperation>と同様です。<operation:documentIconOperation>を参照してください。
<operation:documentReferenceIconOperation> {操作識別名}	ドキュメントリファレンスのアイコンに割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentIconOperation>と同様です。<operation:documentIconOperation>を参照してください。
<operation:documentReferenceAttributeOperation> {操作識別名}	ドキュメントリファレンスの第一属性に割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentIconOperation>と同様です。<operation:documentIconOperation>を参照してください。

タグ	説明
<operation:folderReferencelconOperation> {操作識別名}	フォルダーリファレンスのアイコンに割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentlconOperation>と同様です。<operation:documentlconOperation>を参照してください。
<operation:folderReferenceAttributeOperation> {操作識別名}	フォルダーリファレンスの第一属性に割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentlconOperation>と同様です。<operation:documentlconOperation>を参照してください。
<operation:classificationViewlconOperation> {操作識別名}	分類ビューアイコンに割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentlconOperation>と同様です。<operation:documentlconOperation>を参照してください。
<operation:classificationViewAttributeOperation> {操作識別名}	分類ビューの第一属性に割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentlconOperation>と同様です。<operation:documentlconOperation>を参照してください。
<operation:classificationFolderlconOperation> {操作識別名}	分類フォルダーアイコンに割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentlconOperation>と同様です。<operation:documentlconOperation>を参照してください。
<operation:classificationFolderAttributeOperation> {操作識別名}	分類フォルダーの第一属性に割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentlconOperation>と同様です。<operation:documentlconOperation>を参照してください。
<operation:classificationViewReferencelconOperation> {操作識別名}	分類ビューリファレンスアイコンに割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentlconOperation>と同様です。<operation:documentlconOperation>を参照してください。
<operation:classificationViewReferenceAttributeOperation> {操作識別名}	分類ビューリファレンスの第一属性に割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentlconOperation>と同様です。<operation:documentlconOperation>を参照してください。

タグ	説明
<operation:classificationFolderReferenceIconOperation> {操作識別名}	分類フォルダーリファレンスアイコンに割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentIconOperation>と同様です。<operation:documentIconOperation>を参照してください。
<operation:classificationFolderReferenceAttributeOperation> {操作識別名}	分類フォルダーリファレンスの第一属性に割り当てる操作を記述するための項目です <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:documentIconOperation>と同様です。<operation:documentIconOperation>を参照してください。
<operation:singlePreviousAttributeOperationList>	属性前操作メニューに追加で割り当てる操作を記述するための項目です。 タグは1つだけ記述できます。省略できます。 記述した場合は、この設定を設定データベースの設定の最後にマージした結果が使用されます。 省略した場合は、設定データベースの設定がそのまま使用されます。
<operation:singlePreviousOperationName> {操作識別名}	属性前操作メニューに追加する操作の操作識別名を記述するための項目です。 「{操作識別名}」には、操作基本定義で定義した操作の操作識別名を指定します。 メニューへ追加する操作1つにつき、1つのタグを記述します。省略できます。
<operation:singlePostAttributeOperationList>	属性後操作メニューに追加で割り当てる操作を記述するための項目です <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:singlePreviousAttributeOperationList>と同様です。<operation:singlePreviousAttributeOperationList>を参照してください。
<operation:singlePostOperationName> {操作識別名}	属性後操作メニューに追加する操作の操作識別名を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:singlePreviousOperationName>と同様です。<operation:singlePreviousOperationName>を参照してください。
<operation:customOperationList>	カスタム操作メニューに追加で割り当てる操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:singlePreviousAttributeOperationList>と同様です。<operation:singlePreviousAttributeOperationList>を参照してください。
<operation:customOperationName> {操作識別名}	カスタム操作メニューに追加する操作の操作識別名を記述するための項目です。

タグ	説明
<operation:userInhibitOperationList>	禁止操作に追加する操作を記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、<operation:singlePreviousAttributeOperationList>と同様です。 <operation:singlePreviousAttributeOperationList>を参照してください。
<operation:userInhibitOperationName> {操作識別名}	禁止操作に追加する操作の操作識別名を記述するための項目です。この項目に記述したユーザー定義操作は、[操作一覧]メニューにも表示されなくなります。

例は、次のとおりです。

- ・ドキュメントアイコン：操作 documentOperation1 を割り当て
- ・ドキュメント第一属性：操作 documentOperation2 を割り当て
- ・フォルダーアイコン：操作 folderOperation1 を割り当て
- ・フォルダー第一属性：操作 folderOperation1 を割り当て
- ・属性前メニュー：操作 documentOperation1 を追加割り当て
- ・属性後メニュー：操作 documentOperation2 を追加割り当て
- ・カスタム操作メニュー：操作 documentOperation1 と documentOperation2 を追加割り当て
- ・禁止操作設定：操作 documentOperation3 を禁止操作に追加

この場合、次のように記述します。

```
<operation:operationConfigurationItem>
  <operation:configurationName>configuration1</operation:configurationName>
  <operation:attachedOperation>
    <operation:documentIconOperation> documentOperation1</operation:
documentIconOperation>
    <operation:documentAttributeOperation> documentOperation2</operation:
documentAttributeOperation>
    <operation:folderIconOperation>folderOperation1</operation:folderIcon
Operation>
    <operation:folderAttributeOperation>folderOperation1</operation:folder
AttributeOperation>
  </operation:attachedOperation>
  <operation:singlePreviousAttributeOperationList>
    <operation:singlePreviousOperationName>documentOperation1</operation:
singlePreviousOperationName>
  </operation:singlePreviousAttributeOperationList>
  <operation:singlePostAttributeOperationList>
    <operation:singlePostOperationName>documentOperation2</operation:
singlePostOperationName>
  </operation:singlePostAttributeOperationList>
  <operation:customOperationList>
    <operation:customOperationName>documentOperation1</operation:custom
OperationName>
    <operation:customOperationName>documentOperation2</operation:custom
OperationName>
  </operation:customOperationList>
  <operation:userInhibitOperationList>
    <operation:userInhibitOperationName>folderOperation3</operation:
userInhibitOperationName>
  </operation:userInhibitOperationList>
</operation:operationConfigurationItem>
```

## 操作割り当てへのキャビネット関連付け

操作割り当てに対してキャビネットを関連付けるための項目です。さらにシステム設定用の定義とユーザー設定ごとの定義に大別されます。

### ■ システム設定用

<!-- bindCabinetItem -->と<!-- bindCabinetForUserSetItem -->の間に次のような記述を追加します。

```
<operation:bindCabinetItem>
  <operation:configurationName> {操作割り当て識別名} </operation:configurationName>
  <operation:cabinetName> {キャビネット ID} </operation:cabinetName>
</operation:bindCabinetItem>
```

タグの詳細は、次のとおりです。

タグ	説明
<operation:bindCabinetItem>	操作割り当てへのキャビネットの関連付けを記述するための項目です。 操作割り当て1つにつき、1つのタグを記述します。省略できません。 関連付けをした場合は、対象キャビネット上のオブジェクトを操作するときに、関連付けた操作割り当てが反映されます。 関連付けをしていないキャビネットについては、設定データベースの設定がそのまま使用されます。
<operation:configurationName> {操作割り当て識別名}	関連付け対象の操作割り当て識別名を記述する項目です。 「{操作割り当て識別名}」には、操作割り当てで定義した操作割り当ての識別名を指定します。 タグは1つだけ記述できます。必ず記述します。
<operation:cabinetName> {キャビネットID}	関連付けるキャビネットのキャビネットIDを記述する項目です。 「{キャビネットID}」に、キャビネットIDを表す任意の文字列を記述します。 存在しないキャビネットIDを指定した場合、この設定は無視されます。 1つにつき、1つのタグを記述します。省略できます。 defaultを設定するとすべてのキャビネットが設定されます。

例は、次のとおりです。

- ・ 関連付け対象操作割り当て名： configuration1
- ・ 関連付けるキャビネット： drep\_service:public01, drep\_service:public02
- ・ 関連付け対象操作割り当て名： configuration2
- ・ 関連付けるキャビネット： drep\_service:public01, drep\_service:public02 以外のすべて



この場合、次のように記述します。

```
<operation:bindCabinetItem>
  <operation:configurationName>configuration1</operation:configurationName>
  <operation:cabinetName>drep_service:public01</operation:cabinetName>
  <operation:cabinetName>drep_service:public02</operation:cabinetName>
</operation:bindCabinetItem>
<operation:bindCabinetItem>
  <operation:configurationName>configuration2</
operation:configurationName>
  <operation:cabinetName>default</operation:cabinetName>
</operation:bindCabinetItem>
```

## ■ ユーザー設定用

<!-- bindCabinetForUserSetItem -->と</operation:operationConfig>の間に次のような記述を追加します。

```
<operation:bindCabinetForUserSetItem>
  <operation:userSetName> {ユーザー設定識別名} </operation:userSetName>
  <operation:bindCabinetItem>
  .....
  </operation:bindCabinetItem>
</operation:bindCabinetForUserSetItem>
```

タグの詳細は、次のとおりです。

タグ	説明
<operation:bindCabinetForUserSetItem>	ユーザー設定ごとの操作割り当てへのキャビネットの関連付けを記述するための項目です。ユーザー設定1つにつき、1つのタグを記述します。省略できます。 <b>注記</b> 記述をしていないユーザー設定に対しては、 <b>「システム設定用」(P.168)</b> の定義が使用されます。
<operation:userSetName> [ユーザー設定識別名]	設定の対象となるユーザー設定を識別するための名前を記述する項目です。ドキュメントスペース管理アプリケーションでのユーザー設定名を指定します。タグは1つだけ記述できます。必ず記述します。
<operation:bindCabinetItem>	操作割り当てへのキャビネットの関連付けを記述するための項目です。 <b>参照</b> 記述できる値については、 <b>「システム設定用」(P.168)</b> の<operation:bindCabinetItem>と同様です。<operation:bindCabinetItem>を参照してください。

例は、次のとおりです。

- ・ ユーザー設定識別名：user1
- ・ 関連付け対象操作割り当て名：configuration1
- ・ 関連付けるキャビネット：drep\_service:public02 以外のすべて
- ・ 関連付け対象操作割り当て名：configuration2
- ・ 関連付けるキャビネット：drep\_service:public02

この場合、次のように記述します。

```
<operation:bindCabinetForUserSetItem>
  <operation:userSetName>user1</operation:userSetName>
  <operation:bindCabinetItem>
    <operation:configurationName>configuration1</operation:configurationName>
    <operation:cabinetName>default</operation:cabinetName>
  </operation:bindCabinetItem>
  <operation:bindCabinetItem>
    <operation:configurationName>configuration2</operation:configurationName>
    <operation:cabinetName>drep_service:public02</operation:cabinetName>
  </operation:bindCabinetItem>
</operation:bindCabinetForUserSetItem>
```

## オブジェクト情報の出力

ユーザー定義操作でオブジェクト情報を出力するためのURLを定義することで、オブジェクトのIDおよび属性情報を、ArcSuiteがインストールされたサーバーに出力できます。

http:// {ArcSuiteサーバー名} /ArcSuite/docspace/csvStore.do

オブジェクト情報の出力は、10個まで定義できます。

出力対象は、オブジェクトのドキュメント、フォルダー、リファレンスです。フォルダーを対象とした場合、そのフォルダーの情報が出力されます。フォルダー内にあるオブジェクトの情報は出力されません。

出力対象のオブジェクトは、ドキュメント一覧で選択できるオブジェクト数まで、同時に出力できます。出力対象以外のオブジェクトが指定されても出力されません。

### ■ 出力先と出力ファイル名

出力先は、ユーザー定義操作の設定で定義します。出力先に、UNCパスまたは相対パスは指定できません。また、「{ArcSuiteをインストールしたフォルダー}」、「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー}」、ドライブ直下は指定できません。

- 補足**
- ・「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。
  - ・「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%ArcSuite」です。

出力されるファイル名は、「ログイン名+日時 (yyyymmddhhMM) +起動してからの連番」となります。

例：userA\_201903011925\_123.csv

出力先にすでに同名のファイルがある場合は、エラーとなり、出力されません。

### ■ 出力される内容

ユーザー定義操作の設定で指定した出力属性情報が、順番にCSV2形式で出力されます。属性は10個まで設定できます。

出力ファイルの文字エンコーディングには、「Windows-31」を指定できます。出力形式はCSV2形式で、1行に1つずつ、属性情報の値が出力されます。

### ◆ 出力フォーマット

```
{オブジェクト1} {属性情報1} , {オブジェクト1} {属性情報2} , {オブジェクト1} {属性情報3}
{オブジェクト2} {属性情報1} , {オブジェクト2} {属性情報2} , {オブジェクト2} {属性情報3}
```

## ◆ 出力例

オブジェクトを2つ選択し、{属性情報1} に「id」を、{属性情報2} に「名前」を指定した場合の例を次に示します。

```
Server1:PublicCab01:132125482232385, 文書 1
Server1:PublicCab01:138380238338468, 2019 事業所カレンダー
```

## ■ 設定する内容

ユーザー定義操作で設定できるオブジェクト情報の出力設定を次に示します。

表 : オブジェクト情報の出力設定

名前 (パラメーター名)	説明	デフォルト	指定
id	出力対象オブジェクトのIDです。		必須
folder	オブジェクト情報ファイルの出力先フォルダーのパスです。		必須
fileEncoding	出力ファイルのエンコードです。	MS932	
attr1	出力する属性です。 attr1～attr10までを順序通りに出力ファイルに出力します。		必須
attr2～attr10	出力する属性です。 attr1～attr10までを順序通りに出力ファイルに出力します。		
message	オブジェクト情報出力画面に表示するメッセージです。		

ユーザー定義操作の設定ファイルの例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>
<operation:operationConfig xmlns:operation="http://www.fujifilm.com/fb/2021/08/
eappli/model/operation">

<operation:operationCategoryItem>
  <operation:categoryName>category1</operation:categoryName>
  <operation:localizedCategoryName locale="ja">カスタム</operation:localized
CategoryName>
  <operation:localizedCategoryName locale="en">category1</operation:localized
CategoryName>
  <operation:localizedCategoryName>category1</operation:localizedCategoryName>
</operation:operationCategoryItem>

<operation:operationDefinitionItem>
  <operation:operationName>csvExportOperation</operation:operationName>
  <operation:categoryName>category1</operation:categoryName>
  <operation:localizedName locale="ja">オブジェクト情報出力</operation:
localizedName>
  <operation:localizedName>CSV</operation:localizedName>
  <operation:localizedShortName locale="ja">オブジェクト情報出力</operation:
localizedShortName>
  <operation:localizedShortName>CSV</operation:localizedShortName>
  <operation:isDocumentTarget>true</operation:isDocumentTarget>
  <operation:isFolderTarget>true</operation:isFolderTarget>

  <operation:optionalConfig>
    <operation:uriRequest uri="http://<server.name>/ArcSuite/docspace/
csvStore.do" method="post">
      <operation:param key="id" value="{id}" />
      <operation:param key="folder" value="D:\CSV" />
      <operation:param key="attr1" value="{id}" />
      <operation:param key="attr2" value="{system:name}" />
      <operation:param key="message" value="CSVをサーバーの特定の場所に出力しました。"
/>
      <operation:param key="fileEncoding" value="MS932" />
    </operation:uriRequest>
  </operation:optionalConfig>
</operation:operationDefinitionItem>
</operation:operationConfig>
```

## 13.4 表示アプリケーションの管理

---

表示アプリケーションの日常の管理について説明します。

### 13.4.1 日常の管理の概要

---

表示アプリケーションの日常の管理について、説明します。

#### ログの確認

表示アプリケーションで障害が発生したときは、ログを確認します。

**参照** [\[10 ログの管理\] \(P.120\)](#)

#### ログのレベルの設定

障害の調査などで必要なときに、ログのレベルを変更します。[DEBUG] または [ALL] レベルに設定すると、ログを記録する処理のために日常の操作に影響することがあります。必要なとき以外は設定を変更しません。

#### 設定の変更

##### ◆ テンプレートの設定の追加または変更

画像表示の設定を変更したり、設定を追加したりします。また、設定を追加したときは、テンプレートを割り当てるユーザーを設定します。

##### ◆ 参照しない設定情報の削除

ユーザーを削除したときに、不要な設定情報を削除します。

**参照** 『表示アプリケーション管理ツールのヘルプ』

## 13.5 全文検索サービスの管理

全文検索サービスの日常の管理について説明します。

### 13.5.1 日常の管理の概要

全文検索サービスの日常の管理について、説明します。

#### 検索インデックスの管理

##### ◆ ドキュメント管理サービスの設定

登録されたオブジェクトについて、全文検索インデックスを作成するためのスケジュールを設定します。

##### ◆ コラボスペースの設定

タスク、メッセージについて、全文検索インデックスを管理するためのコマンドを実行します。

- 参照**
- ・ドキュメント管理サービスの管理については、次のマニュアルまたはヘルプを参照してください。  
『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』  
『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』
  - ・コラボスペースの管理については、[\[13.9 コラボスペースの管理\] \(P.189\)](#) を参照してください。
  - ・検索の注意制限事項については、[\[13.5.2 検索に関する注意制限事項\] \(P.174\)](#) および、[\[13.5.3 全文検索に登録できる文書の注意制限事項\] \(P.176\)](#) を参照してください。

#### ログの確認

全文検索サービスで障害が発生した場合は、ログを確認します。

- 参照** [\[10 ログの管理\] \(P.120\)](#)

#### シソーラス辞書の確認

シソーラス辞書を使った検索を使用する運用の場合は、シソーラス辞書の作成をします。

- 参照** [\[13.5.4 シソーラス展開\] \(P.176\)](#)

### 13.5.2 検索に関する注意制限事項

全文検索サービスの注意制限事項について説明します。

- 補足** 全文検索サービスを使用しているドキュメント管理サービス、ドキュメントスペース、またはコラボスペースは、ここで説明する内容のほかに、注意制限事項があります。

#### 検索する文字の注意制限事項

検索で使用する文字についての制限事項は、次のとおりです。ただし、ここでの文字コードはUnicodeです。

- ・半角の記号 (¥u0000 ~ ¥u007e から英数字を除いたもの) は、検索できません。
- ・全角の記号 (¥uFF00 ~ ¥uFFEF から英数字を除いたもの) は、検索できます。
- ・英数字は、すべて半角文字として扱われます。
- ・英字はすべて大文字で扱われます。
- ・半角カタカナは、全角カタカナとして扱われます。  
1 バイトのカタカナの濁点または半濁点は、2 バイトで表現できるカタカナだけ有効です。たとえば、1 バイトのカタカナの「ア」に濁点を付けた場合は検索されません。

## ■ 検索語の特殊文字

次の特殊文字を使用した検索について説明します。

### ◆ 「\_ (アンダースコア)」または「? (疑問符)」

任意の1文字を表すワイルドカードです。

たとえば、検索語「cl\_k」(アンダースコア2つ)の場合、「clock」や「clerk」が検索できます。

### ◆ 「% (パーセント)」または「\* (アスタリスク)」

0文字以上の文字列を表すワイルドカードです。

たとえば、検索語「install%」の場合、「install」や「installed」が検索できます。

**参照** ドキュメントスペースでの操作については、『ドキュメントスペースのヘルプ』を参照してください。

## 無効な文字を含むときの検索結果

### ■ 検索語を構成する文字に、有効な文字と無効な文字が含まれている場合

無効な文字は区切り文字になり、検索語は分割されます。また、分割された検索語に英字、数字、マルチバイト文字が混在する場合、さらにそれぞれの文字で分割されます。分割された文字列が1つの場合、その文字列が出現する文書が検索結果になります。分割された文字列が複数の場合、分割された文字列が連続して指定した順序で出現する文書が検索結果になります。

### ■ 検索語を構成する文字が無効な文字だけで構成される場合

無効な文字だけで構成される検索語を「無効な検索語」、有効な文字を含む検索語を「有効な検索語」として次に説明します。

### ◆ AND、OR、NOT の論理演算子によって、有効な検索語と組み合わせられた場合

論理演算子および無効な検索語が検索条件からはずれて、有効な検索語だけを用いた検索結果が取得されます。

たとえば、検索条件『「有効な検索語」(論理演算子)「無効な検索語」』は、検索条件が『「有効な検索語」』として検索されます。

### ◆ 検索条件に無効な検索語だけが指定された場合

検索結果は0件になります。

## シソーラスの単語

スペースを含む単語は登録できません。

**参照** 詳細については、[\[13.5.4 シソーラス展開\] \(P.176\)](#) を参照してください。

## 英単語変化形検索

ワイルドカードなどアルファベット以外の文字を含む検索語は、英単語変化形検索の対象にはならず、その検索語自体で検索されます。

## 13.5.3 全文検索に登録できる文書の注意制限事項

### 対応する文書フォーマット

**参照** 全文検索の文書フォーマットについては、[\[付録 E ArcSuite でサポートするデータフォーマット\] \(P.300\)](#)を参照してください。

### OLE オブジェクトを含む文書

全文検索サービスでは、登録文書に含まれる3階層以内のOLEからのテキスト抽出をします。なお、ここで対象となるOLEは、DocuWorks™文書およびプレーンテキストを除く文書のOLEです。

### DocuWorks 文書の扱いについて

- ・全文検索サービスをインストールするサーバーに DocuWorks 日本語版がインストールされている必要があります。
- ・テキストアノテーションからもテキストが抽出されて、検索対象になります。OLE や日付印内のテキストは検索対象になりません。
- ・OCR テキストも抽出されます。誤認識されている場合も、そのまま検索対象になるため、必要に応じて修正してください。

**注記** 全文検索サービスは、DocuWorks を除く文書のフォーマットからテキストを抽出するのに、アンテナハウス社のテキストフィルターを使用しています。

### パスワードで保護、または暗号化された文書について

文書データに異常がある場合、その文書を作成したアプリケーションでは操作できても、登録できないことがあります。また、パスワードで保護された文書、および暗号化された文書は、テキストが抽出できないため検索対象になりません。

## 13.5.4 シソーラス展開

シソーラス辞書を使った検索について、シソーラス辞書の登録および方法、シソーラス検索の方法について説明します。

### シソーラス展開とは

シソーラス展開とは、キーワードで検索するときに、キーワードの同義語、上位語、または下位語を自動的に加えて広い範囲の文書を検索できる機能です。

シソーラス展開を使うためには、全文検索サービスの管理者が同義語、上位語、および下位語を定義したシソーラス辞書を作成します。

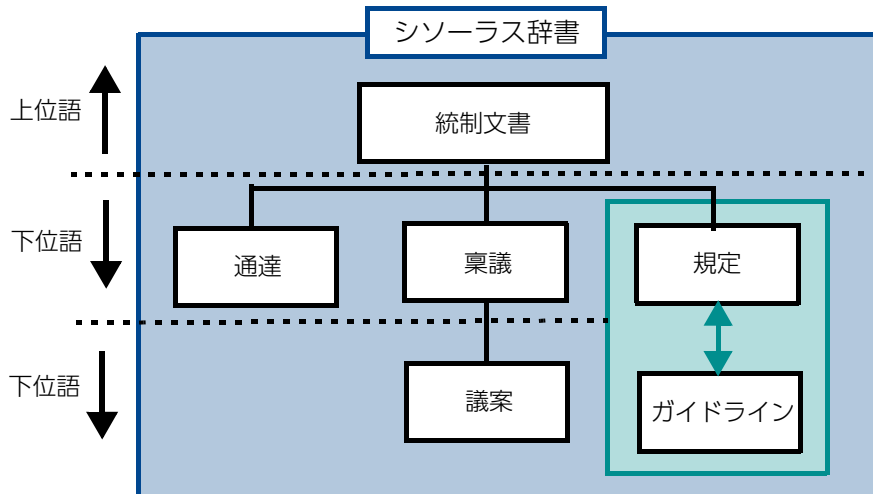
ユーザーは、ドキュメントスペースでキーワードを入力したり、XMLを入力したりして、シソーラス展開された検索ができます。

**注記** シソーラス展開した検索と英単語変化形検索とは、同時に検索できません。



同義語展開、上位語展開、または下位語展開の例は、次のとおりです。

展開の種類	説明	例
同義語展開	指定したキーワードの同義語で検索できます。	「規程」の同義語：「ガイドライン」
上位語展開	指定したキーワードの上位の概念の語で検索できます。	「通達」の上位語：「統制文書」
下位語展開	指定したキーワードの下位の概念の語で検索できます。	「稟議」の下位語：「議案」



この図では、シソーラス辞書に「通達」、「稟議」、および「規程」の上位語として「統制文書」が定義されています。

「統制文書」をキーワードとして下位語展開した検索をすると、「通達」、「稟議」、および「規程」を含む文書も検索されます。逆に、「規程」をキーワードとして、上位語展開した検索をすると、「統制文書」を含む文書だけが検索されます。また、「規程」の同義語展開した検索をすると、「ガイドライン」を含む文書も検索されます。

**補足** シソーラス辞書で定義するシソーラス展開は、片方向になります。

「規程」の類義語に「ガイドライン」を定義した場合は、「規程」で検索したときに「ガイドライン」を含む文書が検索結果になります。「ガイドライン」で検索したときに「規程」を検索結果に含む場合は、「ガイドライン」の類義語に「規程」を定義する必要があります。

同様に、「統制文書」の下位語に「稟議」を定義した場合は、「稟議」の上位語として「統制文書」を定義する必要があります。

## シソーラス辞書の管理

シソーラス辞書の管理について説明します。

シソーラス辞書とは、検索したいキーワードの同義語、上位語、または下位語を定義したファイルです。

全文検索サービスの管理者は、シソーラス辞書を作成したり、更新したりできます。また、不要になったシソーラス辞書は削除できます。

登録できるシソーラス辞書のファイルの上限は、10ファイルです。ドキュメント管理サービス管理ツールを使用して、ドキュメントスペースの検索で利用するシソーラス辞書を1つ指定します。それ以外のシソーラス辞書は、ドキュメントスペースでXMLを入力して検索するときに指定します。

複数の全文検索サービスを使用している場合は、全文検索サービスをインストールしたすべてのサーバーにシソーラス辞書を登録します。

### シソーラス辞書の作成

シソーラス辞書のファイル形式は、テキストファイルです。全文検索サービスの管理者は、テキストエディターを使用して編集します。

## ◆ ファイル形式

空のテキストファイルを作成します。ファイルを保存するときは、拡張子および文字エンコーディングを次のように指定します。

項目	設定
ファイルの拡張子	txt
文字エンコーディング	Windows-31J

## ◆ 記述内容

テキストファイルを開き、内容を編集します。

```
{キーワード} <Tab> キー n= {上位語} <Tab> キー s= {同義語} <Tab> キー b= {下位語}
<Enter> キー
```

「{キーワード}」に、検索したいキーワードを入力します。「{上位後}」に、上位語となるキーワード、「{同義語}」に同義語となるキーワード、「{下位語}」に下位語となるキーワードを入力します。キーワードと、「n=」、「s=」、または「b=」の間は、<Tab>キーを押します。

複数の上位語、同義語、または下位語を指定する場合は、単語と単語の間に「, (コンマ)」を入力します。行の最後は、<Enter>キーを押します。

- 注記**
- ・ 1 ファイルに記述できる展開対象語は 3,000 語です。
  - ・ 1 行あたりの文字列は、1,024 バイト以内です。
  - ・ 単語に、半角または全角の空白文字を含めることはできません。

## ◆ 作成例

```
規程 n= 統制文書 s= ガイドライン
ガイドライン s= 規程
稟議 n= 統制文書, b= 議案
議案 n= 稟議, 統制文書
```

この例では、「規程」で類義語検索をしたときに「規程」または「ガイドライン」を含む文書が検索結果になり、「ガイドライン」で検索したときに「ガイドライン」または「規程」を含む文書が検索結果になります。また、「稟議」で下位語検索をしたときに「稟議」または「議案」を含む文書が検索結果になります。「議案」で上位語検索をしたときには、「議案」、「稟議」または「統制文書」を含む文書が検索結果になります。

## ■ 登録する手順

ドキュメント管理サービス管理アプリケーションで設定する手順を説明します。

1. 全文検索サービスがインストールされているサーバーに、Administrator 権限のユーザーでサインインします。
2. 次のフォルダーを開きます。  
「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥conf¥FTS2¥dic」フォルダー  
**補足** 「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} : ¥ArcSuite」です。
3. 手順 2 のフォルダーに、シソーラス辞書のファイルを登録します。
4. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。  
[サービス] 画面が表示されます。
5. 次のサービスを再起動します。  
ArcSuite Full Text Search Service

## 6. 全文検索エンジン連携の設定をします。

### ◆ シソーラス辞書のファイルが 1 つの場合

- (1) ドキュメント管理サービス管理アプリケーションの [サービス操作] メニューから [全文検索エンジン連携の設定] を選択します。
- (2) [全文検索エンジン連携の設定] 画面で [シソーラス辞書] を選択し、[検索で利用する辞書] に手順 3 で登録したシソーラス辞書のファイル名が登録されているのを確認します。

### ◆ シソーラス辞書のファイルが 2 つ以上ある場合

- (1) ドキュメント管理サービス管理アプリケーションの [サービス操作] メニューから [全文検索エンジン連携の設定] を選択します。
- (2) [全文検索エンジン連携の設定] 画面で [シソーラス辞書] を選択し、[辞書の一覧] に手順 3 で登録したシソーラス辞書のファイル名が登録されているのを確認します。
- (3) 手順 3 で登録した辞書を通常の検索で利用する場合は、[検索で利用する辞書] に移動します。

- 補足**
- ・ 全文検索インデックスが初期化されていない場合は、全文検索インデックスの初期化をします。
  - ・ 検索インデックスが構築されていない場合は、全文検索インデックスの更新と全文検索インデックスの最適化をします。
  - ・ [検索で利用する辞書] にあるシソーラス辞書は、ドキュメントスペースでキーワードを入力して類義語検索をしたときにシソーラス展開されます。また、[辞書の一覧] にあるシソーラス辞書は、ドキュメントスペースでシソーラス辞書を指定した XML を入力して検索をしたときにシソーラス展開されます。

- 参照**
- ・ コマンドを使った全文検索エンジンの設定方法は、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。
  - ・ ドキュメント管理サービス管理アプリケーションを使った全文検索エンジンの設定方法は、『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』を参照してください。

## ■ 更新する手順

ドキュメント管理サービス管理アプリケーションで設定する手順を説明します。

1. 全文検索サービスがインストールされているサーバーに、Administrator 権限のユーザーでサインインします。
2. 次のフォルダーを開きます。  
「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー} \Service\conf\FTS2\dic」フォルダー
3. シソーラス辞書のファイルをテキストエディタなどを使用して、編集します。
4. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。  
[サービス] 画面が表示されます。
5. 次のサービスを再起動します。  
ArcSuite Full Text Search Service

- 参照**
- ・ コマンドを使った全文検索エンジンの設定方法は、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。
  - ・ ドキュメント管理サービス管理アプリケーションを使った全文検索エンジンの設定方法は、『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』を参照してください。

## ■ 削除する手順

ドキュメント管理サービス管理アプリケーションで設定する手順を説明します。

1. 全文検索サービスがインストールされているサーバーに、Administrator 権限のユーザーでサインインします。
2. 次のフォルダーを開きます。  
「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー} \Service\conf\FTS2\dic」フォルダー

3. シソーラス辞書のファイルを削除します。
4. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。  
[サービス] 画面が表示されます。
5. 次のサービスを再起動します。  
ArcSuite Full Text Search Service
6. [全文検索エンジン連携の設定] で [検索で利用する辞書] に登録されている場合、[検索で利用する辞書] から削除します。
  - (1) ドキュメント管理サービス管理アプリケーションの [サービス操作] メニューから [全文検索エンジン連携の設定] を選択します。
  - (2) [全文検索エンジン連携の設定] 画面で [シソーラス辞書] を選択し、[検索で利用する辞書] に手順 3 で削除したシソーラス辞書のファイル名が削除されているのを確認します。

## シソーラス展開した検索

ユーザーは、ドキュメントスペースでシソーラス展開された検索ができます。

ドキュメントスペースでの検索には、次の2つの方法があります。

- ・ [キーワードを入力して検索する](#)
- ・ [XMLを入力して検索する](#)

キーワードを入力して検索すると、あらかじめ設定されたシソーラス辞書を使用して同義語展開されます。XMLを入力して検索するときは、シソーラス辞書とシソーラス展開の展開方法を指定します。

**注記** ・シソーラス展開した検索をするまえには、シソーラス辞書を設定しておく必要があります。  
・キーワードを入力して検索する場合は、同義語展開だけがシソーラス展開されます。

**参照** ドキュメントスペースの操作については、『ドキュメントスペースのヘルプ』を参照してください。

### ■ キーワードを入力して検索する

キーワードを入力して検索する手順を説明します

1. ドキュメントスペースの [詳細検索] 画面で、[条件] リンクをクリックします。
2. [キーワード] の入力フィールドに、同義語展開して検索したいキーワードを入力します。
3. [類義語検索] を選択します。
4. [検索] をクリックします。

### ■ XML を入力して検索する

ドキュメントスペースの検索条件にXMLを記述して検索できます。

XMLの要素に、シソーラス辞書、シソーラス展開するキーワードおよびシソーラス展開の展開方法を指定します。

シソーラス辞書は1つだけ指定します。

シソーラス展開の展開方法は省略でき、省略すると同義語展開（類義語検索）になります。

**参照** シソーラス展開に関するエレメント以外のエレメントは、『検索条件式のヘルプ』を参照してください。

### ◆ 指定するエレメント

検索条件として入力するXMLの要素を説明します。

- ・ thesaurus  
thesaurus とは、シソーラス展開を表す要素です。

シソーラスを用いた展開の場合は、シソーラス展開語の展開方法を表すために、シソーラス展開：thesaurus の属性 mode として、次のどれかの値を設定できます。

- synonym  
同義語展開の場合
- narrow  
上位語展開の場合
- broaden  
下位語展開の場合

デフォルトは synonym です。

シソーラス展開：thesaurus は、次の要素で構成されます。

- exword  
シソーラス展開のキーワードを指定するエレメントです。1文字以上の文字列を指定してください。文字列には、スペースおよび記号を使用できません。  
この要素は、1つだけ記述できます。  
指定したキーワードと、完全一致するシソーラス辞書中の単語について、シソーラス展開が実行されます。
- dictionary  
シソーラス辞書を指定するエレメントです。1～8文字の文字列で、シソーラス辞書のファイル名を指定してください。  
この要素は、1つだけ記述できます。

#### ◆ 作成例

```
<eappli:text xmlns:eappli="http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/eappli">
  <eappli:thesaurus eappli:mode="narrow">
    <eappli:exword> 通達 </eappli:exword>
    <eappli:dictionary>DocDic</eappli:dictionary>
  </eappli:thesaurus>
</eappli:text>
```

#### ◆ 手順

1. ドキュメントスペースの [詳細検索] 画面で、[条件] リンクをクリックします。
2. [直接入力] をクリックします。
3. [全文検索条件式] エリアに条件式を入力します。
4. [検索] をクリックします。

## 13.6 メッセージ通知サービスの管理

メッセージ通知サービスの日常の管理について説明します。

### 13.6.1 日常の管理の概要

#### ログの確認

メッセージ通知サービスで障害が発生した場合は、ログを確認します。

**参照** [\[10 ログの管理\] \(P.120\)](#)

メッセージ通知サービスでは、次のログが記録されます。

- ・ [WebAdmin] フォルダー  
メッセージ通知管理アプリケーションの操作を記録します。また、ほかのコンポーネントからメッセージ送信要求の受け付けを記録します。アカウントログおよびシステムログが記録されます。ArcSuite Web Application Service のログの一部として記録されます。
- ・ [Service] フォルダー  
SMTP にメッセージ送信サービスが実行したログを記録します。システムログだけが記録されます。ArcSuite Basic Service のログの一部として記録されます。

#### 設定の変更

メッセージ通知管理アプリケーションで、次の設定ができます。

- ・ サーバー情報の表示
- ・ メッセージのスパールの管理
- ・ ダイジェスト情報の管理
- ・ メッセージのテンプレートの編集
- ・ メッセージ通知サーバーの設定変更
- ・ 送信制限カウント状況の管理
- ・ テストメールの送信

**参照** 『メッセージ通知管理アプリケーションのヘルプ』

#### ■ コマンドの実行

次の操作は、コマンドを実行します。

- ・ [秘密鍵と証明書の登録](#)
- ・ [証明書を格納するキャビネットの作成](#)
- ・ [残存ファイル削除コマンド](#)

**参照** [\[13.6.2 コマンドを使った管理操作\] \(P.183\)](#)

#### ■ ウィルススキャンソフトの設定の確認

ウィルススキャンソフトの設定によって、メール送信ができない場合は、メール送信を許可するプロセスを追加します。

**参照** [\[13.6.3 ウィルス対策ソフトウェアの影響\] \(P.186\)](#)

## 13.6.2 コマンドを使った管理操作

次の管理操作は、コマンドを実行します。

- ・ [秘密鍵と証明書の登録](#)
- ・ [証明書を格納するキャビネットの作成](#)
- ・ [残存ファイル削除コマンド](#)

### ■ コマンドのフォルダー

コマンドがあるのは、次のフォルダーです。

「{ArcSuiteをインストールしたフォルダー} ¥Service¥Components¥cMessage¥bin」 フォルダー

**注記** Windows の機能であるユーザーアカウント制御 (UAC) によって、コマンドツールにアクセスできなかったり、起動に失敗したりすることがあります。この場合、運用上のセキュリティポリシーに沿って、管理者特権でコマンドツールにアクセスして実行するための措置を行う必要があります。ユーザーアカウント制御 (UAC) に関する設定については『セットアップガイド』を参照してください。

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite」です。

### 秘密鍵と証明書の登録

メッセージ通知コンポーネントでは、S/MIMEを設定するときメールの署名をします。署名をするには、メッセージ通知管理者のメールアドレスで、秘密鍵および証明書を登録します。

- ・ メッセージ通知管理者アドレスの秘密鍵情報 (PKCS#12 形式の秘密鍵ファイルだけをサポート)
- ・ メッセージ通知管理者アドレスの証明書情報 (X.509 DER 形式、またはその Base64 エンコードしたものの証明書ファイルだけをサポート)

また、パスワードが設定されている秘密鍵ファイルだけがサポートされます。パスワードが設定されていない秘密鍵ファイルはサポートされません。入力されたパスワード情報はデータベースに格納されます。

### ■ メッセージ通知管理者用の秘密鍵の登録方法

メッセージ通知サーバーに秘密鍵を登録するコマンドを実行し、サービスを再起動します。

#### ◆ 実行方法

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
cd {ArcSuite をインストールしたフォルダー} ¥Service¥Components¥cmessage¥bin¥
cMessageKeyStoreBuilder.bat -user {user} -passwd {passwd} -p12f {p12f}
-keypass {keypass} -storepass {storepass}
```

それぞれのパラメーターに、次の値を入力します。

- ・ {user}
 

メッセージ通知サービスの管理者権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー ID を指定します。
- ・ {passwd}
 

実行するユーザーのパスワードを指定します。
- ・ {p12f}
 

秘密鍵ファイルが格納されているパスを指定します。
- ・ {keypass}
 

秘密鍵を取得するときに申請した秘密鍵のパスワードを指定します。

- ・ {storepass}  
任意の KeyStore のパスワードを指定します。英数字だけで 8 文字以上 50 文字以下の文字を指定してください。

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite」です。

**3.** コマンドが正しく終了したことを確認します。

**4.** 次の順序でサービスを再起動します。

(1) ArcSuite Basic Service

(2) ArcSuite Web Application Service

## ■ メッセージ通知管理者用の証明書の登録方法

証明書を格納し、サービスを再起動します。

**1.** ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

**2.** メッセージ通知管理者アドレスの証明書ファイルを、次のフォルダーの直下に置きます。

「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥conf¥cMessage」フォルダー

**補足** 「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :¥ArcSuite」です。

**3.** 次の順序でサービスを再起動します。

(1) ArcSuite Basic Service

(2) ArcSuite Web Application Service

### ■ 注記

- ・ 秘密鍵ファイルの注意制限事項  
秘密鍵の登録には必ずパスワードが設定された秘密鍵ファイルを使用してください。パスワードが設定されていない秘密鍵ファイルでは登録できません。
- ・ 秘密鍵ファイル登録時の注意制限事項  
新 KeyStore パスワードは、英数字だけで 6 文字以上 50 文字以下とします。
- ・ 秘密鍵ファイル登録時、および証明書登録時の注意事項  
負分散環境では、メッセージ通知コンポーネントがインストールされているすべてのサーバーで登録を行ってください。

## 証明書を格納するキャビネットの作成

メッセージ通知コンポーネントでは、S/MIMEメールの検証をしたり、メールサーバーとの通信に「SMTPS 接続」や「STARTTLS接続」を使用したりするために、ルート証明書および中間CA証明書が必要です。ドキュメント管理サービスに、メッセージ通知コンポーネント用のキャビネットを作成し、ルート証明書および中間CA証明書を格納します。

また、メッセージ通知サービスが格納されたメール検証用証明書を使用するために必要なRMSプロパティへ登録する必要があります。

## ■ メール検証用証明書格納キャビネットの作成方法

ドキュメント管理サービスに、メール検証用の証明書を格納するキャビネットを作成するコマンドを実行します。

**補足** キャビネットを作成したときにメール検証用証明書格納キャビネットが存在する場合、RMS プロパティだけ記載します。また、キャビネットを作成したあとで、RMS プロパティ記載に失敗した場合、作成したキャビネットを削除し、コマンドは終了します。



## ◆ 実行方法

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
cd {ArcSuite をインストールしたフォルダー} %Service%Components%cmmessage%bin%
cMessageCertCabinetBuilder.bat -user {user} -passwd {passwd} -serviceId
{serviceId} -storageForTrustAnchor {storageForTrustAnchor}
-storageForCertificates {storageForCertificates}
```

それぞれのパラメーターに、次の値を入力します。

- ・ {user}  
メッセージ通知サービスの管理者、およびドキュメント管理サービスのサービスの管理者の権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー ID を指定します。
- ・ {passwd}  
実行するユーザーのパスワードを指定します。
- ・ {serviceId}  
キャビネットを作成するドキュメント管理サービスのサービス ID を指定します。
- ・ {storageForTrustAnchor}  
TrustAnchor 格納用のストレージパスを指定します。省略しないことを推奨します。ドキュメント管理サービスが負荷分散構成の構成のときは省略できません。
- ・ {storageForCertificates}  
Certificates 格納用のストレージパスを指定します。省略しないことを推奨します。ドキュメント管理サービスが負荷分散構成の構成のときは省略できません。

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

## 残存ファイル削除コマンド

メッセージ通知では、一時的な添付ファイル情報がドキュメント管理サービスに格納されます。定期的な送信が完了している添付ファイル情報だけがメッセージ通知サーバーおよびドキュメント管理サービスから削除されます。

コマンドは、何らかのシステム障害によって、ドキュメント管理サービスに実体ファイルがあり、メッセージ通知が使用するデータベースに情報が存在しない場合、ドキュメント管理サービスに格納された情報を精査し、削除対象を判別し、ドキュメント管理サービスから削除します。

コマンドを実行するには、次の条件が必要です。

- ・メッセージ通知サービスが停止していること
- ・不要なコンテンツ関連データの削除および不要なトランザクションデータの削除は、別途、実行すること

## 残存ファイル削除コマンドの使用方法

## ◆ 実行方法

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 次の順序でサービスを停止します。
  - (1) ArcSuite Web Application Service
  - (2) ArcSuite Basic Service

### 3. 次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
cd {ArcSuite をインストールしたフォルダー} %Service%Components%cmessaget%bin%
cMessageCabinetFileRepair.bat -user {user} -passwd {passwd}
```

それぞれのパラメーターに、次の値を入力します。

- ・ {user}  
メッセージ通知サービスの管理者権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー ID を指定します。
- ・ {passwd}  
実行するユーザーのパスワードを指定します。

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files\FUJIFILM%ArcSuite」です。

### 4. 次の順序でサービスを再起動します。

- (1) ArcSuite Basic Service
- (2) ArcSuite Web Application Service

## 13.6.3 ウイルス対策ソフトウェアの影響

ウイルス対策ソフトウェアをインストールしている場合、大量メール配信型ワームに対応する機能として、メール送信を許可するプロセスを限定していることがあります。この場合、ArcSuiteからのメール送信ができなくなります。

メール送信を許可するプロセスが限定されている場合は、メッセージ通知サービスがインストールされているサーバーで、ウイルス対策ソフトウェアの設定で、メール送信を許可するプロセスに、次のプロセスを追加します。

表 : 追加するプロセス

プロセス名	ArsBasic.exe
パス	{ArcSuiteをインストールしたフォルダー} %Service%bin%ArsBasic.exe

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files\FUJIFILM%ArcSuite」です。

## 13.7 ポータルの管理

---

ポータルの管理者は、ポータル管理アプリケーションを使用して、次の管理をします。

- ・ お知らせの編集
- ・ ポータル画面の設定
- ・ ユーザープロフィールの画面の表示設定

**参照** 『ポータル管理アプリケーションのヘルプ』

## 13.8 ログインサーバーの管理

ログインサーバーの日常の管理について説明します。

### 13.8.1 日常の管理の概要

ログインサーバーの日常の管理について、説明します。

#### データファイルの確認

認証ログの設定を解除したあとで、データファイルを削除するために、認証ログの表領域のデータファイルのパスを確認します。設定を解除するときだけ、事前に確認します。

**注記** 設定を解除したあとで、データファイルは必ず削除してください。削除しないと再び認証ログを記録するときに、初期化ができません。

#### 認証ログの表領域の使用率の確認

認証ログを記録している場合、ドキュメント管理サービスの表領域と同様に、認証ログの表領域の使用率も定期的に確認します。

##### ◆ 表領域の使用率の確認

認証ログを記録する表領域の使用率を、定期的に確認します。

##### ◆ データファイルを格納するドライブの空き容量の確認

表領域のデータファイルを追加したり拡張したりして使用率を下げる場合、データファイルを格納するドライブに、十分な空き容量があるかを、事前に確認しておきます。

#### 記録状況の確認

認証ログの記録状況を確認します。記録されているログの数が多いかどうか判断したり、記録された認証ログの日時から古い認証ログを削除したりするために、定期的に確認します。

#### ログインサーバーの設定

ログインサーバー管理アプリケーションで、認証方法などの設定をします。

- ・パラメーター管理
- ・自動ログイン管理
- ・自動ログイン無効化
- ・ログインサーバーの再初期化
- ・認証ログデータベース管理

**参照** 『ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ』

## 13.9 コラボスペースの管理

コラボスペースの日常の管理について説明します。

### 13.9.1 日常の管理の概要

コラボスペースの日常の管理について、説明します。

#### ログの確認

コラボスペースで障害が発生したときは、ログを確認します。コラボスペースでは、アカウントログ、システムログ、セッションログ、およびアクセスログが記録されます。

**参照** [「10 ログの管理」\(P.120\)](#) または [「13.9.2 アクセスログの出力」\(P.190\)](#)

#### 検索インデックスの管理

障害が発生して検索インデックスが破損したり、検索インデックスが削除されたりした場合に、検索インデックスを再作成します。

検索の機能を使用している場合は、全文検索インデックスの再作成をします。類似タスク一覧の機能を使用している場合は関連文書検索インデックスの再作成をします。

**参照** [「13.9.4 全文検索インデックスの管理」\(P.195\)](#) または [「13.9.5 関連文書検索インデックスの管理」\(P.201\)](#)

#### 管理コマンドの実行

次の管理操作は、コマンドを実行します。コマンドを実行するユーザーには、コラボスペースの管理者の権限が必要です。

- ・ [アクセスログの出力](#)
- ・ [タスクに関する情報の出力](#)
- ・ [全文検索インデックスの管理](#)
- ・ [関連文書検索インデックスの管理](#)
- ・ [サーバー情報の修正](#)
- ・ [S/MIME 用証明書と秘密鍵の設定](#)
- ・ [「POP3S 接続」または「STARTTLS 接続」で暗号化通信するために必要なキャビネットの作成](#)

コマンドがあるのは、次のフォルダーです。

[{ArcSuiteをインストールしたフォルダー} %Service%Components%Collabo%bin] フォルダー

**注記** Windows の機能であるユーザーアカウント制御 (UAC) によって、コマンドツールにアクセスできなかったり、起動に失敗したりすることがあります。この場合、運用上のセキュリティーポリシーに沿って、管理者特権でコマンドツールにアクセスして実行するための措置を行う必要があります。ユーザーアカウント制御 (UAC) に関する設定については『セットアップガイド』を参照してください。

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

## エラーになった返信メールのデータの削除

返信メール内容取り込みでエラーになった場合、返信メールのデータが残ります。過去（日付が昨日よりも前）のデータで不要になったものは、削除します。

**注記** 返信メール内容取り込みは、「RFC 2822」に準拠したメッセージの取り込みに対応しています。そのため、「RFC 2822」に準拠していない場合や、メールサービスが自動でアップデートされた場合は、エラーとなり正しく取り込まれないことがあります。

返信メールのデータがあるのは、次のフォルダーです。

「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥data¥Collabo¥mail」フォルダー

**補足** 「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuiteの設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} : ¥ArcSuite」です。

### 13.9.2 アクセスログの出力

アクセスログは、メッセージの編集や削除などの操作を記録したログです。コラボスペース管理アプリケーションの「アクセスログ記録設定」ページで設定できます。アクセスログで不要になったデータは、accesslogExportコマンドのdeleteオプションを使用して削除できます。

#### アクセスログを出力するためのコマンド

アクセスログの出力は、コマンドラインで操作します。  
アクセスログを出力するためのコマンドを説明します。

##### 形式

```
accesslogExport.bat
```

##### ユーザー認証

**-user**

コラボスペースの管理者権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー IDを指定します。

**-passwd**

コマンドを実行するユーザーのパスワードを指定します。

##### コマンドラインオプション

**-h,-help**

使用方法を表示します。

**-file {file name}**

出力先ファイルを指定します。

**-format {format}**

出力形式を指定します。

・ {format} = xml | csv

形式 (xml または csv) を表します。指定しない場合は、xml 形式で出力します。

**-thisserverid**

このサーバーのサーバー IDを出力に含めます。

**-detail**

詳細情報を出力します。

**-delete**

アクセスログデータをコラボスペース内部から削除します。削除対象は、同時に指定されたほかのオプションによって制約される内容です。削除されるログが出力されます。

**-actiondate {start date} {end date}**

期間を指定します。

- ・ {start date}  
期間の始まりを {年} / {月} / {日} で指定します。特に指定しない場合は「- (ハイフン)」を使用します。
- ・ {end date}  
期間の終わりを {年} / {月} / {日} で指定します。その前日の 23 時 59 分 59 秒まで有効です。特に指定しない場合は「- (ハイフン)」を使用します。

例：

-actiondate 2019/01/01 2019/01/04 => 2019 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒～ 2019 年 1 月 3 日 23 時 59 分 59 秒まで

-actiondate 2019/01/01 - => 2019 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒～現在まで

-actiondate - 2019/01/04 => 2019 年 1 月 3 日 23 時 59 分 59 秒まで

**-actionid {action id}**

操作IDを指定します。

**-actionmethod {action method} ...**

操作方法を指定します (複数指定可)。

{action method} = Ui | FileImporter | MailImporter

**-actiontype {action type} ...**

操作種類を指定します (複数指定可)。

{action type} = CreateTask | UpdateTask | DeleteTask | UpdatePartOf |

OpenTaskPlace | AddMessage | OpenMessage | OpenAttachedFile | UpdateMessage |

DeleteMessage | DeleteAttachedFile | DeleteRelatedLink | DataSearch |

KnowWhoSearch | UploadFileToDrepoAppli | UpdateMemberStatus | OpenRelatedLink

| AddNewEditionFile | UpdateFormData | OpenCirculatingDocument

**-actionuserid {action userId}**

操作者をRMSの識別子で指定します。

**-taskid {taskId}**

指定のタスクが関係するログを出力します。

- 補足** ・上記のオプションはすべて組み合わせて使用できます。
- ・ -h オプションまたは -help オプションが指定された場合、ほかのパラメーター指定は無視されます。

## 13.9.3 タスクに関する情報の出力

タスクの情報やタスク内のコンテンツの情報を出力します。

タスクに関する情報には、次の2つがあります。

- ・タスク情報  
コラボスペース内に存在するタスクの情報です。
- ・コンテンツ情報  
コラボスペース内に存在するタスク内のメッセージ、添付ファイル、リンクの情報です。

タスクに関する次の情報を出力するためのコマンドを説明します。

- ・タスク情報を出力するためのコマンド
- ・コンテンツ情報を出力するためのコマンド

### タスク情報を出力するためのコマンド

#### ■ 形式

```
taskExport.bat
```

#### ■ ユーザー認証

**-user**

コラボスペースの管理者権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー IDを指定します。

**-passwd**

コマンドを実行するユーザーのパスワードを指定します。

#### ■ コマンドラインオプション

**-h,-help**

使用方法を表示します。

**-file {file name}**

出力先ファイルを指定します。

**-format {format}**

出力形式を指定します。

- ・ {format} = xml | csv  
形式 (xml または csv) を表します。指定しない場合 xml 形式で出力します。

**-grantuserid {grant userid}**

権限上の情報取得に用いるユーザーをRMSの識別子で指定します。指定のユーザーが読み取り権を持つタスク情報だけ取得します。存在しないRMSの識別子を指定した場合、任意のタスクに対して関与者外として読み取り権が付与されます。

**-date {start date} {end date}**

期間を指定します。

- ・ {start date}  
期間の始まりを {年} / {月} / {日} で指定します。特に指定しない場合は「- (ハイフン)」を使用しません。
- ・ {end date}  
期間の終わりを {年} / {月} / {日} で指定します。その前日の 23 時 59 分 59 秒まで有効です。特に指定しない場合は「- (ハイフン)」を使用します。



例：

```
-date 2019/01/01 2019/01/04 => 2019年1月1日0時0分0秒～2019年1月3日23時59分59秒まで
-date 2019/01/01 - => 2019年1月1日0時0分0秒～現在まで
-date - 2019/01/04 => 2019年1月3日23時59分59秒まで
```

### **-datatype {date type}**

-dateパラメーターが制約するタスクに関する日時の種類を指定します。

- ・ {date type} = created | started | plan\_start | completed | deadline  
それぞれ作成日、開始日時、開始予定日、終了日時、終了予定日を表します。
- date だけが指定されて -datatype が指定されなかった場合、 -datatype created がデフォルトの値です。

### **-taskid {taskId}**

タスクIDを指定します。

### **-taskstatus {task status}**

タスクの状態を指定します。

- ・ {date status} = 1 | 2 | 4 | 8 | 16 | 32 | 64 | 128  
それぞれの数字の意味は、次のとおりです。
- 1：開始前
- 2：実行中
- 4：中止
- 8：終了
- 16：完了
- 32：再実行待ち
- 64：再実行中
- 128：実行不可

### **-userid {userId}**

タスクの関与者をRMSの識別子で指定します。

### **-userrole {user role}**

-useridパラメーターが与えられた場合だけ、そのユーザーの役割を指定します。

- ・ {user role} = 1 | 2 | 4 | 8 | 16  
それぞれの数字の意味は、次のとおりです。
- 1：メンバー
- 2：リーダー
- 4：オブザーバー
- 8：タスク管理者
- 16：関与者外特別ユーザー

### **-recursive {direction} ...**

-taskidパラメーターが与えられた場合だけ、その上下関係を再帰的にたどります。

- ・ {direction} = up | down  
それぞれ上位、下位を表します。

### **-recursivelevel {level}**

-recursiveパラメーターが与えられた場合だけ、たどる範囲を指定します。

- 補足** ・ 上記のオプションはすべて組み合わせて使用できます。  
ただし、 -datatype オプション、 -userrole オプション、 -recursive オプションまたは -recursivelevel オプションは、それぞれ -date オプション、 -userid オプション、 -taskid オプション、または -recursive オプションが必要です。
- ・ -h オプションまたは -help オプションが指定された場合、ほかのオプション指定は無視されます。

## コンテンツ情報を出力するためのコマンド

### ■ 形式

```
contentsExport.bat
```

### ■ ユーザー認証

**-user**

コラボスペースの管理者権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー IDを指定します。

**-passwd**

コマンドを実行するユーザーのパスワードを指定します。

### ■ コマンドラインオプション

**-h,-help**

使用方法を表示します。

**-file {file name}**

出力先ファイルを指定します。

**-format {format}**

出力形式を指定します。

- ・ {format} = xml | csv

形式 (xml または csv) を表します。指定されない場合、xml 形式で出力します。

**-grantuserid {grant userId}**

権限上の情報取得に用いるユーザーをRMSの識別子で指定します。

指定のユーザーが読取り権を持つタスクのコンテンツ情報だけ取得します。存在しないユーザー IDを指定した場合、任意のタスクに対して関与者外として読取り権が付与されます。

**-date {start date} {end date}**

期間を指定します。

- ・ {start date}

期間の始まりを {年} / {月} / {日} で指定します。特に指定しない場合は、「- (ハイフン)」を使用します。

- ・ {end date}

期間の終わりを {年} / {月} / {日} で指定します。その前日の 23 時 59 分 59 秒まで有効です。特に指定しない場合は、「- (ハイフン)」を使用します。

例: `-date 2019/01/01 2019/01/04 => 2019 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒 ~ 2019 年 1 月 3 日 23 時 59 分 59 秒まで`

`-date 2019/01/01 - => 2019 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒 ~ 現在まで`

`-date - 2019/01/04 => 2019 年 1 月 3 日 23 時 59 分 59 秒まで`

**-datatype {date type}**

-dateパラメーターが制約するタスクに関する日時の種類を指定します。

- ・ {date type} = put\_date | mod\_date

それぞれ、投入日時、最終更新日時をします。

-date だけが指定されて -datatype が指定されなかった場合、-datatype put\_date がデフォルトの値です。

**-taskid {taskId}**

タスクIDを指定します。

**-contentid {contentId}**

コンテンツIDを指定します。

**-userid {userId}**

コンテンツ作成者をRMSの識別子で指定します。

**-recursive {direction} ...**

-contentidパラメーターが与えられた場合、その返信関係を再帰的にたどります。

- ・ {direction} = up | down  
それぞれ上位、下位を表します。

**-recursivelevel {level}**

-recursiveパラメーターが与えられた場合の再帰的にたどる範囲を数値で指定します。

- 補足**
- ・ 上記のオプションはすべて組み合わせて使用できます。  
ただし、-datatype オプション、-recursive オプション、-recursivelevel オプションは、それぞれ -date オプション、-contentid オプション -recursive オプションが必要です。
  - ・ -h オプションまたは -help オプションが指定された場合、ほかのオプション指定は無視されます。

## 13.9.4 全文検索インデックスの管理

全文検索インデックスの管理について説明します。

### 全文検索インデックスの概要

コラボスペースは、全文検索サービスのインデックスを利用します。コラボスペースをインストールすると、タスクおよびコンテンツのインデックスが生成されます。

コラボスペースの運用が開始すると、タスクなどのデータが登録、更新、または削除されたときに、操作の履歴は「検索キュー」に格納されます。その後、自動でインデックスに反映されます。

全文検索インデックスが破損したり削除されたりした場合は、インデックスの生成と検索キューの再登録を行ってから、インデックスをコラボスペースの情報に同期させることで再度、検索機能を利用できます。

全文検索インデックスの管理機能、検索キュー管理機能、およびそれらの機能の一部を使用したインデックス作成の手順を説明します。

### 全文検索インデックスの管理機能

インデックス管理機能には、次の機能があります。

- ・ インデックス生成
- ・ インデックス削除
- ・ インデックス情報のクリア
- ・ インデックスの割り当て
- ・ インデックスのリビルド

- 注記** ArcSuite のサーバーが負荷分散構成の場合、IndexSetup コマンドはコラボスペースがインストールされているマスターサーバーでだけ動作します。  
スレーブサーバーで IndexSetup コマンドを実行した場合、スレーブサーバーでは実行できない内容の警告が表示されて、終了します。ただし、ログには成功した内容が記録されます。

## インデックス管理機能のコマンド

### 形式

```
IndexSetup.bat
```

### ユーザー認証

**-user**

コラボスペースの管理者権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー IDを指定します。

**-passwd**

コマンドを実行するユーザーのパスワードを指定します。

### 引数による指定

実行オプションは、次のとおりです。

```
IndexSetup.bat {プロセスの種類} {プロセスごとの引数}
```

**補足** 引数なし、または、(help) の場合には、コマンド引数の簡単な説明が表示されます。

「{プロセスの種類}」に、次のどれかを指定します。

- ・ create
- ・ drop
- ・ clear
- ・ assign
- ・ rebuild
- ・ file

#### IndexSetup.bat create {全文検索サービスの DN または cn}

新しいインデックスの生成を全文検索サービスに要求し、DNまたはcnとインデックス名をコラボスペースに登録します。

例：

```
IndexSetup.bat create KS-B@server1
IndexSetup.bat create "cn=fts2@server1,ou=components,dc=SYSTEM"
```

#### IndexSetup.bat drop

現在使用しているインデックスの削除を全文検索サービスに要求します。

#### IndexSetup.bat clear

コラボスペースに登録されている全文検索サービスのDNまたはcnとインデックス名を削除します。インデックスは削除されません。

#### IndexSetup.bat rebuild

インデックスの最適化を全文検索サービスに要求します。

#### IndexSetup.bat assign {全文検索サービスの DN または cn} {タスクのインデックス} {文書のインデックス}

「{全文検索サービスのDNまたはcn}」に、全文検索サービスのDNまたはcn、「{タスクのインデックス}」に、タスクのインデックス名、「{文書のインデックス}」に、文書のインデックス名を指定します。指定されたインデックス名をコラボスペースに登録します。

例：

```
IndexSetup.bat assign KS-B@server1 A000001 A000002
```

## IndexSetup.bat file {property-file}

プロパティファイル指定での実行です。

- 注記**
- ・プロセスの種類の引数は、大文字と小文字は区別されません。
  - ・引数の順序が異なる場合は、正しく解釈されないことがあります。
  - ・必要数よりも多い引数は無視されます。
  - ・cn が指定されたとき、デフォルトドメインが適用されます。

### ■ プロパティファイルでの指定

IndexSetup.bat file {file.properties} として実行する場合は、次のようにプロパティファイルを入力します。

例：#印はコメント文です。

```
# プロセスの種類 create | drop | clear | rebuild | assign のどれかが表示されます。
collabo.ext.fts.admin.IndexSetup.process=assign
# インデックスの DN または cn create および assign で指定する必要があります。
collabo.ext.fts.admin.IndexSetup.dn= cn=fts2@server1,ou=components,dc=SYSTEM
# インデックス名 assign で指定する必要があります。
collabo.ext.fts.admin.IndexSetup.taskIndex=A000011
collabo.ext.fts.admin.IndexSetup.documentIndex=A000012
```

## 検索キュー管理機能

検索キュー管理機能には、次の機能があります。

- ・検索キューの再設定
- ・検索キューのクリア
- ・状況の表示

## 検索キュー管理機能のコマンド

### ■ 形式

```
QueueSetup.bat
```

### ■ ユーザー認証

-user

コラボスペースの管理者権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー IDを指定します。

-passwd

コマンドを実行するユーザーのパスワードを指定します。

### ■ 引数による指定

実行オプションは、次のとおりです。

QueueSetup.bat {プロセスの種類} {プロセスごとの引数}

**補足** 引数なし、または、(help) の場合には、コマンド引数の簡単な説明が表示されます。

「{プロセスの種類}」に、次のどれかを指定します。

- ・ push
- ・ clearQueue
- ・ status

## QueueSetup.bat push {データタイプ} {拡張子}

コラボスペースの検索データを検索キューに格納します。

「{データタイプ}」に、次のどれかを指定します。

- ・ all
- ・ task
- ・ contents

「{拡張子}」には、拡張子を指定します。2つ以上指定する場合は、「 (スペース)」で区切ります。

allはすべて、task、contentsはそれぞれタスク、コンテンツ（メッセージ、関連リンク、添付文書）に対応します。

データタイプにallを指定したとき、またはデータタイプに何も指定しないときは、タスク、コンテンツのすべてが対象になります。

拡張子を指定したときは、たとえallを指定していても、該当する拡張子を持つコンテンツだけが対象になります。拡張子のない文書は「.」です。

例：

```
QueueSetup.bat push all txt doc pdf
```

## QueueSetup.bat clearQueue

コラボスペースの検索キューをすべてクリアします。

## QueueSetup.bat status

コラボスペースに登録されている全文検索サービスのDNおよびuri、インデックス名、検索キューの個数をコンソールに表示します。

- 注記**
- ・ プロセス / データタイプの種類の引数は、大文字と小文字を区別しません。
  - ・ 引数の順序が異なる場合は、正しく解釈されないことがあります。
  - ・ 必要数よりも多い引数は無視されます。

## ■ プロパティファイルでの指定

QueueSetup.bat file {file.properties} として実行する場合は、次のようにプロパティファイルを入力します。

例：#印はコメント文です。

```
# プロセスのタイプ push | clearQueue | status のどれか
collabo.ext.fts.admin.QueueSetup.process=push
# 対象とするデータ (push のときだけ有効)
# 複数指定できます。
collabo.ext.fts.admin.QueueSetup.target=task | contents
# 特定の拡張子だけを設定するとき (push のときだけ有効)
# 指定が空白のとき (= で終わっているとき) は、メッセージと関連リンクが対象になる
# 複数指定するときは、「;」でつなげて書きます。特に個数の制限はありません。
collabo.ext.fts.admin.QueueSetup.extensions=txt;jpg
```

## インデックスを作成する

インデックス管理機能および検索キュー管理機能の一部を利用したインデックス作成の手順を説明します。

### 1. 次のサービスの状態が [実行中] であることを確認します。

- ・ OracleService {SID}
- ・ OracleOraDB19Home1TNSListener
- ・ ArcSuite Full Text Search Service

### 2. 次のサービスを停止させます。

- ・ ArcSuite Collabo Service

**補足** サービスを停止させる手順については、[\[13.1.2 サービスを停止する\] \(P.151\)](#) を参照してください。

### 3. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。 [管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

### 4. 次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
cd {ArcSuite をインストールしたフォルダー} %Service%Components%Collabo%bin
```

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

### 5. 次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
IndexSetup.bat create {全文検索サービスの DN または cn}
```

### 6. 次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
QueueSetup.bat clearQueue
```

### 7. 次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
QueueSetup.bat push {データタイプ} {拡張子}
```

### 8. 次のサービスを開始させます。

- ・ ArcSuite Collabo Service

**補足** ・ サービスを開始させる手順については、[\[13.1.1 サービスを起動する\] \(P.150\)](#) を参照してください。

・ サービスを開始すると、データがインデックスに登録されて検索できるようになります。状況の表示機能 (status) を使用して、実行状況を確認してください。



## 13.9.5 関連文書検索インデックスの管理

関連文書検索インデックスの管理について説明します。

### 関連文書検索インデックスの概要

コラボスペースの類似タスク表示機能は、連携する関連文書検索エンジンが生成したインデックスを利用します。コラボスペースをインストールすると、連携する関連文書検索エンジンにインデックスを生成します。また、タスクにメッセージを登録したり、メッセージを修正したりすると、定期的にインデックスが作成されません。

インデックスが破損したり削除されたりした場合は、インデックスを再作成することで再度、検索機能を利用できます。

### 関連文書検索インデックス管理コマンドの概要

関連文書検索インデックス管理コマンドは、コラボスペースが利用している関連文書検索インデックスのメンテナンスのための機能があります。

- ・インデックスの生成
- ・インデックスの削除
- ・インデックス情報のクリア

### 操作方法とコマンド形式

#### ■ 形式

```
ClusteringIndexSetup.bat
```

#### ■ ユーザー認証

**-user**

コラボスペースの管理者権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー IDを指定します。

**-passwd**

コマンドを実行するユーザーのパスワードを指定します。

#### ■ 引数による指定

実行オプションは、次のとおりです。

**ClusteringIndexSetup.bat** {プロセスの種類} {プロセスごとの引数}

**補足** 引数なし、または、(help) の場合には、コマンド引数の簡単な説明が表示されます。

「{プロセスの種類}」に、次のどれかを指定します。

- ・ create
- ・ drop
- ・ clear

**ClusteringIndexSetup.bat create** {関連文書検索サービスの DN または cn} {インデックス更新間隔 (min)}

インデックスを生成します。

例：

```
ClusteringIndexSetup.bat create kSearchDuo@example 30
ClusteringIndexSetup.bat create
"cn=kSearchDuo@example,ou=components,dc=SYSTEM"
```

- 注記**
- ・ cn が指定されたときは、デフォルトドメインが適用されます。
  - ・ インデックス更新間隔は省略できます。省略した場合、60 分間隔で更新されます。

### ClusteringIndexSetup.bat drop

インデックスを削除します。

### ClusteringIndexSetup.bat clear

インデックスをクリアします。

## ■ プロパティファイルでの指定

ClusteringIndexSetup.bat file {file.properties} として実行する場合は、次のようにプロパティファイルを入力します。

### ClusteringIndexSetup.bat file {property-file}

ファイル指定での実行です。

- 注記**
- ・ プロセスの種類の引数は、大文字と小文字は区別されません。
  - ・ 引数の順序が異なる場合は、正しく解釈されないことがあります。
  - ・ 必要数よりも多い引数は無視されます。

例：#印はコメント文です。

```
# プロセスの種類 create | drop | clear のどれかが表示されます。
collabo.ext.clustering.IndexSetup.process=create
# インデックスの DN または CN create で指定する必要があります。
collabo.ext.clustering.IndexSetup.cn=kSearchDuo@example,ou=components,dc=SYSTEM
# インデックス更新間隔 create で指定する必要があります。
collabo.ext.clustering.IndexSetup.interval=30
```

## 13.9.6 サーバー情報の修正

SSLアクセラレーターや、負荷分散構成（ロードバランサー）を使用するような特殊な構成の場合に、インストーラーによって設定されたURLとは異なるURLでコラボスペースを運用することがあります。その場合には、サーバーテーブル修正ツールというコマンドを使用して、コラボスペースサーバーのサーバー情報（コラボ設定ファイル内の情報）を修正します。

コラボスペースサーバーのサーバー情報を修正するためのコマンド（サーバー情報修正ツール）を説明します。

**注記** コマンドを実行したあとは、次のサービスを再起動します。

- ・ ArcSuite Web Application Service
- ・ ArcSuite Collabo Service

### サーバー情報を修正するためのコマンド

#### ■ 機能詳細

コラボ設定ファイルには、コラボスペースサーバーに関する次の情報が記載されています。

- ・ コラボサーバー ID
- ・ コンポーネントの EntryId（RMS のエントリー ID）
- ・ コラボスペースの URL

サーバー情報修正ツール（コマンドラインツール）は、コラボ設定ファイルに設定されているコラボサーバー ID をキーに、データベースのサーバー情報を引き当てます。その結果、次の場合に、コラボ設定ファイルの情報をを使用してデータベースのサーバー情報を更新します。

- ・ EntryId または URL が異なっている場合
- ・ 修正実行がコマンドライン引数によって明示的に指定されている場合

#### ■ 形式

```
FixServerTable.bat
```

#### ■ ユーザー認証

**-user**

コラボスペースの管理者権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー ID を指定します。

**-passwd**

コマンドを実行するユーザーのパスワードを指定します。

#### ■ 引数なしの場合

コラボ設定ファイルから取得した情報、およびデータベースの対応するサーバー情報を表示します。

表示例：

```
*** Configurations from LocalSetting ***
ServerId: 1111
ComponentId: rmsid:12:5180-0001-00000001fa
ServerUrl: http://server1.fujifilm.com/fb/ArcSuite/collabo/

*** Configurations from Database ***
ServerId: 1111
ComponentId: rmsid:12:5180-0001-00000001fa
ServerUrl: http://server1.fujifilm.com/fb/ArcSuite/collabo/

No conflict.
```

上段の3つの値はコラボ設定ファイルの情報、下段の3つの値はデータベース内の設定情報を示しています。

## ■ コマンドラインオプション

-F

コラボ設定ファイルから取得した情報、およびデータベース内の対応するサーバー情報を表示します。このとき、両者のEntryIdまたはURLが異なる場合には、コラボ設定ファイルの情報を使用してデータベース内のサーバー情報を更新します。

-h,-help

使用方法を表示します。

## 13.9.7 S/MIME 用証明書と秘密鍵の設定

返信メール取り込みでS/MIMEを使用する場合は、メールユーザーメールアドレスのS/MIME用証明書と秘密鍵が必要になります。

S/MIME用証明書と秘密鍵の設定には、S/MIME用証明書秘密鍵設定ツールで提供されるコマンドを使います。

### S/MIME 用証明書と秘密鍵を設定するためのコマンド

次の機能があります。

- ・メールユーザーメールアドレスの証明書を登録する  
指定された証明書のファイルパスから証明書ファイルを取得し、証明書の検証をし、証明書を次のフォルダーの下に配置します。  
{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー} %Service%conf%Collabo
- 補足** 「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ}:%ArcSuite」です。
- ・メールユーザーメールアドレスの秘密鍵を登録する  
指定された秘密鍵のファイルパス、秘密鍵のパスワード、キーストアのパスワードから秘密鍵ファイルを取得し、キーストアを次のフォルダーの下に作成します。  
{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー} %Service%conf%Collabo
- ・登録済みの証明書を削除する  
登録済みの証明書を削除します。

このコマンドは、コラボスペースの管理者権限を持つユーザーだけが実行できます。

コマンドには、いくつかの使用モードがあります。

- ・ [通常モード](#)

- ・ [追加モード](#)
- ・ [あらかじめ引数を指定して実行するモード](#)
- ・ [証明書削除モード](#)
- ・ [証明書削除モード \(あらかじめ引数を指定して削除モードとして起動する場合\)](#)

## 通常モード

### ■ 形式

```
SmimeKeyUploader.bat
```

### ■ パラメーター

ありません。

### ■ 実行手順

1. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。  
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

2. 次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
cd {ArcSuite をインストールしたフォルダー} %Service%Components%Collabo%bin%  
SmimeKeyUploader.bat
```

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

3. 「account:」のあとに、コラボスペースの管理者権限のあるユーザー名を入力して <Enter> キーを押します。
4. 「passwd:」のあとに、コラボスペースの管理者権限のあるユーザーのパスワードを入力して <Enter> キーを押します。  
次のメッセージが表示されます。

```
実行する処理を選んでください  
1. S/MIME 証明書秘密鍵設定を実行する。  
2. 証明書削除処理を実行する。  
3. 終了
```

5. 「選択項目:」のあとに、実行する番号を入力します。

**補足** 1～3以外の数値を入力した場合は、「3. 終了」処理が実行されます。

6. 次のどれかの操作をします。

#### ◆ 手順 5 で、「1」を入力した場合

「S/MIME 用証明書秘密鍵設定を実行します。」というメッセージが表示されます。

- (1) 「publickey:」のあとに、公開鍵 (証明書) のファイルパスを入力して <Enter> キーを押します。
- (2) 「secretkey:」のあとに、秘密鍵のファイルパスを入力して <Enter> キーを押します。
- (3) 「keypass:」のあとに、秘密鍵のパスワードを入力して <Enter> キーを押します。(エコーバックなし)
- (4) 「storepass:」のあとに、キーストアのパスワードを入力して <Enter> キーを押します。(エコーバックなし)  
「確認のため再度入力してください」というメッセージが表示されます。

- (5) 「storepass:」のあとに、手順 3 で入力したパスワードと同じパスワードを入力して <Enter> キーを押します。(エコーバックなし)  
「証明書登録処理を開始します。」というメッセージが表示されます。  
証明書登録に成功すると、「証明書ファイルを登録しました。」というメッセージが表示されます。  
続いて、「キーストアの作成を開始します。」というメッセージが表示されます。  
キーストアファイルの作成が終わると、「キーストアファイルの作成に成功しました。」というメッセージが表示されます。  
最後に、「全ての処理が成功しました。」というメッセージが表示されます。

#### ◆ 手順 5 で、「2」を入力した場合

- (1) 「公開鍵を削除します (Y/N) :」のあとに、「y」(大文字でも小文字でも可) と入力して <Enter> キーを押します。  
「サーバーからファイルを削除しました。」というメッセージが表示されます。
- 補足** 「n」(大文字でも小文字でも可) または空白で処理を実行した場合は、「削除処理は実行されませんでした。」と「処理を終了します。」というメッセージが表示されます。

#### ◆ 手順 5 で、「3」を入力した場合

「処理を終了します。」というメッセージが表示されます。

## 追加モード

サーバーに登録済みのファイルを削除せずに、証明書ファイルをサーバーに登録できます。

### ■ 形式

```
SmimeKeyUploader.bat -addmode
```

### ■ パラメーター

**-addmode**

コマンドを追加モードで起動します。  
サーバーに登録済みのファイルを削除したくないときに指定してください。

### ■ 実行手順

1. 「account:」のあとに、コラボスペースの管理者権限を持つユーザーのユーザー名を入力して <Enter> キーを押します。
2. 「passwd:」のあとに、パスワードを入力して <Enter> キーを押します。
3. [「通常モード」\(P.205\)](#) の [「◆手順 5 で、「1」を入力した場合」\(P.205\)](#) に続きます。

## あらかじめ引数を指定して実行するモード

### ■ 形式

```
SmimeKeyUploader.bat publickey {PublicKeyFileName} -addmode
-secretkey {SecretKeyFileName} -keypass {SecretKeyPassword}
-storepass {KeyStorePassword} -user {userId} -passwd {password}
```

### ■ パラメーター

addmode以外のパラメーターは、指定されなかった場合、標準入力で入力できます。

**-publickey**

公開鍵(証明書)のファイルパスを指定します。

**-addmode**

サーバーに登録済みのファイルを削除したくないときに、このパラメーターを指定します。

**-secretky**

秘密鍵のファイルパスを指定します。

**-keypass**

秘密鍵のパスワードを指定します。

**-storepass**

キーストアのパスワードを指定します。

**-user**

コラボスペースの管理者権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー ID を指定します。

**-passwd**

コマンドを実行するユーザーのパスワードを指定します。

**-h**

ヘルプを表示します。

## ■ 実行手順

1. addmode 以外のパラメーターが指定されなかった場合（DOS コマンドの仕様で無視された場合）は、標準入力から入力します。  
「証明書登録処理を開始します。」というメッセージが表示されます。  
証明書登録に成功すると、「証明書ファイルを登録しました。」というメッセージが表示されます。  
続いて、「キーストアの作成を開始します。」というメッセージが表示されます。  
キーストアファイルの作成が終わると、「キーストアファイルの作成に成功しました。」というメッセージが表示されます。  
最後に、「全ての処理が成功しました。」というメッセージが表示されます。

## 証明書削除モード

**補足** あらかじめ引数を指定して削除モードとして起動することもできます。

## ■ 形式

```
SmimeKeyUploader.bat -deletemode
```

## ■ パラメーター

**-deletemode**

登録済みの証明書を削除する場合に指定します。

## ■ 実行手順

1. 「account:」のあとに、コラボスペースの管理者権限のあるユーザーのユーザー名を入力して <Enter> キーを押します。
2. 「passwd:」のあとに、コラボスペースの管理者権限のあるユーザーのパスワードを入力して <Enter> キーを押します。
3. [「通常モード」\(P.205\)](#) の [「◆手順 5 で、\[2\] を入力した場合」\(P.206\)](#) に続きます。

## 証明書削除モード（あらかじめ引数を指定して削除モードとして起動する場合）

証明書削除モードでは、ユーザー名とパスワードも引数として指定できます。

## ■ 形式

```
SmimeKeyUploader.bat -deletemode - user {userId} -passwd {password}
```

## ■ パラメーター

### -deletemode

登録済みの証明書を削除する場合に指定します。

### -user

コラボスペースの管理者権限を持つユーザーで、コマンドを実行するユーザーのユーザー ID を指定します。

### -passwd

コマンドを実行するユーザーのパスワードを指定します。

## ■ 実行手順

1. 「公開鍵を削除します (Y/N)。」というメッセージのあとに、「y」を入力して <Enter> キーを押します。大文字、小文字どちらでも指定できます。
2. [\[通常モード\] \(P.205\)](#) の [\[◆手順5で、\[2\]を入力した場合\] \(P.206\)](#) に続きます。

## 注意制限事項

### ■ 一般的な注意制限事項

S/MIME用証明書秘密鍵設定ツールは、正しくセットアップされたコラボスペースの環境だけで動作します。

### ■ バッチファイル実行に関する注意事項

実行するバッチファイルの動作条件（.batが不要など）や渡すプログラムの引数の指定のルールは、Windowsの一般的なバッチファイルの引数指定のルールに従います。

### ■ コラボスペースの、ほかの機能との競合による制限事項

S/MIME用証明書秘密鍵設定ツールを実行した場合は、必ず、コラボスペースサーバー、またはコラボスペースのWindowsサービスを再起動してください。

### ■ 証明書登録時の注意制限事項

- ・登録できる証明書ファイルは、[\*.\*cer] または [\*.\*pem] です。その他の証明書は登録できません（X.509 DER 形式、またはその Base64 エンコードしたものの証明書ファイルだけをサポートします）。
- ・証明書ファイルの拡張子は、大文字でも問題ありません。
- ・サーバーに保存した証明書ファイル（「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥conf¥Collabo」フォルダーに保存してあるファイル）を登録できません。そのため、登録元と登録先のフォルダーは別にする必要があります。
 

**補足** 「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} : ¥ArcSuite」です。
- ・登録済みの証明書がある場合に、さらに追加で証明書を登録すると、以前サーバーに保存した証明書は削除されます。ただし、引数として「-addmode」を指定した場合は、サーバーに保存されている証明書は削除されません。なお、「-addmode」を指定した場合でもファイル名が同じ場合、サーバーのファイルも上書きされます。
- ・証明書ファイルは、ファイル名の太文字と小文字を区別せずに識別されます。

### ■ 秘密鍵登録時の注意制限事項

- ・登録できる秘密鍵ファイルは、[\*.\*pfx] または [\*.\*p12] です（PKCS#12 形式の秘密鍵ファイルだけをサポートします）。



- ・ 秘密鍵ファイルの拡張子は、大文字でも問題ありません。
- ・ キーストアのパスワードは、英数字だけで 6 文字以上、50 文字以下です。
- ・ キーストアのパスワードは、大文字と小文字を区別して識別されます。
- ・ コマンドを実行したあとは、コラボスペース管理アプリケーションのメール設定で [S/MIME を使用して取り込む] にチェックマークを付けてから、コラボスペース関連のサービスを再起動してください。

## 13.9.8 「POP3S 接続」または「STARTTLS 接続」で暗号化通信するために必要なキャビネットの作成

返信メール取り込みで「POP3S接続」または「STARTTLS接続」の暗号化接続方式を使用する場合は、メールサーバーが暗号化に使用している証明書を検証する必要があります。そのため、証明書格納用キャビネットを作成し、メールサーバーが通信の暗号化に使用している証明書を検証するために必要なルート証明書、中間CA証明書、またはサーバー証明書を格納します。

### 証明書格納用キャビネットの作成方法

ドキュメント管理サービスに、メール検証用の証明書を格納するキャビネットを作成するコマンドを実行します。

メッセージ通知サービスや原本性保証オプションですでに証明書を格納するキャビネットを作成している場合は、そのキャビネットを使用します。

証明書格納用キャビネットにメールサーバーが通信の暗号化に使用している証明書を検証するために必要なルート証明書、中間CA証明書、またはサーバー証明書を格納します。

- 補足** ・ 証明書格納用キャビネットを作成する手順については、[「メール検証用証明書格納キャビネットの作成方法」\(P.184\)](#) を参照してください。
- ・ メッセージ通知サービスとコラボスペースとで使用するメールサーバーおよび証明書が同じ場合、どちらか一方の手順で証明書を登録してください。同じ証明書を 2 度登録する必要はありません。

## 13.10 ワークフローの管理

---

ワークフローでは、ワークフローの管理者が、ワークフロー管理アプリケーションを使用して次の管理操作をします。

### 13.10.1 日常の管理の概要

---

ワークフローの日常の管理について、説明します。

#### ログの確認

ワークフローで障害が発生したときは、ログを確認します。

**参照** [\[10 ログの管理\] \(P.120\)](#)

#### ログのレベルの設定

障害の調査などで必要なときに、ログのレベルを変更します。[DEBUG] または [TRACE] レベルに設定すると、ログを記録する処理のために日常の操作に影響することがあります。必要なとき以外は設定を変更しません。

#### 設定の変更

ワークフロー管理アプリケーションで、次の設定を変更できます。

- ・ 管理者の設定
- ・ メール通知の設定
- ・ ログレベルの設定
- ・ ワークフローで使用するキャビネットの設定
- ・ 不要データ削除の設定
- ・ 外部コマンドスケジュールの設定
- ・ 外部コマンドサービス状態の設定
- ・ 外部コマンド一覧の確認
- ・ 外部コマンド実行の設定

**参照** 『ワークフロー管理アプリケーションのヘルプ』

## 13.11 関連文書検索サービスの管理

関連文書検索サービスの日常の管理について説明します。

### 13.11.1 日常の管理の概要

関連文書検索サービスの日常の管理について、説明します。関連文書検索サービスの管理者およびキャビネット管理者が管理します。

#### ログの確認

関連文書検索サービスで障害が発生したときは、ログを確認します。

参照 [\[10 ログの管理\] \(P.120\)](#)

#### インデックスの管理

インデックスの管理はすべてコマンドを実行します。

##### ◆ オーナー認証

管理用コマンドラインインターフェイスを利用する場合、インデックスのオーナー認証のために、リソース管理サービスに登録されているコンポーネントごとのエントリー ID (rmsid) を入力します。この認証によって、入力したrmsidで示されるコンポーネントが作成したインデックスに対して、オーナーだけが実行できる管理操作を実行できるようになります。

##### ◆ 既存インデックスのリスト表示

すべてのインデックスをリスト表示できます。

##### ◆ 指定したインデックスの状態表示

指定したインデックスの状態を表示できます。表示できるのは、次の情報です。

- ・ インデックス名
- ・ 生成日時
- ・ 登録部文書数
- ・ ディスク使用量 (byte)
- ・ 最適化実行履歴
- ・ 結果

##### ◆ インデックスの削除

インデックスを削除します。

不要なインデックスを削除する用途として使用してください。

#### コマンドの実行

1. 関連文書検索サービスをインストールしたサーバーで、次のコマンドを入力して <Enter> キーを押します。

```
cd {ArcSuite をインストールしたフォルダー} %Service%Components%kSearchDuo%bin%  
kSearchDuoAdmin.bat
```

**注記** Windows の機能であるユーザーアカウント制御 (UAC) によって、バッチファイルにアクセスできなかったり、起動に失敗したりすることがあります。この場合、運用上のセキュリティーポリシーに沿って、管理者特権でコマンドツールにアクセスして実行するための措置を行う必要があります。

ユーザーアカウント制御 (UAC) に関する設定については『セットアップガイド』を参照してください。

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

ログインメニューが表示されます。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ログイン</li> <li>2. 終了</li> </ol> |
|--|

2. 「1」を入力して <Enter> キーを押します。

3. 認証のために、リソース管理サービスに登録されているコンポーネントごとのエントリー ID (rmsid) を入力して <Enter> キーを押します。

**注記** ここで認証を受けないと、インデックスの削除などの変更操作は行えません。

機能メニューが表示されます。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インデックスリストの表示</li> <li>2. インデックス情報の表示</li> <li>3. インデックスの削除</li> <li>4. ログアウト</li> </ol> |
|---|

4. 実行する操作の番号を入力して <Enter> キーを押します。

5. 以降のどれかの手順に進みます。

◆ **インデックスリストの表示**

インデックス管理メニューから「1」を実行すると、すべてのインデックスがリスト表示されます。終了するには、<Enter> キーを押してください。

◆ **インデックス情報の表示**

インデックス管理メニューから「2」を実行すると、表示対象のインデックスを指定する画面が表示されます。

(1) 表示対象のインデックスの番号を入力して <Enter> キーを押します。

指定したインデックスの情報が表示されます。

- ・ インデックス名
- ・ 生成日時
- ・ 登録部文書数
- ・ ディスク使用量 (byte)
- ・ 最適化実行履歴
- ・ 結果

「続けますか?」というメッセージが表示されます。

(2) 次の操作をします。

- ・ 別のインデックスの情報を表示する場合  
「Y」を入力して <Enter> キーを押します。  
「続けますか?」というメッセージが表示されます。  
手順 1 を繰り返します。
- ・ 終了する場合  
「N」を入力して <Enter> キーを押します。

◆ **インデックスの削除**

機能メニューから「3」を実行すると、削除対象のインデックスを指定する画面が表示されます。

- (1) 削除対象のインデックスの番号を入力して <Enter> キーを押します。  
確認メッセージが表示されます。
- (2) 「Y」を入力して <Enter> キーを押します。  
指定したインデックスが削除されます。  
「続けますか?」というメッセージが表示されます。
- (3) 別のインデックスを削除する場合は、手順 1 と 2 を繰り返します。  
終了する場合は、「N」を入力して <Enter> キーを押します。

## 13.11.2 ウィルススキャンの影響

ウィルススキャンソフトウェアをインストールしている場合、環境や設定によって関連文書検索サービスのレスポンスが遅くなることがあります。その場合、関連文書検索サービスのフォルダーをスキャン対象から除外することで、レスポンスへの影響を抑えることができます。

スキャン対象から除くフォルダーは、次のとおりです。

「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥data¥kSearchDuo」 フォルダー

ウィルススキャンソフトウェアによって設定は異なります。ソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。

**補足** 「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} : ¥ArcSuite」です。

## 13.11.3 関連文書検索サーバーに関する注意制限事項

### ディスクの空き容量

関連文書検索のインデックスおよびテキスト解析結果を格納するためには、サーバーの空き容量が必要です。ファイルサイズの平均が4 KBで、文書 (400 MB) が10万個ある場合、インデックスが10個必要なとき (合計100万文書、4 GB) の容量のめやすは、次のとおりです。

- ・ 関連文書検索インデックス：8 GB (元テキストの総量の 2 倍程度)
- ・ テキスト解析結果の格納：10 GB (元テキストの総量の 2.5 倍程度)

合計18 GB (元テキストの総量の4.5倍程度) です。

### メモリの空き容量

関連文書検索サービスが使用するJava Virtual Machineには、256MB以上の空いている物理メモリが割り当てられることを想定しています。

### 13.11.4 抽出テキストに関する注意制限事項

---

抽出テキストが不正な場合、テキストフィルターの仕様や、対象とする文字コードセット、アプリケーション間の依存性などで、次の問題が起こることがあります。

- ・ DocuWorks 文書にあるテキストで、OCR を使用して取得したものは、誤りを含む可能性が高いです。その結果、キーフレーズに意図しない表現が含まれることがあります。
- ・ PDF 文書で文字強調されている文字は、意味がわからないキーフレーズとして抽出されることがあります。これは、抽出テキストが同じ文字の連続（例：PDF → PPPPDDDDFFFF）として表現されてしまうためです。
- ・ PDF 文書で、縦書きの形式で記載されている内容は、PDF 文書の行とは異なる単位で行分割されます。この場合、意味がわからないキーフレーズが抽出されることがあります。
- ・ PDF 文書では、キーフレーズに目次などのタブリーダー（例：----、）が含まれることがあります。
- ・ 元テキストにコード変換できない文字が存在した場合、キーフレーズに元テキストには含まれていない文字が含まれることがあります。

## 13.12 統合検索サービスの管理

---

統合検索サービスの日常の管理について説明します。

### 13.12.1 日常の管理の概要

---

統合検索サービスの日常の管理について、説明します。

#### ログの確認

統合検索サービスで障害が発生したときは、ログを確認します。運用中の操作についてのログは、アカウントログを確認します。

**参照** [\[10 ログの管理\] \(P.120\)](#)

#### 設定の変更

統合検索サービス管理アプリケーションで、次の設定を変更できます。

- ・ リソースの新規作成、編集または削除
- ・ 収集処理の開始、停止、または再収集
- ・ 収集状況の確認
- ・ 収集履歴の確認
- ・ 収集の間隔や処理の待ち時間など、統合検索サービスの設定

**参照** 『統合検索サービス管理アプリケーションのヘルプ』

## 13.13 キャプチャリングサービスの管理

---

キャプチャリングサービスの日常の管理について説明します。

### 13.13.1 日常の管理の概要

---

キャプチャリングサービスの日常の管理について、説明します。

#### ログの確認

キャプチャリングサービスで障害が発生したときは、ログを確認します。運用中は、アカウントログまたはシステムログを確認します。

- **参照** ・アカウントログについては、[\[13.13.2 アカウントログ\] \(P.216\)](#)
- ・システムログについては、[\[10 ログの管理\] \(P.120\)](#)

#### 設定の変更

キャプチャリング管理アプリケーションで、監視キューの作成、編集、削除、開始など監視キューについての設定ができます。

- **参照** 『キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ』

#### 監視キューに転送されるデータの確認

管理キューに転送されるデータを確認します。

- **参照** [\[13.13.3 監視キューに転送されるデータ\] \(P.218\)](#)

#### パラメーターの設定

変換処理または登録処理のパラメーターを設定します。

- **補足** パラメーターの使用方法は、ドキュメント管理サービスの一括登録コマンドのパラメーターと同じです。

- **参照** 『キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ』

### 13.13.2 アカウントログ

---

アカウントログのファイル名、および操作識別子は、次のとおりです。

#### ■ ファイル名

account\_Capture- {監視キューのID番号} .log  
「{監視キューのID番号}」は、1~30までの数字です。

#### ■ フォルダー

- **参照** [\[10.3 ログファイル\] \(P.127\)](#)



## ■ 操作識別子

アカウントログとして記録される操作識別子は、次のとおりです。

表 : キャプチャリングサービスの操作識別子

操作識別子	説明
Job#input	指定された監視キューフォルダーに置かれたファイルを、workフォルダーに移動した場合に記録されます。
Job#convert	変換操作をした場合に記録されます。
Job#transfer	登録処理が失敗した場合に記録されます。
RegistrationProcessor#login	ドキュメント管理サービスに登録するため、Webサービスにログインした場合に記録されます。
RegistrationProcessor#logout	Webサービスからログアウトした場合に記録されます。
RegistrationProcessor#putDocument	ドキュメント管理サービスに登録した場合に記録されます。
RegistrationProcessor#addRepository ObjectRevision	リビジョンアップ登録した場合に記録されます。
RegistrationProcessor#putReference	リファレンス同時生成登録した場合に記録されます。
RegistrationProcessor#merge	マージ登録した場合に記録されます。
RegistrationProcessor#replace	上書き登録した場合に記録されます。
RegistrationProcessor#putFolder	フォルダー登録した場合に記録されます。
RegistrationProcessor#execute RegistrationProcessor#execute4Multiple	登録が失敗した場合に記録されます。

表 : キャプチャリング管理アプリケーションの操作識別子

操作識別子	説明
init	本コンポーネントが初期化された場合に記録されます。
welcome	ログインに成功した場合に記録されます。
logout	ログアウトした場合に記録されます。
list	監視キューの一覧表示操作を行った場合に記録されます。
log	監視キューの履歴表示を実行した場合に記録されます。
edit	監視キューの設定の編集操作を行った場合に記録されます。
start	監視キューに対して開始操作を行った場合に記録されます。
stop	監視キューに対して停止操作を行った場合に記録されます。
create	監視キューの新規作成を行った場合に記録されます。
errorinfo	監視キューに対してエラー表示操作を行った場合に記録されます。

### 13.13.3 監視キューに転送されるデータ

監視キューに転送されるデータは、次のとおりです。

- ・ [処理対象ファイル](#)
- ・ [マージ画像ファイル](#)
- ・ [リストファイル](#)
- ・ [設定ファイル](#)
- ・ [ロックファイルとエンドファイル](#)

### 処理対象ファイル

キャプチャリングサービスで、画像変換ができるデータフォーマットは、次のとおりです。

#### ■ ラスター系ファイルフォーマット

表：ラスター系ファイルフォーマットの変換

入力 出力	TIFF	TIFF-FX	JFIF	DIB BMP	Sunras	PNG	CALS Type1
TIFF	×	○	○	○	○	○	○
TIFF-FX	○	×	○	○	○	○	○
JFIF	○	○	×	○	○	○	○
DIB、BMP	○	○	○	×	○	○	○
Sunras	○	○	○	○	×	○	○
PNG	○	○	○	○	○	×	○
CALS Type1	○	○	○	○	○	○	×
XDW	○	○	○	○	○	○	○
PDF	○	○	○	○	○	○	○

○： 変換可能

×： 変換不可

#### ■ ベクター系ファイルフォーマット

表：ベクター系ファイルフォーマットの変換

入力 出力	XDW、XBD	Microsoft Office (PDFを含む)	TEXT
XDW、XBD	×	○	○
Microsoft Office (PDFを含む) (*1)	×	×	×
TEXT	×	×	×
Raster (*2)	○	○	○

○： 変換可能

×： 変換不可

\* 1：使用できる Microsoft Office は、Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint です。

\* 2：Raster として使用できるフォーマットは、TIFF、JFIF だけです。

## マージ画像ファイル

画像変換するとき、マージ処理をする処理対象ファイルおよびマージする画像を指定します。  
次の形式で、ファイル名を指定します。

```
{処理対象画像ファイル名} -m. {マージ画像ファイルの拡張子}
```

「{処理対象画像ファイル名}」に、ファイル名を指定します。

例：file

「{マージ画像ファイルの拡張子}」に、拡張子を指定します。

例：tif

## リストファイル

次のように、複数のファイルを処理対象とする場合に使用するファイルです。

- ・フォルダー単位で登録
- ・シングルページ画像をマルチページ画像に変換して登録
- ・複数の画像をマージして登録

次の形式で、ファイル名を作成します。

```
{文字列}.list
```

「{文字列}」には、任意の文字列を指定します。

記述する内容は、リストファイルの指示内容（処理方式、登録先、変換方法、属性）を記述した設定ファイル名（「{リストファイル名}」.att）、および処理する各画像ファイル属性を記述した設定ファイル名（「{処理画像ファイル名}」.att）です。

処理の順番は、リストファイルに記述された順番と同じです。また、各ファイル名の末尾には改行を入れません。

### ■ リストファイルの作成例

リストファイルを使用して3つの画像を転送する場合、次のようにリストファイルを作成します。

リストファイル名をsample.list、リストファイルの設定ファイル名をsample.att、転送する画像と設定ファイル名を、zumen1.att、zumen1.tif、zumen2.att、zumen2.tif、zumen3.att、zumen3.tifとします。

```
sample.att
zumen1.att
zumen2.att
zumen3.att
```

## 設定ファイル

画像を登録するとき、設定内容を記述したファイルです。

設定する内容は、次のとおりです。

- ・ドキュメント管理サービスに転送するときのサーバー情報
- ・ドキュメント管理サービスに登録するときのパラメーター情報
- ・画像変換情報
- ・画像属性情報

設定が行われていない場合、デフォルトの値が使用されます。

リストファイルの指示内容を記述した設定ファイルの名前は、次の形式になります。

```
{リストファイルのファイル名}.att
```

各画像ファイルの設定を記述した設定ファイルの名前は、次の形式になります。

```
{画像ファイルのファイル名}.att
```

- 補足**
- ・設定ファイルのフォーマットは CSV 形式です。
  - ・画像属性情報だけ設定した場合、属性は指定された値で処理されます。ただし、サーバー情報、パラメーター情報、および変換情報はデフォルトの値で処理されます。
  - ・リストファイル名と同じ設定ファイルには、リストファイルの項目にも明記した処理方式、登録先、変換方法が記述されます。
  - ・値に「, (コンマ)」が含まれる場合は、「" (ダブルクォーテーション)」で値を囲みます。また、囲んだ文字列内に「" (ダブルクォーテーション)」がある場合は、「"' (ダブルクォーテーション、ダブルクォーテーション)」に置き換えます。
- 例：  
「value,」の場合、「"value,"」  
「value,"name"」の場合、「"value,""name"""」

### 設定ファイルの表記方法

設定ファイルの各パラメーターについて、設定ファイルの1行めにパラメーター名、2行めに値を入れます。ただし、パラメーターを記述するときは、属性設定、登録設定、変換設定のどれかを区別するために、次に示す内容に従ってください。

#### ■ 属性設定

CSVファイルのパラメーター名に「attr:」が付加されます。ドキュメント管理サービスへの登録するときに、name属性を付加していない場合は、処理対象ファイル名および拡張子がname属性として付加されます。

#### ■ 登録設定

CSVファイルのパラメーター名に「regist:」が付加されます。フォルダー登録モードで登録する場合は、リストファイルの「リストファイル名.att」に「regist:createFolder」を記述する必要があります。

**参照** 設定できる情報については、『キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ』を参照してください。

## ■ 変換設定

CSVファイルのパラメーター名に「conv:」が付加されます。キャプチャリングサービスを経由して変換設定できるのは、次の項目です。

表 : 変換設定項目

変換設定	値
scale (拡縮)	数値
rotate (回転)	数値
resolution (解像度)	数値
out-format (出力フォーマットタイプ) (*1)	MIME TYPE
merge (合成) (*2)	オフセット位置、offset-x、offset-y (*3)
mergemode (合成モード)	値 : opaque (上書き)、multiply (乗算)、transparent (透過) (*4)
string (合成文字列) (*4)	値 : 文字列
fontsize (*5)	値 : 正の整数
transcolor (*6)	値 : 0xRRGGBB (RR、GG、BBは2桁の16進数)
colorallowance (*6)	値 : 0~255
rotatemode (サイズ別回転をするか) (*7)	true/false
append (併合) (*8)	true/false
keyword (view,print,nail,topNail,scrap のラベルを指定した変換)	値 : 文字列

- \* 1 : out-format を指定せずに変換設定を行った場合、画像変換定義テーブルに対して、入力フォーマットと任意の出力フォーマットの条件で検索されます。このため、入力フォーマットが一致する最初のエントリーが変換パターンとして採用されます。
- \* 2 : 合成は、複数の画像を合成するためのリストファイルの設定だけに使用されます。
- \* 3 : オフセット位置以外の値は数値です。オフセット位置に設定できるのは、topleft、topcenter、topright、middleleft、center、middleright、bottomleft、bottomcenter、bottomright です。
- \* 4 : merge を指定した場合に有効です。
- \* 5 : string を指定したときだけ有効です。
- \* 6 : mergemode が transparent のときだけ有効です。
- \* 7 : rotatemode が true の場合はサイズ別回転をするため、rotate が記述されていた場合は rotate が無視されます。
- \* 8 : append が true の場合は併合するため、merge が記述されていた場合は merge が無視されます。

## 設定ファイルの作成例

```
attr:user:drawingName,regist:locationCabinetId,regist:locationDrepId,regist:locationServiceId,conv:scale
zumen,cabinet_1,12304433444333,topaz,1.5
```

## ロックファイルとエンドファイル

ロックファイルとエンドファイルを使用して、別のシステムからファイルのコピー完了を通知する手順は、次のとおりです。

ただし、監視キューに転送するクライアントは、同一名のファイル、およびファイル名が同じでフォーマット（拡張子）が異なるファイル画像がすでに存在している場合、そのファイルが監視フォルダーから削除されるまでは、ファイル画像を転送しないでください。

また、リストファイルを使用して監視キューへ転送する場合、複数の同一名のファイル、およびファイル名が同じでフォーマット（拡張子）が異なるファイルを1リスト形式で転送しないでください。

1. 画像を転送するまえに、監視キューに「[処理対象ファイル名].lock」を作成します。
2. 各種情報ファイル、処理対象ファイルを転送します。
3. 手順2のファイルの転送が終了したあとで、「[処理対象ファイル].end」を作成します。

## 監視キューに転送されるデータの制限事項

### ■ データの順序について

監視キューに転送されるのは、リストファイル、設定情報、処理をする画像の順です。

### ■ 画像転送方式について

監視キューの監視機能での画像転送方式はFTPプロトコルなどを使用して転送されます。

### ■ 画像の取得について

FTPプロトコルでは、画像転送の終了がわかりません。このためキャプチャリングサービスでは、一定の期間、画像が転送されていない場合、画像を取得します。

画像の取得にかかる時間を短縮させるために、次の手順でデータを転送します。

- (1) 画像の転送をするまえに、監視キューに転送画像名.lockを作成する
- (2) 各種情報および画像を転送する
- (3) データの転送が終了したあとで、転送画像名.endを作成する

### ■ 画像が転送されない条件について

監視キューに転送されるデータのフォーマット（拡張子）が違っていても、名前が同じ画像がすでに存在している場合、画像は転送されません。また、1リスト形式で監視キューに転送することもできません。

### ■ リストファイルでの転送順序について

リストファイルを使った場合は、次の順で転送します。リストファイルを使う場合は、データの前にlockファイルを、データのあとにendファイルを転送する必要があります。

例：

- (1) リストファイル名.list
- (2) リストファイル名.att
- (3) リスト内の最初のファイル名.lock (zumen1.lockなど)
- (4) リスト内の最初のファイル名.att (zumen1.attなど)
- (5) リスト内の最初のファイル名.拡張子 (zumen1.拡張子など)
- (6) リスト内の最初のファイル名.end (zumen1.endなど)

(3) ~ (6) の内容が、リストに記述しているファイル分繰り返されます。

## 13.14 監視サービス

監視サービスは、ArcSuiteのサービスを監視して、あらかじめ指定した条件を満たしたときに、ログを記録したり、メールを送信したりするサービスです。

ドキュメント管理サービスの表領域の運用状況を記録したり、異常状態を検知したりできます。また、ストレージパスやサーバーの容量を監視できます。

次の監視機能があります。

- ・ [異常監視](#)
- ・ [運用監視](#)

監視サービスが監視するサービスは、次のとおりです。

表：監視サービスが監視するサービス

コンポーネント	サービス
ファイルフォーマット変換サービス メッセージ通知サービス	ArcSuite Basic Service
ドキュメント管理サービス	ArcSuite Repository Service ArcSuite Repository Master Admin Service
ドキュメントスペース 簡易操作 Webサービス コラボスペース ワークフロー	ArcSuite Web Application Service
全文検索サービス	ArcSuite Full Text Search Service
関連文書検索サービス	ArcSuite kSearchDuo Service
コラボスペース	ArcSuite Collabo Service
データベース	OracleService {SID} OracleOraDB19Home1TNSListener
ファイルフォーマット変換サービス	Fx Doc Conv Helper DocuWorks Print Service

### 13.14.1 異常監視

異常監視は、監視項目を一定の間隔で値を監視し、一定の値を超えたときに、ログに記録してメールを送信します。

#### 監視設定

異常監視では、一定の条件を満たした場合に、次のアクションで、ログの記録およびメールの送信をします。共通設定ファイルまたはメール設定ファイルを編集して、監視する間隔、値、およびメールアドレスを設定します。ただし、監視サービスがインストールされているサーバーに存在しないサービスは、監視されません。

- ・ 注意値アクション  
一定の注意値を超えた場合に実行します。
- ・ 安全時アクション  
注意値を超えたあとで、安全値に復帰した場合に実行します。
- ・ 再実行アクション  
注意値を超えたあとに、再実行間隔に定義された間、注意値を超え続けた場合に実行します。

**参照** 共通設定については、[\[13.14.3 設定方法\] \(P.229\)](#) を参照してください。

パーティション関連項目の標準設定は、次のとおりです。

表：パーティション関連項目

監視対象				監視種別	注意値	安全値	監視間隔(秒)	再実行間隔(時)
項目	サービス	MBean	属性					
現在の空き容量	ArcSuite Monitoring Service	ArcSuite:name=Monitoring,type=System,subtype=partition_c@*	UsableSpace	下限	1 (GB)	2 (GB)	60	24
使用可能割合	同上		UsableRatio	下限	5 (%)	10 (%)		

\*：Cドライブの監視をする MBean です。その他のパーティションを監視する MBean を追加することもできます。

メモリ関連項目の標準設定は、次のとおりです。

表：メモリ関連項目

監視対象				監視種別	注意値	安全値	監視間隔(秒)	再実行間隔(時)
項目	サービス	MBean	属性					
ヒープの使用割合	ArcSuite Monitoring Service以外のすべてのサービス	ArcSuite:name=memoryUsage,type=Service	HeapUsedRatio	上限	80 (%)	70 (%)	60	24
非ヒープの使用割合			NonHeapUsedRatio	上限				
物理メモリ残量	ArcSuite Monitoring Service	java.lang:type=OperatingSystem	FreePhysicalMemorySize	下限	100 (MB)	150 (MB)	60	24
スワップ領域残量			FreeSwapSpaceSize	下限	300 (MB)	500 (MB)		

スレッド関連項目の標準設定は、次のとおりです。

表：メモリ関連項目

監視対象				監視種別	注意値	安全値	監視間隔(秒)	再実行間隔(時)
項目	サービス	MBean	属性					
デッドロックスレッド数	ArcSuite Monitoring Service以外のすべてのサービス	ArcSuite:name=threadUsages,type=Service	DeadlockedThreadCount	上限	1	0	60	24



## メール送信

異常監視では一定の条件を満たすと、情報を設定ファイルで指定された通知先アドレスにメールを送信します。

**補足** 監視対象のサービスと接続できなくなった場合などに、その他の通知アクションとしてメールを送信する場合があります。

ロケールの設定によって、通知されるメールの内容の形式が異なります。

設定できるロケールは、次のとおりです。

- ・ 日本語の場合は、ja
- ・ 英語の場合は、en

ロケールに応じた、メール本文の形式は、次のとおりです。

**補足** 表中のメールの内容は変更できません。

表 :ロケールに ja を設定したとき

アクションの内容	メッセージ	[サービス名]:	[監視対象]:	[属性名]:	[注意値]:	[監視種別]:	[現在値]:
注意時アクション	監視項目の値が、注意値を超えました。	{サービスの名前}	{監視対象のMBean名}	{属性名}	{注意値}	{監視種別} *	{現在の値}
再実行アクション	監視項目の値が、注意値を超えた状態が継続しています。	{サービスの名前}	{監視対象のMBean名}	{属性名}	{注意値}	{監視種別}	{現在の値}
安全時アクション	監視項目の値が、安全値に復帰しました。	{サービスの名前}	{監視対象のMBean名}	{属性名}	{安全値}	{監視種別}	{現在の値}
その他の通知アクション	その他の通知です。: {詳細}	{サービスの名前}	{監視対象のMBean名}	{属性名}		{監視種別}	{現在の値}

\* : 監視種別が下限の場合は Low、上限の場合は High になります。

表 :ロケールに en を設定したとき

アクションの内容	メッセージ	[Service Name]:	[Monitoring Target]:	[Attribute Name]:	[Caution Value]:	[Monitoring Type]:	[Current Value]:
注意時アクション	The value of the monitor item exceeded the caution value.	{サービスの名前}	{監視対象のMBean名}	{属性名}	{注意値}	{監視種別} *	{現在の値}
再実行アクション	The value of the monitor item continues to exceed the caution value.	{サービスの名前}	{監視対象のMBean名}	{属性名}	{注意値}	{監視種別}	{現在の値}
安全時アクション	The value of the monitor item returned to the safe value.	{サービスの名前}	{監視対象のMBean名}	{属性名}	{安全値}	{監視種別}	{現在の値}

表 : ロケールに en を設定したとき

アクションの内容	メッセージ	[Service Name]:	[Monitoring Target]:	[Attribute Name]:	[Caution Value]:	[Monitoring Type]:	[Current Value]:
その他の通知アクション	Other notification.: {詳細}	{サービスの名前}	{監視対象のMBean名}	{属性名}	{注意値}	{監視種別} *	{現在の値}

\* : 監視種別が下限の場合は Low、上限の場合は High になります。

## ログ

異常監視で一定の条件を満たした場合に、情報をログに記録します。

### 出力先

次のファイルに異常監視のログが出力されます。

```
{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥logs¥Monitoring¥Service¥trace¥trace_Monitoring_Service_threshold.log
```

**補足** 「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} : ¥ArcSuite」です。

### 記録内容

ログに記録される内容は、次のとおりです。項目の内容は、「, (コンマ)」で区切って記録されます。

表 : ログ記録項目

項目	内容
日時	ログを記録した日時
サービス名	監視対象サービス名
通知種別	注意時アクションの場合は、「Caution」 安全時アクションの場合は、「Safe」 再実行アクションの場合は、「Continuous caution」
対象MBean	監視対象MBean名
対象属性名	監視対象属性名 (監視対象MBean中の属性)
監視種別	下限の場合は、「Low」 上限の場合は、「High」
属性値	属性値
閾値 (いきち)	注意時アクションおよび再実行アクションの場合は、注意値 安全時アクションの場合は、安全値

**補足** ArcSuite Web Application Service で、ヒープの使用割合が 82% になり、上限の 80% を超えると、サービス名以下に記録される項目は、次のとおりです。

```
ArcSuite Web Application Service,Caution,  
"ArcSuite:name=memoryUsages,type=Service",HeapUsedRatio,High,82,80
```

## 13.14.2 運用監視

運用監視は、定期的に監視項目の値を取得し、ログに記録します。

### 監視設定

監視設定は、共通設定ファイルを編集します。ただし、監視サービスがインストールされているサーバーに存在しないサービスは、監視されません。

**参照** 共通の設定については、[\[13.14.3 設定方法\] \(P.229\)](#) を参照してください。

各関連項目の標準設定については、次のとおりです。

表：パーティション関連項目

監視対象	監視対象サービス	監視対象MBean	属性	監視間隔 (秒)
現在の空き容量	ArcSuite Monitoring Service	ArcSuite:name=Partition,type=Service,su btype=partition_C@ (*1)	UsableSpace	60
使用可能割合			UsableRatio	

\* 1 : C ドライブの監視をする MBean です。その他のパーティションを監視する MBean を追加することもできます。

表：メモリ関連項目

監視対象	監視対象サービス	監視対象MBean	属性	監視間隔 (秒)
ヒープ使用量	ArcSuite Monitoring Service以外のすべてのサービス	ArcSuite:name=memoryUsages,t ype=Service	HeapUsed	60
ヒープの使用割合			HeapUsedRatio	
物理メモリ残量	ArcSuite Monitoring Service	java.lang:type=O peratingSystem	FreePhysicalMem orySize	
スワップ領域残量			FreeSwapSpaceSi ze	

表：スレッド関連項目

監視対象	監視対象サービス	監視対象MBean	属性	監視間隔 (秒)
ライブスレッド数	ArcSuite Monitoring Service以外のすべてのサービス	ArcSuite:name=threadUsages,typ e=Service	ThreadCount	60
デッドロックスレッド数			DeadlockedThre adCount	
デーモンスレッド数			DaemonThreadC ount	
カレントスレッドのCPU時間		CurrentThreadC puTime		
スレッドのユーザ時間		CurrentThreadU serTime		
プロセスCPU時間		java.lang:type=O peratingSystem	ProcessCpuTime	

表 :ArcSuite 固有項目

監視対象	監視対象サービス	監視対象MBean	属性	監視間隔 (秒)
ログイン中のユーザー数	ArcSuite Web Application Service	ArcSuite:name={コンポーネント名},type=Session (*1)	CurrentUserCount	60
ログイン中のセッション数			CurrentTotalSessionCount	
ユーザー数合計 (*2)			UserAggregateCount	
ユーザー数最大値 (*2)			UserPeakCount	
セッション数合計 (*2)			SystemSessionAggregateCount	
セッション数最大値 (*2)			SystemSessionPeakCount	

\* 1 : 監視対象のコンポーネントが 2 つ以上ある場合は、すべてのコンポーネントが監視対象になります。

\* 2 : 監視対象のサービスを再起動した場合、値はリセットされます。

## ログ記録

運用監視では、監視間隔ごとに監視項目の情報をログに記録します。

### 出力先

次のファイルに運用監視のログが出力されます。

```
{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} %Service%logs%Monitoring%Service%trace%trace_Monitoring_Service_interval.log
```

**補足** 「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} : %ArcSuite」です。

### 記録内容

ログの記録項目は、次のとおりです。

項目は、「, (コンマ)」で区切って記録されます。

表 :ログ記録項目

項目	内容
日時	ログを記録した日時
内容	監視設定に記載されている各項目の値は、「, (コンマ)」で区切って記録されます。

監視を開始したときに、各カラムの内容を示すヘッダ行を出力します。1つのカラムに対応するヘッダ形式は、次のとおりです。

```
{監視対象サービス名} ; {監視対象の MBean 名} ; {属性名}
```

ArcSuite Web Application Serviceでヒープの使用割合に対応するカラムのヘッダは、次のとおりです。

```
"ArcSuite Web Application Service;
ArcSuite:name=Monitoring,type=Service,subtype=MemoryUsages;HeapUsedRatio"
```

### 13.14.3 設定方法

**注記** 「設定方法」で示す項目以外が設定ファイルに記述されている場合、サービス起動時にエラーとなり、サービスが強制終了されます。

## 共通設定ファイル

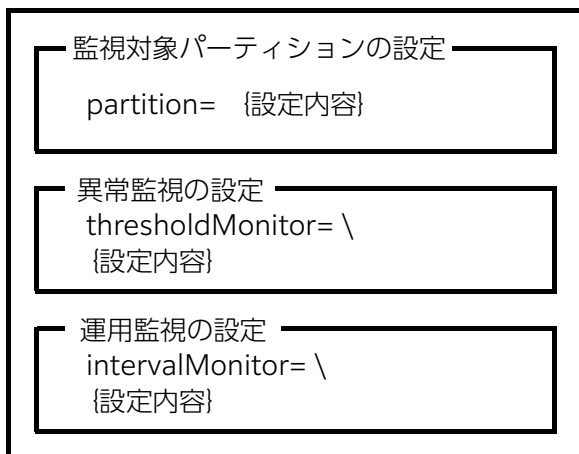
共通設定ファイルは、異常監視と運用監視の監視項目を設定します。  
異常監視と運用監視で共通の設定ファイルを編集します。

### ■ 設定ファイル

{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} %Service%conf%Monitoring%service\_config.properties

**補足** 「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuiteの設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ}:%ArcSuite」です。

設定ファイルの構成は、次のようになります。



**補足** 「{設定内容}」は、監視対象パーティションの設定、異常監視の設定、または運用監視の設定によって異なります。

### ■ 監視対象パーティションの設定内容

監視パーティションの設定内容は、「partition=」のあとに記載します。

#### ◆ 記述形式

監視パーティションの設定の記述形式は、次のようになります。

設定は「, (コンマ)」で区切って追加できます。パスには、UNCパスを指定することもできます。

指定した各パーティションの情報を監視するためのMBeanが、監視サービス内に生成されます。生成されるMBeanの名前は、次のとおりです。

```
ArcSuite:name=Monitoring,type=Service,subtype=partition_ {パス名}
```

「{パス名}」は指定した文字列です。ただし、「: (コロン)」はMBean名では値として使用できません。この場合、「@ (アットマーク)」に置き換えられます。

- 注記**
- ・パスのセパレータには、「\ (バックスラッシュ)」ではなく「/ (スラッシュ)」を使用してください。
  - ・パーティションを異常監視、運用監視をするためには、本項目に対応して生成される MBean を監視するように、「異常監視の設定内容」と「運用監視の設定内容」にも記述を追加する必要があります。

#### ◆ 作成例

次の4つを対象とする場合の例は、次のとおりです。

- ・ローカルパーティションの C:
- ・ローカルパーティションの D:
- ・UNC パスの "%server1%export"
- ・UNC パスの "%server2%export"

```
partition=C:,D://server1/export,//server2/export
```

### ■ 異常監視の設定内容

異常監視の設定内容は、次のようになります。

異常監視は、「thresholdMonitor =」のあとに、記述を追加します。

#### ◆ 記述形式

異常監視は、次のように記述します。

設定ごとに、行を追加します。

- ・途中行の場合

```
" {監視対象サービス名} ", " {監視対象の MBean 名} ", {監視対象属性名} , {属性の型} ,
{下限値} , {上限値} , {監視種別} ; \
```

- ・最終行の場合

**注記** 記述形式の最後の行は、「\ (バックスラッシュ)」を付けしないでください。

```
" {監視対象サービス名} ", " {監視対象の MBean 名} ", {監視対象属性名} , {属性の型} ,
{下限値} , {上限値} , {監視種別} ;
```

#### ◆ 各設定内容

共通設定ファイルの各設定項目は、次のとおりです。

表 : 異常監視設定の設定項目

項目	内容
{監視対象サービス名}	監視対象とするサービス名から、ArcSuiteを除いた文字列を指定します。ただし、監視サービス自身を監視対象とする場合は、空文字列を指定します。  例1 : ArcSuite Web Application Serviceを指定する場合、"Web Application Service"  例2 : ArcSuite Monitoring Service (監視サービス) を指定する場合、"" (空文字列)

表 : 異常監視設定の設定項目

項目	内容
{監視対象のMBean名}	監視対象のサービスで監視対象とするMBean名を指定します。  例：ArcSuite:name=Monitoring,type=Service,subtype=memoryUsagesを指定する場合、 "ArcSuite:name=Monitoring,type=Service,subtype=memoryUsages"  監視対象サービス名が「ArcSuite Web Application Service」で、MBean名に「ArcSuite:name=Collabo」または「ArcSuite:name=Workflow」で始まるMBeanを指定した場合、コラボスペースまたはワークフローを監視します。インストールされていない環境では、設定は無視されます。
{監視対象属性名}	監視対象のMBean中で監視対象とする属性名を指定します。  例：HeapUsedを指定する場合 HeapUsed
{属性の型}	監視対象とする属性の型を指定します。java.lang.Numberと同じパッケージに存在するNumberの派生クラス名である必要があります。  例：Integerを指定する場合 Integer
{下限値}	下限値を設定します。上限監視の場合は安全値、下限監視の場合は注意値に相当します。  例：100を指定する場合 100
{上限値}	上限値を設定します。上限監視の場合は注意値、下限監視の場合は安全値に相当します。  例：1000を設定する場合 1000
{監視種別}	監視種別を設定します。上限監視の場合high、下限監視の場合lowを指定します。  例：上限監視を設定する場合 high

## ◆ 作成例

次の2つの場合の例です。

- ・「ArcSuite Web Application Service」のヒープの使用割合が、80%を超えたときに注意時アクションを実行し、70%に復帰したときに安全時アクションを実行する場合
- ・ドキュメント管理サービスが利用する表領域「DREPSYS」の残量が5%未満になった場合は注意時アクションを実行し、その後10%に復帰したときに安全時アクションを実行する場合

**注記** 記述形式の最後の行は、\ (バックスラッシュ) を付けしないでください。

```
thresholdMonitor= \
"Web Application Service",
"ArcSuite:name=Monitoring,type=Service,subtype=memoryUsages", HeapUsedRatio,
Integer, 70, 80, high; \
"Repository Master Admin Service",
"ArcSuite:name=Repository_Admin,type=Database,subtype=tablespace,tablespaceName=
=DREPSYS", UsableRatioForMaxSize, Integer, 5, 10, low;
```

## ■ 運用監視の設定内容

運用監視の設定内容は、次のようになります。

運用監視は、「intervalMonitor = ¥」のあとに、記述を追加します。

### ◆ 記述形式

運用監視は、次のように記載します。

設定ごとに、行を追加します。

- ・途中行の場合

```
" {監視対象サービス名} ", " {監視対象の MBean 名} ", {監視対象属性名} ;\
```

- ・最終行の場合

**注記** 記述形式の最後の行は、「\ (バックスラッシュ)」を付けないでください。

```
" {監視対象サービス名} ", " {監視対象の MBean 名} ", {監視対象属性名} ;
```

### ◆ 各設定内容

各設定項目は、[「■ 異常監視の設定内容」\(P.230\)](#)の[「◆ 各設定内容」\(P.230\)](#)を参照してください。

### ◆ 作成例

次の2つの場合を順番に記載します。

- ・ドキュメント管理サービスが利用する表領域「DREPSYS」の使用量を運用監視する場合
- ・ドキュメントスペースに現在ログイン中のユーザー数を運用監視する場合

```
intervalMonitor= \
"Repository Master Admin Service",
"ArcSuite:name=Repository_Admin,type=Database,subtype=tablespace,tablespaceName=
DREPSYS", UsedBytes; \
"Web Application Service", "ArcSuite:name=DocumentSpace,type=Session",
CurrentUserCount;
```

**補足** ドキュメント管理サービスが使用する表領域に対応する MBean 名は、次のとおりです。「{表領域名}」は、すべて大文字で指定します。

```
"ArcSuite:name=Repository_Admin,type=Database,subtype=tablespace,tablespaceName= {表領域名} "
```



## メール設定ファイル

メール設定ファイルは、監視サービスが送信するメールサーバーや送信先のアドレスなどの設定を記述します。

メール設定ファイルは、異常監視のときだけ設定できます。

### ■ 設定ファイル

{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥conf¥Monitoring¥mlet¥  
ThresholdMonitorMailActionFactory.mlet

- 補足**
- ・ 設定ファイルは、Java Management Extensions の m-let テキストファイルの仕様に従った記載の設定ファイルです。ARG タグを使用して、一定の順番で設定する内容を記載してください。
  - ・ 「mlet」フォルダーには、インストールしたときのファイル以外に、mlet 形式のファイルを格納しないでください。バックアップするときに、インストール後のファイルを残す場合は、ファイルの拡張子を mlet 以外に変更してください。
  - ・ 「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} : ¥ArcSuite」です。

### ■ 設定項目

設定項目は、次のとおりです。MLETタグの下層に、次の順番でARGタグを使用して設定を記述します。

- 補足** MLET タグそのものの設定を変更した場合、動作しないことがあります。

表：メール設定ファイルの詳細

内容	項目
SMTPサーバーアドレス	<p>メール送信をするSMTPサーバーアドレスを設定します。型はStringです。</p> <p>例：SMTPサーバーアドレスにsmtp.fujifilm.com/fbを設定する場合 &lt;ARG TYPE=java.lang.String VALUE="smtp.fujifilm.com/fb"&gt;</p>
SMTPサーバーポート	<p>メール送信をするSMTPサーバーのポート番号を設定します。 「&lt;!-- SMTP server port --&gt;」の下で行で、「VALUE="」のあとに数字を入力します。 ポートを指定しない場合は、-1を入力します。</p> <p>例：SMTPサーバーポートとして25を設定する場合 &lt;ARG TYPE=java.lang.Integer VALUE="25"&gt;</p>
サブジェクト	<p>メールのサブジェクトを設定します。 「&lt;-- subject --&gt;」の下で行で、「VALUE="」のあとに文字列を入力します。 ロケールも同時に指定する必要があります。</p> <p>例：サブジェクトにArcSuite監視サービスレポートを設定する場合 &lt;ARG TYPE=java.lang.String VALUE="ArcSuite監視サービスレポート"&gt;</p>
送信者アドレス	<p>メールの送信者アドレスを設定します。 「&lt;-- from address --&gt;」の下で行で、「VALUE="」のあとに文字列を入力します。</p> <p>例：送信者アドレスにadministrator@example.comを設定する場合 &lt;ARG TYPE=java.lang.String VALUE="administrator@example.com"&gt;</p>
宛先アドレス	<p>メールの宛先アドレスを設定します。 「&lt;-- recipients address --&gt;」の下で行で、「VALUE="」のあとに文字列を入力します。</p> <p>例：宛先アドレスにTaro.Fuji@example.comを設定する場合 &lt;ARG TYPE=java.lang.String VALUE="Taro.Fuji@example.com"&gt;</p>

表：メール設定ファイルの詳細

内容	項目
ロケール	<p>メールのロケールを設定します。 「&lt;!-- locale --&gt;」の下の行で、「VALUE=」のあとに文字列を入力します。 日本語の場合はja、英語の場合は、enを入力します。</p> <p>例：ロケールにenを設定する場合 &lt;ARG TYPE=java.lang.String VALUE="en"&gt;</p>

## 13.15 監視ツール

監視ツールは、ArcSuiteの各コンポーネントのセッションの状態、ログインしているユーザーの一覧、データベースの状態を表示するWebアプリケーションです。ただし、ドキュメント管理サービス、全文検索サービス、キャプチャリングサービス、および統合検索サービスの状態は監視できません。

[参照](#) 『監視ツールのヘルプ』

### 監視権限

監視ツールを使用するためには、RMSの管理者権限が必要です。

### 監視対象

監視ツールの監視対象は、次のとおりです。

表 : 監視ツールの監視対象

コンポーネント名	監視項目
RMS	データベース
ログインサーバー	一般
	ユーザー一覧
	管理ユーザー一覧
	WebDAVユーザー一覧
ポータル	セッション
	セッションユーザー一覧
	データベース
ドキュメントスペース	セッション
	セッションユーザー一覧
	データベース
表示アプリケーション	セッション
	セッションユーザー一覧
コラボスペース	セッション
	セッションユーザー一覧
	データベース
ドキュメントレビュー オプション	セッション
	ユーザー一覧
	データベース
ワークフロー	一般
	セッション
	セッションユーザー一覧
	データベース
メッセージ通知	セッション
	データベース

表 : 監視ツールの監視対象

コンポーネント名	監視項目
Webサービス	セッション
	ユーザー一覧

## 分散環境で使用するときの制限

次の条件をすべて満たした場合、直前に操作していたWebブラウザの実サーバーに監視対象が変わる場合があります。

- ・ 同一プロセスの Web ブラウザーを複数開いている
- ・ それぞれの Web ブラウザーで別の実サーバーを選択している
- ・ 1 つの Web ブラウザーで作業を行ったあとに、別の Web ブラウザーで、コンポーネントまたはタブをクリックした

この場合、別プロセスのWebブラウザを使用するか、コンポーネントやタブを切り替えるまえに、Webブラウザを再読み込みしてください。

## セッションの強制切断

次のような場合、最大接続数を超えて、操作が続けられなくなることがあります。

- ・ 複数の PC から同じユーザーで、ArcSuite にログインした
- ・ Web ブラウザーの「×」ボタンで終了した

この場合に、監視ツールでセッションを切断できます。

ドキュメントスペースなどのアプリケーションのユーザー一覧に表示されている [切断] をクリックして、操作が続けられなくなったユーザーのセッションを、強制的に切断できます。

## 13.16 原本性保証オプションの管理

原本性保証オプションの日常の管理について説明します。

### 13.16.1 日常の管理の概要

原本性保証オプションの日常の管理について、説明します。

#### ルート証明書および中間 CA 証明書の管理

CertStoreキャビネットのTrustAnchorsドロワーおよびCertificatesドロワーに適切な証明書を格納します。証明書には有効期限があるので、期限が過ぎるまえに次の証明書を格納する必要があります。有効期限が過ぎた証明書は、証跡として残しておきます。

**参照** [「e- 文書法対応概要説明書」](#)

#### 利用者の秘密鍵管理

署名の信頼性を確保するために、秘密鍵はその秘密鍵の所有者だけが利用できるよう管理する必要があります。

#### ログの確認

原本性保証オプションで障害が発生したときは、ログを確認します。

**補足** ログは、ドキュメントスペースのログに記録されます。

**参照** [「10 ログの管理」 \(P.120\)](#)

#### 署名済み文書の検証結果の確認

署名済み文書の検証がNGになった場合は、証明書パスを確認します。

**参照** [「13.16.2 検証 NG の原因確認」 \(P.238\)](#)

#### 設定ファイルの変更

処理の間隔、処理対象の件数を設定できます。

**参照** [「13.16.3 設定ファイル」 \(P.238\)](#)

#### システムプロパティでの設定

アーカイブタイムスタンプ付与のタイミング、PAdESの文書タイムスタンプの印影、およびRSA署名用ハッシュアルゴリズムを設定できます。

**参照** [「13.16.4 システムプロパティでの設定」 \(P.247\)](#)

## 13.16.2 検証 NG の原因確認

署名済み文書の検証がNGになった場合、証明書パスについて次のことを確認してください。

証明書パスとは、特定の証明書から、証明書発行者を辿ってトラストアンカーまでのパスのことです。どの証明書も、最後は自身が発行者になっているルート証明書になるパスを持っています。

### ◆ 文書タイムスタンプの場合

TSA証明書の証明書パスのすべての証明書は、次の条件を満たしているか？

- ・ CertStore キャビネットに格納され、検証するユーザーのアクセス権がある
- ・ 有効期限が過ぎていない
- ・ CRL 配布ポイントにアクセスでき、CRL で無効ではない

### ◆ アーカイブタイムスタンプ付与前の署名の場合

署名者証明書の証明書パスの署名者以外のすべての証明書は、次の条件を満たしているか？

- CertStore キャビネットに格納され、検証するユーザーのアクセス権がある
- 有効期限が過ぎていない
- CRL 配布ポイントにアクセスでき、CRL で無効ではない
- ・ TSA 証明書の証明書パスのすべての証明書は、次の条件を満たしているか？
  - CertStore キャビネットに格納され、検証するユーザーのアクセス権がある
  - 有効期限が過ぎていない
  - CRL 配布ポイントにアクセスでき、CRL で無効ではない

### ◆ アーカイブタイムスタンプ付与後の署名の場合

TSA証明書の証明書パスのすべての証明書は、次の条件を満たしているか？

- ・ CertStore キャビネットに格納され、検証するユーザーのアクセス権がある
- ・ 有効期限が過ぎていない
- ・ CRL 配布ポイントにアクセスでき、CRL で無効ではない

## 13.16.3 設定ファイル

原本性保証オプションで使用する設定ファイルについて説明します。

### 署名延長長期保存モジュールの設定

署名延長長期保存モジュールが起動するスレッドの処理間隔や処理対象件数などを設定します。次のファイルを変更します。

{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} %Service%Conf%Certifier%ValidityExtender%  
extender.properties

**補足** 「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} : %ArcSuite」です。

表 : 設定ファイルの内容

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
serviceManagerName	○	dRepository	変更不可 サービスマネージャの名前です。
licenseCheckerName	○	ArcSuite	変更不可 ライセンスチェッカーの名前です。

表 : 設定ファイルの内容

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
abortHandlerName	○	ArcSuite	変更不可 アボートハンドラーの名前です。
tsaName	○	etiming3161	変更不可 TSAの名前です。
XAdES署名タイムスタンプの対象文書の検索に関する設定			
signedSearcherSearchCount	×	0	1度に処理対象を検索する件数の上限です。 自動署名タイムスタンプは、複数の署名が 付与された文書は処理対象外です。
signedSearcherSearchInterval (*1)	×	PT5M	最後に検索を行ってから次に検索するまでの 間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S： 秒)
signedSearcherSearchThreshold	×	30	検索できる未処理件数です。 未処理件数が設定値を下回っていると、検 索を開始します。
1回めのXAdESアーカイブタイムスタンプ対象文書の検索に関する設定			
archiveSearcherSearchCount	×	100	1度に処理対象を検索する件数の上限です。
archiveSearcherSearchInterval (*1)	×	PT5M	最後に検索を行ってから次に検索するまでの 間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S： 秒)
archiveSearcherSearchThreshold	×	30	検索できる未処理件数です。 未処理件数が設定値を下回っていると、検 索を開始します。
2回め以降のXAdESアーカイブタイムスタンプ対象文書の検索に関する設定			
extendSearcherSearchCount	×	100	1度に処理対象を検索する件数の上限です。
extendSearcherSearchInterval (*1)	×	PT5M	最後に検索を行ってから次に検索するまでの 間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S： 秒)
extendSearcherSearchThreshold	×	30	検索できる未処理件数です。 未処理件数が設定値を下回っていると、検 索を開始します。
アルゴリズムの危殆化に対応するためのXAdESアーカイブタイムスタンプ対象文書の検索に関する設定			
compromisedAlgorithmSearcherSearchCount	×	100	1度に処理対象を検索する件数の上限です。
compromisedAlgorithmSearcherSearchInterval (*1)	×	PT5M	最後に検索を行ってから次に検索するまでの 間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S： 秒)

表 : 設定ファイルの内容

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
compromisedAlgorithmSearcherSearchThreshold	×	30	検索できる未処理件数です。 未処理件数が設定値を下回っていると、検索を開始します。
XAdES文書タイムスタンプ対象文書の検索に関する設定			
documentSearcherSearchCount	×	100	1度に処理対象を検索する件数の上限です。
documentSearcherSearchInterval (*1)	×	PT5M	最後に検索を行ってから次に検索するまでの間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
documentSearcherSearchThreshold	×	30	検索できる未処理件数です。 未処理件数が設定値を下回っていると、検索を開始します。
PAdES文書タイムスタンプの対象文書の検索に関する設定			
padesSearcherSearchCount	×	100	1度に処理対象を検索する件数の上限です。
padesSearcherSearchInterval (*1)	×	PT5M	最後に検索を行ってから次に検索するまでの間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
padesSearcherSearchThreshold	×	30	検索できる未処理件数です。 未処理件数が設定値を下回っていると、検索を開始します。
PAdESアーカイブタイムスタンプの対象文書の検索に関する設定			
padesExtendSearcherSearchCount	×	100	1度に処理対象を検索する件数の上限です。
padesExtendSearcherSearchInterval (*1)	×	PT5M	最後に検索を行ってから次に検索するまでの間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
padesExtendSearcherSearchThreshold	×	30	検索できる未処理件数です。 未処理件数が設定値を下回っていると、検索を開始します。
アルゴリズムの危殆化に対応するためのPAdESアーカイブタイムスタンプ対象文書の検索に関する設定			
padesCompromisedAlgorithmSearcherSearchCount	×	100	1度に処理対象を検索する件数の上限です。
padesCompromisedAlgorithmSearcherSearchInterval (*1)	×	PT5M	最後に検索を行ってから次に検索するまでの間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)



表 : 設定ファイルの内容

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
padesCompromisedAlgorithmSearcherSearchThreshold	×	30	検索できる未処理件数です。 未処理件数が設定値を下回っていると、検索を開始します。
XAdES署名タイムスタンプの処理に関する設定			
signedTimestamperThreadCount	×	0	1度に処理対象を検索する件数の上限です。
signedTimestamperThreadInterval (*1)	×	PT1S	最後にタイムスタンプ処理を行ってから次にタイムスタンプ処理を行うまでの間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
signedTimestamperThreadPriority	×	5	スレッドの優先度です。 値の範囲：1-10
signedTimestamperDeadline	×	P3D	署名が付与されてから署名タイムスタンプが付与されるまでの期限日数です。 フォーマット：PnD (P：必須, n：整数)
1回めのXAdESアーカイブタイムスタンプ処理に関する設定			
archiveTimestamperThreadCount	×	2	スレッド数です。
archiveTimestamperThreadInterval (*1)	×	PT1S	最後にタイムスタンプ処理を行ってから次のタイムスタンプ処理までの処理間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
archiveTimestamperThreadPriority	×	5	スレッドの優先度です。 値の範囲：1-10
archiveTimestamperDeadline	×	P10D	署名タイムスタンプが付与されてから1回めのアーカイブタイムスタンプが付与されるまでの期限日数です。 証明書の種類によってCRL発行間隔は異なります。証明書ベンダーにCRL発行間隔を確認し、「archiveTimestamperDeadline」の値を「CRL発行間隔の2倍+6」に変更します。 フォーマット：PnD (P：必須, n：整数)
2回め以降のXAdESアーカイブタイムスタンプ処理に関する設定			
extendTimestamperThreadCount	×	2	スレッド数です。
extendTimestamperThreadInterval (*1)	×	PT1S	最後にタイムスタンプ処理を行ってから次のタイムスタンプ処理までの処理間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
extendTimestamperThreadPriority	×	5	スレッドの優先度です。 値の範囲：1-10

表 :設定ファイルの内容

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
extendTimestampeDeadLine	×	P60D	アーカイブタイムスタンプの有効期限よりも前に延長処理が完了する期限日数です。 フォーマット：PnD (P：必須, n：整数)
アルゴリズムの危殆化に対応するためのXAdESアーカイブタイムスタンプ処理に関する設定			
compromisedAlgorithmTimestampeThreadCount	×	1	スレッド数です。
compromisedAlgorithmTimestampeThreadInterval (*1)	×	PT1S	最後にタイムスタンプ処理を行ってから次のタイムスタンプ処理までの処理間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
compromisedAlgorithmTimestampeThreadPriority	×	1	スレッドの優先度です。 値の範囲：1-10
XAdES文書タイムスタンプの処理に関する設定			
documentTimestampeThreadCount	×	1	スレッド数です。
documentTimestampeThreadInterval (*1)	×	PT1S	最後にタイムスタンプ処理を行ってから次のタイムスタンプ処理までの処理間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
documentTimestampeThreadPriority	×	1	スレッドの優先度です。 値の範囲：1-10
documentTimestampeDeadLine	×	P3D	文書が処理されてからタイムスタンプが付与されるまでの期限日数です。 フォーマット：PnD (P：必須, n：整数)
PAdES文書タイムスタンプの処理に関する設定			
padesTimestampeThreadCount	×	1	スレッド数です。
padesTimestampeThreadInterval (*1)	×	PT1S	最後にタイムスタンプ処理を行ってから次のタイムスタンプ処理までの処理間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
padesTimestampeThreadPriority	×	1	スレッドの優先度です。 値の範囲：1-10
padesTimestampeDeadLine	×	P3D	文書が処理されてからタイムスタンプが付与されるまでの期限日数です。 フォーマット：PnD (P：必須, n：整数)
PAdESアーカイブタイムスタンプの処理に関する設定			
padesExtendTimestampeThreadCount	×	2	スレッド数です。

表 : 設定ファイルの内容

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
padesExtendTimestamperThreadInterval (*1)	×	PT1S	最後にタイムスタンプ処理を行ってから次のタイムスタンプ処理までの処理間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
padesExtendTimestamperThreadPriority	×	1	スレッドの優先度です。 値の範囲：1-10
padesExtendTimestamperDeadline	×	P60D	アーカイブタイムスタンプの有効期限よりも前に延長処理が完了する期限日数です。 フォーマット：PnD (P：必須, n：整数)
アルゴリズムの危殆化に対応するためのPAdESアーカイブタイムスタンプ処理に関する設定			
padesCompromisedAlgorithmTimestamperThreadCount	×	1	スレッド数です。
padesCompromisedAlgorithmTimestamperThreadInterval (*1)	×	PT1S	最後にタイムスタンプ処理を行ってから次のタイムスタンプ処理までの処理間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
padesCompromisedAlgorithmTimestamperThreadPriority	×	1	スレッドの優先度です。 値の範囲：1-10
messengerReuseInterval (*1)	×	PT1H	メッセージ通知の設定を再利用する時間です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
notifyInterval (*1)	×	PT2H	キャビネットで共通のメッセージを通知する間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)
updateRetryInterval (*1)	×	PT1M	更新エラー時のリトライ間隔です。 フォーマット：PTnH or PTnM or PTnS (PT：必須, n：整数, H：時間, M：分, S：秒)

\* 1：[ArcSuite Repository Master Admin Service] サービスを再起動した場合、値はリセットされます。

## キャビネットごとの設定

署名延長長期保存モジュールが起動するスレッドの処理間隔や処理対象件数などを、キャビネットごとに設定します。次のファイルを変更します。

extender.propertiesと同じ名前のプロパティは、次のファイルの値が優先されます。

{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} %Service%Conf%Certifier%ValidityExtender%resources% {名前} .properties

**補足** 「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuiteの設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ}:%ArcSuite」です。

表 : 設定ファイルの内容

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
resourceID	○		キャビネットのオブジェクトIDです。
bootTimeOfDay	×	なし (キャビネットアクセスは常に可)	キャビネットにアクセスできる開始時間です。 フォーマット: hh:mm:ssまたはhh:mm (hh: 24時間表記)
shutdownTimeOfDay	×	なし (キャビネットアクセスは常に可)	キャビネットにアクセスできる停止時間です。 フォーマット: hh:mm:ssまたはhh:mm (hh: 24時間表記)
validityWarrantyDays	×	なし (無期限)	原本性保証期間の日数です。 フォーマット: PnD (P: 必須, n: 整数)
XAdES文書タイムスタンプの自動付与に関する設定			
autoTimestamp	×	false	このキャビネットで、文書タイムスタンプを自動付与するかどうかを設定します。 自動付与する場合は「true」を指定します。
PAdES文書タイムスタンプの自動付与に関する設定			
padesTimestamp	×	false	このキャビネットで、PAdESの文書タイムスタンプを自動付与するかどうかを設定します。 自動付与する場合は「true」を指定します。
XAdES署名タイムスタンプの対象文書の検索に関する設定			
signedSearcherSearchCount	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
signedSearcherSearchInterval	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
signedSearcherSearchThreshold	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
1回めのXAdESアーカイブタイムスタンプ処理対象文書の検索に関する設定			
archiveSearcherSearchCount	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
archiveSearcherSearchInterval	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。

表 : 設定ファイルの内容

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
archiveSearcherSearchThreshold	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
2回目以降のXAdESアーカイブタイムスタンプ処理対象文書の検索に関する設定			
extendSearcherSearchCount	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
extendSearcherSearchInterval	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
extendSearcherSearchThreshold	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
アルゴリズムの危殆化に対応するためのXAdESアーカイブタイムスタンプ処理対象文書の検索に関する設定			
compromisedAlgorithmSearcherSearchCount	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
compromisedAlgorithmSearcherSearchInterval	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
compromisedAlgorithmSearcherSearchThreshold	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
XAdES文書タイムスタンプの対象文書の検索に関する設定			
documentSearcherSearchCount	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
documentSearcherSearchInterval	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
documentSearcherSearchThreshold	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
PAdES文書タイムスタンプの対象文書の検索に関する設定			
padesSearcherSearchCount	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
padesSearcherSearchInterval	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
padesSearcherSearchThreshold	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
PAdESアーカイブタイムスタンプの対象文書の検索に関する設定			
padesExtendSearcherSearchCount	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
padesExtendSearcherSearchInterval	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
padesTimestampDeadLine	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。

表 : 設定ファイルの内容

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
アルゴリズムの危殆化に対応するためのPAdESアーカイブタイムスタンプ処理対象文書の検索に関する設定			
padesCompromisedAlgorithmSearcherSearchCount	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
padesCompromisedAlgorithmSearcherSearchInterval	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。
padesCompromisedAlgorithmSearcherSearchThreshold	×	extender.propertiesの設定値	extender.propertiesの設定を、このキャビネットの設定として上書きします。

## ドキュメント管理サービスの設定

原本性保証オプションのパラメーターを設定します。次のファイルを変更します。

{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥Conf¥Certifier¥drep.properties

**補足** 「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuiteの設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} : ¥ArcSuite」です。

表 : 設定ファイルの内容

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
invokerUser	○		ドキュメント管理サービスにアクセスするユーザー名です。 インストーラーによって指定されます。
invokerSessionTimeout	×	86400	ドキュメント管理サービスへのセッションタイムアウト時間 (秒) です。
checkoutDelayTime	×	PT2S	ずらしてチェックアウトする時間間隔です。 フォーマット : PTnH or PTnM or PTnS (PT : 必須, n : 整数, H : 時間, M : 分, S : 秒)
checkoutExpiredTime	×	PT10M	署名延長長期保存するユーザーが、チェックアウトから取り消すまでの経過時間です。 フォーマット : PTnH or PTnM or PTnS (PT : 必須, n : 整数, H : 時間, M : 分, S : 秒)
compromisedAlgorithmConditionFile	×		アルゴリズムの危殆化した文書を検索する検索条件ファイルです。 アルゴリズムが危殆化した場合に設定します。
compromisedAlgorithmSortFile	×		アルゴリズムの危殆化した文書を検索する検索結果をソート条件ファイルです。 compromisedAlgorithmConditionFileが指定されている場合だけに有効です。
mailSpoolDir	○		通知メッセージが使用するスプールディレクトリです。 インストーラーによって指定されます。

## 13.16.4 システムプロパティでの設定

### アーカイブタイムスタンプのタイミングに関する設定

アーカイブタイムスタンプ付与のタイミングを指定します。

XAdESの場合は、1回目のアーカイブタイムスタンプ付与のタイミングと、2回目以降のアーカイブタイムスタンプ付与のタイミングを指定します。

PAdESの場合は、1回目以降のアーカイブタイムスタンプ付与のタイミングを指定します。

表 : 設定するシステムプロパティ

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
com.fujifilm.fb.certifier.crlIssuedIntervalDays	×	2	<p>CRL発行間隔です。</p> <p>1回目のXAdESアーカイブタイムスタンプ付与のタイミングを指定する場合に設定します。</p> <p>1回目のアーカイブタイムスタンプは署名タイムスタンプ付与後この値の2倍の日数が経過したものに付与されます。</p> <p>証明書の種類によってCRL発行間隔は異なります。証明書ベンダーに問い合わせ正しい値を設定してください。また、設定した値によって、「archiveTimestamperDeadLine」プロパティの値を「CRL発行間隔の2倍+6」に変更してください。</p> <p>有効期限切れが間近な場合などによるユーザー証明書の交換は、有効期限日より1か月以上の余裕を持って実施してください。</p> <p>署名付与の時点でCRL発行間隔の2倍の日数以上の猶予が残されていないと、アーカイブタイムスタンプが付与されません。</p> <p><b>補足</b> 「archiveTimestamperDeadLine」は、<a href="#">[署名延長長期保存モジュールの設定](P.238)</a>で設定します。</p>
com.fujifilm.fb.certifier.timestampBeforeExpiredDays	×	180	<p>アーカイブタイムスタンプの開始時期（有効期限前の日数）です。</p> <p>2回目以降のXAdESアーカイブタイムスタンプ付与のタイミングを指定する場合、または1回目以降のPAdESアーカイブタイムスタンプ付与のタイミングを指定する場合に設定します。</p> <p>アーカイブタイムスタンプの有効期限までこの日数をきると次のアーカイブタイムスタンプが付与されます。</p>

## PAdES の文書タイムスタンプの印影に関する設定

PAdESの文書タイムスタンプの印影に関する設定をします。

表 :設定するシステムプロパティ

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
com.fujifilm.fb.certifier.pdfTimestampImprintFlag	×	FALSE	長期署名方式が「PAdES」のキャビネットで、PDF文書への文書タイムスタンプの印影の付与、および印影が付与されたPDF文書の登録をするかどうかを設定します。 「TRUE」を指定すると、PDF文書に文書タイムスタンプの印影を付与したり、印影が付与されたPDF文書を登録したりできます。

## RSA 署名用ハッシュアルゴリズムに関する設定

RSA署名用ハッシュアルゴリズムを指定します。

表 :設定するシステムプロパティ

プロパティ名	必須	デフォルトの値	説明
com.fujifilm.fb.certifier.hashAlgorithm	×	SHA256	RSA署名用ハッシュアルゴリズムです。 RSA署名用のハッシュアルゴリズムを指定します。指定できるアルゴリズムは、SHA1、SHA256です。対応しているアルゴリズムを確認してください。





# 付録

## 付録 A 設定情報の出力コマンド

設定情報の出力コマンドを使用して、インストール直後や運用中に、現在の設定内容を一括で出力できます。

### 付録 A.1 設定情報の出力コマンドの一覧

設定情報の出力コマンドで使用する実行ファイルは、次のとおりです。

表 : 設定情報の出力コマンドで使用する実行ファイル

出力する設定情報	ファイル名	説明
システム情報	asgetconfig_sub_system.bat	システム情報を出力するコマンドの実行ファイルです。 次のフォルダーにあります。 「{ArcSuiteをインストールしたフォルダー}¥Service¥bin」 フォルダー
メッセージ通知サービス	asgetconfig_sub.bat	メッセージ通知サービスの設定情報を出力するコマンドの実行ファイルです。 次のフォルダーにあります。 「{ArcSuiteをインストールしたフォルダー}¥Service¥Components¥cMessage¥bin」 フォルダー
ドキュメントスペース	asgetconfig_sub.bat	ドキュメントスペースの設定情報をを出力するコマンドの実行ファイルです。 次のフォルダーにあります。 「{ArcSuiteをインストールしたフォルダー}¥Service¥Components¥DocumentSpace¥bin」 フォルダー
ログインサーバー	asgetconfig_sub.bat	ログインサーバーの設定情報をを出力するコマンドの実行ファイルです。 次のフォルダーにあります。 「{ArcSuiteをインストールしたフォルダー}¥Service¥Components¥Login¥bin」 フォルダー
ドキュメント管理サービス	asgetconfig_sub.bat	ドキュメント管理サービスの設定情報をを出力するコマンドの実行ファイルです。 次のフォルダーにあります。 「{ArcSuiteをインストールしたフォルダー}¥Service¥Components¥Repository¥bin」 フォルダー
RMS	asgetconfig_sub.bat	RMSの設定情報をを出力するコマンドの実行ファイルです。 次のフォルダーにあります。 「{ArcSuiteをインストールしたフォルダー}¥Service¥Components¥RMS¥bin」 フォルダー
ビューアー	asgetconfig_sub.bat	ビューアーの設定情報をを出力するコマンドの実行ファイルです。 次のフォルダーにあります。 「{ArcSuiteをインストールしたフォルダー}¥Service¥Components¥View¥bin」 フォルダー

表 : 設定情報の出力コマンドで使用する実行ファイル

出力する設定情報	ファイル名	説明
ワークフロー	asgetconfig_sub.bat	ワークフローの設定情報をを出力するコマンドの実行ファイルです。 次のフォルダーにあります。 「{ArcSuiteをインストールしたフォルダー}¥Service¥Components¥Workflow¥bin」フォルダー

**補足** 「{ArcSuite をインストールしたフォルダー}」は、インストール先のフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite」です。

## 付録 A.2 設定情報の出力

現在の設定内容を一括で出力します。

### 形式

```
asgetconfig.bat {RMS 管理者ユーザー} {RMS 管理者ユーザーのパスワード}
```

### パラメーター

**{RMS 管理者ユーザー}**

RMS管理者ユーザーのユーザー名（ログイン名で指定）です。

**{RMS 管理者ユーザーのパスワード}**

RMS管理者ユーザーのユーザー名に対するパスワードです。

### 説明

- ・ コマンドを実行すると、出力先フォルダーに、実行日時（YYYYMMDD\_hhmmss）のフォルダーが作成されます。出力先フォルダーは次のとおりです。

{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー} ¥Service¥data¥Admin¥OutputConfig

**補足** 「{ArcSuite のユーザーホームのフォルダー}」は、ArcSuite の設定、ログ、データなどユーザーデータがあるフォルダーです。インストールの初期値は、「{ドライブ} :¥ArcSuite」です。

- ・ 各コンポーネントのコマンドが順に実行され、実行結果が出力先フォルダーのログファイル（asgetconfig.log）に出力されます。
- ・ 各コンポーネントの設定情報が、CSV 形式で出力フォルダーに出力されます。
- ・ エラーが発生したコンポーネントのコマンドは設定情報が出力されずに、次のコマンドが実行されます。

### エラー

次の場合はエラーになります。

- ・ 起動引数が指定されなかった
- ・ 環境変数「ARCSUITE\_PROGRAM\_HOME」が設定されていなかった
- ・ 次のレジストリーが取得できなかった
  - キー：HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥FUJIFILM¥ArcSuite
  - 名前：Version
- ・ 設定ファイル（arcenv.bat）が読み込めなかった

## ■ 実行結果

コマンド実行に成功した場合は、コマンドを実行したコマンドプロンプトに「Successful completion.」というメッセージが表示されます。

コマンド実行に失敗した場合は、「An error occurred. Please check logfile: {ログファイル名}」というメッセージが表示されます。ログファイルに、失敗したコンポーネントのメッセージが出力されます。

## ■ ログ出力内容

ログ出力内容を次に示します。

1行め：asgetconfig

2行め：実行日時が、「{YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS}」の形式で出力されます。

例：2019/03/01 11:35:05.77

3行め：空行

4行め以降：==== コンポーネント名 ====

各コンポーネントのコマンド実行結果

最終行：成功した場合は、Successful completion.

失敗した場合は、An error occurred. Please check logfile: {ログファイル名}

## 付録 A.3 設定情報の出力コマンドで出力される項目

## ◆ 設定情報コマンドの出力項目 (システム情報)

対象	出力ファイル名	ヘッダー	単値/ 多値	出力内容
OS	SYSTEM_OS.csv	BuildNumber	単値	ビルド番号が出力されます。
		Caption	単値	OSの説明が出力されます。
		CSDVersion	単値	サービスパックなどのバージョン情報が出力されます。
		MaxProcessMemorySize	単値	プロセスに割り当てられるメモリの最大数が出力されます。単位はKBです。
CPU	SYSTEM_CPU.csv	Description	単値	CPUの説明が出力されます。
		MaxClockSpeed	単値	最大クロックが出力されます。単位はMHzです。
		Name	単値	CPUの名称が出力されます。
		NumberOfCores	単値	コア数が出力されます。
		NumberOfLogicalProcessors	単値	論理プロセッサ数が出力されます。
Network	SYSTEM_Network.csv	DefaultIPGateway	多値	デフォルトゲートウェイのIPアドレスが、{}で囲んだ形式で出力されます。 IPアドレスが複数ある場合は、「; (セミコロン)」で区切って出力されます。 例：{aaa.bbb.ccc.ddd;eee.fff.ggg.hhh}
		DNSServerSearchOrder	多値	DNSサーバー (IPアドレス) の探索順が、{}で囲んだ形式で出力されます。 IPアドレスが複数ある場合は、「; (セミコロン)」で区切って出力されます。
		IPAddress	多値	IPアドレスが、{}で囲んだ形式で出力されます。 IPアドレスが複数ある場合は、「; (セミコロン)」で区切って出力されます。
		IPSubnet	多値	IPサブネットマスクが、{}で囲んだ形式で出力されます。 IPサブネットマスクが複数ある場合は、「; (セミコロン)」で区切って出力されます。
		MACAddress	単値	MACアドレスが出力されます。
Disk	SYSTEM_Disk.csv	DeviceID	多値	ディスクドライブをシステム上のほかのデバイスと一意に識別する文字列が出力されます。
		FileSystem	多値	ファイルシステムが出力されます。
		FreeSpace	多値	空き容量が出力されます。単位はバイトです。
		Size	多値	容量が出力されます。単位はバイトです。

対象	出力ファイル名	ヘッダー	単値／多値	出力内容
Domain	SYSTEM_Domain.csv	domain	多値	ドメインが出力されます。
Home	SYSTEM_Home.csv	ProgramHome	単値	ArcSuiteのインストール先が出力されます。
		UserHome	単値	ArcSuiteのユーザーホームが出力されます。
User	SYSTEM_User.csv	Name	多値	ユーザー名が出力されます。
		FullName	多値	ユーザーの完全名が出力されます。
Group	SYSTEM_Group.csv	group	多値	グループ名が出力されます。
Group User	SYSTEM_GroupUser.csv	group	多値	グループ名が出力されます。
		user	多値	ユーザー名が出力されます。
DB	SYSTEM_DB.csv	ORACLE_BASE	単値	データベースのインストール先が出力されます。
		ORACLE_HOME	単値	データベースのホームが出力されます。
		ORACLE_SID	単値	データベースのSIDが出力されます。

◆ 設定情報コマンドの出力項目 (メッセージ通知)

項目名	出力ファイル名	出力内容
基本設定:メッセージ通知管理アドレス	cmmessage.csv	メッセージ通知管理アドレスが出力されます。
基本設定:SMTPサーバーのホスト名		SMTPサーバーのホスト名が出力されます。
基本設定:SMTPサーバーのポート番号		SMTPサーバーのポート番号が出力されます。
基本設定:暗号化接続方式		「使用しない」、「SMTPSで接続」、「STARTTLSで接続」のどれかが出力されます。
SMTP認証:使用する		「使用する」、「使用しない」のどちらかが出力されます。
SMTP認証:メールユーザー名		メールユーザー名が出力されます。
SMTP認証:DIGEST-MD5利用時のRealm名		Digest認証を使用している場合のレルム名が出力されます。
Pop before SMTP:使用する		「使用する」、「使用しない」のどちらかが出力されます。
Pop before SMTP:POPサーバーのホスト名		POPサーバーのホスト名が出力されます。
Pop before SMTP:POPサーバーのポート番号		POPサーバーのポート番号が出力されます。
Pop before SMTP:接続ユーザー名		接続ユーザー名が出力されます。
S/MIME:使用する		「使用する」、「使用しない」のどちらかが出力されます。

項目名	出力ファイル名	出力内容
S/MIME:署名のみ/暗号のみ/署名と暗号	cmessage.csv	「署名のみ」、「暗号のみ」、「署名」と暗号のどれかが出力されます。
S/MIME:強度が弱い方式(TripleDES、RSA(1024bit)、sha1withRSA)の許可		「ON」、「OFF」のどちらかが出力されます。
S/MIME:S/MIME処理対象外ロール/グループ設定	cmessage.csv	ユーザーロールまたはグループが、DN形式で表示されます。
S/MIME:署名メッセージに証明書を追加する		「ON」、「OFF」のどちらかが出力されます。
メール送信詳細設定:EnvelopeFromフィールドにメッセージ通知管理アドレスを設定		「ON」、「OFF」のどちらかが出力されます。
メール送信詳細設定:Fromフィールドにメッセージ通知管理アドレスを設定		「ON」、「OFF」のどちらかが出力されます。
メール送信詳細設定:Senderフィールドにメッセージ通知管理アドレスを設定		「ON」、「OFF」のどちらかが出力されます。
メール送信詳細設定:宛先アドレス表示制限		「有効」、「無効」のどちらかが出力されます。
メール送信詳細設定:宛先アドレス表示制限:有効		宛先アドレス表示制限の値が出力されます。
メール送信詳細設定:ダイジェストメッセージ最大登録サイズ		ダイジェストメッセージ最大登録サイズが出力されます。単位はKBです。
メール送信詳細設定:未送信メール確認間隔		未送信メール確認間隔が出力されます。単位は秒です。
メール送信詳細設定:メール送信履歴の記録要否設定		「有効」、「無効」のどちらかが出力されます。
メール送信詳細設定:送信制限カウント設定	送信制限カウントの設定値が出力されます。単位は分です。	
メール送信詳細設定:送信制限間隔設定	送信制限間隔の設定値が出力されます。	

## ◆ 設定情報コマンドの出力項目（ドキュメントスペース）

出力するCSVの種類	出力ファイル名	出力内容
システム設定_属性 テンプレート定義 CSV	docspace_ {言語} _system_attrTemplate _define.csv	属性テンプレートの利用目的（検索または表示で利用する/登録時に利用する）、および属性テンプレートに含まれる属性が出力されます。
システム設定_属性 テンプレート_キャ ビネット割り当て CSV	docspace_ {言語} _system_attrTemplate _assignedCabinet.csv	属性テンプレートが表示用として利用設定されているかどうか、登録用として利用設定されているかどうか、および割り当てられているキャビネットの名称が出力されます。
表示CSV	docspace_ {言語} _display.csv	キャビネット、ドロワー、基本オブジェクトに設定した表示項目が出力されます。 出力されるのは次の項目です。()内は、項目の値です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ツリー表示（表示する/表示しない）</li> <li>・ プロパティウインドウ表示（表示する/表示しない）</li> <li>・ プロパティウインドウ表示位置（リストの下/リストの右）</li> <li>・ 表示形式（リスト/サムネイル/詳細/詳細+ハイライトのどれか）</li> <li>・ 表示対象の版（全ての版/最新の版）</li> <li>・ 最大表示件数（数値）</li> <li>・ 1 ページの表示件数（数値）</li> <li>・ 画像表示デフォルトコンテンツラベル（プライマリ画像/プリント画像/インデックス画像/部分画像）</li> <li>・ キャビネット表示属性（名前）</li> <li>・ キャビネット表示属性（注釈）</li> <li>・ キャビネットソート属性（名前）</li> <li>・ ドロワー表示属性（名前）</li> <li>・ ドロワー表示属性（注釈）</li> <li>・ ドロワーソート属性（名前）</li> <li>・ 基本オブジェクト表示属性（名前）</li> <li>・ 基本オブジェクト表示属性（最終変更日時）</li> <li>・ 基本オブジェクト表示属性（最終変更者）</li> <li>・ 基本オブジェクトソート属性（名前）</li> <li>・ 基本オブジェクトソート属性（最終変更日時）</li> </ul>



出力するCSVの種類	出力ファイル名	出力内容
基本項目CSV	docspace_ {言語} _basic.csv	ユーザー設定の基本項目が出力されます。次の項目が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前</li> <li>・コメント</li> <li>・属性コピー</li> <li>・リファレンス (リファレンス作成時の取得対象属性一覧)</li> <li>・リファレンス (リファレンス更新時の取得対象属性一覧)</li> <li>・簡易検索 (検索対象)</li> <li>・簡易検索 (検索方法)</li> <li>・簡易検索 (英字の大文字と小文字を区別するか)</li> <li>・簡易検索 (ワークスペースも検索対象とする)</li> <li>・簡易検索 (検索対象属性)</li> <li>・簡易検索 (全文検索のハイライト機能を有効にする)</li> <li>・ダウンロード / アップロード (アーカイブ方法)</li> <li>・ダウンロード / アップロード (ダウンロードファイル名)</li> <li>・ダウンロード / アップロード (最大データサイズ)</li> </ul>
システム設定_ フォーマットCSV	docspace_ {言語} _system_format.csv	MIME-TYPE、フォーマット名、インデックス画像のON/OFF、部分画像のON/OFF、プリント画像のON/OFF、トップネイル画像のON/OFF、サムネイル画像のON/OFFが出力されます。
ユーザー設定_属性 テンプレートフィル タCSV	docspace_ {言語} _user_attrTemplate_fil ter.csv	ユーザー設定の設定値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・検索表示用の属性テンプレートのフィルタリング (全ての属性テンプレートが有効 / 指定した属性テンプレートのみ有効)</li> <li>・登録用の属性テンプレートのフィルタリング (全ての属性テンプレートが有効 / 指定した属性テンプレートのみ有効)</li> <li>・使用する属性テンプレート</li> </ul>
操作カスタマイズ CSV	docspace_ {言語} _operation_customize. csv	操作カスタマイズの設定値が出力されます。
ユーザー設定割当 CSV	docspace_ {言語} _usersetting_assign.cs v	ユーザー設定の割り当ての設定値が出力されます。
ユーザー設定選択権 CSV	docspace_ {言語} _usersetting_selection .csv	ユーザー設定選択権の設定値が出力されます。
業務設定選択権CSV	docspace_ {言語} _worksetting_selectio n.csv	業務設定選択権の設定値が出力されます。

出力するCSVの種類	出力ファイル名	出力内容
アプリケーション設定CSV	docspace_application.csv	<p>次の設定値が出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web サーバー _セッションタイムアウト時間</li> <li>・ 基本機能 _1つのノードに表示される子要素数</li> <li>・ 基本機能 _ドラッグ&amp;ドロップでの属性指定</li> <li>・ 基本機能 _ドラッグ&amp;ドロップでの上書き</li> <li>・ 基本機能 _改版登録時に属性をマージ指定する</li> <li>・ 基本機能 _版管理属性を引き継ぐ</li> <li>・ 基本機能 _ユニークキー属性を引き継ぐ</li> <li>・ 基本機能 _改版時に作成するリファレンスの種別</li> <li>・ 基本機能 _作成するリファレンスの種別</li> <li>・ 基本機能 _ロックアンロックの変更範囲</li> <li>・ 基本機能 _アクセス権デフォルトアクセス権の変更範囲</li> <li>・ 基本機能 _操作実行時の結果画面を表示する設定</li> <li>・ リモート編集 _履歴管理</li> <li>・ リモート編集 _ユーザーごとの編集用一時ファイル数の制限値</li> <li>・ 分類フォルダ _年度の開始月日</li> <li>・ 分類フォルダ _年度の開始月のオフセット</li> <li>・ 分類フォルダ _1つの設定から作成される分類フォルダーの最大値</li> <li>・ ごみ箱設定 _ごみ箱機能</li> <li>・ ごみ箱機能 _強制削除</li> <li>・ ごみ箱機能 _ユーザーフィルタ UI</li> <li>・ ログ設定 _ドキュメントスペースのログレベル _アカウントログ</li> <li>・ ログ設定 _ドキュメントスペースのログレベル _セッションログ</li> <li>・ ログ設定 _ドキュメントスペースのログレベル _システムログ</li> <li>・ ログ設定 _ドキュメントスペースのログレベル _トレースログ</li> <li>・ ログ設定 _管理ツールのログレベル _アカウントログ</li> <li>・ ログ設定 _管理ツールのログレベル _システムログ</li> <li>・ ログ設定 _管理ツールのログレベル _トレースログ</li> <li>・ 更新タイマー _指定方法</li> <li>・ 更新タイマー _更新開始時間</li> <li>・ 更新タイマー _更新日</li> </ul>
ワークスペースCSV	docspace_workspace.csv	名前、コメント、管理者、編集メンバー、参照メンバーが出力されます。
検索設定CSV	docspace_search_setting.csv	ワークスペースに設定した検索設定の設定値が出力されます。

## ◆ 設定情報コマンドの出力項目 (ログインサーバー)

項目	単値/多値	出力ファイル名	カラム名	出力形式
認証モード	単値	login_properties.csv	authMode	設定値がそのまま表示されます。
自動ログインの有効期間 (分)	単値		autoLoginValidPeriod	
自動ログインのサーバー ID	単値		autoLoginSID	
X-SSLヘッダの使用	単値		useXSSLHeader	「TRUE」または「FALSE」が表示されます。

## ◆ 設定情報コマンドの出力項目 (ドキュメント管理サービス)

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
サービス	ユーザー属性 (*1)	repository_service_user_attr.csv	属性ID	attrId	○	名前空間がシステム (system) の場合は出力されません。ユーザーが定義した名前空間の属性IDが対象です。
			表示名 (日本語)	displayName_ja	○	
			表示名 (英語)	displayName_en		ライセンスがある場合だけ出力されます。
			表示名 (簡体中国語)	displayName_zh-cn		ライセンスがある場合だけ出力されます。
			表示名 (繁体中国語)	displayName_zh-tw		ライセンスがある場合だけ出力されます。
			表示名 (韓国語)	displayName_zh-ko		ライセンスがある場合だけ出力されます。
			属性型種別	attrType	○	[integer]、[long]、[double]、[date]、[string]、[boolean]、[principal]、[uri]、[userRole] のどれかが出力されます。
			文字列長	length	○	属性型種別が文字列型 (string) の場合は設定値が、文字列型以外の場合は「0」が出力されます。
			単値/多値	multivalued	○	[singlevalued]、[multivalued] のどちらかが出力されます。
			最大要素数	maxItem	○	多値属性の場合は設定された要素数が、単値属性の場合は「0」が出力されます。

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
サービス	ユーザー属性 (*1)  表領域 (*2)	repository_service_user_attr.csv	データベースカラム名	dbColumnName	○	
			種別	dbTablespaceType	○	次の値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>サービスの表領域の場合：service</li> <li>サービスの一時表領域の場合：serviceTemp</li> <li>キャビネットの場合：cabinet</li> <li>操作ログの場合：operationLog</li> <li>スタンプの場合：stamp</li> <li>操作監視の場合：operationMonitor</li> </ul>
			表領域名	dbTablespaceName	○	
			表領域サイズ (KB)	dbTablespaceSize	○	
			表領域の使用量 (KB)	dbTablespaceUsedSize	○	
			表領域の使用率 (%)	dbTablespaceUsage	○	
			データファイル (*2)	repository_service_datafile.csv	表領域名	dbTablespaceName
	データファイルパス	datafile	○			
	データファイルサイズ (KB)	datafileSize	○			
	データファイルの拡張サイズ (KB)	datafileExtendSize	○			
	データファイルの最大サイズ (KB)	datafileMaxSize	○			

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
サービス	データファイル (*2)	repository_service_datafile.csv	データファイルの使用量 (KB)	dataFileUsedSize	○	
			データファイルの使用率 (%)	dataFileUsage	○	
	操作ログのサービス設定 (*3)	repository_service_operation_log.csv	表領域名	dbTableName	○	
			エクスポートディレクトリ	exportFileDirectory	○	
キャビネット	基本情報 (*4)	repository_cabinet_information.csv	キャビネット名	cabinetName	○	
			キャビネットID	cabinetId	○	
			注釈	note		設定している場合だけ出力されます。
			キャビネット番号	cabinetNumber	○	
			キャビネットラベル	cabinetLabel	○	[extraSearch]、[workSpace]、[collabo]、[public]、[dmsMigration]、[dmsPublic]、[classification]、[workflow]、[cMessage] のどれかが出力されます。
			登録予定件数	capacity	○	
			表領域名	dbTableName	○	
			フォーマット変換サービスURL	conversionServiceUrl		
			フォルダ階層限界値	maxLayerLevel	○	未指定の場合は、「10」が出力されます。
			モード	mode	○	[normal]、[maintenance] のどちらかが出力されます。

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
キャビネット	基本情報 (*4)	repository_cabinet_information.csv	モード キャビネット管理者	administrator	<input type="radio"/>	DN形式の文字列が出力されます。
			ごみ箱の有無	hasRecycleBin	<input type="radio"/>	[true]、[false] のどちらかが出力されます。
			操作制約パターンラベル	operationConstraintPattern		
			長期署名方式	adesMethod	<input type="radio"/>	[system:adesMethodForPAdES]、 [system:adesMethodForXAdES] のどちらかが出力されます。
			登録日時	createOn	<input type="radio"/>	[yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS] の形式で出力されます。
			登録者	createdBy	<input type="radio"/>	DN形式で出力されます。
			最終変更日時	modifiedOn	<input type="radio"/>	[yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS] の形式で出力されます。
			最終変更者	modifiedBy	<input type="radio"/>	DN形式で出力されます。
	ユーザー属性 (*4)	repository_cabinet_user_attr.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId/ cabinetName	<input type="radio"/>	
			属性ID	attrId	<input type="radio"/>	
			エディションキー属性かどうか	isEditionKey		キャビネットのエディションキーに指定されている場合は「true」が出力されます。それ以外の場合は空文字が出力されます。
	インデックスキー (*4)	repository_cabinet_user_index.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId/ cabinetName	<input type="radio"/>	
			インデックスのID	keyId	<input type="radio"/>	
			オプション	option		
属性IDのリスト			keyList	<input type="radio"/>	複数の要素がある場合は、「  (縦線)」で区切って出力されます。	

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
キャビネット	属性制約 (*4)	repository_cabinet_attr_facet.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId/ cabinetName	○	
			属性ID	attrId	○	
			属性制約の種別	facetType		
			属性制約の値	facetValue		
	状態定義 (*4)	repository_cabinet_status_def.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId/ cabinetName	○	
			状態	status	○	
			アクセスの主体	userRole	○	
			アクセス権	privilege	○	複数の要素がある場合は、「  (縦線)」で区切って出力されます。
			初期状態かどうか	initialStatus		初期状態の場合、「true」が出力されます。初期状態ではない場合は、何も出力されません。
	状態遷移定義 (*4)	repository_cabinet_status_path.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId/ cabinetName	○	
			遷移前の状態	beforeStatus	○	
			遷移後の状態	afterStatus	○	
			アクセスの主体	userRole	○	
	アクセス権 (*4)	repository_cabinet_access_right.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId/ cabinetName	○	
			アクセス権の種別 (オブジェクト、デフォルト、マスク)	aclType	○	「object」、 「default」、 「mask」 のどれかが表示されます。
			アクセスの主体	userRole	○	
アクセス権			privilege	○		

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
キャビネット	コンテンツ トラベル (*4)	repository_cabinet_content_label.csv	キャビネットID ／キャビネット名	cabinetId/ cabinetName	○	
			コンテンツ トラベル ID	contentLabel	○	
			変換キーワード	keyword		
			拡張子	extension		
	スケジューラ (時間単位) (*5)	repository_cabinet_hourly_scheduler.csv	キャビネットID ／キャビネット名	cabinetId/ cabinetName	○	
			スケジューラ 名	schedulerName	○	
			無効化設定	enabled	○	「true」、「false」のどちらかが出力されます。
			衝突時の 選択	conflictOccurred	○	「error」、「wait」、「quit」のどれかが表示されます。
			実行ユーザー	runUser	○	DN形式で出力されます。
			実行オペレーション	scheduledOperation	○	「buildFtsIndex」、「buildRdsIndex」、「optimizeFtsIndex」、「optimizeRdsIndex」、「storageScavenge」、「transactionScavenge」、「adjustMoveFile」のどれかが出力されます。
			リトライ エラー	retryError		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が「buildFtsIndex」、「buildRdsIndex」の場合に、「true」、「false」のどちらかが出力されます。
			強制モード	force		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が「storageScavenge」の場合に、「true」、「false」のどちらかが出力されます。



対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
キャビネット	スケジューラ (時間単位) (*5)	repository_cabinet_hourly_scheduler.csv	タイムラグ指定	useTimeLag		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が「storageScavenge」か「transactionScavenge」の場合に、「true」、「false」のどちらかが出力されます。
			実行間隔 (時間)	runIntervalHour	○	1~24の数値が出力されます。
			実行間隔 (分)	runIntervalMinute	○	1~59の数値が出力されます。
			次回の実行時間	nextRunTime	○	「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
			前回の実行時間	lastRunTime		「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
			前回の結果	lastResult		「succeed」、「failed」、「ignore」、「running」、「none」のどれかが出力されます。
			実行開始時間	executionStartTime		「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
	スケジューラ (日単位)	repository_cabinet_daily_scheduler.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId/cabinetName	○	
			スケジューラ名	schedulerName	○	
			無効化設定	enabled	○	「true」、「false」のどちらかが出力されます。
			衝突時の選択	conflictOccurred	○	「error」、「wait」、「quit」のどれかが出力されます。
			実行ユーザー	runUser	○	DN形式で出力されます。
			実行オペレーション	scheduledOperation	○	「buildFtsIndex」、「buildRdsIndex」、「optimizeFtsIndex」、「optimizeRdsIndex」、「storageScavenge」、「transactionScavenge」、「adjustMoveFile」のどれかが出力されます。

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
キャビネット	スケジューラ (日単位)	repository_cabinet_daily_scheduler.csv	リトライエラー	retryError		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が「buildFtsIndex」、 「buildRdsIndex」の場合に、「true」、「false」のどちらかが出力されます。
			強制モード	force		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が「storageScavenge」の場合に、「true」、「false」のどちらかが出力されます。
			タイムラグ指定	useTimeLag		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が「storageScavenge」か「transactionScavenge」の場合に、「true」、「false」のどちらかが出力されます。
			種別	monthlySchedulerType	○	「EveryDay」、 「IntervalDay」のどちらかが出力されます。
			実行間隔 (日)	runIntervalDays		種別が「IntervalDay」の場合に、1~365の数値が出力されます。
			開始日 (年)	startDateYear		種別が「IntervalDay」の場合に、1~59の数値が出力されます。
			開始日 (月)	startDateMonth		種別が「IntervalDay」の場合に、1~59の数値が出力されます。
			開始日 (日)	startDateDay		種別が「IntervalDay」の場合に、1~59の数値が出力されます。
			開始時刻 (時)	startTimeHour	○	1~24の数値が出力されます。
			開始時刻 (分)	startTimeMinute	○	1~59の数値が出力されます。
			次回の実行時間	nextRunTime	○	「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
			前回の実行時間	lastRunTime		「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
キャビネット	スケジューラ (日単位)	repository_cabinet_daily_scheduler.csv	前回の結果	lastResult		「succeed」、「failed」、「ignore」、「running」、「none」のどれかが出力されます。
			実行開始時間	executionStartTime		「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
	スケジューラ (週単位)	repository_cabinet_weekly_scheduler.csv	キャビネットID ／キャビネット名	cabinetId/ cabinetName	○	
			スケジューラ名	schedulerName	○	
			無効化設定	enabled	○	「true」、「false」のどちらかが出力されます。
			衝突時の選択	conflictOccurred	○	「error」、「wait」、「quit」のどれかが表示されます。
			実行ユーザー	runUser	○	DN形式で出力されます。
			実行オペレーション	scheduledOperation	○	「buildFtsIndex」、「buildRdsIndex」、「optimizeFtsIndex」、「optimizeRdsIndex」、「storageScavenge」、「transactionScavenge」、「adjustMoveFile」のどれかが出力されます。
			リトライエラー	retryError		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が「buildFtsIndex」、「buildRdsIndex」の場合に、「true」、「false」のどちらかが出力されます。
			強制モード	force		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が「storageScavenge」の場合に、「true」、「false」のどちらかが出力されます。

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
キャビネット	スケジューラ (週単位)	repository_cabinet_weekly_scheduler.csv	タイムラグ指定	useTimeLag		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が「storageScavenge」か「transactionScavenge」の場合に、「true」、「false」のどちらかが出力されます。
			実行週	dayofTheWeek	○	「SUN」、「MON」、「TUE」、「WED」、「THU」、「FRI」、「SAT」のうち、設定されているものが出力されます。
			実行間隔 (日)	weeklyInterval	○	1~52の数値が出力されます。
			開始日 (時)	startTimeHour	○	1~24の数値が出力されます。
			開始日 (分)	startTimeMinute	○	1~59の数値が出力されます。
			次回の実行時間	nextRunTime	○	「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
			前回の実行時間	lastRunTime		「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
			前回の結果	lastResult		「succeed」、「failed」、「ignore」、「running」、「none」のどれかが出力されます。
			実行開始時間	executionStartTime		「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
	スケジューラ (月単位)	repository_cabinet_monthly_scheduler.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId / cabinetName	○	
			スケジュール名	schedulerName	○	
			無効化設定	enabled	○	「true」、「false」のどちらかが出力されます。
			衝突時の選択	conflictOccured	○	「error」、「wait」、「quit」のどれかが表示されます。
			実行ユーザー	runUser	○	DN形式で出力されます。

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
キャビネット	スケジューラ (月単位)	repository_cabinet_monthly_scheduler.csv	実行オペレーション	scheduledOperation	○	「buildFtsIndex」、 「buildRdsIndex」、 「optimizeFtsIndex」、 「optimizeRdsIndex」、 「storageScavenge」、 「transactionScavenge」、 「adjustMoveFile」の どれかが出力されます。
			リトライエラー	retryError		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が 「buildFtsIndex」、 「buildRdsIndex」の場合 に、「true」、「false」の どちらかが出力されます。
			強制モード	force		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が 「storageScavenge」の 場合に、「true」、「false」 のどちらかが出力されま す。
			タイムラグ指定	useTimeLag		実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が 「storageScavenge」か 「transactionScavenge」 の場合に、「true」、 「false」のどちらかが出 力されます。
			種別	monthlySchedulerType	○	「DayOfMonthly」、 「WeekOfMonthly」の どちらかが出力されます。
			実行日	runDate		種別 (monthlySchedulerType) の設定値が 「DayOfMonthly」の場合 に、1~31の数値が出 力されます。
			実行週 (第何週か)	runWeekIndex		種別 (monthlySchedulerType) の設定値が 「WeekMonthly」の場合 に、1~5の数値が出 力されます。

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
キャビネット	スケジューラ (月単位)	repository_cabinet_monthly_scheduler.csv	実行週 (曜日)	runWeekDay		種別 (monthlySchedulerType) の設定値が「WeekMonthly」の場合に、「SUN」、「MON」、「TUE」、「WED」、「THU」、「FRI」、「SAT」のうち、設定されているものが出力されます。
			実行月	dayofTheMonth	○	「JAN」、「FEB」、「MAR」、「APR」、「MAY」、「JUN」、「JUL」、「AUG」、「SEP」、「OCT」、「NOV」、「DEC」のうち、設定されているものが出力されます。
			開始時刻 (時)	startTimeHour	○	1~24の数値が出力されます。
			開始時刻 (分)	startTimeMinute	○	1~59の数値が出力されます。
			次の実行時間	nextRunTime	○	「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
			前回の実行時間	lastRunTime		「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
			前回の結果	lastResult		「succeed」、「failed」、「ignore」、「running」、「none」のどれかが出力されます。
			実行開始時間	executionStartTime		「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
スケジューラ (1回のみ)	repository_cabinet_one_time_scheduler.csv	キャビネットID /キャビネット名	cabinetId/ cabinetName	○		
		スケジュール名	schedulerName	○		
		無効化設定	enabled	○	「true」、「false」のどちらかが出力されます。	
		衝突時の選択	conflictOccurred	○	「error」、「wait」、「quit」のどれかが表示されます。	
		実行ユーザー	runUser	○	DN形式で出力されます。	

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容	
キャビネット	スケジューラ (1回のみ)	repository_cabinet_one_time_scheduler.csv	実行オペレーション	scheduledOperation	○	「buildFtsIndex」、 「buildRdsIndex」、 「optimizeFtsIndex」、 「optimizeRdsIndex」、 「storageScavenge」、 「transactionScavenge」、 「adjustMoveFile」の どれかが出力されます。	
			リトライエラー	retryError			実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が 「buildFtsIndex」、 「buildRdsIndex」の場合 に、「true」、「false」の どちらかが出力されます。
			強制モード	force			実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が 「storageScavenge」の 場合に、「true」、「false」 のどちらかが出力されま す。
			タイムラグ指定	useTimeLag			実行オペレーション (scheduledOperation) の設定値が 「storageScavenge」か 「transactionScavenge」 の場合に、「true」、 「false」のどちらかが出 力されます。
			開始日 (年)	startDateYear	○	2000～2099の数値が出 力されます。	
			開始日 (月)	startDateMonth	○	1～12の数値が出力され ます。	
			開始日 (日)	startDateDay	○	1～31の数値が出力され ます。	
			開始時刻 (時)	startTimeHour	○	1～24の数値が出力され ます。	
			開始時刻 (分)	startTimeMinute	○	1～59の数値が出力され ます。	
			次回の実行時間	nextRunTime	○	「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式 で出力されます。	
			前回の実行時間	lastRunTime		「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式 で出力されます。	

対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
キャビネット	スケジューラ (1回のみ)	repository_cabinet_one_time_scheduler.csv	前回の結果	lastResult		「succeed」、「failed」、「ignore」、「running」、「none」のどれかが出力されます。
			実行開始時間	executionStartTime		「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
	操作ログ	repository_cabinet_operation_log.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId / cabinetName	○	
			ログ出力するか	logStatus		
			対象オブジェクトカテゴリ	objectCategories		複数の要素がある場合は、「 」（縦線）で区切って出力されます。
			記録対象の操作	recordOperations		複数の要素がある場合は、「 」（縦線）で区切って出力されます。
			オブジェクト特定属性	distinctiveAttributes		複数の要素がある場合は、「 」（縦線）で区切って出力されます。
	アカウントログ	repository_cabinet_account_log.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId / cabinetName	○	
			ログ出力するか	logStatus		
			ロールオーバー設定	rollOver		
			最大バックアップファイル数	limitFileBackupNumber		
			基準ファイルサイズ	limitFileSize		
			ログ取得対象操作	recordOperations		複数の要素がある場合は、「 」（縦線）で区切って出力されます。
			オブジェクト特定属性	distinctiveAttributes		複数の要素がある場合は、「 」（縦線）で区切って出力されます。



対象	分類	出力ファイル名	出力項目	ヘッダー名	必須	出力内容
ドロワー	基本情報	repository_drawer_information.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId / cabinetName	○	
			ドロワー名	drawerName	○	
			ドロワーID	drawerId	○	
			ドロワーの注釈	note		
			登録日時	createdOn	○	「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
			登録者	createdBy	○	DN形式で出力されます。
			最終変更日時	modifiedOn	○	「yyyy/MM/dd hh:mm:ss.SSS」の形式で出力されます。
			最終変更者	modifiedBy	○	DN形式で出力されます。
			ストレージパス	storagePath	○	
	アクセス権	repository_drawer_access_right.csv	キャビネットID / キャビネット名	cabinetId / cabinetName	○	
			ドロワー名	drawerName	○	
			アクセス権の種類 (オブジェクト、デフォルト)	aclType	○	「object」、 「default」のどちらかが出力されます。
			アクセスの主体	userRole	○	
			アクセス権	privilege	○	複数の要素がある場合は、「  (縦線)」で区切って出力されます。

- \* 1: 『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』の、ユーザー属性を確認する操作の実行結果と同等の情報が表示されません。
- \* 2: 『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』の、データベース表領域のサイズを算出する操作の実行結果と同等の情報が表示されます。
- \* 3: 『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』の、操作ログのサービス設定を確認する操作の実行結果と同等の情報が表示されます。
- \* 4: 『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』の、キャビネットの情報を確認する操作の実行結果と同等の情報が表示されます。
- \* 5: 『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』の、スケジューラーの実行結果と同等の情報が表示されます。
- \* 6: 『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』の、アカウントログの設定を確認する操作の実行結果と同等の情報が表示されます。

\* 7:『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』の、ドローワーの情報を確認する操作の実行結果と同等の情報が表示されます。

#### ◆ 設定情報出力コマンドの出力項目 (RMS)

項目	単値／多値	出力ファイル	カラム名	出力内容 (*1)
RMSプロパティのキー名	単値	rms_properties.csv	key	
RMSプロパティの値	単値		value	
ユーザー	単値	rms_users.csv	dn	DN形式で出力されます。
ユーザーのログイン名	単値		uid	
ユーザーの名前	単値		cn	
ユーザーの姓	単値		sn	
ユーザーの名	単値		givenName	
ユーザーの表示名	単値		displayName	
ユーザーに付与されているユーザーロール名	多値		rmsUserRoleIDs	
ユーザーのメールアドレス	単値		mail	
ユーザーのふりがな	単値		rmsPronunciation	
ユーザーの日本語表示名	単値		displayName;lang-ja	
ユーザーの英語表示名	単値		displayName;lang-en	
ユーザーの削除フラグ	単値		rmsObsoleteFlag	
ユーザーの最終ログイン時間	単値		lastLogin	「yyyy/MM/dd hh:mm:ss」の形式で出力されます。
ユーザーのロック状態	単値		locked	「TRUE」、「FALSE」のどちらかが出力されます。
ユーザーのパスワード強制変更	単値	forceChangePassword	「TRUE」、「FALSE」のどちらかが出力されます。	
グループ	単値	rms_groups.csv	dn	DN形式で出力されます。
グループの名前	単値		cn	
グループのメンバー	多値		uniqueMember	DN形式で出力されます。
グループの表示名	単値		displayName	
グループの日本語表示名	単値		displayName;lang-ja	

項目	単値/ 多値	出力ファイル	カラム名	出力内容 (*1)	
グループの英語表示名	単値	rms_groups.csv	displayName;l ang-en		
グループに付与されている ユーザーロール名	多値		rmsUserRoleID s	IDが出力されます。	
ユーザーロール名	単値		rms_userrolenames. csv	dn	DN形式で出力され ます。
ユーザーロール名の名前	単値			cn	
ユーザーロール名の表示名	単値			displayName	
ユーザーロール名の日本語 表示名	単値			displayName;l ang-ja	
ユーザーロール名の英語語 表示名	単値			displayName;l ang-en	
コンポーネント	単値	rms_components.csv	dn	DN形式で出力され ます。	
コンポーネントの名前	単値		cn		
コンポーネントの表示名	単値		displayName		
コンポーネントの日本語表 示名	単値		displayName;l ang-ja		
コンポーネントの英語表示 名	単値		displayName;l ang-en		
コンポーネントの管理ツ ールURI	単値		rmsAdminTool URI		
コンポーネントのライセン ス数	単値		rmsLicenseCo unt		

\* 1: 出力形式が空欄の項目は、設定値がそのまま出力されます。

#### ◆ 設定情報コマンドの出力項目 (ビューアー)

出力するCSVの種類	出力ファイル名	タイトル行	出力内容 (*1)
テンプレートの共通設 定CSV	viewapp_template_c ommon.csv	名前	
		コメント	
		コントロール ビュー	「ON」、「OFF」のどちらかが出 力されます。
		表示可能なドキュ メント数	
		表示対象の版	「最新版」、「全ての版」のどちら かが出力されます。
		フォルダの展開方 法	「直下のみ」、「末端まで」のどち らかが出力されます。

出力するCSVの種類	出力ファイル名	タイトル行	出力内容 (*1)
テンプレートの表示設定CSV	viewapp_template_display.csv	名前	
		コンテンツタイプ	
		コンテンツ_ページサイズ	
		コンテンツ_画像変換方法	「無変換」が出力されます。
		コンテンツ_表示画像選択	「プライマリ画像」、「プリント画像」のどちらかが出力されます。
		コンテンツ_解像度	
		コンテンツ_スケール	
		コンテンツ_画質	「高画質」、「標準」、「高圧縮」のどれかが出力されます。
		マルチコンテンツ_画像変換方法	「ブラウザ変換イメージ」、「TIFF変換」、「DocuWorks変換」のどれかが出力されます。
		マルチコンテンツ_表示画像選択	「プライマリ画像」、「プリント画像」のどちらかが出力されます。
		マルチコンテンツ_表示対象ページ	「先頭ページ」、「全ページ」のどちらかが出力されます。
		マルチコンテンツ_解像度	
		マルチコンテンツ_スケール	
		インデックス_画質	
		インデックス_画像変換方法	「無変換」、「ブラウザ変換イメージ」、「TIFF変換」、「DocuWorks変換」、「JPEG変換」のどれかが出力されます。
	インデックス_解像度		
	インデックス_スケール		
	viewapp_template_display.csv	マルチインデックス_画像変換方法	「ブラウザ変換イメージ」、「TIFF変換」、「DocuWorks変換」のどれかが出力されます。
		マルチインデックス_表示対象ページ	「先頭ページ」、「全ページ」のどちらかが出力されます。
		マルチインデックス_解像度	
		マルチインデックス_スケール	

出力するCSVの種類	出力ファイル名	タイトル行	出力内容 (*1)
テンプレートの表示設定CSV	viewapp_template_display.csv	マルチインデックス_画質	「高画質」、「標準」、「高圧縮」のどれかが出力されます。
		インフレーム_画像変換方法	「無変換」、「TIFF変換」、「DocuWorks変換」、「JPEG変換」のどれかが出力されます。
		インフレーム_プライマリ画像_解像度	
		インフレーム_プライマリ画像_スケール	
		インフレーム_プライマリ画像_画質	「高画質」、「標準」、「高圧縮」のどれかが出力されます。
		インフレーム_プリント画像_解像度	
		インフレーム_プリント画像_スケール	
		インフレーム_プリント画像_画質	「高画質」、「標準」、「高圧縮」のどれかが出力されます。
		インフレーム_インデックス画像_解像度	
		インフレーム_インデックス画像_スケール	
		インフレーム_インデックス画像_画質	「高画質」、「標準」、「高圧縮」のどれかが出力されます。
		インフレーム_部分画像_解像度	
		インフレーム_部分画像_スケール	
		インフレーム_部分画像_画質	「高画質」、「標準」、「高圧縮」のどれかが出力されます。
		テンプレートのスタンプリ設定CSV	viewapp_template_stamp.csv
説明			
レイヤー	「ON」、「OFF」のどちらかが出力されます。		
押印対象_プライマリ画像	「ON」、「OFF」のどちらかが出力されます。		
押印対象_プリント画像	「ON」、「OFF」のどちらかが出力されます。		
押印対象_インデックス画像	「ON」、「OFF」のどちらかが出力されます。		

出力するCSVの種類	出力ファイル名	タイトル行	出力内容 (*1)
テンプレートのスタン プ設定CSV	viewapp_template_s tamp.csv	押印対象_部分画像	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_演算子	「AND」、「OR」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_コントロー ルビューを考慮す る	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_コントロー ルビューが使われ るとき	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_コントロー ルビューが使われ ないとき	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_版を考慮す る	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_版管理され ていないとき	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_最新版のと き	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_旧版のと き	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_訂を考慮す る	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_新訂のと き	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_旧訂のと き	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_校訂のと き	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_状態を考慮 する	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		条件式_状態値	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
		イメージ_文字列ス タンプ	
		イメージ_文字列値	
		イメージ_フォント サイズ	
		イメージ_色	
		イメージ_イメージ スタンプ	「ON」、「OFF」 のどちらかが出 力されます。
イメージ_イメージ ファイル名			

出力するCSVの種類	出力ファイル名	タイトル行	出力内容 (*1)
テンプレートのスタン プ設定CSV	viewapp_template_s tamp.csv	押印位置_基点	「左上点」、「中上点」、「右上点」、 「左中点」、「中央点」、「右中点」、 「左下点」、「中下点」、「右下点」 のどれかが出力されます。
		押印位置_よこ方向	
		押印位置_たて方向	
	viewapp_template_s tamp.csv	重ね合わせ処理_ モード	「数値モード」、「上書きモード」、 「乗算モード」のどれかが出力さ れます。
	重ね合わせ処理_透 過色	「白」、「黒」のどちらかが出力さ れます。	
テンプレート選択権の 付与CSV	viewapp_user_assig n.csv	ユーザー一覧	ユーザーのリストがDN形式で出 力されます。 複数の場合は、セル内で改行し て出力されます。
		グループ一覧	グループのリストがDN形式で出 力されます。 複数の場合は、セル内で改行し て出力されます。
		ロール一覧	ロールのリストがテンプレート 名がDN形式で出力されます。 複数の場合は、セル内で改行し て出力されます。
ユーザー割当CSV	viewapp_template_s election.csv	テンプレート名	テンプレート名がDN形式で出力 されます。 複数の場合は、セル内で改行し て出力されます。
		ユーザー一覧	ユーザーのリストがDN形式で出 力されます。 複数の場合は、セル内で改行し て出力されます。
		グループ一覧	グループのリストがDN形式で出 力されます。 複数の場合は、セル内で改行し て出力されます。
		ロール一覧	ロールのリストがテンプレート 名がDN形式で出力されます。 複数の場合は、セル内で改行し て出力されます。

出力するCSVの種類	出力ファイル名	タイトル行	出力内容 (*1)
アプリケーション設定 CSV	viewapp_app_setting.csv	項目名	次の設定項目名が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状態を表す ATOM</li> <li>・ セッションタイムアウト時間</li> <li>・ 表示モード</li> <li>・ 表示画像の最大サイズ</li> <li>・ ファイル名のエンコード</li> <li>・ DocuWorks に変換される文書の表示</li> <li>・ 追加した USER_AGENT</li> <li>・ アカウントログ</li> <li>・ セッションログ</li> <li>・ システムログ</li> <li>・ トレースログ</li> </ul>
		項目値	項目名の設定項目ごとの次の出力値が、{項目名}：{出力値} の形式で出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ {状態を表す ATOM}：{ATOM のリスト}</li> <li>・ {セッションタイムアウト時間}：{数値}</li> <li>・ {表示モード}：{図面モード / 写真モード / 標準モード}</li> <li>・ {表示画像の最大サイズ}：{数値}</li> <li>・ {ファイル名のエンコード}：{ON/OFF}</li> <li>・ {DocuWorks に変換される文書の表示}：{全て変換してから表示 / 変換したページ分を先に表示}</li> <li>・ {追加した USER_AGENT}：{文字列値}</li> <li>・ {アカウントログ}：{OFF/FATAL/ERROR/WARN/INFO/DEBUG/ALL}</li> <li>・ {セッションログ}：{OFF/FATAL/ERROR/WARN/INFO/DEBUG/ALL}</li> <li>・ {システムログ}：{OFF/FATAL/ERROR/WARN/INFO/DEBUG/ALL}</li> <li>・ {トレースログ}：{OFF/FATAL/ERROR/WARN/INFO/DEBUG/ALL}</li> </ul>

\* 1：出力形式が空欄の項目は、設定値が文字列または数値で出力されます。



## ◆ 設定情報コマンドの出力項目 (ワークフロー)

## ◇ awf\_sysPrefs.csv の出力内容 (ワークフロー管理アプリケーションの設定)

管理メニュー名と項目		単値/多値	出力内容	
管理者設定 (定義公開者)		多値	[true] が出力されます。	
管理者設定 (定義作成者)		多値	[true] が出力されます。	
メール通知 設定	メッセージ通知サーバーの URL	単値	設定値がそのまま出力されます。	
	メールマスターメールアドレス	単値	設定値がそのまま出力されます。	
	メール通知 イベント	作業の状態が 実行可能な状態 になった時	単値	チェックマークが付いている場合は [true]、 チェックマークが付いていない場合は [false] が出力されます。
		作業責任者が 作業実行者を 決定した時	単値	
		案件実行中の 例外発生時	単値	
		作業中止時	単値	
	代行者を指定 (解除) した時	単値		
ログ設定	アカウントログ	単値	設定値がそのまま出力されます。	
	セッションログ	単値		
	システムログ	単値		
	トレースログ	単値		
ワークフ ローキャビ ネット設定	ワークフロー用ドロワー ID	単値	設定値がそのまま出力されます。	
不要データ 削除	現在のスケジュール	単値	[毎日] を指定している場合は [毎日 hh:mm]、[毎週] を指定している場合は [指定した曜日] hh:mm の形式で出力さ れます。	
外部コマンドスケジュール設定		多値	日程と停止期間が、スペースで区切って出力 されます。	
外部コマ ンドサービ ス状態設定	サービス状態	単値	サービスが実行中の場合は [running]、 サービスが停止している場合は [stopped] が出力されます。	
	実行中の外部コマンド数	単値	作業テーブルから取得した値が出力されま す。	
	実行中の外部コマンド一覧	多値	作業テーブルから取得した値が出力されま す。	

管理メニュー名と項目		単値／多値	出力内容	
外部コマンド一覧	外部コマンドの配置フォルダ	単値	設定している場合はその値、設定していない場合はデフォルト値の「{ArcSuiteのユーザーホームのフォルダー}¥Service¥data¥Workflow」が出力されます。	
	外部コマンド一覧	単値	ファイルから読み込んだ値が出力されます。	
外部コマンド実行設定	実行状態調査間隔	単値	値を秒に変換して出力されます。	
	再実行の間隔	単値	値を秒に変換して出力されます。	
	最大同時実行数	単値	設定値がそのまま出力されます。	
その他の設定	定義情報のアップロード	最大データサイズ	単値	設定値がそのまま出力されます。
	通知メール	メッセージのテンプレート	単値	「個別指定したメッセージにはテンプレートを適用しない」を指定している場合は「true」、 「常にテンプレートを適用する」を指定している場合は「false」が出力されます。
	CSV形式のダウンロード	ドキュメント型属性の形式	単値	次のどれかが出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「親フォルダを開く URL」を指定している場合：parentOpenURL</li> <li>・「親フォルダをダウンロードする URL」を指定している場合：parentDownloadURL</li> <li>・「親フォルダのオブジェクト ID」を指定している場合：parentObjectID</li> <li>・「ドキュメントを開く URL」を指定している場合：openURL</li> <li>・「ドキュメントをダウンロードする URL」を指定している場合：downloadURL</li> <li>・「ドキュメントを印刷する URL」を指定している場合：printURL</li> <li>・「ドキュメントをコンテンツ表示する URL」を指定している場合：contentViewURL</li> <li>・「ドキュメントをインデックス表示する URL」を指定している場合：indexViewURL</li> <li>・「ドキュメントのオブジェクト ID」を指定している場合：objectID</li> </ul>

管理メニュー名と項目			単値/多値	出力内容
その他の設定	作業のフォーム	ドキュメントの最大表示件数	単値	設定値がそのまま出力されます。
		未着手状態のフォームを開いた際の動作	単値	次のどれかが出力されます。 ・「実行中にしない」を指定している場合： never ・「実行中にする」を指定している場合： always ・「担当者が1人の場合のみ実行中にする」を指定している場合： onlyOneUser
	作業一覧	一括完了時のユーザー確認	単値	「ユーザー確認しない」を指定している場合は「none」、 「必ずユーザー確認する」を指定している場合は「always」が出力されます。
	案件に対する権限	ワークフロー定義管理者の権限	単値	「案件の参照者と同じ」を指定している場合は「observer」、 「案件の責任者と同じ」を指定している場合は「responsibles」が出力されます。
		起案者による案件の参照	単値	「参照できない」を指定している場合は「true」、 「参照できる」を指定している場合は「false」が出力されます。
	ドキュメント情報の更新	ドキュメントスペースへの登録時	単値	「更新する」を指定している場合は「true」、 「更新しない」を指定している場合は「false」が出力されます。
	ワークフロー起動	ワークフロー定義一覧（起動用）のアイコンおよび名前リンクに割り当てる操作	単値	「定義ビューワーを開く」を指定している場合は「viewDefinition」、 「起動フォームを開く」を指定している場合は「startWorkflow」が出力されます。
		チェックアウト/ロックしないで起動する場合の添付文書数の制限	単値	「起動しない」を指定している場合は「true」、 「起動する」を指定している場合は「false」が出力されます。
		チェックアウト/ロックしないで起動する場合の添付文書数の制限	単値	「制限なし」を指定している場合は「true」、 「100個以下」を指定している場合は「false」が出力されます。

管理メニュー名と項目			単値/多値	出力内容
その他の設定	禁止操作	案件の中止操作	単値	「禁止する」を指定している場合は「true」、 「禁止しない」を指定している場合は 「false」が出力されます。
		案件の削除操作	単値	
		作業一覧画面からの作業完了操作	単値	
		相談タスクの作成/表示操作	単値	
		代行者の設定操作	単値	
		進捗管理者/進捗管理対象者の設定操作	単値	
	チェックアウト/ロックの自動解除	案件が完了したとき	単値	「解除する」を指定している場合は「true」、 「解除しない」を指定している場合は 「false」が出力されます。
		案件を中止したとき	単値	
		案件が異常終了したとき	単値	
		案件を削除したとき	単値	
	ドキュメント削除	実行履歴のドキュメント	単値	「削除する」を指定している場合は「true」、 「削除しない」を指定している場合は 「false」が出力されます。

## ◇ awf\_definitionList.csv の出力内容（ワークフロー定義情報）

カラム名	出力内容
定義ID	ワークフロー定義の定義IDが出力されます。
定義名	ワークフロー定義の定義名が出力されます。
版	ワークフロー定義の版が出力されます。
領域	ワークフロー定義が保存されているユーザーの領域です。各ユーザーの領域に存在する場合、ユーザーのuidが出力されます。
カテゴリ	ワークフロー定義のカテゴリが出力されます。
使用言語	ワークフロー定義の言語が表示されます。
管理者	ワークフロー定義の管理者が、DN形式で出力されます。
起動権保有者	ワークフロー定義の起動権保有者が、DN形式で出力されます。
テンプレート作成権保有者	ワークフロー定義のテンプレート作成権保有者が、DN形式で出力されます。
公開状態	ワークフロー定義の公開状態が出力されます。
有効無効	ワークフロー定義が有効か、無効かが出力されます。
公開開始日	ワークフロー定義の公開開始日が出力されます。

カラム名	出力内容
公開終了日	ワークフロー定義の公開終了日時が出力されます。
削除済み	ワークフロー定義が削除済みの場合、「○」が出力されます。
作成者	ワークフロー定義の作成者が、DN形式で出力されます。
最終更新日時	ワークフロー定義の最終更新日時が出力されます。
作業の個数	ワークフロー定義内に定義されている作業の個数が出力されます。
案件の件数	ワークフロー定義～起動された案件の個数が出力されます。

## 付録 B リソース管理サービスのログについて

リソース管理サービスのアカウントログには操作内容に対応する識別子が記述されます。識別子の内容は、次のとおりです。

### リソース管理サービスの識別子

表：アカウントログ記述内容

操作内容	識別子	説明
エントリの追加	ADD	部署追加、ユーザー追加、グループ追加、ユーザーロール名追加画面での追加実行時（追加ボタンをクリックしたあと）に記述します。
エントリの削除	DELETE	削除操作の実行時（削除ボタンをクリックしたあと）に記述します。
エントリの移動	MOVE	移動操作の実行時（移動ボタンをクリックしたあと）に記述します。
エントリの無効化	SET_OBSOLETE_FLAG	ユーザー、グループ、ユーザーロール名の無効化フラグをTRUEに変更したとき（設定ボタンをクリックしたあと）に記述します。
エントリの無効化取り消し	UNSET_OBSOLETE_FLAG	ユーザー、グループ、ユーザーロール名の無効化フラグをFALSEに変更したとき（設定ボタンをクリックしたあと）に記述します。
メンバーの追加	ADD_MEMBERS	グループにメンバーを追加したとき（設定ボタンをクリックしたあと）に記述します。
メンバーの削除	DELETE_MEMBERS	グループからメンバーを削除したとき（設定ボタンをクリックしたあと）に記述します。
ユーザーロールの追加	ADD_ROLES	ユーザ、グループにユーザーロールを追加したとき（設定ボタンをクリックしたあと）に記述します。
ユーザーロールの削除	DELETE_ROLES	ユーザ、グループからユーザーロールを削除したとき（設定ボタンをクリックしたあと）に記述します。
エントリの属性変更	EDIT	ユーザー、グループ、ユーザーロール名のプロパティ編集画面で、上記に該当しない属性の変更時（設定ボタンをクリックしたあと）に記述します。
検索	QUERY	フォーム検索、特殊検索画面での検索操作（検索のボタンをクリックしたあと）に記述します。
ライセンス編集用検索	LICENSE_QUERY	ライセンス編集用検索画面での検索操作（検索ボタンをクリックしたあと）に記述します。
ライセンス付与	LICENSE_ADD	ライセンスの付与操作（付与ボタンをクリックしたあと）に記述します。
ライセンス解除	LICENSE_DELETE	ライセンスの解除操作（解除ボタンをクリックしたあと）に記述します。

## リソース管理アプリケーションが出力するアカウントログの操作内容

リソース管理アプリケーションが出力するアカウントログの操作内容は、次のとおりです。

- ・ エントリの追加
- ・ エントリの削除
- ・ エントリの移動
- ・ エントリの無効化
- ・ エントリの無効化取り消し
- ・ メンバーの追加
- ・ メンバーの削除
- ・ ユーザーロールの追加
- ・ ユーザーロールの削除
- ・ エントリの属性変更
- ・ 検索
- ・ ライセンス編集用検索
- ・ ライセンス付与
- ・ ライセンス解除

## リソース管理サービス管理コマンドが出力するアカウントログの操作内容

リソース管理サービス管理コマンドが出力するアカウントログの操作内容は、次のとおりです。

- ・ エントリの追加
- ・ エントリの削除
- ・ エントリの移動
- ・ エントリの無効化
- ・ エントリの無効化取り消し
- ・ メンバーの追加
- ・ メンバーの削除
- ・ ユーザーロールの追加
- ・ ユーザーロールの削除
- ・ エントリの属性変更

## 付録 C ドキュメントスペースのログについて

ドキュメントスペースのログの拡張部分について、詳細に記述します。

### アカウントログに記録するもの

記録対象であるユーザーの操作、記録する識別子、本コンポーネント拡張部分の記録項目について、次のとおりです。

本コンポーネント拡張部分の記録項目は、CSV形式の書式として、独自のカラムを規定カラムのあとに追加して出力します。追加カラムの数と記録内容は、操作ごとに異なります。

表の記載内容について説明します。

追加カラム番号:記録属性名 = {値の内容} [; 記録属性名= {値} ...]

- ・追加カラム番号は、追加するカラムの並び順です。たとえば、1 は最初の追加カラムを意味します。
- ・? が付いた追加カラム番号は、状況に応じて、そのカラムが省略されることを意味します。
- ・+ が付いた追加カラム番号は、状況に応じて、同様のカラムが 1 つ以上（複数）追加されることを意味します。
- ・\* が付いた追加カラム番号は、状況に応じて、そのカラムが省略されたり、同様のカラムが 1 つ以上（複数）追加されたりすることを意味します。

**注記** 追加カラム番号の数字は、追加カラムの順序を示すだけです。

たとえば、

- ・ 1?:A
- ・ 2+:B
- ・ 3\*:C

とある場合、A が省略されて B が最初の追加カラムになることもあり、B が複数記録されて C が 10 番目の追加カラムに記録されることもあります。そのため、数字のとおり A が最初のカラム、B が 2 番目のカラム、C が 3 番目のカラムになるとは限りません。

各追加カラムには、

記録属性名 = {値の内容} [; 記録属性名= {値} ...]

の形式で情報を出力します。

例：TARGET\_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET\_ID= {対象オブジェクトのID}

状況によってログの記述内容が異なる場合は、「| (縦線)」を使用して記載します。

例：NUMBER= {版番号} | LABEL= {版ラベル}

複雑になる場合は、次のように括弧で名前を示し、その内容を別に分けて記載します。

例：... ; (版番号または版ラベル)

版番号または版ラベル：NUMBER= {版番号} | LABEL= {版ラベル}

**補足** 括弧付きの操作名は、操作メニューには表示されない内部的な操作であることを意味します。



表 : アカウントログの記述内容

操作名	操作識別子	コンポーネント拡張部分項目
(セッション初期化)	NEW_SESSION_HANDLER	1:MODE=USER   ADMIN (*1)  *1: USER=通常ユーザーモードで初期化、ADMIN=管理者モードで初期化
開く 上へ 戻る	GET_OBJECTLIST	1:COUNT= {表示件数} (*1) 2:(表示対象サービス)   (表示対象コンテナ) 表示対象サービス: TARGET_SERVICE= {表示対象サービスのID} 表示対象コンテナ: TARGET_NAME= {表示対象コンテナの名前} ; TARGET_ID= {表示対象コンテナのID}  *1: 表示件数が最大表示件数を超過している場合、数値の後ろに「*」を付加します。
更新 (一覧のソート)	UPDATE_OBJECTLIST	1:(更新対象サービス)   (更新対象コンテナ)   (更新対象検索結果の検索条件) 更新対象サービス: TARGET_SERVICE= {更新対象サービスのID} 更新対象コンテナ: TARGET_NAME= {更新対象コンテナの名前} ; TARGET_ID= {更新対象コンテナのID} 更新対象検索結果の検索条件: QUERY_CONDITION= {更新対象検索結果画面の元になった検索で指定している検索条件}
(表示設定保存)	SAVE_OBJECTLIST_CONTEXT	1:CONTEXT= {表示設定の内容} (*1)  *1: 基本オブジェクト用表示設定の内容が記録されます。
詳細検索 (簡易検索の再検索も含まれます)	SEARCH	1?:COUNT= {検索結果件数} (*1) 2:QUERY_NAME= {検索設定の名前} 3:CONDITION= {検索条件} 4:(検索対象) [; (検索対象) ...] 検索対象: (検索対象サービス)   (検索対象コンテナ) 検索対象サービス: TARGET_SERVICE= {検索対象サービスのID} 検索対象コンテナ: TARGET_NAME= {検索対象コンテナの名前} ; TARGET_ID= {検索対象コンテナのID}  *1: 検索結果件数が最大表示件数を超過している場合、数値の後ろに「*」を付加します。
簡易検索 (再検索除く)	SIMPLE_SEARCH	1?:COUNT= {検索結果件数} 2:KEYWORD= {検索キーワード} 3:SEARCH_TARGET= {検索対象名} 4?:CURRENT_ID= {オブジェクト一覧で現在表示しているコンテナまたはサービスのID}

表：アカウントログの記述内容

操作名	操作識別子	コンポーネント拡張部分項目
種文書検索	SEED_DOCUMENTS_SEARCH	詳細検索 (SEARCH) と同様
自然文検索	NATURAL_TEXT_SEARCH	詳細検索 (SEARCH) と同様
(検索設定の保存)	SAVE_QUERY	1:NAME= {検索設定の名前} 2:COMMENT= {コメント} 3:QUERY= {検索設定の内容}
(検索設定の削除)	REMOVE_QUERY	1:TARGET_ID= {削除対象設定のID}
ダウンロード (単一ファイルの場合) チェックイン (チェックインの前に、内部的にコンテンツを取得する。そのときのログとして記録されます) コンテンツ差し替え (コンテンツ差し替えの前に、内部的にコンテンツを取得します。そのときのログとして記録されます) リモート編集 (リモート編集では、内部的にコンテンツの取得をします。そのときのログとして記録されます)	GET_CONTENT	1:LABEL= {取得対象コンテンツラベル} 2?:CONTENT_TYPE= {コンテンツタイプ} 3?:CONTENT_SIZE= {コンテンツのサイズ (バイト数)} 4:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID}
ダウンロード (複数ファイルの場合)	GET_ARCHIVED_CONTENTS	1:SIZE= {アーカイブファイルのトータルサイズ (バイト数)} 2:NUMBER_OF_CONTENTS= {アーカイブに含まれるコンテンツの数} 3+:CONTENT_TYPE= {コンテンツタイプ} ; CONTENT_SIZE= {コンテンツのサイズ (バイト数)} ; TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID}
リモート編集 (履歴管理ありのリモート編集では、内部的に校訂コンテンツの取得をします。そのときのログとして記録されます)	GET_WORK_REVISION_CONTENT	1:LABEL= {取得対象コンテンツラベル} 2?:CONTENT_TYPE= {コンテンツタイプ} 3?:CONTENT_SIZE= {コンテンツのサイズ (バイト数)} 4:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID}
コピー マークコピー	COPY_OBJECT	1:DESTINATION_NAME= {コピー先コンテナの名前} ; DESTINATION_ID= {コピー先コンテナのID} 2+:TARGET_NAME= {コピー対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {コピー対象オブジェクトのID}
移動 マーク移動	MOVE_OBJECT	1:DESTINATION_NAME= {移動先コンテナの名前} ; DESTINATION_ID= {移動先コンテナのID} 2+:TARGET_NAME= {移動対象オブジェクトの名前} ; TARGET ID= {移動対象オブジェクトのID}

表：アカウントログの記述内容

操作名	操作識別子	コンポーネント拡張部分項目
削除	DELETE_OBJECT	1+:TARGET_NAME= {削除対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {削除対象オブジェクトのID}
復元	RECYCLE_OBJECT	1+:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; LOCATION_NAME= {復元先コンテナの名前} ; LOCATION_ID= {復元先コンテナのID} ; OK   NG 復元に成功した場合は「OK」、失敗した場合は「NG」と記録します。
属性コピー	COPY_ATTRIBUTES	1:ATTRIBUTES= {コピーする属性} 2+: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}
ドキュメント登録 フォルダ登録	REGISTRATION_OBJECT	1?:CREATED_FOLDER_NAME= {作成フォルダの名前} ; CREATED_FOLDER_ID= {作成フォルダのID} 2+: (成功時)   (失敗時) 成功時: REGISTERED_DOCUMENT_NAME= {登録ドキュメントの名前} ; REGISTERED_DOCUMENT_ID {登録ドキュメントのID} [; MEDIATYPE= {登録ドキュメントのメディアタイプ}] 失敗時: ERROR
リファレンス作成 マークリファレンス作成	CREATE_REFERENCE	1+: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {リファレンス作成対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {リファレンス作成対象オブジェクトのID} ; CREATED_REFERENCE_NAME= {作成したリファレンスの名前} ; CREATED_REFERENCE_ID= {作成したリファレンスのID} ; TYPE= (作成したリファレンスのタイプ) 失敗時: TARGET_NAME= {リファレンス作成対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {リファレンス作成対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ} リファレンスのタイプ: NORMAL   DYNAMIC   HARD   UNKNOWN (*1)  *1: NORMAL=通常リファレンス, DYNAMIC=最新版参照リファレンス, HARD=ハードリファレンス, UNKNOWN=不明
属性変更 名前変更	UPDATE_ATTRIBUTES	1:TEMPLATE= {属性テンプレート名} 2: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; ATTRIBUTES= {設定する属性} 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}

表：アカウントログの記述内容

操作名	操作識別子	コンポーネント拡張部分項目
コンテンツ差し替え リモート編集（リモート編集実行時、クライアントで上書き保存が指示されると、内部的にコンテンツ差し替えをします。そのときのログとして記録します）	UPDATE_CONTENT	<p>1?:WORK_REVIVION_MODE (*1) 2+: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; CONTENT_TYPE= {新しいコンテンツのコンテンツタイプ} ; CONTENT_DATA= {新しいコンテンツデータのファイル名} [; SECONDARY_CONTENT= {セカンダリコンテンツのコンテンツラベル} / {セカンダリコンテンツのファイル名}] (*2)、(*3) 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}</p> <p>*1: リモート編集（履歴管理あり）の実行時で、内部的に校訂のコンテンツ差し替える場合だけ記録されます。通常のコンテンツ差し替えおよび、リモート編集（履歴管理なし）で、新訂のコンテンツを差し替える場合には、記録されません。 *2: SECONDARY_CONTENTの項は、指定しているセカンダリコンテンツの数だけ同様の記述が繰り返されます。 *3: プライマリコンテンツを指定せずにセカンダリコンテンツだけを指定している場合、CONTENT_DATA,CONTENT_TYPEには「(Unspecified)」と出力されます。</p>
ロック リモート編集（履歴管理なしのリモート編集開始時、自動的に対象オブジェクトのロックをします。そのときのログとして記録します）	LOCK	<p>1:TYPE=DEEP   SHALLOW (*1) 2+: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} [; COMMENT= {コメント}] 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}</p> <p>*1: DEEP=フォルダーの場合、フォルダー以下階層すべて。SHALLOW=フォルダーの場合、フォルダーのみ</p>
アンロック リモート編集（履歴管理なしのリモート編集終了時、自動的に対象オブジェクトのロックを解除します。そのときのログとして記録します）	UNLOCK	<p>1:TYPE=DEEP   SHALLOW (*1) 2+: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}</p> <p>*1: DEEP=フォルダーの場合、フォルダー以下の階層すべて。SHALLOW=フォルダーの場合、フォルダーのみ</p>
リファレンス属性更新	UPDATE_REFERENCE	<p>1: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}</p>

表：アカウントログの記述内容

操作名	操作識別子	コンポーネント拡張部分項目
リファレンス実体化	REALIZE_REFERENCE	1:DIPOSAL_EDITION_KEY= {実体化するときの版管理属性を破棄するかどうか} 2:DIPOSAL_UNIQUE_KEY= {実体化するときのユニークキー属性を破棄するかどうか} 3: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; REALIZED_OBJECT_NAME= {実体化したあとのオブジェクトの名前} ; REALIZED_OBJECT_ID= {実体化したあとのオブジェクトのID} 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}
ドキュメント情報更新	UPDATE_CONTENT_ATTRIBUTES	1+: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}
状態変更	CHANGE_STATUS	1:STATUS= {変更後の状態} 2+:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID}
アクセス権変更	UPDATE_ACL	1:TYPE=DEEP   SHALLOW (*1) 2+: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; ACL= {新規アクセス権} 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}  *1: DEEP=フォルダーの場合、フォルダー以下階層すべて。SHALLOW=フォルダーの場合、フォルダーのみ
デフォルトアクセス権変更	UPDATE_DEFAULT_ACL	1:TYPE=DEEP   SHALLOW (*1) 2+: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; ACL= {新規アクセス権} 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}  *1: DEEP=フォルダーの場合、フォルダー以下階層すべて。SHALLOW=フォルダーの場合、フォルダーのみ

表：アカウントログの記述内容

操作名	操作識別子	コンポーネント拡張部分項目
改版	RAISE_EDITION	<p>1:TYPE=NORMAL   HARD (*1)  2+: (成功時)   (失敗時)  成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ;  RAISED_OBJECT_NAME= {改版オブジェクトの名前} ; RAISED_OBJECT_ID= {改版オブジェクトのID}  失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ;  {エラーメッセージ}</p> <p>*1: NORMAL=フォルダーの中身を通常リファレンスにして改版。HARD=フォルダーの中身をハードリファレンスにして改版</p>
版管理開始	ASSIGN_EDITION_KEY	<p>1+: (成功時)   (失敗時)  成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ;  KEY= (版管理属性の配列) ; (版番号または版ラベル)  失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ;  {エラーメッセージ}  版管理属性の配列: [Attribute= {版管理属性} [, Attribute= {版管理属性} ...]]  版番号または版ラベル: NUMBER= {版番号}   LABEL= {版ラベル}</p>
版管理取り消し	DISPOSE_EDITION_KEY	<p>1+:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ;  TARGET_ID= {対象オブジェクトのID}</p>
チェックアウト リモート編集 (履歴管理ありのリモート編集開始時、自動的に対象オブジェクトのチェックアウトをします。そのときのログとして記録します)	CHECK_OUT	<p>1+:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ;  TARGET_ID= {対象オブジェクトのID}</p>
チェックイン	CHECK_IN	<p>1:KEEP_CHKOUT= {チェックアウト状態のままかどうか (*1)}  2:COMMENT= {コメント}  3+:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ;  TARGET_ID= {対象オブジェクトのID}</p> <p>*1: trueまたはfalse</p>

表：アカウントログの記述内容

操作名	操作識別子	コンポーネント拡張部分項目
チェックアウト取り消し リモート編集（履歴管理ありのリモート編集終了時、校訂に変更がない場合は、自動的に対象オブジェクトのチェックアウト取り消しをします。そのときのログとして記録します）	UN_CHECK_OUT	1+: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}
履歴全削除 ロールバック	REMOVE_REVISION	1:TYPE=ALL   ROLL_BACK (*1) 2+: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; CURRENT_ID= {処理する前の最新リビジョンオブジェクトのID} 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}  *1: ALL=履歴全削除、ROLL_BACK=ロールバック
分類ビュー作成	CREATE_CLASSIFICATION_VIEW	1:DEFINITION= {分類設定の内容} 2?:CREATED_VIEW_NAME= {作成した分類ビューの名前} ; CREATED_VIEW_ID= {作成した分類ビューのID}
(ユーザー設定変更)	SET_USER_CONFIGURATION	NAME= {設定名}
分類ビュー設定情報変更	UPDATE_CLASSIFICATION	1:DEFINITION= {分類設定の内容} 2: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象分類ビューオブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象分類ビューオブジェクトのID} 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}
該当件数更新	UPDATE_NUMBER_OF_CLASSIFICATION_OBJECTS	1: (成功時)   (失敗時) 成功時: TARGET_NAME= {対象分類ビューオブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象分類ビューオブジェクトのID} ; PROCESS=DONE   DO_BACKGROUND (*1) 失敗時: TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; {エラーメッセージ}  *1: DONE=更新終了、DO_BACKGROUND =バックグラウンドで更新処理中
(ログイン)	LOGIN	なし
(ログアウト)	LOGOUT	なし

表：アカウントログの記述内容

操作名	操作識別子	コンポーネント拡張部分項目
コンテンツ表示	SHOW_CONTENT_IMAGE	<p>1:NUMBER_OF_DOCUMENT= {対象ドキュメントの数}</p> <p>2?:TARGET_NAME = {対象ドキュメント名} ; TARGET_ID = {対象ドキュメントオブジェクトのID} ; CONTENT_TYPE= {対象ドキュメントオブジェクトのメディアタイプ}</p> <p>3:NUMBER_OF_REFERENCE= {対象リファレンスの数}</p> <p>4?:TARGET_NAME = {対象リファレンス名} ; TARGET_ID = {対象リファレンスオブジェクトのID}</p>
インデックス表示	SHOW_INDEX_IMAGE	<p>1:NUMBER_OF_FOLDER= {対象フォルダーの数}</p> <p>2*:TARGET_NAME = {対象フォルダー名} ; TARGET_ID = {対象フォルダーオブジェクトのID}</p> <p>3:NUMBER_OF_DOCUMENT= {対象ドキュメントの数}</p> <p>4*:TARGET_NAME = {対象ドキュメント名} ; TARGET_ID = {対象ドキュメントオブジェクトのID} ; CONTENT_TYPE= {対象ドキュメントオブジェクトのメディアタイプ}</p> <p>5:NUMBER_OF_REFERENCE= {対象リファレンスの数}</p> <p>6*:TARGET_NAME = {対象リファレンス名} ; TARGET_ID = {対象リファレンスオブジェクトのID}</p>
画像表示	SHOW_ENTITY_IMAGE	<p><b>対象がドキュメントの場合</b></p> <p>1:NUMBER_OF_FOLDER= {フォルダー数}</p> <p>現状、画像表示はフォルダーに対して実行できないため、{フォルダー数} は必ず0になります。</p> <p>2:NUMBER_OF_DOCUMENTS= {ドキュメント数}</p> <p>現状、画像表示は複数のドキュメントに対して実行できないため、{ドキュメント数} は必ず1になります。</p> <p>3:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ; CONTENT_TYPE= {対象オブジェクトのコンテンツタイプ}</p> <p>4:NUMBER_OF_REFERENCE=0</p> <p><b>対象がリファレンスの場合</b></p> <p>1:NUMBER_OF_FOLDER=0</p> <p>現状、画像表示はフォルダーに対して実行できないため、{フォルダー数} は必ず0になります。</p> <p>2:NUMBER_OF_DOCUMENTS= {フォルダー数}</p> <p>3:NUMBER_OF_REFERENCE= {リファレンス数}</p> <p>現状、画像表示は複数のリファレンスに対して実行できないため、{リファレンス数} は必ず1になります。</p> <p>4:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID} ;</p>



表：アカウントログの記述内容

操作名	操作識別子	コンポーネント拡張部分項目
ワークフロー起動	INVOKE_WORKFLOW	1:NUMBER_OF_FOLDER= {対象フォルダーの数} 2*:TARGET_NAME = {対象フォルダー名} ; TARGET_ID = {対象フォルダーオブジェクトのID} 3:NUMBER_OF_DOCUMENT= {対象ドキュメントの数} 4*:TARGET_NAME = {対象ドキュメント名} ; TARGET_ID = {対象ドキュメントオブジェクトのID} ; CONTENT_TYPE= {対象ドキュメントオブジェクトのメディアタイプ} (*1)  *1：メディアタイプには文字コードを含みません。
ユーザー定義操作	USER_OPERATION	1+:TARGET_NAME= {対象オブジェクト名} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトID} 2:REQUEST= [URI= {送信するURL} ; METHOD= {get   post} ; PARAMS= {{リクエストパラメーターのキー} = {リクエストパラメーターの値} , ...}]
スタンプ	STAMP_OBJECT	1:STAMPID= {スタンプId} 2:comment= {スタンプ時のコメント} 3+:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID}
クラス変更	CHANGE_CLASS	1:CLASS= {変更後のクラスId} 2+:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID}
操作ログ	SHOW_OPERATION_LOG	1:TARGET_NAME= {対象オブジェクトの名前} ; TARGET_ID= {対象オブジェクトのID}

## システムログの記述内容

記録対象であるユーザーの操作、記録する識別子について、次のとおりです。

ただし、アカウントログと同様の操作は、アカウントログで使用する識別子を使用するものとします。

表：システムログの記述内容

操作名	操作識別子
検索設定一覧表示	QUERY_LIST
検索設定表示	GET_QUERY
検索設定作成	CREATE_QUERY
検索設定更新	UPDATE_QUERY
属性表示	GET_ATTRIBUTES
属性マーク	MARK_ATTRIBUTES
マーク	MARK_OBJECT
アクセス権表示	GET_ACL
デフォルトアクセス権表示	GET_DEFAULT_ACL
分類ビュー設定情報表示	GET_CLASSIFICATION_VIEW

表：システムログの記述内容

操作名	操作識別子
分類ビュー属性条件設定	SET_CLASSIFICATION_VIEW_ATTRIBUTE_CONDITION
キャビネット情報表示	GET_CABINET_INFORMATION
操作一覧	GET_OPERATION_LIST
URL表示	GET_URL_LIST
表示内容文書化	CREATE_DISPLAY_CONTENT
コンテナ選択	GET_CONTAINER_TREE
クラスタリング	CLUSTER
表示設定変更	UPDATE_OBJECTLIST_CONTEXT
ワークスペース	WORKSPACE
リクエスト	REQUEST_PROCESS
初期化	INITIALIZE_PROCESS
セッション制限	CHECK_SESSION_LIMIT
チェックイン (ドキュメント操作URL)	SDK_CHECK_IN
チェックアウト (ドキュメント操作URL)	SDK_CHECK_OUT
実体画像表示 (ドキュメント操作URL)	SDK_SHOW_CONTENT_IMAGE
ダウンロード (ドキュメント操作URL)	SDK_GET_CONTENT
インデックス画像表示 (ドキュメント操作URL)	SDK_SHOW_INDEX_IMAGE
オブジェクト表示 (ドキュメント操作URL)	SDK_OPEN
ドキュメント登録 (ドキュメント操作URL)	SDK_REGIST_OBJECT
検索設定表示/詳細検索結果表示 (ドキュメント操作URL)	SDK_SEARCH
コンテナ選択 (ドキュメント操作URL)	SDK_GET_CONTAINER_TREE
簡易検索 (ドキュメント操作URL)	SDK_SIMPLE_SEARCH

## 付録 D アカウントロック時のメール通知内容

アカウントが自動でロックされたときにメールで通知する設定になっている場合は、次の内容が通知されます。

表：アカウントロック時のメール通知内容

項目	内容
配信方式	逐次送信（ダイレクト）
メッセージテンプレート	なし
送信元（From）	RMSプロパティ 「com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.lock.informant」に設定されたエントリーのメールアドレスです。 この値が設定されていない場合は、RMS管理ユーザーのメールアドレスです。 ただし、メッセージ通知管理アプリケーションの「設定の変更」ページで、「メール送信詳細設定」の「From」フィールドにメッセージ通知管理アドレスを設定」にチェックマークを付けている場合は、RMSプロパティの設定にかかわらず、メッセージ通知管理アドレスになります。
送信先（TO）	RMSプロパティ 「com.fujifilm.fb.rms.auth.rdb.lock.notifyingParty」に設定されたエントリーのメールアドレスです。
送信先（Cc）	なし
送信先（Bss）	
返送先（Reply-To）	
エラーメール（バウンスメッセージ）の返送先	
言語	送信先ユーザーの言語設定です。
メッセージタイトル	<検知> アカウントロックされたユーザーを検知しました。
メッセージ内容	以下のユーザーがアカウントロックされました。  アカウントロックされたユーザー： {ユーザーのDN}（{ユーザーの表示名}）(*1)  「アカウントロックされたユーザー」の出力例は、次のとおりです。 uid=fxXXXXX,ou=users,dc=ArcSuite
添付ファイル	なし
その他のメッセージ属性	なし

- \* 1：表示名が設定されていないユーザーの場合、{ユーザーの表示名} は空白となります。  
「送信先（To）」や「送信元（From）」のユーザーが、RMS でメール通知をしない設定になっている場合、メールアドレスが設定されていない場合、または不正なメールアドレスが設定されている場合は、メールは送信されません。

## 付録 E ArcSuite でサポートするデータフォーマット

ArcSuiteで利用できるデータのフォーマットは、次のとおりです。ArcSuiteに登録、表示、または検索するときに使用できるフォーマットについて説明しています。

**参照** ArcSuite のサーバーにインストールできるソフトウェアについては、『セットアップガイド』を参照してください。

表 : サポートするデータフォーマット

データの 種類	拡張子	MIME/MEDIA TYPES (parameter)	ソフトウェアまたはフォーマットの制限	コンテンツ表示	インデックス表示	文書内テキスト抽出	統合検索の収集対象
							NTFS
BMP	bmp	image/bmp	データの圧縮形式が次のファイル 非圧縮 RLE4 RLE8	○	○		○
CALS	cls	application/cals-1840 (filename=D001R001;version="MIL-STD-1840A, 0, 19871222")	CALS (Type1) ラスターファイル	○	○		○
CSV	csv	text/x-comma-separated-values ( ; charset)				○	○ (charset)
DocuWorks	xdw	application/vnd.fujifilm.fb.docuworks	次のソフトウェアのバージョンで作成された文書 DocuWorks Ver.4 DocuWorks 5 DocuWorks 6 DocuWorks 7 DocuWorks 8 DocuWorks 9 DocuWorks 9.1				
		application/vnd.fujixerox.Docuworks	次のソフトウェアのバージョンで作成された文書 DocuWorks Ver.4 DocuWorks 5 DocuWorks 6 DocuWorks 7 DocuWorks 8 DocuWorks 9	○ (日本語版)	○ (日本語版)	○ (日本語版)	○
<p><b>補足</b> ArcSuite Engineering 3.0からバージョンアップした環境でだけサポートされます。</p>							

表 : サポートするデータフォーマット

データの 種類	拡張子	MIME/MEDIA TYPES (parameter)	ソフトウェアまたはフォーマット の制限	コ ン テ ン ト 表 示	イ ン デ ク ス 表 示	文 書 内 テ キ ス ト 抽 出	統 合 検 索 の 収 集 対 象
							NTFS
DocuW orksBin der	xbd	application/ vnd.fujifilm.fb. docuworks.binder	次のソフトウェアのバージョン で作成された文書 DocuWorks Ver.4 DocuWorks 5 DocuWorks 6 DocuWorks 7 DocuWorks 8 DocuWorks 9 DocuWorks 9.1				
		application/ vnd.fujixerox.docuwo rks.binder	次のソフトウェアのバージョン で作成された文書 DocuWorks Ver.4 DocuWorks 5 DocuWorks 6 DocuWorks 7 DocuWorks 8 DocuWorks 9  <b>補足</b> ArcSuite Engineering 3.0か らバージョンアップ した環境でだけサ ポートされます。	○ (日本 語版)	○ (日本 語版)	○ (日本 語版)	○
DocuW orksCon tainer (入れ物)	xct	application/ vnd.fujifilm.fb.docuw orks.container	次のソフトウェアのバージョンで 作成された文書 DocuWorks Ver.4 DocuWorks 5 DocuWorks 6 DocuWorks 7 DocuWorks 8 DocuWorks 9 DocuWorks 9.1				
		application/ vnd.fujixerox.docuwo rks.container	DocuWorks 8 DocuWorks 9  <b>補足</b> ArcSuite Engineering 3.0か らバージョンアップ した環境でだけサ ポートされます。				○
DWG	dwg	image/vnd.dwg					○

表 : サポートするデータフォーマット

データの 種類	拡張子	MIME/MEDIA TYPES (parameter)	ソフトウェアまたはフォーマットの制限	コンテンツ表示	インデックス表示	文書内テキスト抽出	統合検索の収集対象
							NTFS
Excel	xls	application/vnd.ms-excel	次のソフトウェアのバージョンで作成された文書 Microsoft Office Excel 97 日本語版 Microsoft Office Excel 2000 日本語版/英語版 Microsoft Office Excel 2002 日本語版/英語版 Microsoft Office Excel 2003 日本語版/英語版	○ (日本語版)	○ (日本語版)	○	○
Excel	xlsx	application/vnd.openxmlformats-officedocument.spreadsheetml.sheet	次のソフトウェアのバージョンで作成された文書 Microsoft Office Excel 2007 日本語版/英語版	○ (日本語版)	○ (日本語版)	○	○
Excel	xlsm	application/vnd.ms-excel.sheet.macroenabled.12	Microsoft Excel 2010 日本語版/英語版 Microsoft Excel 2013 日本語版/英語版 Microsoft Excel 2016 日本語版/英語版 Microsoft Excel 2019 日本語版/英語版 Microsoft Excel for Office 365 日本語版/英語版	○ (日本語版)	○ (日本語版)	○	○
EXIF	jpeg jpg jpe jfif	image/jpeg		○	○		○
HTML	html htm	text/html ( ; charset)		○ (無変換)		○	○ (charset)
JFIF	jpeg jpg jpe jfif	image/jpeg		○	○		○
PDF	pdf	application/pdf	PDFのバージョンが次のファイル PDF 1.3 PDF 1.4 PDF 1.5 PDF 1.6 PDF 1.7	○ (1.3/ 1.4/ 1.5/ 1.6/ 1.7)	○ (1.3/ 1.4/ 1.5/ 1.6/ 1.7)	○ (1.3/ 1.4/ 1.5/ 1.6/ 1.7)	○

表 : サポートするデータフォーマット

データの 種類	拡張子	MIME/MEDIA TYPES (parameter)	ソフトウェアまたはフォーマットの制限	コンテンツ表示	インデックス表示	文書内テキスト抽出	統合検索の収集対象
							NTFS
PNG	png	image/png	カラーモードが48bitカラーモードを除くDeflate圧縮されたファイル	○	○		○
PowerPoint	ppt	application/vnd.ms-powerpoint	次のソフトウェアのバージョンで作成された文書 Microsoft Office PowerPoint 97 日本語版 Microsoft Office PowerPoint 2000 日本語版/英語版 Microsoft Office PowerPoint 2002 日本語版/英語版 Microsoft Office PowerPoint 2003 日本語版/英語版	○ (日本語版)	○ (日本語版)	○	○
PowerPoint	pptx	application/vnd.openxmlformats-officedocument.presentationml.presentation	次のソフトウェアのバージョンで作成された文書 Microsoft Office PowerPoint 2007 日本語版/英語版 Microsoft PowerPoint 2010 日本語版/英語版	○ (日本語版)	○ (日本語版)	○	○
PowerPoint	pptm	application/vnd.ms-powerpoint.presentation.macroEnabled.12	Microsoft PowerPoint 2013 日本語版/英語版 Microsoft PowerPoint 2016 日本語版/英語版 Microsoft PowerPoint 2019 日本語版/英語版 Microsoft PowerPoint for Office 365 日本語版/英語版	○ (日本語版)	○ (日本語版)	○	○
SunRaster	ras	application/x-sun-sun-raster	ファイルの形式が次のもの Sun Raster非圧縮 Encode	○	○		○
Text	txt	text/plain ( ; charset)		○	○ (EUC-JP、windows-31jのみ)	○	○ (charset)

表：サポートするデータフォーマット

データの 種類	拡張子	MIME/MEDIA TYPES (parameter)	ソフトウェアまたはフォーマットの制限	コンテンツ表示	インデックス表示	文書内テキスト抽出	統合検索の収集対象
							NTFS
TIFF	tiff tif	image/tiff	圧縮形式が次のファイル 非圧縮 CCITT Group3 (1d) MR(G3 FAX) MH(G3 FAX) MMR(G4 FAX) JPEG PackBits JBIG	○	○		○
Tiff-FX	tiff tif	image/tiff		○	○		○
Word	doc	application/msword	次のソフトウェアのバージョンで作成された文書 Microsoft Office Word 97 日本語版 Microsoft Office Word 2000 日本語版/英語版 Microsoft Office Word 2002 日本語版/英語版 Microsoft Office Word 2003 日本語版/英語版	○ (日本語版)	○ (日本語版)	○	○
Word	docx	application/vnd.openxmlformats-officedocument.wordprocessingml.document	次のソフトウェアのバージョンで作成された文書 Microsoft Office Word 2007 日本語版/英語版 Microsoft Word 2010 日本語版/英語版	○ (日本語版)	○ (日本語版)	○	○
Word	docm	application/vnd.ms-word.document.macroEnabled.12	Microsoft Word 2013 日本語版/英語版 Microsoft Word 2016 日本語版/英語版 Microsoft Word 2019 日本語版/英語版 Microsoft Word for Office 365 日本語版/英語版	○ (日本語版)	○ (日本語版)	○	○
XML	xml	text/xml(;charset)	XML 1.0の仕様に基づいて作成されたファイル	○ (無変換)		○	



表 : サポートするデータフォーマット

データの 種類	拡張子	MIME/MEDIA TYPES (parameter)	ソフトウェアまたはフォーマットの 制限	コンテンツ 表示	イン デックス 表示	文書内 テキスト 抽出	統合 検索 の 収集 対象
							NTFS
一太郎	jtd jtt jtdc jttc	application/x-js-taro	一太郎® 11 一太郎12 一太郎13 一太郎2004 一太郎2005 一太郎2006 一太郎2007			○ 一太郎11 以上の圧 縮 ファイル (jtdc jttc) を除く	○
STEP	stp step	application/STEP	STEP				○
JT	jt	application/x-jt	JT				○
Parasolid	x_b	model/ vnd.parasolid.transmi t-binary	Parasolid XB				○
	x_t	model/ vnd.parasolid.transmi t-text	Parasolid XT				○
証明書	cer	application/pkix-cert					
失効リスト	crl	application/pkix-crl					

**補足**

- ・「コンテンツ表示」は、PC にアプリケーションをインストールしなくても、ArcSuite のサーバーにアプリケーションがインストールされていると表示できるフォーマットです。
- ・「文書内テキスト抽出」は、全文検索および関連文書検索の対象フォーマットです。
- ・エンコードに UTF-8 以外が指定されているテキストファイル（拡張子は「txt」）を添付した PDF 文書の場合、テキストファイルの文字列は検索されません。
- ・「NTFS」は、統合検索の NTFS ストレージプロキシを指します。
- ・「○（日本語版）」は、ArcSuite のサーバーに日本語版のアプリケーションがインストールされている場合に  
表示できるフォーマットです。
- ・「○（無変換）」は、表示アプリケーションの設定で「無変換」のときだけ表示できます。  
ただし、コントロールビューでは表示できません。
- ・「○（charset）」は、charset が不明な場合、文書の内容から自動的に判定されます。  
EUC-JP、windows-31j、ISO-2022-JP、UTF-8、UTF-16、ISO-8859-1、US-ASCII のどれかです。

## 付録 F 用語集

### 付録 F.1 ドキュメント管理サービスに関する用語

用語	定義と簡単な説明
ACE	Access Control Entryの略。アクセスの主体となるユーザーロールとアクセス権を組にして規定した、ACLのエントリーです。
ACL	Access Control Listの略。オブジェクトにアクセス権を設定するためのリストです。ACLはACEのリストになります。
アクセス権	オブジェクトにアクセスするための権限です。たとえば、オブジェクトのコンテンツを取り出すための「getContent」、オブジェクトを表示するための「viewContent」など、操作ごとにアクセス権が設けられています。正確には、アクセス権は、ACLを構成する要素ですが、オブジェクトに設定されたACLを、オブジェクトのアクセス権と呼ぶこともあります。
アクセス権マスク	ACLで許可されている操作のうち、さらに一部だけを許可するように制限を加える機能です。列挙されているアクセス権だけが許され、列挙されていないアクセス権は設定されていないものとみなされます。キャビネットに対するアクセス権マスクと、状態に対応したアクセス権マスクがあります。
インデックスキー	属性検索を高速化するために作成するインデックスです。1～6つの属性によって定義されます。
オブジェクト	ドキュメント管理サービスおよびドキュメントスペースでの操作対象の単位です。オブジェクトの種類には、サービス、キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント、リファレンス、分類ビュー、分類フォルダーがあります。
格納先	ストレージ領域を指すパスです。
管理オブジェクト	基本オブジェクトを管理するオブジェクトです。サービスオブジェクト、キャビネットオブジェクト、ドロワーオブジェクトの総称になります。
基本オブジェクト	管理の対象となるオブジェクトです。フォルダーオブジェクト、ドキュメントオブジェクト、リファレンスオブジェクト、分類ビューオブジェクト、分類フォルダーオブジェクトの総称になります。
キャビネット	オブジェクトの1つです。オブジェクトの階層では、サービスの下に位置します。検索方法やバージョン管理方法などを設定する単位になります。
キャビネットID	キャビネットを識別するためのIDです。キャビネットを作成するときに指定します。
キャビネット管理者	ドキュメント管理サービスのサービス管理者によって設定される、キャビネットに対する管理責任者です。キャビネットおよびドロワーに対する管理権限を持ちます。正確には、キャビネットの管理者として指定されたユーザーロールを持つ、ユーザーのことを意味します。
検索インデックス	キャビネットに対してキーとなる属性（インデックスキー）を指定して作成される検索インデックスと、検索エンジンと連携して検索エンジンに作成されるインデックスが存在します。インデックスキーは、データベースのインデックス機能を使用して作成されます。全文検索や関連文書検索を使用するときは、検索エンジンに検索対象のドキュメントのIDや種類などの情報が格納されて、検索できます。
検索エンジン	検索を処理するコンポーネントです。全文検索のための全文検索エンジン、および関連文書検索のための関連文書検索エンジンを利用します。
サービス	オブジェクトの1つです。ドキュメント管理サービスの管理単位となる管理オブジェクトです。

用語	定義と簡単な説明
サービス管理者	ドキュメント管理サービスの、サービス全体に対する管理責任者です。サービスのほか、キャビネットやドロワーなど、サービス内のすべてのオブジェクトに対する管理権限を持ちます。正確には、サービスの管理者として指定されたユーザーロールを持つ、ユーザーのことを意味します。
システム属性	オブジェクトが持つ属性のうち、あらかじめ定義されている属性です。システム属性の定義は変更できません。
状態	基本オブジェクトが持つシステム属性の1つで、オブジェクトの状態を表すものです。アクセス権マスクによるアクセス制御を受けます。たとえば、ドキュメントの状態が「editable（編集可能）」の場合、標準の定義ではACLによる制御に加えられる制約は存在しないため、ACLで許可されているアクセス主体は、そのドキュメントを編集できます。
ストレージ領域	ドキュメントのコンテンツデータを格納する領域です。1つのドロワーに1つのストレージ領域が対応づけられます。
属性	オブジェクトが持つ、オブジェクトの名前、登録日時などの各種情報です。オブジェクトを管理するために属性値を利用するほか、属性値を指定した検索も行えます。
属性制約	オブジェクトが持つ属性値の範囲を設定する機能です。制約に違反する属性値をオブジェクトに設定できません。
デフォルトアクセス権	アクセス権（ACL）を指定せずに子オブジェクトを作成、登録した場合に、オブジェクトにデフォルトで設定するアクセス権です。
ドキュメント	オブジェクトの1つです。管理対象のテキストファイル、PDFファイル、図面データファイルなどを、ドキュメントとして登録します。
ドキュメント管理サービス	文書、図面などのドキュメントを管理するための統合リポジトリのことです。ArcSuiteの基本的なコンポーネントの1つです。
ドキュメント管理サービス管理コマンド	ドキュメント管理サービスの、サービスの管理者またはキャビネットの管理者が、キャビネットを作成したり、ドロワーを作成したりするコマンドを実行するときに使います。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション	サービスの管理者またはキャビネットの管理者が、管理アプリケーションを使用してキャビネットを作成したり、ドロワーを作成したりするときに使います。ドキュメント管理サービスのサーバー上で動作するデスクトップ版と、システム管理画面から操作するWeb版があります。
ドキュメントスペース	ドキュメント管理サービスへオブジェクトを登録したり、登録済みのオブジェクトを利用したりするためのアプリケーションコンポーネントです。GUIを提供し、主に一般ユーザーが操作します。
ドキュメントスペース管理者	ドキュメントスペース管理アプリケーションを使用して、ドキュメントスペースに関する設定をする管理者です。RMS管理者がRMSに登録します。
ドキュメントスペース管理アプリケーション	ドキュメントスペースに関する各種設定をするための管理アプリケーションです。第一義的には、ドキュメントスペースでオブジェクトの登録や検索のために利用する属性テンプレートの設定、操作内容の設定などをします。加えて、ドキュメント管理サービスに、管理者モードで通常処理をするための機能があります。ドキュメントスペース管理者が操作します。
ドロワー	オブジェクトの1つです。オブジェクトの階層では、キャビネットの下に位置します。ドキュメントの内容そのものを保存する、物理的なメディア（ストレージ）に対応しています。
バージョン管理	ドキュメント、フォルダー、リファレンスの関係を管理する機能です。ドキュメントスペースでは、ドキュメント、フォルダー、リファレンスの版、およびドキュメントの履歴という2種類のバージョン管理機能がサポートされています。

用語	定義と簡単な説明
版ラベル	ドキュメント、フォルダー、リファレンスの版を示す文字列です。
フォルダー	オブジェクトの1つです。オブジェクトの階層では、ドロワーの下に位置します。また、1つのフォルダーに複数のフォルダーを置けます。関連する複数のドキュメントやリファレンスをグループ化して管理するために、フォルダーを利用します。
モード	サービス、キャビネットに対するアクセス制御のための機能です。たとえば、キャビネットのモードが「maintenance (メンテナンス中)」になっているときは、キャビネット管理者による管理操作だけが利用できます。一般ユーザーはキャビネットを利用できません。
ユーザー属性	オブジェクトが持つ属性のうち、サービス管理者が定義する独自の属性です。用途に合わせて定義し、属性値を設定できます。
ユニークキー	インデックスの一種で、オブジェクトに設定する属性値に、ユニーク性を持たせるためのキー情報です。1～6つの属性によって定義されます。
リファレンス	オブジェクトの1つです。別のドキュメントやフォルダーを参照します。

## 付録 F.2 全文検索サービスに関する用語

用語	定義と簡単な説明
Lucene	Apache Software Foundationのもとで開発が進められているオープンソースの全文検索エンジンです。全文検索サービスで使用しています。
インデックス	検索対象文書を登録する対象です。1つのインデックスには複数の文書群を検索対象として登録できます。検索するときには、検索範囲の単位になります。
インデックス名	インデックスに対する識別子です。全文検索サービス内でユニークです。
検索エンジン	検索機能を提供するソフトウェアです。全文検索サービスでは、Luceneを使用しています。
最適化インデックス	検索性能とディスクなどのリソース消費を最適化するために、情報を再配置したインデックスのことです。
バッチインデックス	文書を登録した時点ではなく、利用者からの指示でインデキシングが実施され、それまでに登録された文書が検索対象としてインデックスに反映されるインデキシング方式です。
シソーラス	指定された検索語を類似する語句のリストに展開し、類似した語句が含まれる文書を検索する機能です。類似した語句の指定方法には、上位語、下位語、同義語があります。 シソーラス機能を利用するには、シソーラス辞書を作成する必要があります。
文書	検索対象の単位となるファイルです。文書は全文検索サービスの利用者から検索対象として登録されます。
文書ID	文書に対する識別子です。文書を管理する外部コンポーネントから、各文書にユニークに付加されます。
リアルタイムインデックス	文書を登録した時点ですぐに検索されるインデキシング方式です。ArcSuiteでは、使用しません。

## 付録 F.3 コラボスペースに関する用語

用語	定義と簡単な説明
オブザーバー	タスクの関与者の種別の1つで、タスクの存在や進捗状況を知っておいてほしい人です。
関与者外	あるタスクの関与者（リーダー、メンバー、オブザーバー）でもタスク管理者でもないユーザーです。
関与者外特別ユーザー	関与者外の種別の1つで、関与者外である一部のユーザーに対して、作業内容を特別に閲覧させる場合等に使用します。
管理者モード	コラボスペースの管理者は、管理者モードでコラボスペースにアクセスできます。管理者モードでは、すべてのタスクに対してタスク管理者と同等の権限を持ちます。管理者モードでのアクセスは、コラボスペース管理アプリケーションの管理画面でします。
コンテンツ	コラボスペースで扱うメッセージ、添付ファイル、リンクの総称です。
コラボスペースの管理者	コラボスペース管理アプリケーションを使用して、サーバー設定、用語カスタマイズ、タスクやメッセージの属性の設定などの管理作業が行えます。
タスク	コラボスペースに登録されたユーザーが、共通の目的、または成果を得るために集まって活動を進める単位です。タスクを複数作成し、相互に関係づけることができます。
タスク管理者	システム管理上、タスクに対していくつか特別な操作を行える権限がある人です。
凍結タスク	活動が中断され、すべての書き込みが禁止になったタスクです。タスクを「凍結解除」することによって、活動を再開できます。
無効ユーザー	リソース管理サービス（RMS）に登録されているが、コラボスペースにログインできないユーザーです。コラボスペースを使用していたユーザーを使用できないようにしたい場合は、無効ユーザーとして登録すると使用できなくなります。無効ユーザーには、次の制限があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コラボスペースにログインできない</li> <li>・ 検索結果には、無効ユーザーとして表示される</li> </ul>
メンバー	タスクの関与者です。タスクの作業をしたり、状況をリーダーに報告したりする人です。
リーダー	タスクの関与者です。メンバーに作業を依頼し、状況の報告を受ける人です。

## 付録 F.4 ワークフローに関する用語

用語	定義と簡単な説明
外部コマンド	ワークフローから外部のアプリケーションを呼び出すための作業です。
案件	ワークフロー定義を元に起動され、管理されている業務の実体です。
起動テンプレート	ワークフロー定義をカスタマイズする機能、またはその機能によって作成されたものです。
作業	ワークフロー定義を元に起動された案件内の、1つの論理的なステップを形作る仕事の断片の実体です。
作業定義	ワークフロー定義の一部で、作業の振る舞いを定義したものです。
自動作業	ユーザーに代わってシステムが実行して完了させるタイプの作業です。メール通知、文書操作、タスク作成などの自動作業があります。
遷移	ルーティングを構成する1つ1つの経路のことです。
フォーム	作業実行者が作業をする画面のことです。
ブロック作業	複数の作業をまとめて抽象的に表現したものです。ブロック作業を使用すると1つのワークフロー定義を階層化して表現できます。
ユーザー作業	ユーザーに対してフォームを提示し、その入力を受け取ることで、実行を完了するタイプの作業です。
ルーティング	ワークフローを流す経路（全体）のことです。
ワークフロー定義	業務の流れをシステム上に表現したものです。

## 付録 F.5 関連文書検索サービスに関する用語

用語	定義と簡単な説明
インデックス	文書群を登録し、関連文書検索機能を提供するための索引を提供する単位です。関連文書検索では、外部システムのインデックスなどとの対応は関知せず、指定されたインデックスを対象文書群とみなして関連文書検索をします。
関連度	関連文書検索での、文書同士、または文書とクエリー（自然文）間の関連性の度合いです。文書同士の関連度が高いほど、数値が高くなります。ほかの検索エンジンでのスコアと考えられます。
キーワード	文書の内容を短い句（フレーズ）で表したものです。
自然文入力	関連文書検索のうち、検索要求として自然文を入力する方法です。利用者が思いついた表現などを自由に指定できます。
種文書	関連文書検索で、キーワードの代わりに使われる実例としての種となる文書です。
種文書指定	関連文書検索のうち、検索要求として種文書を指定する方法です。複数の文書を指定できます。
文書	検索の対象となる文書です。関連文書検索では、コンテンツそのものの管理はしません。コラボスペースでは、タスクのメッセージを合成したものを対象にしています。
文書ID	文書の識別子です。外部システムで、各文書に対して、ユニークな文字列として付加されます。

## 付録 F.6 キャプチャリングサービスに関する用語

用語	定義と簡単な説明
CSV	データを「, (コンマ)」で区切って並べたファイル形式です。 主に表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアがデータを保存するときに使う形式です。汎用性が高く、多くの電子手帳やワープロソフトウェアなどでも利用できるため、異なる種類のアプリケーション間でのデータ交換によく使われます。実体はテキストファイルであるため、テキストエディターなどで開いて編集できます。
XML	eXtensible Markup Languageの略です。 W3CのSGMLワーキンググループが使用を策定したマークアップ言語です。

## 付録 F.7 リソース管理サービスに関する用語

用語	定義と簡単な説明
RMS	コンポーネントやユーザーなどのリソースを管理するサービスです。
リソース管理サービス管理コマンド	RMS管理者が、ユーザーの一括登録や一括変更などをコマンドで実行するときに使います。
リソース管理アプリケーション	RMS管理者が、管理アプリケーションを使用してユーザーの追加や変更をするときに使います。

## 付録 F.8 各コンポーネント共通の用語

用語	定義と簡単な説明
ポータル	ドキュメントスペース、コラボスペース、ワークフロー、および各管理アプリケーションのリンクが表示されているWebページです。